
蓮田市

久台遺跡Ⅲ

国道122号道路改築事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

—Ⅷ—

2007

埼玉県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



第4・5号住居跡



第4号住居跡動物形土製品出土状況



動物形土製品

土偶



耳飾り



土版



岩版



玉(ヒスイ)



第1号方形周溝墓 遺物と出土状況



第2号方形周溝墓 遺物と出土状況



第3号方形周溝墓 遺物と出土状況



方形周溝墓群出土土器

序

埼玉県は、道路整備の基本理念として「人と自然にやさしい道づくり」を掲げ、環境への負荷の低減に十分配慮しつつ、誰もが安心・安全・快適に通行できる道路空間の形成を推進しています。この基本理念のもと、県民の豊かな交流や活発な経済活動を支える「渋滞のない円滑な自動車交通の実現」を目指し、バイパスの整備や拡幅による幹線道路の整備、市街地を迂回する環状道路の整備などさまざまな取り組みを実施しています。一般国道122号蓮田岩槻バイパスの建設もそのひとつです。

一般国道122号は県東部および中央地域の産業・経済の発展を担う主要幹線道路です。蓮田岩槻バイパスは昭和43年から整備が進められ、平成18年6月に全線開通いたしました。これにより、慢性的な渋滞に悩まされていた蓮田市内の交通アクセスは飛躍的に改善されました。

蓮田市内には「黒浜式土器」や「関山式土器」の標式遺跡として有名な黒浜貝塚、関山貝塚をはじめ、縄文時代の遺跡が数多く知られています。路線内においても縄文時代の様子を伝える遺跡がすでに報告されております。

一般国道122号蓮田岩槻バイパス事業地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地として久台遺跡があり、その取り扱いについて、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）が関係諸機関と協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなりました。発掘調査は、埼玉県県土整備部道路街路課の委託を受けて当事業団が実施いたしました。

発掘調査の結果、縄文時代後・晩期の集落と古墳時代前期の方形周溝墓群などが発見されました。縄文時代の土器・石器、装身具や土偶など豊富な出土資料は当時の生活や他地域との交流を知る上で貴重な資料です。また、動物形土製品は稀少な発見例となりました。

本書はこれら発掘調査の成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、普及・啓発および各教育機関の参考資料として広く活用していただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力をいただきました埼玉県県土整備部道路街路課、杉戸県土整備事務所、蓮田市教育委員会並びに地元関係者各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 福田 陽 充

例 言

1. 本書は、一般国道122号蓮田岩槻バイパス（蓮田市東二丁目4-22他）に所在する久台遺跡の発掘調査報告書である。
2. 国道122号バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告は以下の文献が刊行されており、本書はこのシリーズの8冊目にあたる。
財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1983
[国道122号バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告 I ささら・帆立・馬込新屋敷・馬込大原]
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第24集
1984[国道122号関係Ⅱ 久台]事業団報告書第36集
1984[国道122号関係Ⅲ 関戸足利] 同 第40集
1985[国道122号関係Ⅳ ささら(Ⅱ)] 同 第47集
1992[国道122号関係Ⅴ 荒川附遺跡] 同 第112集
1995[国道122号関係Ⅵ 堂山公園/久台] 同 第168集
2007[国道122号関係Ⅶ 荒川附遺跡Ⅱ] 同 第338集
3. 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。
久台遺跡（略号：KYD）
埼玉県蓮田市東二丁目4-22番地他
平成8年11月20日付け 教文第2-154号
埼玉県蓮田市東二丁目22-4番地他
平成9年5月26日付け 教文第2-43号
埼玉県蓮田市東二丁目4123-1番地他
平成13年4月26日付け 教文第2-3号
4. 発掘調査は一般国道122号蓮田岩槻バイパス建設工事にともなう記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）が調整し、埼玉県土木部道路建設課（平成8・9年度）・埼玉県土木整備部道路街路課（平成13年度）の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
5. 本事業は、第1章の組織により実施した。本事業の発掘調査については、平成8年11月12日から平成9年5月31日、平成13年3月21日から平成13年6月29日まで実施し、鈴木秀雄、新屋雅明、上野真由美、大谷徹が担当した。整理報告書作成事業は平成18年4月10日から平成19年3月23日まで実施し、新屋、菊地真（平成18年4月10日～9月30日）が担当した。
6. 遺跡の基準点測量・空中写真撮影は、株式会社ムサシノ（平成8・9年度）、株式会社ジーアイエス関東（平成13年度）に委託した。
7. 掲載した遺構写真は各調査担当者が、遺物写真は大屋道則が撮影した。
8. 本報告書の出土品の整理・図版の作成は新屋、菊地が行い、小野美代子、上野、福田聖の協力、矢田美知子の補助を受けた。
9. 本報告書の黒曜石の産地分析は大屋が行い、第11表・第12表に分析結果を掲載した。また、一部の石器・石製品の産物名、赤色塗彩土器の顔料、製塩土器の付着物について分析結果を同定し、附編に掲載した。
10. 本書の執筆は第1章-1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、Ⅱ・Ⅳ-2・Ⅳ-3の耳飾り、Ⅳ-5、Ⅵ-1を菊地、Ⅳ-1を矢田、Ⅳの石器を上野、Ⅳ-3の土偶を小野、Ⅳ-4Ⅵ-3を福田、附編を大屋、それ以外を新屋が行った。
11. 本書の編集は、新屋、菊地が行った。
12. 本書に掲載した資料は、平成19年度以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。
13. 本書の作成にあたり、下記の方々・機関から御教示・御指導・御協力を賜った。記して謝意を表します（敬称略）。
秋田かな子 阿部芳郎 市川 修 猪瀬美奈子
江原 英 小宮雪晴 斎藤弘道 鈴木加津子
鈴木徳雄 鈴木正博 菅谷通保 大工原 豊
田中和之 林 克彦 古谷 渉 山口逸弘
蓮田市教育委員会

凡 例

1 本書中におけるX・Yの数値は、日本測地系(旧測地系)による平面直角座標第Ⅱ系(原点:北緯36度00分00秒、東経139度50分00秒)に基づく座標値(m)を示す。また、各挿図における方位はすべて座標北を示している。

H=5グリッド北西杭の座標はX=-2160.0m、Y=-15550.0m、北緯35°58'49.45931"、東経139°39'39.14678"である。

H=5グリッドの世界測地系による換算値はX=-1804.4182m、Y=-15843.1291m。北緯35°59'00.98766"、東経139°39'27.49325"である。遺跡におけるグリッドの設定は、前記座標系に基づいて設置し、10m×10m方眼を基本グリッドとしている。

2 グリッドの名称は、北西杭を基準として、東西方向は西から東へ1・2・3…、南北方向は北から南へA・B・C…と付けている。

3 本報告書における本文・挿図・表に示す遺構の略号は以下のとおりである。

- S J 堅穴住居跡 SK 土坑
- SR 方形周溝墓 SD 溝
- P ピット

4 本書における挿図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

- 遺構図 1:600 1:300 1:200
- 全体図 1:600 1:300 1:200

- 住居跡・土坑 1:60
- 方形周溝墓 1:100
- 溝 1:250 1:60

- 遺物実測図
- 土器 1:4 1:3
- 土器拓影図 1:3
- 土製品・石製品・土偶 1:2
- 石器 2:3 1:2 1:3

その他、遺跡位置図、周辺地形図、基本層序出土状況図等は、個別に縮尺率を表記している。

5 遺構断面図に表記した水準数値は、海拔標高を示しており、単位はメートル(m)である。

6 遺物観察表の表記方法は、以下のとおりである。計測値は、センチメートル(cm)を単位とする。

() 内の数値は復元推定値 [] 内の数値は残存値である。

胎土は肉眼で観察できるものを次のように示した。

- A 石英 B 角閃石 C 白色軟質物質
- D 赤色軟質物質 E 雲母

・残存率は、推定復元される全体からの割合を示した。

7 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/25,000、蓮田市発行の都市計画図1/2,500を使用した。

目次

口絵

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	3. 縄文時代（調査区南側）	60
1. 調査に至る経過	1	(1) 概要	60
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	(2) 住居跡	60
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	3	(3) 土坑	80
II 遺跡の立地と環境	4	(4) ビット群	84
1. 地理的環境	4	(5) 遺物包含層	90
2. 歴史的環境	4	(6) 遺構外出土遺物	104
III 遺跡の概要	9	4. 古墳時代	288
IV 遺構と遺物	18	(1) 概要	288
1. 旧石器時代	18	(2) 方形周溝墓	288
2. 縄文時代（調査区北側）	19	(3) 遺構外出土土器	301
(1) 概要	19	5. 近世	302
(2) 住居跡	19	(1) 概要	302
(3) 埋室	33	(2) 溝	302
(4) 土坑	33	(3) 土坑	306
(5) ビット	59	(4) ビット	312
(6) 遺構外出土遺物	59	V まとめ	313

付編

写真図版

挿図目次

第1図	埼玉県の地形区分	4	第36図	第44号土坑出土遺物(2)	42
第2図	周辺の地形	5	第37図	第45号土坑遺物出土状況・ 出土遺物(1)	43
第3図	周辺の遺跡	6	第38図	第45号土坑遺物出土状況・ 出土遺物(2)	44
第4図	調査位置図	10	第39図	第45号土坑出土遺物(3)	45
第5図	遺跡全体図(1)	12	第40図	第45号土坑出土遺物(4)	46
第6図	遺跡全体図(2)	13	第41図	土坑出土遺物(2)・ 第51号土坑遺物出土状況	47
第7図	遺跡全体図(3)	14	第42図	第52号土坑遺物出土状況・ 出土遺物	48
第8図	遺跡全体図(4)	15	第43図	第53号土坑遺物出土状況・ 出土遺物	49
第9図	基本層序	16	第44図	土坑出土遺物(3)	50
第10図	旧石器時代の遺物	18	第45図	第63号土坑遺物出土状況・ 出土遺物	51
第11図	縄文時代(調査区北側)全体図	20	第46図	土坑出土遺物(4)	52
第12図	第1号住居跡	21	第47図	遺構外出土遺物(1)	53
第13図	第1号住居跡遺物出土状況	22	第48図	遺構外出土遺物(2)	54
第14図	第1号住居跡出土遺物	22	第49図	遺構外出土遺物(3)	55
第15図	第2号住居跡	23	第50図	遺構外出土遺物(4)	56
第16図	第2号住居跡遺物出土状況	24	第51図	遺構外出土遺物(5)	57
第17図	第2号住居跡出土遺物	25	第52図	遺構外出土遺物(6)	58
第18図	第3号住居跡	26	第53図	縄文時代(調査区南側)全体図	61
第19図	第3号住居跡出土遺物	26	第54図	第4・5号住居跡	62
第20図	第7号住居跡	28	第55図	第4号住居跡	63
第21図	第7号住居跡遺物出土状況	29	第56図	第4号住居跡遺物出土状況	64
第22図	第7号住居跡出土遺物(1)	29	第57図	第4号住居跡出土動物形土製品	65
第23図	第7号住居跡出土遺物(2)	30	第58図	第4号住居跡出土遺物(1)	67
第24図	第8・9号住居跡	31	第59図	第4号住居跡出土遺物(2)	68
第25図	第8・9号住居跡ピット深度	32	第60図	第5号住居跡	69
第26図	第8号住居跡出土遺物	32	第61図	第5号住居跡遺物出土状況	70
第27図	第9号住居跡出土遺物	33	第62図	第5号住居跡出土遺物(1)	71
第28図	第46号土坑・埋壺出土状況	35	第63図	第5号住居跡出土遺物(2)	72
第29図	第46号土坑出土遺物	35	第64図	第5号住居跡出土遺物(3)	73
第30図	土坑(1)	36			
第31図	土坑(2)	37			
第32図	土坑(3)	38			
第33図	土坑出土遺物(1)	39			
第34図	第44号土坑遺物出土状況	40			
第35図	第44号土坑出土遺物(1)	41			

第65図	第5号住居跡出土遺物(4)	74	第102図	土器(12)	117
第66図	第5号住居跡出土遺物(5)	75	第103図	土器(13)	118
第67図	第6号住居跡	77	第104図	土器(14)	119
第68図	第10号住居跡(1)	78	第105図	土器(15)	120
第69図	第10号住居跡(2)	79	第106図	土器(16)	121
第70図	第10号住居跡出土遺物	79	第107図	土器(17)	122
第71図	土坑	80	第108図	土器(18)	123
第72図	土坑出土遺物(1)	81	第109図	土器(19)	124
第73図	土坑出土遺物(2)	82	第110図	土器(20)	125
第74図	土坑出土遺物(3)	83	第111図	土器(21)	126
第75図	ピット群	85	第112図	土器(22)	127
第76図	ピット群ピット深度	86	第113図	土器(23)	128
第77図	ピット群出土遺物(1)	87	第114図	土器(24)	129
第78図	ピット群出土遺物(2)	88	第115図	土器(25)	130
第79図	包含層①	91	第116図	土器(26)	131
第80図	包含層①遺物出土状況	92	第117図	土器(27)	132
第81図	包含層①出土遺物(1)	93	第118図	土器(28)	135
第82図	包含層①出土遺物(2)	94	第119図	土器(29)	136
第83図	包含層①出土遺物(3)	95	第120図	土器(30)	137
第84図	包含層①出土遺物(4)	96	第121図	土器(31)	138
第85図	包含層①出土遺物(5)	97	第122図	土器(32)	139
第86図	包含層①出土遺物(6)	98	第123図	土器(33)	140
第87図	包含層②	100	第124図	土器(34)	141
第88図	包含層②遺物出土状況	101	第125図	土器(35)	142
第89図	包含層②出土遺物(1)	102	第126図	土器(36)	144
第90図	包含層②出土遺物(2)	103	第127図	土器(37)	145
第91図	土器(1)	105	第128図	土器(38)	146
第92図	土器(2)	106	第129図	土器(39)	147
第93図	土器(3)	107	第130図	土器(40)	148
第94図	土器(4)	108	第131図	土器(41)	149
第95図	土器(5)	109	第132図	土器(42)	150
第96図	土器(6)	110	第133図	土器(43)	151
第97図	土器(7)	111	第134図	土器(44)	152
第98図	土器(8)	112	第135図	土器(45)	153
第99図	土器(9)	113	第136図	土器(46)	154
第100図	土器(10)	115	第137図	土器(47)	155
第101図	土器(11)	116	第138図	土器(48)	156

第139回	土器 (49)	157	第176回	土器 (86)	197
第140回	土器 (50)	158	第177回	土器 (87)	198
第141回	土器 (51)	159	第178回	土器 (88)	199
第142回	土器 (52)	160	第179回	土器 (89)	200
第143回	土器 (53)	161	第180回	土器 (90)	201
第144回	土器 (54)	162	第181回	土器 (91)	202
第145回	土器 (55)	163	第182回	土器 (92)	203
第146回	土器 (56)	165	第183回	土器 (93)	204
第147回	土器 (57)	166	第184回	土器 (94)	205
第148回	土器 (58)	167	第185回	土器 (95)	206
第149回	土器 (59)	168	第186回	土器 (96)	207
第150回	土器 (60)	169	第187回	土器 (97)	208
第151回	土器 (61)	170	第188回	土器 (98)	209
第152回	土器 (62)	171	第189回	土器 (99)	210
第153回	土器 (63)	172	第190回	土器 (100)	211
第154回	土器 (64)	173	第191回	土器 (101)	212
第155回	土器 (65)	174	第192回	土器 (102)	213
第156回	土器 (66)	175	第193回	土器 (103)	214
第157回	土器 (67)	176	第194回	土器 (104)	215
第158回	土器 (68)	177	第195回	土器 (105)	216
第159回	土器 (69)	178	第196回	土器 (106)	217
第160回	土器 (70)	179	第197回	土器 (107)	218
第161回	土器 (71)	180	第198回	土器 (108)	220
第162回	土器 (72)	181	第199回	土器 (109)	221
第163回	土器 (73)	182	第200回	土器 (110)	222
第164回	土器 (74)	185	第201回	土器 (111)	223
第165回	土器 (75)	186	第202回	土器 (112)	224
第166回	土器 (76)	187	第203回	土器 (113)	225
第167回	土器 (77)	188	第204回	土器 (114)	226
第168回	土器 (78)	189	第205回	土器 (115)	227
第169回	土器 (79)	190	第206回	土器 (116)	228
第170回	土器 (80)	191	第207回	土器 (117)	229
第171回	土器 (81)	192	第208回	土器 (118)	230
第172回	土器 (82)	193	第209回	土器 (119)	231
第173回	土器 (83)	194	第210回	土器 (120)	232
第174回	土器 (84)	195	第211回	土器 (121)	233
第175回	土器 (85)	196	第212回	土器 (122)	234

第213図	土器 (123)	235	第243図	古墳時代全体図	289
第214図	土製品・石製品 (1)	237	第244図	第1号方形周溝墓	290
第215図	土製品・石製品 (2)	238	第245図	第1号方形周溝墓遺物出土状況	291
第216図	土製品・石製品 (3)	239	第246図	第1号方形周溝墓出土遺物	292
第217図	土製品・石製品 (4)	240	第247図	第2号方形周溝墓	293
第218図	耳飾り (1)	243	第248図	第2号方形周溝墓遺物出土状況	294
第219図	耳飾り (2)	244	第249図	第2号方形周溝墓出土遺物	295
第220図	耳飾り (3)	245	第250図	第3号方形周溝墓	296
第221図	耳飾り (4)	246	第251図	第3号方形周溝墓遺物出土状況	297
第222図	耳飾り (5)	247	第252図	第3号方形周溝墓出土遺物	298
第223図	耳飾り (6)	248	第253図	第4号方形周溝墓遺物出土状況	299
第224図	耳飾り (7)	249	第254図	第4号方形周溝墓出土遺物	300
第225図	耳飾り (8)	250	第255図	遺構外出土土器 (古墳時代)	301
第226図	耳飾り (9)	251	第256図	近世全体図	303
第227図	耳飾り (10)	252	第257図	溝跡平面図	304
第228図	土偶 (1)	257	第258図	溝跡断面図	305
第229図	土偶 (2)	258	第259図	近世の土坑 (1)	308
第230図	土偶 (3)	259	第260図	近世の土坑 (2)	309
第231図	土偶 (4)	260	第261図	近世の土坑 (3)	310
第232図	土偶 (5)	261	第262図	近世の土坑 (4)	312
第233図	土偶 (6)	262	第263図	大宮台地東南部の後晩期遺跡	314
第234図	石器 (1)	267	第264図	久台遺跡周辺の地形	315
第235図	石器 (2)	268	第265図	遺跡と微地形	317
第236図	石器 (3)	269	第266図	東北原遺跡第2号住居跡との比較	320
第237図	石器 (4)	270	第267図	久台遺跡出土安行式土器	321
第238図	石器 (5)	271	第268図	古墳時代前期古・新段階の土器	325
第239図	石器 (6)	272	第269図	久台遺跡方形周溝墓の土器配置	326
第240図	石器 (7)	273	第270図	X線回折のプロファイル	338
第241図	石器 (8)	274	第271図	赤色塗彩土器	339
第242図	石器 (9)	275			

写真図版目次

図版 1	1 第5次調査区空撮写真（上空から）	3 第45号土坑出土土器（第40図33）
	2 第5次調査区空撮写真（南から）	4 第63号土坑出土土器（第45図7）
図版 2	1 第5次調査表土採削後の状況	5 第39号土坑出土土器（第33図7）
	2 第8次調査遺構確認状況	6 第53号土坑出土土器（第43図26）
図版 3	1 第1号住居跡	図版14
	2 第1号住居跡炉跡・第88号土坑	1 第45号土坑出土土器（第38図1）
図版 4	1 第2号住居跡	2 第45号土坑出土土器（第38図2）
	2 第2号住居跡炉跡	3 第51号土坑出土土器（第41図33）
図版 5	1 第3号住居跡	4 第52号土坑出土土器（第42図22）
	2 第7号住居跡	5 第51号土坑出土土器（第41図34）
図版 6	1 第8号住居跡	6 第53号土坑出土土器（第43図24）
	2 第46号土坑	図版15
	3 第46号土坑	1 第36・42・47・49号土坑出土土器
	4 第46号土坑	2 第44号土坑出土土器
	5 第46号土坑	図版16
図版 7	1 第45号土坑	1 第44号土坑出土土器
	2 第44・45号土坑	2 第44号土坑出土土器
	3 第42号土坑	図版17
	4 第49・50・69号土坑	1 第45号土坑出土土器
	5 第51号土坑	2 第45号土坑出土土器
	6 第63号土坑	図版18
図版 8	1 第4・5号住居跡（西から）	1 第45号土坑出土土器
	2 第4・5号住居跡（南東から）	2 第50・51号土坑出土土器
図版 9	1 第6号住居跡	図版19
	2 第10号住居跡	1 第52・53号土坑出土土器
図版10	1 ビット群全景（西から）	2 第55・56・57・58・61・63・64・70号土坑出土土器
	2 第5号住居跡遺物出土状況	図版20
図版11	1 旧石器時代の遺物	1 土坑出土土器製品（蓋）
	2 旧石器時代の遺物	2 第4号住居跡出土土器（第58図1）
	3 第1号住居跡出土土器	3 第5号住居跡出土土器（第62図4）
	4 第2・3号住居跡出土土器	4 第5号住居跡出土土器（第62図7）
図版12	1 第7号住居跡出土土器	5 第5号住居跡出土土器（第62図8）
	2 第8・9号住居跡出土土器	6 第5号住居跡出土土器（第63図3）
図版13	1 埴甕（第46号土坑）（第29図2）	図版21
	2 第45号土坑出土土器（第37図2）	1 第5号住居跡出土土器（第62図5）
		2 第5号住居跡出土土器（第62図12）
		3 第5号住居跡出土土器（第62図10）
		4 第5号住居跡出土土器（第62図11）
		5 第5号住居跡出土土器（第63図1）
		6 第5号住居跡出土土器（第63図2）
		図版22
		1a 第4号住居跡出土動物形土製品（正面）

	1b (背面)	3 土器 (第123図 8)
	1c (側面)	4 土器 (第123図 4)
	1d X線写真	5 土器 (第125図43)
	1e X線写真	6 土器 (第188図10)
図版23	1 第4号住居跡出土土器	7a 土器 (第123図 1)
	2 第4号住居跡出土土器	7b 土器 (第123図 1)
図版24	1 第5号住居跡出土土器	図版35 1 土器 (第188図 2)
	2 第5号住居跡出土土器	2 土器 (第172図 3)
図版25	1 第5号住居跡出土土器	3 土器 (第161図 1)
	2 第5号住居跡出土土器	4 土器 (第187図17)
図版26	1 第5号住居跡出土土器	5 土器 (第125図 1)
	2 土坑出土遺物	6 土器 (第125図 2)
図版27	1 土坑出土遺物	図版36 1 土器 (第175図 2)
	2 ビット群出土遺物	2 土器 (第183図 9)
図版28	1 包含層①出土土器 (第81図 2)	3 土器 (第175図 3)
	2 包含層①出土土器 (第81図 6)	4 土器 (第190図 2)
	3 包含層①出土土器 (第81図 1)	5 土器 (第198図19)
	4 包含層①出土耳飾り	6 土器 (第197図18)
	5 包含層①出土土器	7 土器 (第204図17)
図版29	1 包含層①出土土器	図版37 1 土器 (第191図10)
	2 包含層①出土土器	2 土器 (第123図10)
図版30	1 包含層①出土土器	3 土器 (第191図 2)
	2 包含層①出土土器	4 土器 (第191図18)
図版31	1 包含層①出土土器	5 土器 (第191図27)
	2 包含層①出土土器	6 土器 (第192図 1)
図版32	1 包含層②出土土器 (第89図 3)	7 土器 (第191図24)
	2 包含層②出土土器 (第89図 5)	8 土器 (第192図 7)
	3 包含層②出土土器	9 土器 (第191図14)
	4 包含層②出土土器	図版38 1 土器
図版33	1 土器 (第95図11)	2 土器
	2 土器 (第163図17)	図版39 1 土器
	3 土器 (第113図18)	2 土器
	4 土器 (第113図19)	図版40 1 土器
	5 土器 (第116図25)	2 土器
	6 土器 (第142図43)	図版41 1 土器
図版34	1 土器 (第123図 7)	2 土器
	2 土器 (第123図 3)	図版42 1 土器

	2	土器			
图版43	1	土器	图版61	1	土器
	2	土器		2	土器
图版44	1	土器	图版62	1	土器
	2	土器		2	土器
图版45	1	土器	图版63	1	土器
	2	土器		2	土器
图版46	1	土器	图版64	1	土器
	2	土器		2	土器
图版47	1	土器	图版65	1	土器
	2	土器		2	土器
图版48	1	土器	图版66	1	土器
	2	土器		2	土器
图版49	1	土器	图版67	1	土器
	2	土器		2	土器
图版50	1	土器	图版68	1	土器
	2	土器		2	土器
图版51	1	土器	图版69	1	土器
	2	土器		2	土器
图版52	1	土器	图版70	1	土器
	2	土器		2	土器
图版53	1	土器	图版71	1	土器
	2	土器		2	土器
图版54	1	土器	图版72	1	土器
	2	土器		2	土器
图版55	1	土器	图版73	1	土器
	2	土器		2	土器
图版56	1	土器	图版74	1	土器
	2	土器		2	土器
图版57	1	土器	图版75	1	土器
	2	土器		2	土器
图版58	1	土器	图版76	1	土器
	2	土器		2	土器
图版59	1	土器	图版77	1	土器
	2	土器		2	土器
图版60	1	土器	图版78	1	土器
	2	土器		2	土器
			图版79	1	土器

- 2 土器
- 図版80 1 土器
2 土器
- 図版81 1 土器
2 土器
- 図版82 1 土器
2 土器
- 図版83 1 土器
2 土製品・石製品
- 図版84 1 土製品
2 土製品
- 図版85 1 土製品・石製品
2 土製品・石製品
- 図版86 1 土製品
2 土製品
- 図版87 1 耳飾り
2 耳飾り
- 図版88 1 耳飾り
2 耳飾り
- 図版89 1a 土偶 (第228図 1 正面)
1b 土偶 (第228図 1 背面)
2a 土偶 (第228図 2 正面)
2b 土偶 (第228図 2 背面)
3a 土偶 (第228図 6 正面)
3b 土偶 (第228図 6 背面)
- 図版90 1a 土偶 (第228図 3 正面)
1b 土偶 (第228図 3 背面)
2a 土偶 (第85図 7 正面)
2b 土偶 (第85図 7 側面)
2c 土偶 (第85図 7 背面)
3a 土偶 (第232図 3 正面)
3b 土偶 (第232図 3 背面)
- 図版91 1a 土偶 (第86図 2 上面)
1b 土偶 (第86図 2 下面)
2a 土偶 (第231図 4 正面)
2b 土偶 (第231図 4 背面)
3a 土偶 (第231図 5 正面)
3b 土偶 (第231図 5 背面)
- 図版92 1a 土偶 (第233図 3 正面)
1b 土偶 (第233図 3 背面)
2a 土偶 (第233図 1 正面)
2b 土偶 (第233図 1 背面)
3a 土偶 (第86図 3 正面)
3b 土偶 (第86図 3 背面)
- 図版93 1a 土偶 (第230図 1 正面)
1b 土偶 (第230図 1 背面)
2a 土偶 (第230図 2 正面)
2b 土偶 (第230図 2 背面)
3a 土偶 (第230図 3 正面)
3b 土偶 (第230図 3 背面)
- 図版94 1a 土偶 (第230図 4 正面)
1b 土偶 (第230図 4 背面)
2a 土偶 (第86図 1 正面)
2b 土偶 (第86図 1 側面)
3a 土偶 (第231図 3 正面)
3b 土偶 (第231図 3 背面)
- 図版95 1 土偶 (1a~4a 正面 5a・6a 側面)
2 土偶 (1b・2b 側面 3b~6b 背面)
- 図版96 1 土偶 (正面)
2 土偶 (背面)
- 図版97 1 土偶 (正面)
2 土偶 (背面)
3 土偶
- 図版98 1 石器
2 石器
- 図版99 1 石器
2 石器
- 図版100 1 石器
2 石器
- 図版101 1 石器
2 石器
- 図版102 1 石器
2 石器
- 図版103 1 第5次調査 方形周溝墓群

	2	第8次調査 方形周溝墓 (南から)	4	第1号方形周溝墓出土土器 (第246図6)
図版104	1	第8次調査 方形周溝墓 (西から)	5	第3号方形周溝墓出土土器 (第252図3)
	2	第4号方形周溝墓遺物出土状況	6	第4号方形周溝墓出土土器 (第254図1)
図版105	1	第1号方形周溝墓出土土器 (第246図4)	7	土師器(第255図1)
	2	第1号方形周溝墓出土土器 (第246図5)	8	土師器(第255図2)
	3	第1号方形周溝墓出土土器 (第246図3)	9	土師器(第255図3)
			図版106	1 近世の土坑(Z-3グリッド附近)
				2 近世の溝(第1~4号溝)

表目次

第1表	周辺の遺跡(第2図).....7	第15表	第2号方形周溝墓出土土器観察表.....295
第2表	遺構名新旧対応表.....11	第16表	第3号方形周溝墓出土土器観察表.....298
第3表	遺構一覧.....17	第17表	第4号方形周溝墓出土土器観察表.....300
第4表	旧石器時代遺物観察表.....18	第18表	遺構外出土土器.....301
第5表	縄文時代ピット(調査区北側)一覧.....52	第19表	柱穴(近世)一覧.....312
第6表	石器(調査区北側)一覧.....58	第20表	挿図・写真図版対応表.....328
第7表	土製品・石製品一覧.....241	第21表	X線回折装置の設定.....337
第8表	耳飾り一覧.....253	第22表	蛍光X線分析法の諸元.....339
第9表	土偶一覧.....264	第23表	F P法で得られた各土器片の 表裏の分析値(参考値).....339
第10表	石器(調査区南側)一覧.....277	第24表	蛍光X線分析法の諸元.....340
第11表	黒曜石一覧(挿図掲載).....280	第25表	土器(第209図34)の内外面の 分析結果(参考値).....340
第12表	黒曜石一覧(挿図非掲載).....280		
第13表	チャート一覧.....281		
第14表	第1号方形周溝墓出土土器観察表.....292		

I 発掘調査の概要

1. 調査に至る経過

昭和47年以降の東北縦貫自動車道の開通により、一般国道122号線の交通量は一段と増加し、特に蓮田市内においては市の中心部を通過することから渋滞が著しく、交通量緩和の対策が要望されていた。

埼玉県では、このような状況に対処するため、一般国道122号蓮田岩槻バイパスの建設を計画した。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課では、このような施策の推進に伴う文化財の保護について、従前より関係部局との事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

昭和50年10月29日付け道建第543号をもって「一般国道122号（蓮田市）建設予定地内の埋蔵文化財の所在について」、道路建設課長（当時）から文化財保護課長（当時）へ照会がなされた。文化財保護課では遺跡地図と照会した結果、昭和51年2月4日付け教文第960号をもって概ね下記のとおり回答した。

①建設予定地内には現在7箇所の周知の遺跡が所在する。

1. 蓮田市No.24遺跡
2. 蓮田市No.16遺跡
3. 蓮田市No.20遺跡
4. 蓮田市No.10遺跡
5. 蓮田市No.11遺跡
6. 蓮田市No.4遺跡
7. 蓮田市No.3遺跡

②詳細については、さらに現地踏査を実施する必要があること。

その後、文化財保護課と道路建設課では現地確認を含めた調査を行いながら、これらの遺跡の取り扱

いについての協議を重ねた結果、路線変更が困難であるためにやむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することが決定した。

この決定を受けて、道路建設課長から昭和54年4月19日付け、道建第120号をもって「一般国道122号（蓮田市地内）道路改良事業区域内における埋蔵文化財発掘調査について」協議がなされた。文化財保護課では、昭和54年10月1日付け教文第704号により、調査の期間、範囲、経費と文化財保護課が直営で実施することを回答した。

法定手続きを終了した後、昭和54年11月から調査着手が可能な地点から順次発掘調査を実施していった。

また昭和55年度からは、増大する公共事業に対処するために設立された財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査が引き継がれた。

本書で報告する久台遺跡に関しては平成8・9年度（第5次調査）及び平成12・13年度（第8次調査）に発掘調査を実施した。それらにかかる文化財保護法第92条の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。

発掘調査の届出に対する指示通知は以下のとおりである。

第5次調査

平成8年11月20日付け教文第2-154号

第8次調査

平成13年4月26日付け教文第2-3号

（埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課）

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

平成8・9年度

久台遺跡第5次調査に相当する(第4図)。平成8年11月12日から平成9年5月31日まで調査を行った。平成8年度に1800㎡、平成9年度には西側に張り出した750㎡について調査を実施した。

現場事務所、囲欄などを設置後、重機による表土掘削を行った。表土掘削後、方眼杭の設置や遺構確認を行い12月からは本格的に調査に着手した。調査区北側では縄文時代後期前葉の住居跡、土坑、近世の溝について調査を実施した。調査区南側は縄文時代後期後葉から晩期にかけての包含層が広がっていることが、重機掘削の段階から把握された。精査の結果、後世の攪乱も少なからず受けていることが判った。平面的な把握だけでは不十分なため、幅1mのトレンチを設置し、包含層や遺構の存在の把握を土層断面の記録・観察を通じて実施した。この作業中、動物形土製品が出土し、調査を進めた結果、晩期の住居跡からの出土であることが明らかとなった。縄文時代の包含層は近世の遺構や攪乱に壊されているだけでなく、古墳時代の方形周溝墓によって壊されていることも明らかとなった。

平成9年4月からは調査区西側部分に着手した。この部分は縄文時代後・晩期の包含層が、後世の攪乱を免れており、その調査が中心となった。

平成8・9年度には、縄文時代後・晩期の住居跡6軒、古墳時代の方形周溝墓3基のほか、近世の土坑、溝が見つまっている。調査区南側からの出土遺物は遺構の内外を含めて多く見られ、土器・石器・土偶・耳飾りなどの遺物がテンバコ200箱分出土した。

平成12・13年度

久台遺跡第8次調査は平成13年3月から6月まで実施した。調査面積は600㎡である。

3月から事務手続き等の準備を開始した。引き続き、事務所設置、表土除去を行い、方眼杭の設置後、

遺構確認・遺構調査を実施した。

第8次の調査区は北側と南側の2箇所に別れている。北側は縄文時代後期前葉の集落の一角を調査した。縄文時代後期前葉の住居跡3軒、埋壘、土坑、近世の土坑、溝を調査した。南側は縄文時代後・晩期集落や古墳時代の方形周溝墓群が第5次調査区とのつながりで見つまっている。土器・石器・土偶・耳飾りなどの遺物がテンバコ90箱分出土した。

(2) 整理・報告書作成

整理・報告書作成・印刷は平成18年4月から平成19年3月までの1年間にわたって実施した。

遺構には堅穴住居跡、土坑、溝、ピット、方形周溝墓などがある。これらの遺構から出土した遺物の状況図などとともに遺構の2次原因を作成し、記録図面を整理した。また土層説明の入力、全体図の作成、周辺遺跡図、遺跡位置図等の作成を行った。

作成した2次原因をスキャナーで取り込んで電磁ファイルとし、パソコンによって遺構図のトレース・挿入図作成を行った。遺構図はパソコン内で諸記号・数字・スケール・土層説明等の貼り込みを行い完成させた。

遺物には縄文土器・土偶・耳飾り・土製品・石製品・石器、古墳時代の土師器などがあつた。遺物は註記後、出土位置ごとに広げ、接合・分類作業を行った。復元された遺物は順次実測・トレース作業を行ったのち、トレース・版組を行った。縄文土器の破片は拓本・断面図作成・トレース等を行った後、版組を行った。また、写真撮影を行った。

写真図版は調査時に撮影した写真を選択し、遺物図版とともにトリミング等を行った。

原稿執筆終了後、原稿・遺構図・各種一覧表・写真を割付した。1月下旬に報告書印刷用の原稿等を入稿し、3回の校正を経て報告書を刊行した。

また、図面類・写真類・遺物等を整理・分類し、収納作業を行った。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

平成8年度（発掘調査）

理事長	荒井 桂	調査部	
常務理事兼管理部長	稲葉 文夫	理事兼調査部長	小川 良祐
管理部		調査部副部长	高橋 一夫
専門調査員兼経理課長	関野 栄一	調査第一課長	坂野 和信
庶務課長	依田 透	主 査	鈴木 秀雄
		主任調査員	新屋 雅明

平成9年度（発掘調査）

理事長	荒井 桂	調査部	
常務理事兼管理部長	稲葉 文夫	理事兼調査部長	梅 沢 太久夫
管理部		調査部副部长	今 泉 泰 之
専門調査員兼経理課長	関野 栄一	調査第二課長	杉 崎 茂 樹
庶務課長	依田 透	主任調査員	新屋 雅明
		主任調査員	上 野 真由美

平成13年度（発掘調査）

理事長	中野 健一	調査部	
常務理事兼管理部長	大 館 健	調査部長	高橋 一夫
管理部		調査部副部长	坂野 和信
管理幹	持田 紀男	主席調査員（調査第二担当）	昼 間 孝 志
		主任調査員	新屋 雅明
		主任調査員	大 谷 徹

平成18年度（整理報告書刊行）

理事長	福田 陽 充	調査部	
常務理事兼総務部長	岸 本 洋 一	調査部長	今 泉 泰 之
総務部		調査部副部长兼資料活用部副部长	小 野 美 代 子
総務部副部长	昼 間 孝 志	整理第二課長	富 田 和 夫
総務課長	高 橋 義 和	主 査	新屋 雅明
		主 事	菊 地 真

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

久台遺跡は蓮田市東2丁目に所在する遺跡で、埼玉県東部に位置している。J R宇都宮線蓮田駅からは北東約600mの位置にある。

久台遺跡の位置する大宮台地は関東平野の中央に位置し、中川低地によって下総台地と隔てられ、荒川低地によって武蔵野台地と隔てられる(第1図)。大宮台地は北西-南東方向に伸びる台地で、北西端の鴻巣付近、および南東端の安行付近は標高が20~30mとやや高く、12万年前頃の末古面(ステージ5e)に対比される。全体は約8万年前以降に形成された武蔵野面(ステージ4)に対比され、利根川-荒川水系による海岸平野である。

大宮台地は中央部を北西-南東方向に流れる皇川~綾瀬川を境として、南西側の連続した台地と、北東側の散在する台地群に区分される。南西側は2つに、北東側は4つの支台に分けられる。大宮台地の北側は加須低地にかけて標高が低下し、台地は低地に埋没する。これは関東造盆地運動と呼ばれる平野全体の沈降化現象によるものであり、先史時代の環

2. 歴史的環境

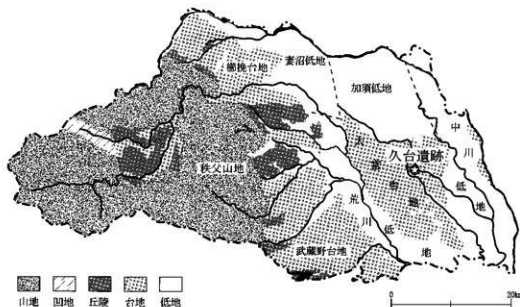
久台遺跡の位置する蓮田台地、さらには周辺の大宮台地には、旧石器時代から近世に至る数多くの遺

跡復元にあたってはこの影響も考慮する必要がある。

久台遺跡は北東側の蓮田台地に立地する。蓮田台地は岩槻台地と連続する細長い台地で、東を元荒川、西を綾瀬川に挟まれる。蓮田市高虫付近から始まり、井沼、関戸を経て蓮田駅付近まで続く。標高は13~16m程度でおおよそ平坦である。蓮田駅からさいたま市平林寺付近の間で台地は急に狭く低くなり、ここを境に南を岩槻台地と呼称している。台地はさいたま市尾ヶ崎付近まで延びる。

久台遺跡の位置を第2図に示した。久台遺跡は蓮田台地の南東端にあり、台地の中でも東寄りの、元荒川に面する側に立地する。元荒川までは直線距離で100m程度である。遺跡周辺は標高12.5~13mで平坦な面が広がり、台地西寄りでは標高16mを測り、綾瀬川に向かって緩やかに下がる。遺跡の南端は元荒川に向かって開口する小さな谷に面しており、この谷を挟んで南側には標高13~13.5mのわずかな高まりが広がっている。これらの地形と遺跡の詳細な関係については、第V章で改めて触れたい。

跡が分布する。旧石器は久台遺跡のほか宿浦遺跡(16)で群葬、天神前遺跡(19)で石器集中区が確認さ



第1図 埼玉県の地形区分



第2図 周辺の地形



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡(第2図)

No	遺跡名	所在地	時代	文献
1	久台遺跡	蓮田市東	旧石器、縄文前期～後期、古墳後期、平安、中世、近世	渡辺・新屋(1995)
2	空山公園遺跡	蓮田市上町	縄文早期～後期、近世	渡辺・新屋(1995)
3	荒川河遺跡	蓮田市岡山	旧石器、縄文早期～中期、古墳前期～後期、奈良、平安、近世	木口(1992)
4	板立貝塚	蓮田市岡山	縄文前期	田中(1991)
5	岡山貝塚	蓮田市岡山	縄文早期～中期	田中・小宮(1997)
6	十三塚古墳	蓮田市関戸	縄文中～後期、古墳	田中・小宮(1999)
7	ささぎ遺跡	蓮田市東3	縄文中期～晩期、弥生末～古墳初期、古墳後期、平安	寺内(1995)
8	馬込八重遺跡	蓮田市馬込	縄文中～後期、古墳、奈良	田中ほか(1999)
9	帆立遺跡	蓮田市馬込	縄文前期、中世	藤原(1983)
10	馬込新屋敷	蓮田市馬込	縄文早期、弥生末～古墳初期、近世	藤原(1983)
11	馬込人原遺跡	蓮田市馬込	縄文早期～後期、弥生末～古墳、近世	藤原(1983)
12	八幡沼遺跡	蓮田市蓮出	縄文中～後期	田中・小宮(1992b)
13	宮の前遺跡	蓮田市御前橋1	縄文早期～後期、平安	田中・小宮(1992a)
14	樺山遺跡	蓮田市黒浜	縄文前期～後期	田中・小宮(2005b)
15	黒浜貝塚	蓮田市黒浜	縄文早期～後期、古墳、中世、近世	小宮・田中(2005)
16	宿沼遺跡	蓮田市黒浜	旧石器、縄文早期～後期、古墳前期、平安、中世、近世	田中・小宮(2005a)
17	宿上・柳林遺跡	蓮田市黒浜	旧石器、縄文早期～後期、古墳前期、平安、中世、近世	望月ほか(1987)
18	宿下遺跡	蓮田市黒浜	縄文早期～後期、弥生中期、古墳前期、平安、中世～近世	田中・小宮(2005a)
19	天神前遺跡	蓮田市黒浜	縄文早期～近世	田中・小宮(2005a)
20	黒浜耕地遺跡	蓮田市黒浜	中世～近世	田中・小宮(1999)
21	寺前平方遺跡	蓮田市黒浜	縄文前～中期、古墳前～後期	
22	黒浜新井遺跡	蓮田市黒浜	縄文前期～後期	
23	釜山遺跡	蓮田市釜山	縄文早期	
24	新屋跡	さいたま市岩	縄文早期～中期、弥生後期、古墳前期	
25	馬込遺跡	さいたま市馬込	縄文中期～後期、弥生中期～後期、古墳前期、中世～近世	早川ほか(1973)
26	半林寺遺跡	さいたま市半林寺	弥生中～後期、古墳前期	早川ほか(1973)
27	稲葉谷遺跡	蓮田市黒浜	縄文後～晩期	上野・渡辺(2005)
28	前田遺跡	白岡町美ヶ谷	縄文後～晩期	奥野(1998)
29	不動山貝塚	蓮田市江ヶ崎	縄文前～中期	
30	江ヶ崎貝塚	蓮田市江ヶ崎	縄文前期～後期	大塚(1984)
31	浦戸新門遺跡	白岡町彦浜	縄文後～晩期	
32	下小豆原遺跡	白岡町彦浜	縄文中～後期	
33	上横山遺跡	白岡町太田新井	縄文後期、中世	
34	裏慈恵寺遺跡	さいたま市裏慈恵寺	縄文前～後期	
35	表慈恵寺東遺跡	さいたま市裏慈恵寺	縄文前期～晩期	釜木(1978)
36	板山貝塚	さいたま市裏慈恵寺	縄文早期	柳田・横川(1972)
37	黒浜新町遺跡	蓮田市黒浜	縄文早期～後期、近世	
38	神辺遺跡	白岡町小久喜	縄文後期	
39	タタラ山遺跡	白岡町白岡	縄文早期～晩期、古墳前期、平安	
40	七カマド遺跡	白岡町白岡	縄文後期	
41	人耕地遺跡	白岡町白岡	旧石器、縄文早期～後期、古墳前期、中世、近世	
42	正福院貝塚	白岡町白岡	縄文早期～晩期、古墳前期、中世、近世	
43	白岡東遺跡	白岡町白岡	縄文早期～後期	
44	神山遺跡	白岡町藤津	古墳、平安、近世	青木(1984)
45	戸戸足利遺跡	蓮田市関戸	中世～近世	木口(1995)
46	横瀬遺跡	蓮田市貝塚	縄文前～中期	
47	榎金大山遺跡	蓮田市榎金	縄文中～後期	田中・小宮(1997)
48	上関貝塚	蓮田市関戸	縄文早期～後期、古墳	
49	井沼遺跡	蓮田市井沼	縄文中～後期、近世	
50	小貝貝塚	伊奈町小宮	縄文	
51	丸山遺跡	伊奈町小宮	縄文後～晩期、平安、中世、近世～近代	山本・細田(1985)
52	赤石遺跡	伊奈町小宮	縄文中期、平安	青木(1984)
53	伊奈氏屋敷跡	伊奈町小宮	旧石器、縄文後～晩期、江戸	青木(1984)
54	十二番耕地遺跡	上尾市原市	縄文早期～近代	青木(1985)
55	愛宕山遺跡	上尾市原市	縄文中～後期、近世～近代	赤石(1988)
56	三番耕地遺跡	上尾市原市	縄文中期、古墳前期、中世、近世～近代	青木(1985)
57	秩父山遺跡	上尾市瓦葺	縄文中～後期、弥生末～古墳初期、平安、中世、近世	小宮山(2004)
58	尾山山遺跡	上尾市瓦葺	弥生後期～古墳初期、前期、平安	赤石・小宮山(2004)
59	宿沼I遺跡	上尾市瓦葺	縄文早期～後期、平安	小島・赤石(1983)
60	二十一番耕地I遺跡	上尾市原市、瓦葺	縄文中～後期、古墳	赤石・小宮山(1993)
61	二十一番耕地II遺跡	上尾市原市、瓦葺	縄文早期～後期、近世	赤石・小宮山(1993)
62	東北原遺跡	さいたま市東1宮4	旧石器、縄文早期～中期～晩期、平安	大宮市遺跡調査会(1993)
63	高台山遺跡	大宮市砂町2丁目	旧石器、縄文早期～中期、弥生後期、古墳中期、平安	
64	丸ヶ崎遺跡	さいたま市丸ヶ崎	縄文中～後期	柳田ほか(1971)
65	稲荷原遺跡	さいたま市深作	縄文前～中期	
66	深作東部遺跡群	さいたま市深作	縄文早期～後期、弥生中～後期、平安	立木ほか(1984)
67	深作稲荷台遺跡	さいたま市深作	旧石器、縄文早期～晩期、弥生後期、古墳前期、平安	新屋(2001)
68	小深作前遺跡	さいたま市小深作	縄文早期～後期、平安	
69	小深作遺跡	さいたま市小深作	縄文前期～晩期	三田村(1990)
70	宮ヶ谷貝塚	さいたま市宮ヶ谷	縄文早期～後期、弥生後期、古墳初期、平安	青木(1985)
71	真福寺貝塚	さいたま市城山3	縄文中期～晩期、中世、近世	青木(2003)

れている。

縄文時代に入ると、草創期～早期の遺跡が急増する。最終氷期最盛期が終わった1万1千年前頃から海退が一層顕著となり、蓮田台地を挟む綾瀬川や元荒川は、前期までに次第に内湾化が進んだものと推定される。堂山公園遺跡(2)、馬込新屋敷遺跡(10)、馬込大原遺跡(11)、宿下遺跡(18)、天神前遺跡などで早期後半の炉穴が検出されている。

古奥東京湾という内水域への環境適応は、縄文前期に端的に見出される。関山貝塚(5)、黒浜貝塚(15)は学史的にも有名な遺跡で、前期土器の標識遺跡である。

他にも帆立山遺跡(9)、椿山遺跡(14)、宿上遺跡(17)、宿下遺跡、天神前遺跡、十二番耕地遺跡(60・61)などの遺跡が、台地縁辺を主に分布している。

中期には5千年前以降の海退によって古奥東京湾は消滅し、貝塚も作られなくなるが、遺跡は台地上にさらに広がる。久台遺跡でも中期の土器が出土しているほか、馬込八幡遺跡(8)、宿下遺跡では中期を通じて集落が存在し、椿山遺跡や井沼遺跡(49)では加曾利E式の住居が調査されている。

後期では久台遺跡が晩期まで続く遺跡として知られる。後期前半の称名寺式～堀之内式にかけては遺跡が比較的少なく、八幡溜遺跡(12)、宮の前遺跡(13)、宿下遺跡、裏慈恩寺東遺跡(35)で住居等が発見されている。土橋山遺跡(33)は未調査であるが堀之内式の遺物が多量に採集されており、大規模な集落の可能性はある。

加曾利B式以降、後・晩期の遺跡は広義の大宮台地南東部に集中することが知られる。

帆立山遺跡をはじめ、県内でも類例の少ない石冠がまとめて出土した清左衛門遺跡(31)、裏慈恩寺遺跡(34)、黒浜拾九町遺跡(37)、井沼遺跡がある。真福寺貝塚(71)の出土土器は安行式の標識とされ、学史に残る遺跡である。

久台遺跡は蓮田市による調査も行われ、晩期の盛土遺構の存在も一部推測されるところである。

縄文後晩期の環状盛土遺構は近年注目を浴びているが、同様の遺構は雅楽谷遺跡(27)、前田遺跡(28)、入郷地遺跡(41)、正福院貝塚(42)でも認められる。

前田遺跡は白岡町教育委員会の調査で盛土遺構と見られる遺物包含層が確認されている。入郷地遺跡、正福院貝塚は本来一体の遺跡と考えられ、同様に環状盛土の存在が想定されている。

縄文時代晩期末～弥生時代前期の遺跡様相は不明確である。遺跡は弥生中期後半以降に再び増加し始め、宿下遺跡、掛遺跡(24)や深作東部遺跡群(66)など、縄文晩期同様に大宮台地南東部にまとまっている。

弥生後期終末～古墳時代初頭頃には多数の集落が営まれ、蓮田市内では椿山遺跡、ささら遺跡、馬込八幡遺跡、馬込新屋敷遺跡、馬込大原遺跡、宿上遺跡等で集落が、久台遺跡からは方形周溝墓が検出されている。

古墳時代中期には遺跡数が激減し、後期に若干持ち直す。荒川附遺跡は中核的な集落で6世紀前半以降、平安時代に至るまで連続と集落が維持される。また後期古墳として荒川附遺跡北方に7世紀前半の十三塚古墳(6)が位置する。ささら遺跡では3基の円墳が調査され、7世紀の築造と推定される。

奈良・平安時代に入ると集落は増加する。元荒川流域では荒川附遺跡が最大規模であり、他に椿山遺跡、久台遺跡、赤羽遺跡(52)、秩父山遺跡(57)、丸山遺跡(51)等々で該期の集落が検出されている。

中世以降では岩槻城をはじめ、多数の城館跡が築城されており、関戸尼利遺跡(45)も中世後半から近世にかけての館跡と考えられる。久台遺跡では区画溝と建物跡が検出され「屋敷」の存在を示すものとされる(橋本 木戸 1984)。

他に帆立遺跡、馬込新屋敷、馬込大原遺跡、薬師堂根遺跡、伊奈氏屋敷跡(53)から溝跡や土坑が検出され、陶磁器や板碑などが出土した。伊奈町戸崎前遺跡からは近世末期の地下式墳が発見され、多量の陶磁器が出土している。

III 遺跡の概要

久台遺跡は大宮台地のほぼ中央、元荒川を望む台地上に立地している。8次にわたる調査が実施されており、今回は第5次・第8次調査を報告する。

久台遺跡は縄文時代後期前葉の称名寺式から堀之内式期の集落跡として知られ、すでに当事業団報告第36集として報告されている(橋本 木戸 1984)。

今回報告する主要な内容は、第36集において未報告であった縄文時代後期前葉の集落(第5次調査の北半と第8次調査の北側部分)、その南側に位置する縄文時代後期後葉から晩期にかけての集落、および古墳時代前期の方形周溝墓群である(第5次調査区南半と第8次調査の南側部分)。近世の遺構は調査区全体に分布している。

当事業団と蓮田市教育委員会による久台遺跡の調査が平成8年から13年にかけてやや集中して行われた(第4図)。これらの調査は主に遺跡の南半部分で行われており、縄文時代後期後葉～晩期、いわゆる安行式期の集落が明らかになってきた。

今回、調査年次を整理し第4図に示した。ここで8次にわたる調査の概略についてふれておく。

久台遺跡において安行式期の集落が明らかになった時点で、ささら(Ⅱ)遺跡(橋本 1985)については遺跡範囲の変更増補が行われ、現在では久台遺跡として行政上扱われている。

久台遺跡第1次調査区(ささら(Ⅱ)遺跡)では安行1式の住居跡1軒と安行3c式期の第8・9号土坑が検出されている。また、包含層からは安行3c・3d式を中心とする土器群とこれに伴う土製品、石器が出土している。

第2次調査区は前述した後期前葉の集落の中心部分である。縄文時代の住居跡25軒、土坑56基が報告されている。

遺跡の北端である第3次調査区では、縄文時代の土坑1基のほか、平安時代・近世の遺構が検出された(渡辺 新屋 1995)。この第3次調査区から第

2次調査区の北半では縄文時代の遺構が希薄である。

第4次調査では縄文時代晩期の土坑8基、111箱の土器・石器が検出されており(埼玉県教委 1998)、安行式期集落の北東側にあたと推察される。

第6次調査では縄文時代後・晩期の住居跡2軒、土坑、ピット群(埼玉県 1999)、第7次調査では同時期の住居跡4軒が調査された(埼玉県 2001)。

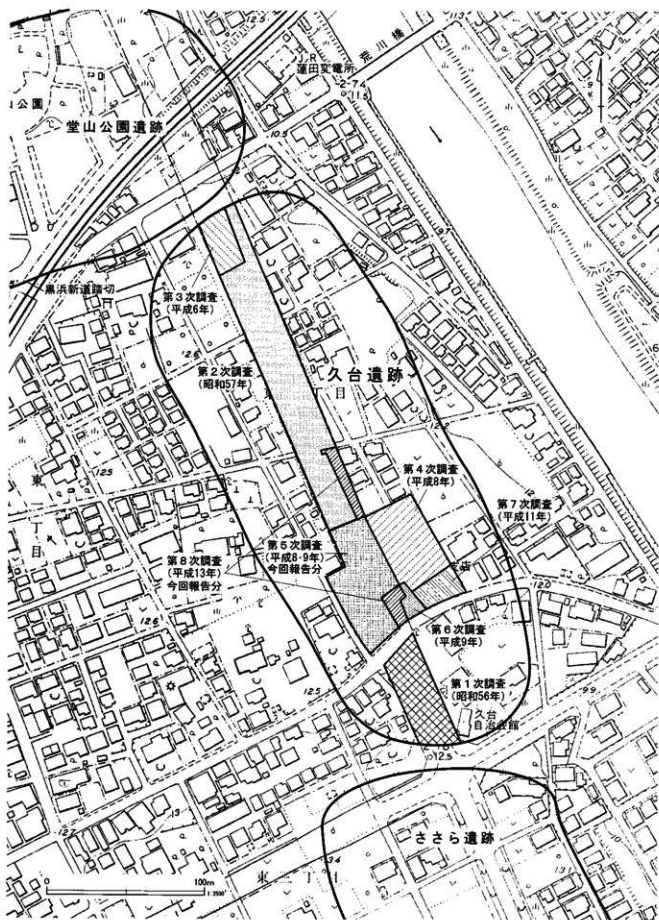
今回報告する第5次・第8次調査区から見つかった遺構は縄文時代の住居跡10軒、埋壙1基、土坑40基、古墳時代前期の方形周溝墓4基、近世の溝9条、土坑42基である。縄文時代は後期前葉の集落、安行式期の集落に2分される。調査区北側の後期前葉の集落はE列に位置する第1号住居跡、第2号住居跡が南の端にあたる。一方、調査区南側の安行期の集落は第4号住居跡が北の端にあたる。安行式期の包含層はG列までは認められた。

縄文時代はIV章の2と3に分け、それぞれ後期前葉と安行式期を中心とする集落について報告する。その際、グリッドG列北のラインを境に遺構や遺物を分け、調査区北側・調査区南側として区分する。

調査区北側の縄文時代の遺構には、住居跡6軒、埋壙1基、土坑31基がある。このうち、第39号土坑は晩期の所産であるがこれ以外は後期前葉に属する。遺構外の出土土器はわずかに安行式を含むが、後期前葉の称名寺式・堀之内式が大半である。

調査区南側の縄文時代の遺構には住居跡4軒、土坑9基、ピット群がある。いずれも安行式期の遺構である。住居跡のうち第4号・第5号住居跡は晩期に属し、出土遺物もややまとまっている。第4号住居跡の壁際からは動物形土製品が出土している。

調査区南側では遺構外から多くの遺物が出土した。土器・土製品・石製品・石器がある。出土土器は安行式がほとんどを占めており、わずかに千綱式段階のものを含んでいる。後期前葉の集落に隣接した位置であるが後期前葉の称名寺式、堀之内式は少



第4図 調査位置図

第2表 遺構名新旧対応表

新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧
SJ9#	SK54	P12		P36	1-7 P4	P60	1-6 P18	P84	1-7 P44
SD3	SD4	P13	1-6 P4	P37	1-6 P8	P61		P85	1-7 P45
SD3	SD6	P14	1-6 P6	P38	1-6 P9	P62	1-7 P18	P86	1-7 P50
SD3	SD9	P15	1-6 P5	P39	1-6 P13	P63	1-7 P18	P87	1-7 P51
SD6	SD11	P16	1-6 P7	P40		P64	1-7 P1	P88	1-7 P5
SD7	SD13	P17		P41	1-6 P10	P65	1-7 P19	P89	1-7 P42
SD8	SD14	P18	1-7 P43	P42	1-6 P12	P66	1-7 P2	P90	1-7 P30
SD9	SD15	P19		P43		P67	1-7 P20	P91	1-7 P31
SR1	SD7	P20	1-7 P7	P44	1-6 P11	P68		P92	1-7 P34
SR2	SD10	P21		P45	1-7 P48	P69	1-7 P21	P93	
SR3	SD8	P22		P46	1-6 P19	P70		P94	1-7 P35
SR4	SD12	P23		P47	1-6 P17	P71	1-7 P26	P95	1-7 P36
		P24		P48	1-6 P16	P72	1-7 P27	P96	1-7 P41
P1		P25	1-7 P6	P49	1-6 P15	P73	1-7 P25	P97	
P2		P26	1-7 P1	P50	1-6 P14	P74	1-7 P24	P98	1-7 P52
P3		P27	1-7 P2	P51		P75	1-7 P23	P99	1-7 P53
P4		P28		P52	1-7 P47	P76	1-7 P46	P100	1-7 P32
P5		P29	1-7 P8	P53	1-7 P17	P77		P101	1-7 P33
P6	1-6 P1	P30		P54	1-7 P5	P78	1-7 P22	P102	1-7 P37
P7		P31	1-7 P9	P55	1-7 P13	P79	1-7 P28	P103	1-7 P38
P8	1-6 P2	P32	1-7 P10	P56	1-7 P12	P80	1-7 P49	P104	1-7 P40
P9	1-6 P3	P33	1-7 P11	P57	1-7 P14	P81	1-7 P3	P105	1-7 P39
P10	SK80	P34		P58	1-7 P15	P82	1-7 P4	P106	1-7 P54
P11	SK80	P35	1-7 P3	P59	1-7 P16	P83	1-7 P29	P107	1-7 P55

なかった。早期・前期・中期・後期中業の土器はわずかに出土した。

安行式期の包含層は、攪乱、近世の溝、古墳時代の方形周溝墓などによって、壊されている状況が顕著に確認された（第9図I層）。安行式期の遺構外の遺物は、後世の遺構覆土や攪乱から出土したものが少ない。

なお、IV章では遺構外出土遺物として、石器、土製品・石製品、耳飾り、土偶の一覧を作製した。遺物は遺構出土のものは少数で、遺構外出土遺物が大多数である。その際、分散している遺構出土の資料もあわせて一覧を作製し、各分類における全挿図掲載遺物となるようにした。

V章では古墳時代について報告する。方形周溝墓4基と遺構外から出土した土器がある。遺構外出土土器も本来方形周溝墓の覆土中にあったものと推察される。第2号方形周溝墓は第5次調査時、第4号方形周溝墓は第8次調査時、第1号・第3号方形周溝墓については第5次調査時に大半を調査し、一部第8次で調査した。

VI章では近世の遺構について報告する。溝9条、土坑42基がある。遺物については陶磁器の破片等が出土したが、少数であり、図化可能なものはほとんどなかった。

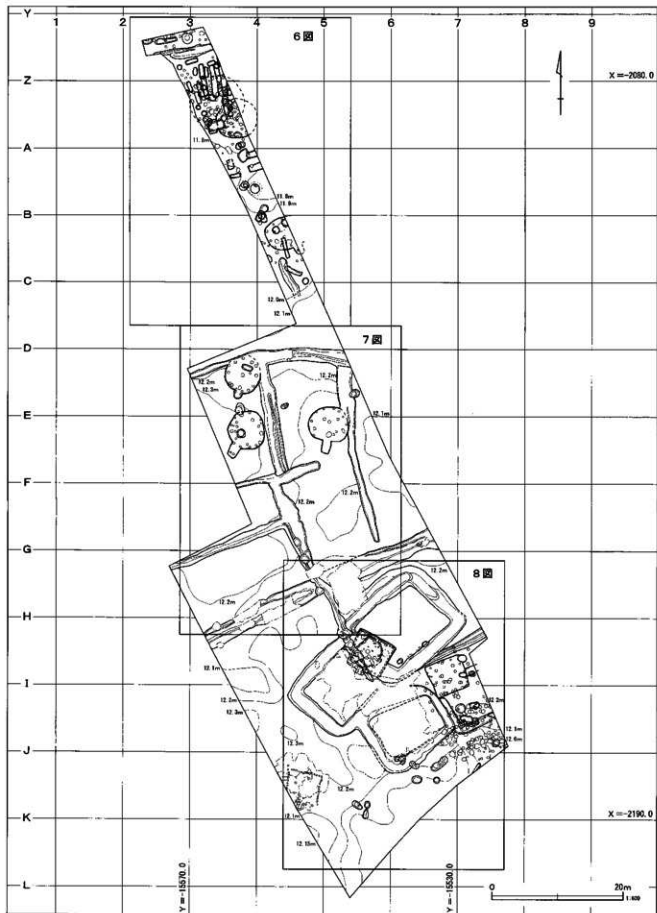
第5図に調査区全体を示し、第6～8図に拡大して個別の遺構名を示した。

第9図に基本層序を示した。安行式期の包含層の詳細はIV-3でふれる。調査区北側では表土層を取り除くと、ローム漸移層やソフトローム面となった。Y～A列付近では近世の遺構の確認面が縄文時代のそれよりも上位の漸移層中にあった。

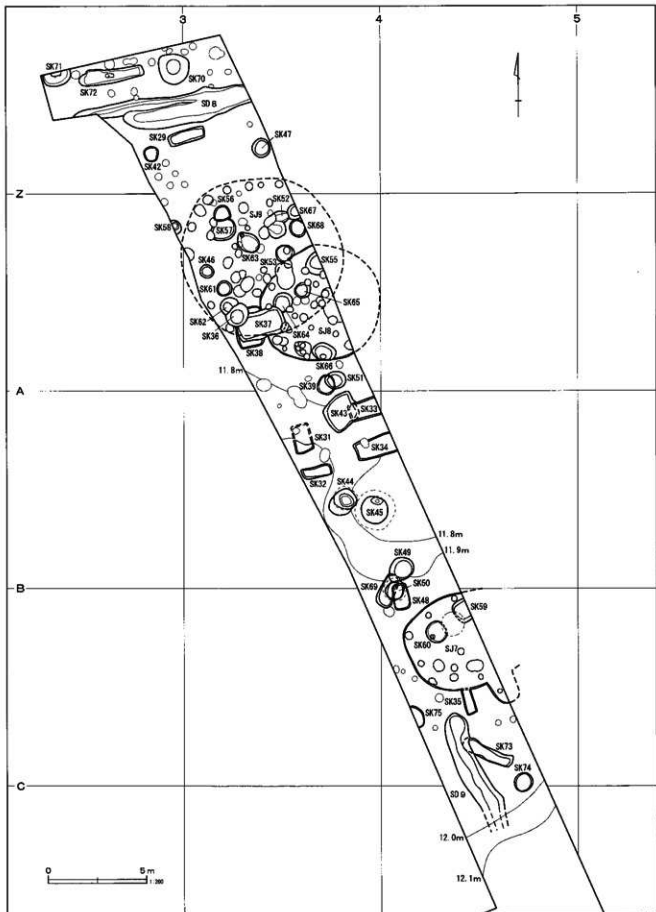
部分的にローム層も掘り下げて（第9図B-B'）観察を行ったが、立川ロームが標高11～12mにかけて堆積している以外には特別な所見はなかった。なお、ローム層中からの出土ではないが、旧石器時代の遺物も見つかっており、IV-1章で報告する。

第5次調査の表土掘削時、調査区南側では多量の安行式土器が出土したので、ローム面よりも高いレベルから精査を繰り返した。この際、近世の溝の存在は予測していたが、方形周溝墓群の存在は予測の外であった。近世の溝も方形の区画をしていたこと、攪乱が顕著であったこと、第5次調査時には周溝墓の一部が調査区外であったことなどから方形周溝墓を全形として把握するのは、古墳時代の土器が出土してからであった。

周溝内に混在する多量の安行式土器も溝（SD）の名称でしばらく取り上げた後、方形周溝墓の存在が明らかとなった。方形周溝墓の名称（SR1～4）



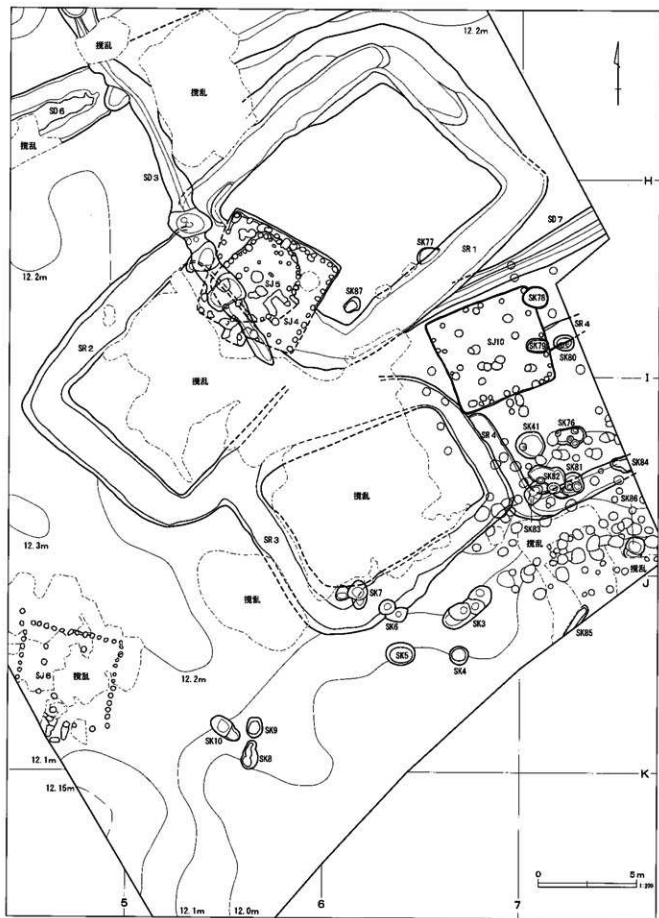
第5图 遗址全体图(1)



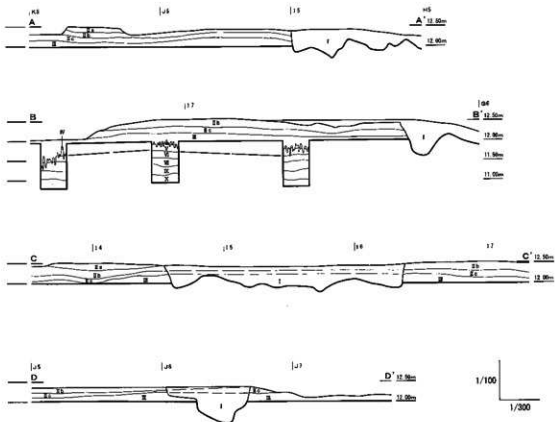
第6図 遺跡全体図(2)



第7回 遺跡全体図(3)

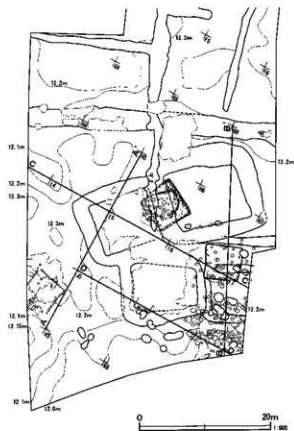


第 8 図 遺跡全体図 (4)



基本層序

- I 古墳時代・近世の遺構、掘凡
 IIa 黒褐色土 ローム粒子をわずかに含む。遺物を多量に含む
 IIb 明褐色土 ローム粒子を含む。土質はやや粘性をおびる
 IIc 明茶褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む
 (ローム層砂層)
 III層 明褐色土 (ゾフトローム)
 IV層 明褐色土 (ハードローム)
 V層 暗褐色土 白色の粒子を含む
 (第1茶色層)
 VI層 暗褐色土 明褐色土をブロック状に含む
 VII層 暗褐色土 赤色のスコリアを含む。褐色土ブロックを少量含む
 (第2茶色層)
 IX層 暗褐色土 赤色のスコリアを含む。VIIよりやや暗い色調
 (第2茶色層)
 X層 明褐色土



第9図 基本層序

第3表 遺構一覧

遺構名	グリッド	章	時代・時期	遺構名	グリッド	章	時代・時期
SJ1	D-E-3-4	N2	縄文時代後期前葉	SK50	A-B-4	N2	縄文時代後期前葉
SJ2	D-E-4-5	N2	縄文時代後期前葉	SK51	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SJ3	D-3-4	N2	縄文時代後期前葉	SK52	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SJ4	H-5-6	N3	縄文時代晩期	SK53	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SJ5	H-5	N3	縄文時代晩期	SK54	欠番	—	—
SJ6	J-4	N3	縄文時代晩期	SK55	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SJ7	B-4	N2	縄文時代後期前葉	SK56	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SJ8	Z-3	N2	縄文時代後期前葉	SK57	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SJ9	Y-Z-3	N2	縄文時代後期前葉	SK58	Z-2	N2	縄文時代後期前葉
SJ10	H-1-6-7	N3	縄文時代後期後葉	SK59	B-4	N2	縄文時代後期前葉
SK1	D-5	N5	近世	SK60	B-4	N2	縄文時代後期前葉
SK2	D-4	N5	近世	SK61	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SK3	J-6	N5	近世	SK62	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SK4	J-6	N5	近世	SK63	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SK5	J-6	N5	近世	SK64	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SK6	J-6	N5	近世	SK65	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SK7	J-6	N5	近世	SK66	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SK8	J-5	N5	近世	SK67	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SK9	J-5	N5	近世	SK68	Z-3	N2	縄文時代後期前葉
SK10	J-5	N5	近世	SK69	A-B-3-4	N2	縄文時代後期前葉
SK11	欠番	—	—	SK70	Y-2-3	N2	縄文時代後期前葉
SK12	D-3	N5	近世	SK71	Y-2	N2	縄文時代後期前葉
SK13	D-3	N5	近世	SK72	Y-2	N5	近世
SK14	Y-3	N5	近世	SK73	B-4	N5	近世
SK15	Y-3	N5	近世	SK74	B-C-4	N2	縄文時代後期前葉
SK16	Y-3	N5	近世	SK75	B-4	N2	縄文時代後期前葉
SK17	Y-3	N5	近世	SK76	I-7	N3	縄文時代後期後葉～晩期
SK18	Y-Z-3	N5	近世	SK77	H-6	N3	縄文時代後期後葉～晩期
SK19	Y-Z-3	N5	近世	SK78	H-7	N3	縄文時代後期後葉～晩期
SK20	Y-3	N5	近世	SK79	H-7	N3	縄文時代後期後葉～晩期
SK21	Z-2-3	N5	近世	SK80	H-7	N3	縄文時代後期後葉～晩期
SK22	Z-3	N5	近世	SK81	I-7	N5	近世
SK23	Z-3	N5	近世	SK82	I-7	N5	近世
SK24	Y-Z-3	N5	近世	SK83	I-7	N5	近世
SK25	Z-3	N5	近世	SK84	I-7	N3	縄文時代後期後葉～晩期
SK26	Z-3	N5	近世	SK85	J-7	N5	近世
SK27	Z-3	N5	近世	SK86	I-7	N3	縄文時代後期後葉～晩期
SK28	Y-Z-3	N5	近世	SK87	H-6	N3	縄文時代後期後葉～晩期
SK29	Y-Z-3	N5	近世	SK88	E-3	N2	縄文時代後期前葉
SK30	欠番	—	—	SR1	G-5-6 H-5-7	N4	古墳時代前期
SK31	A-3	N5	近世	SR2	H-1-4-5	N4	古墳時代前期
SK32	A-3	N5	近世	SR3	I-J-5-6	N4	古墳時代前期
SK33	A-3	N5	近世	SR4	H-I-6-7	N4	古墳時代前期
SK34	A-3-4	N5	近世	SD1	D-3-5	N5	近世
SK35	B-4	N5	近世	SD2	D-F-5	N5	近世
SK36	Z-3	N2	近世	SD3	D-G-4 G-H-5	N5	近世
SK37	Z-3	N5	近世	SD4	E-F-3 E-4	N5	近世
SK38	Z-3	N5	近世	SD5	F-3-4 G-2-3	N5	近世
SK39	Z-A-3	N2	縄文時代晩期	SD6	F-5-6 G-4-6 H-3-4	N5	近世
SK40	欠番	—	—	SD7	H-6-7	N5	近世
SK41	I-6-7	N3	縄文時代後期後葉～晩期	SD8	Y-2-3	N5	近世
SK42	Y-2	N2	縄文時代後期前葉	SD9	B-C-4	N5	近世
SK43	A-3	N5	近世				
SK44	A-3	N2	縄文時代後期前葉				
SK45	A-3-4	N2	縄文時代後期前葉				
規集(SK46)	Z-3	N2	縄文時代後期前葉				
SK47	Y-3	N2	縄文時代後期前葉				
SK48	A-B-4	N5	近世				
SK49	A-4	N2	縄文時代後期前葉				

は整理時に付けたものであり、第2表のとおり調査時の名称を変更した。

また、調査区南側のピット群は調査時に遺構名を付けるのが不徹底だったため、第2表のとおり新たに番号を付した。これをもとに新たに遺構の一覧を

示したのが第3表である。

なお、第3表には掲載しなかったが、縄文時代後期前葉、近世についてもそれぞれ住居外のピットの調査をしている。後期前葉については第5表、近世については第19表にそれぞれ示した。

IV 遺構と遺物

1. 旧石器時代

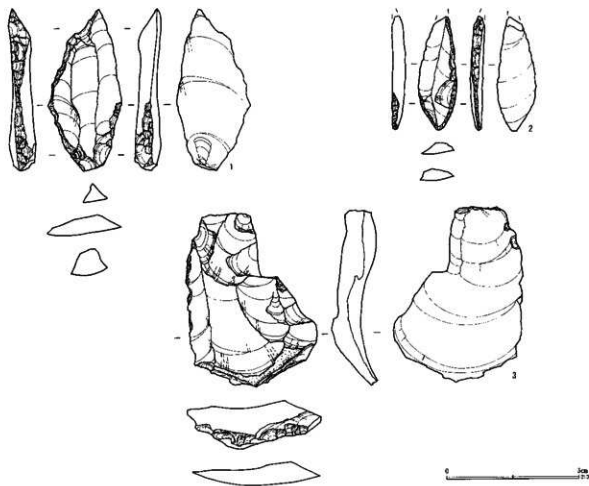
旧石器時代の遺物は3点出土した。いずれも後世の遺物とともに攪乱中から見つかったものである。

1は、ナイフ形石器である。縦長剥片を素材として打面を基部側におき、二側縁加工を施している。打面は残存し、長さが6cm以上とやや大形である。

2は、ナイフ形石器である。縦長剥片を素材として打面を先端側におき、二側縁加工を施している。右側縁の先端部に一部対向剥離が見られるが、その

ほかは、主要剥離面側から刃部調整を行っている。先端が欠損する。

3は、スクレイパーである。石核側にやや湾曲した剥片を用いている。剥片の末端に刃部加工を施している。また、左側縁全体と右側縁下半部に微細な剥離痕が見られる。この剥離は、何らかの使用による痕跡と考えられる。



第10図 旧石器時代の遺物

第4表 旧石器時代遺物観察表

図番号	図内番号	部種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
10	1	ナイフ形石器	珪質頁岩	6.1	2.9	1.0	1.4
10	2	ナイフ形石器	珪質頁岩	4.3	1.5	0.5	3.0
10	3	スクレイパー	珪質頁岩	7.2	4.9	1.8	30.1

2. 縄文時代（調査区北側）

(1) 概要

調査区北側では住居跡6軒、埋壘1基、土坑31基とピットが検出された。

ここではG列のラインを境に便宜的に二分したうちの北側について、グリッドY列～F列の範囲を扱う。第39号土坑が晩期である以外は、縄文時代後期後葉の集落が展開する範囲である。出土土器には称名寺式、堀之内式があり、石器・土製品も出土している。

今回報告する集落跡は、過去に第2次調査区で検出された後期前葉の集落跡の続きと考えられる。第2次調査区と今回（第5次・第8次調査区）を合計した後期前葉の遺構数は、住居跡31軒、土坑86基、埋壘1基である。

(2) 住居跡

第1号住居跡（第12・13図）

D-3・4、E-3・4グリッドに位置する。住居の掘り込みは全体に浅い。北側の壁を一部、第12号土坑に壊される。平面形は柄鏡形で、主軸方向はN-13°-Eをとる。

規模は主体部が長軸7.6m、短軸5.6m、深さ0.14m、張り出し部は長さ2.02m、幅1.54m、深さ0.1mを測る。炉は主体部中央から南西寄りに位置し、長軸0.92m、短軸0.82mで円形に近い。深さ0.24mで、覆土は焼土を主体とする。炉は第88号土坑が埋まった後に構築されていた。

ピットはP1～P23の23基を確認した。P1～P9、P14～P23の19基は壁柱穴とみられ、住居の壁沿いに二重に巡る。

深さで見ると0.2m以上のものが11基（P1：0.39×0.3m＝最大幅×深さ、以下同じ、P3：0.36×0.24m、P4：0.3×0.27m、P5：0.63×0.47m、P6：0.48×0.28m、P15：0.48×0.43m、P18：0.3×0.2m、P19：0.33×0.4m、P20：0.3×0.23m、P22：0.54×0.5m、P23：0.39×0.29m）、それ以外が8基となる（P2：0.24×0.08m、P7：0.3×0.15m、P8：0.27×0.14m、

P9：0.3×0.12m、P14：0.3×0.12m、P16：0.33×0.08m、P17：0.24×0.18m、P21：0.27×0.15m）。

張り出し部にはP10～13の4基がある（P10：0.36×0.18m、P11：0.3×0.15m、P12：0.27×0.17m、P13：0.36×0.2m）。

遺物は炉に集中するほか、主体部に散在する。称名寺2式の土器が炉とその周辺にやや多い。

第1号住居跡出土遺物（第14図）

1は胴部との境を微隆起線で区画する。その他は称名寺式である。2～4は沈線区画内に縄文を施す。5は把手の破片。6～10は沈線文を施す。11～13は条線文を施す。14は有茎の石鏃である。先端部を欠損する。

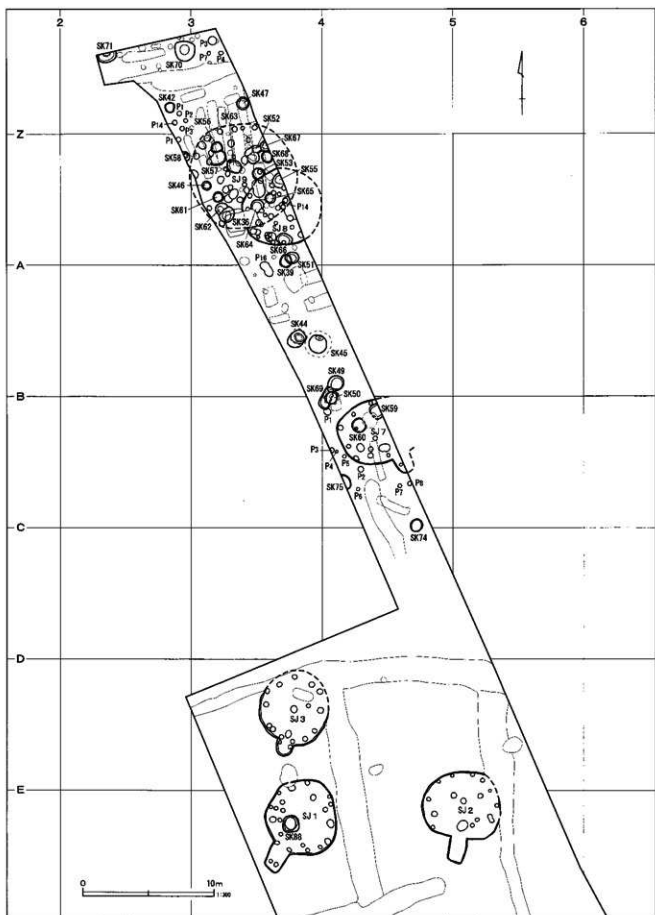
第2号住居跡（第15・16図）

D-4・5、E-4・5グリッドに位置する。住居の掘り込みは全体に浅い。住居北東部を第2号溝跡に壊される。平面形は柄鏡形で、主軸方向はN-11°-E主体部は円形に近いがやや不整である。

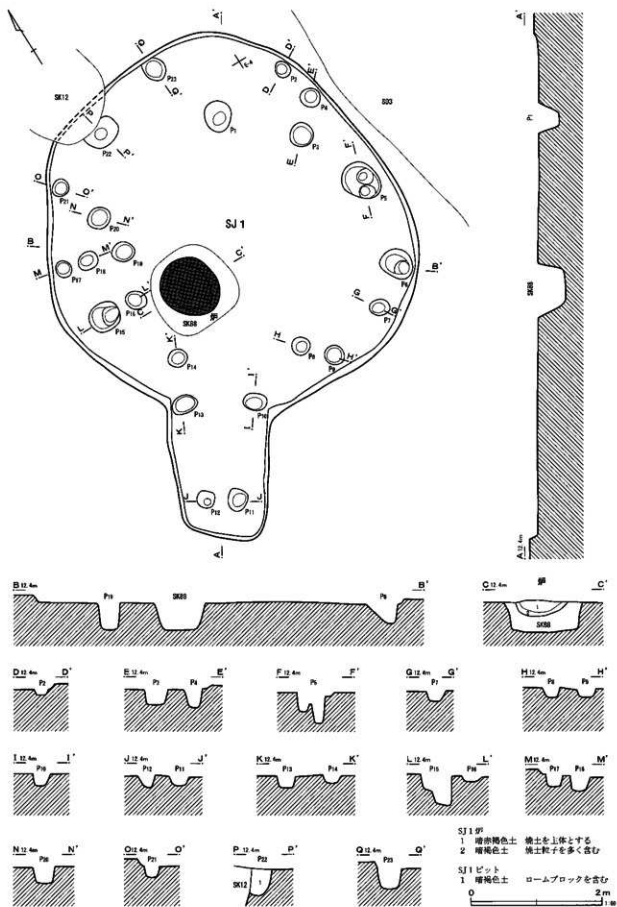
規模は主体部が長軸6.94m、短軸5.94m、深さ0.11m、張り出し部は長さ1.96m、幅1.32m、深さ0.07mを測る。炉は南寄り、張り出し部から近距離のところ、位置する。長軸0.86m、短軸0.68m、深さ0.33mである。

ピットはP1～P15の15基を確認した。P1～P10は壁柱穴でほぼ等間隔に巡る。深さは0.3m前後である（P1：0.3×0.17m、P2：0.42×0.37m、P3：0.33×0.43m、P4：0.24×0.23m、P5：0.24×0.18m、P6：0.3×0.29m、P7：0.3×0.19m、P8：0.22×0.3m、P9：0.3×0.22m、P10：0.66×0.42m）。P11、P12は壁からやや離れているが、同様に壁柱穴の可能性はある（P11：0.33×0.4m、P12：0.3×0.3m）。P13～P15は主体部中央寄りに位置する。深さは0.3m前後とやや深い（P13：0.42×0.3m、P14：0.39×0.34m、P15：0.36×0.26m）。

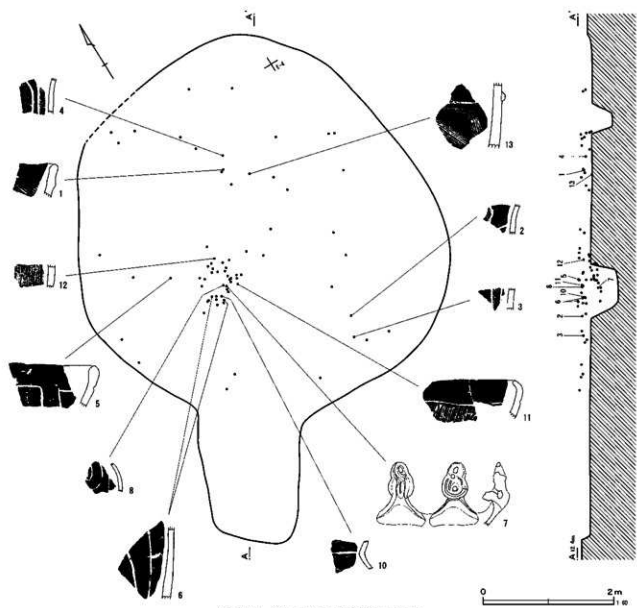
遺物は炉のほか、主体部の中央寄りで多く出土した。称名寺2式が多く、比較的まとまっている。



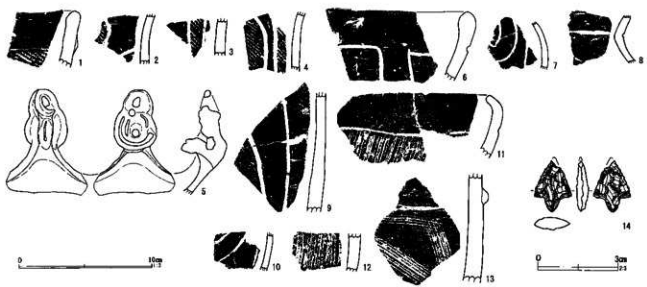
第11图 縄文時代（調査区北側）全体図



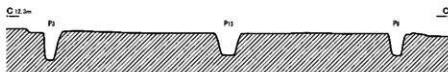
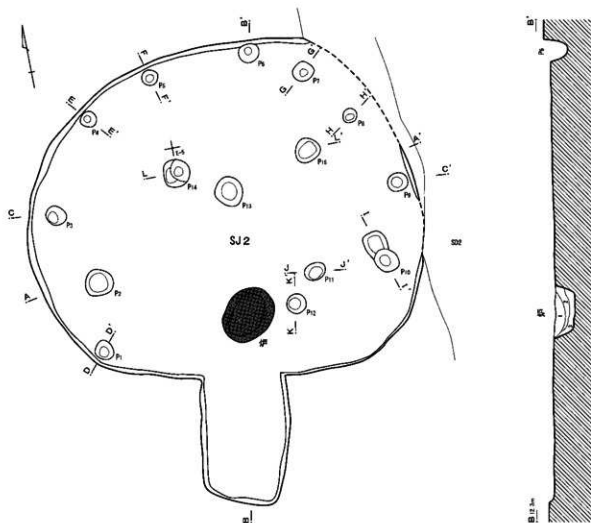
第12図 第1号住居跡



第13图 第1号住居跡遺物出土状況



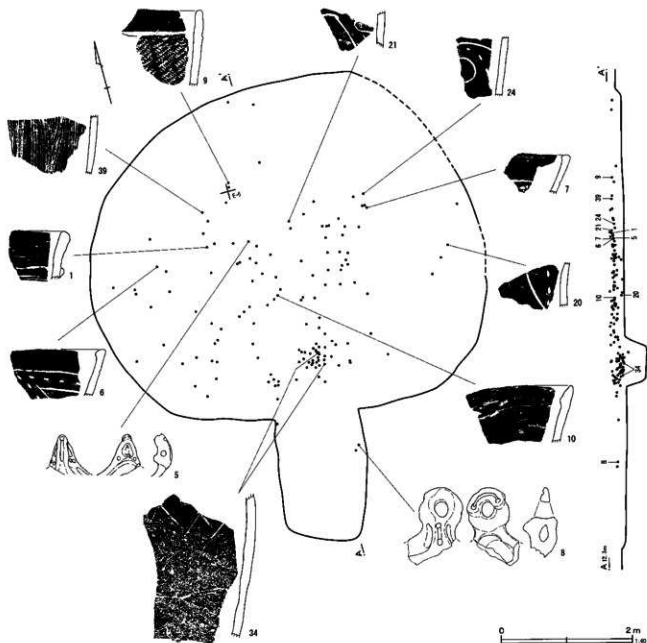
第14图 第1号住居跡出土遺物



- SJ2
 1 暗褐色土 ローム、炭化物を含む
 2 褐色土 ロームを多く含む
 3 暗黄褐色土 ロームを主体とする

- SJ2伊解
 1 褐色土 ローム層状。5センチ前後の
 ロームブロック、焼土粒子
 を含む
 2 黒褐色土 焼土粒子。3センチ前後の
 ロームブロックを含む
 3 黄褐色土 層8センチ前後のローム
 ブロックを多く含む
 焼土粒はごく少量

第15図 第2号住居跡



第16図 第2号住居跡遺物出土状況

第2号住居跡出土遺物（第17図）

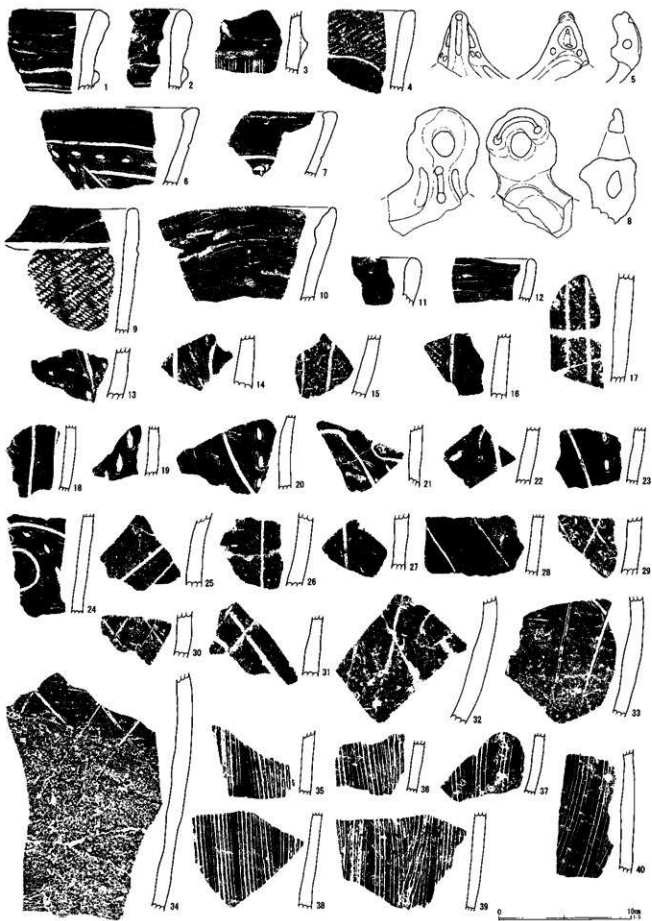
1～3は胴部との境を微隆起線で区画し、4は口端まで縄文が施される。5～12は口縁部。5、8は把手。6～7は沈線区画内に列点を、9は縄文を施す。

10～12は無文だが整形が良く、沈線文が施される土器か。13～17は沈線区画内に縄文を、18～24は列点文を施し、25～28は沈線のみが認められる。29～34は斜格子文、35～40は条線文。称名寺式を主体とする。

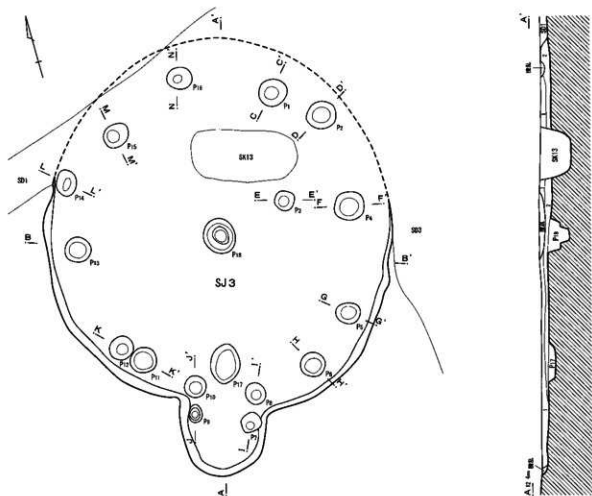
第3号住居跡（第18図）

D-3、D-4グリッドに位置する。住居の掘り込みは全体に浅い。住居は第13号土坑と第1号溝跡、第3号溝跡に壊され、住居北西から北東にかけて壁の立ち上がりが確認できなかった。平面形は柄の短い柄鏡形で、主軸方向はN-15°-Eをとる。

主体部は楕円形で、規模は長軸推定6.6m、短軸5.22m、深さ0.15m、張り出し部は長さ1.1m、幅1.24m、深さ0.08mである。炉は確認されなかった。主体部の張り出し部に近い位置に浅いピットがある

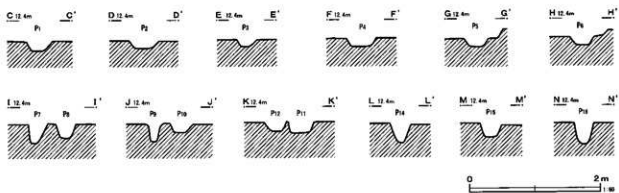


第17图 第2号住居跡出土遺物



SJ3

- 1 暗褐色土：ロームを多く含む
2 明褐色土：ロームを多く含む



第18図 第3号住居跡



第19図 第3号住居跡出土遺物

(P17: 0.6×0.12m)。また主体部中央にP18が位置する (0.51×0.33m)。

ピットは壁柱穴が11基あり、一部を除いて浅いものが多い (P1: 0.42×0.16m、P2: 0.45×0.12m、P4: 0.45×0.12m、P5: 0.38×0.12m、P6: 0.36×0.13m、P11: 0.39×0.16m、P12: 0.36×0.14m、P13: 0.42×0.15m、P14: 0.39×0.27m、P15: 0.33×0.29m、P16: 0.33×0.31m)。

P3は壁からやや離れる (0.3×0.11m)。入口部に伴うピットは4基ある (P7: 0.33×0.4m、P8: 0.3×0.2m、P9: 0.24×0.27m、P10: 0.33×0.13m)。

出土遺物は少ない。主軸方向は第1号、第2号住居跡とほぼ同じであり、同時期に構築された可能性がある。

第3号住居跡出土遺物 (第19図)

1は沈線区画内に縄文を施す。2は縄文、3～5は沈線のみが認められる。6は条線文を施す。

第7号住居跡 (第20・21図)

B-4グリッドに位置する。住居の掘り込みは全体に浅い。西側約半分が調査区外にある。攪乱のほか、第35号土坑に壊される。平面形は柄鏡形と見られ、主軸方向はN-26°-Wをとる。

規模は主体部が長軸6.1m、短軸は検出された範囲で3.7m、深さ0.14mを測る。張り出し部は長さ1.44m、深さ0.11mである。炉は確認されなかった。

ピットは住居内で12基を確認した。P3～P7、P11は壁柱穴である (P3: 0.42×0.61m、P4: 0.3×0.29m、P5: 0.27×0.13m、P6: 0.36×0.18m、P7: 0.27×0.49m、P11: 0.27×0.2m)。P12 (0.21×0.16m) は入口部に伴うピットと見られる。

P1、P2、P8～10は第7号住居に伴うピットと考えられるが、規模は一様でない (P1: 0.84×0.37m、P2: 0.6×0.58m、P8: 0.33×0.45m、P9: 0.36×0.21m、P10: 0.42×0.18m)。

遺物は住居主体部の全体に広がっており、特に中央付近に集中する。土器は称名寺式がほとんどで、1式より2式が量的にやや多い印象を受ける。

第7号住居跡出土遺物 (第22・23図)

第22図1～5は沈線区画内に縄文を施す口縁部。6～8は把手。7は耳状把手で内面はC字状に沈線が巡ると見られる。

第23図1～13も沈線区画内に縄文を施す土器。1にはJ字のモチーフが認められる。14～37は沈線区画のみ、もしくは区画内に列点を施す土器で、14～28は口縁部。14や29～31では列点が明瞭である。いずれも称名寺式。38は堀之内式の垂下文の一部か。39は堀之内式の注口土器の注ぎ口。40～41は縄文を地文とする。42～45は縄文のみ施した胴部の破片である。46は無文の口縁、47～49は条線文。50は盃形の打製石斧である。基部欠損。刃部が摩耗している。

第8号・第9号住居跡 (第24・25図)

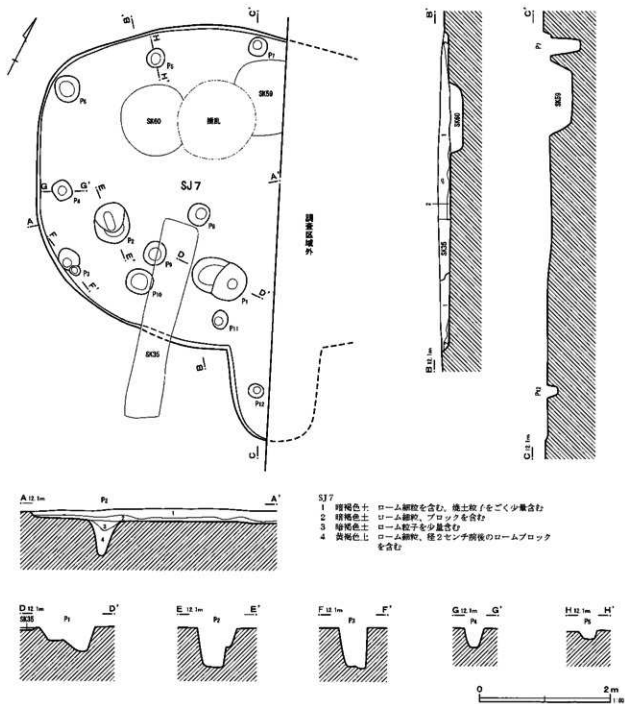
第8号、第9号住居跡はZ-3グリッドに位置する。多数の近世土坑と重複し、住居の掘り込みは第8号住居跡の一部が確認されたのみである。ともに一部は調査区外にある。2軒の住居の新旧関係は明確に捉えられなかった。

第8号住居跡は炉が調査区ライン上に位置する。住居の規模は、検出された範囲で長軸5.8m、短軸3.74m、深さ7cmを、炉は長軸1.86m、幅は検出範囲で0.7m、深さ3cmを測る。

第9号住居跡は第8号住居跡と重複する位置に炉が検出されたことから、周辺のピットは住居の柱穴と考えた。炉は南側が深く、長軸1.32m、短軸0.84m、深さ0.43mを測る。

ピットは直径約8mの範囲に広がるが、どこまでが住居の柱穴かは明らかに出来なかった。第8号・第9号住居に伴うと考えられるピットは合計57基検出された。深さ0.2～0.4m程のものと、0.5mを超えるものに二分される (第25図)。

ここでは便宜的に第8号住居跡の範囲から出土したものを第8号住居跡の遺物、それ以外の点線の範囲から出土したものを第9号住居跡の遺物とした。



第20図 第7号住居跡

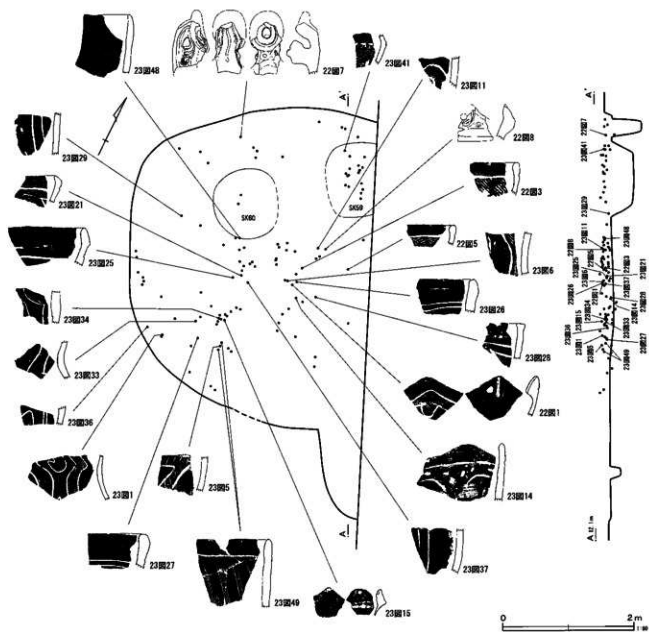
第8号・第9号住居跡出土遺物 (第26・27図)

第26図は第8号住居跡出土。1は口縁下に沈線を施す。2は沈線の有無が不明だが、3は口端部に沈線を巡らせる。

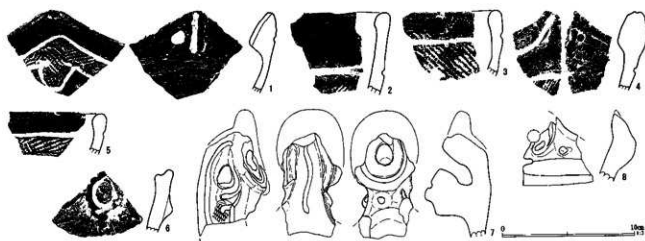
4、14は縄文地に沈線を施す。5～9も沈線を施す土器で、5は渦巻文となるか。10～11は条線文。12～13、15～20は縄文のみを施した胴部の破片である。21は底部である。

第27図1は胴部との境を微隆起線で区画する。2～7は沈線区画内に縄文を施す。J字文等のモチーフが描かれる。8は耳状把手で内面にC字状に沈線を施す。9は把手で口端が左巻にねじれ、2つの穴を施す。10も波状部に把手を施す。

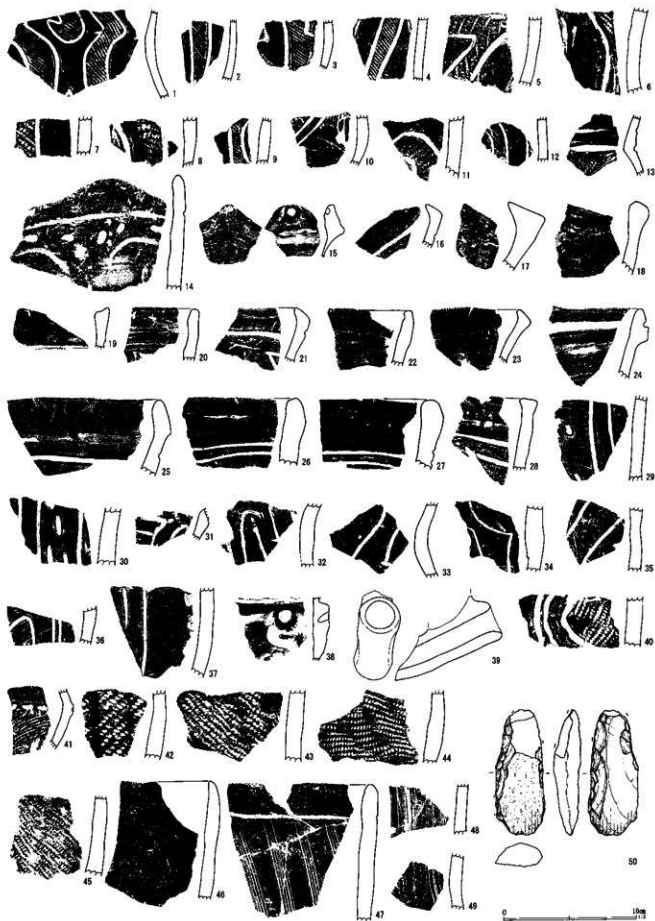
11～17は沈線を施文する口縁部。18～31は沈線区画内に列点を施し、32～34は沈線のみを施す。35は沈線で渦巻文を描く。36は縄文のみ。37は無文の口



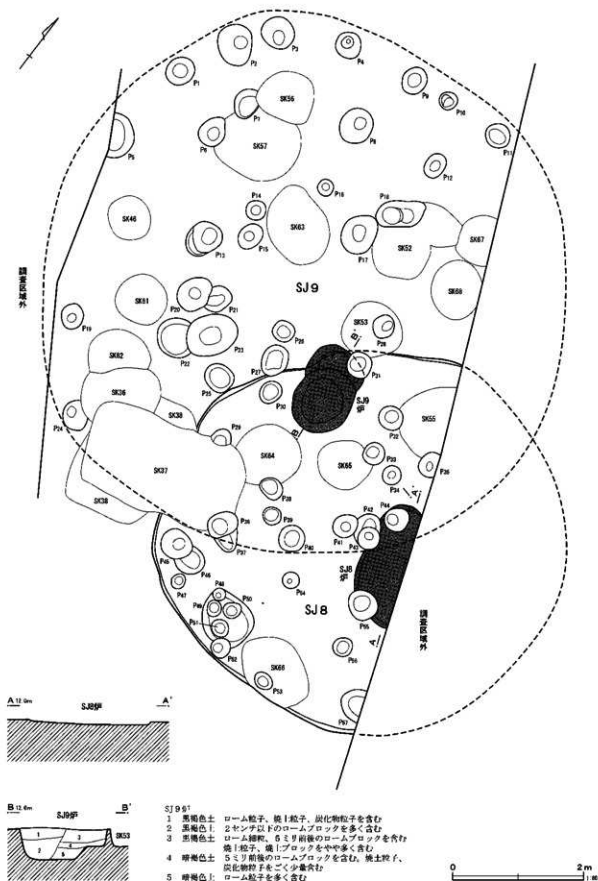
第21图 第7号住居跡遺物出土状況



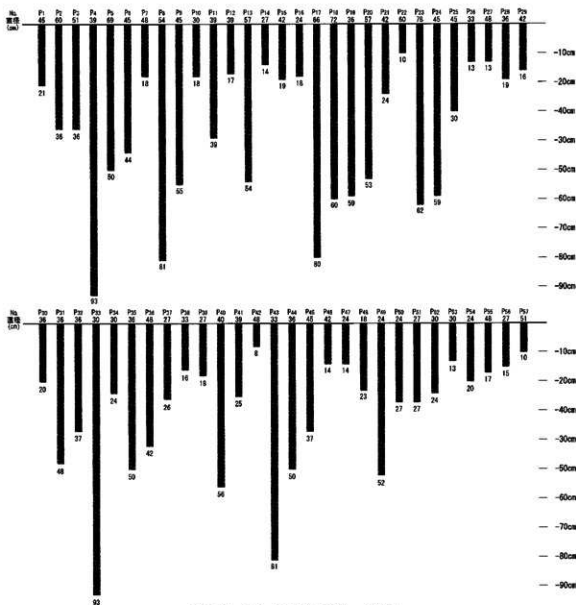
第22图 第7号住居跡出土遺物(1)



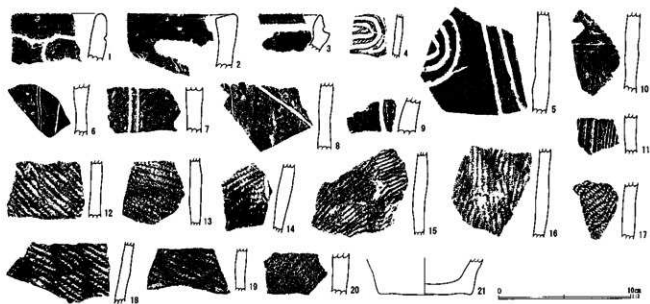
第23图 第7号住居跡出土遺物(2)



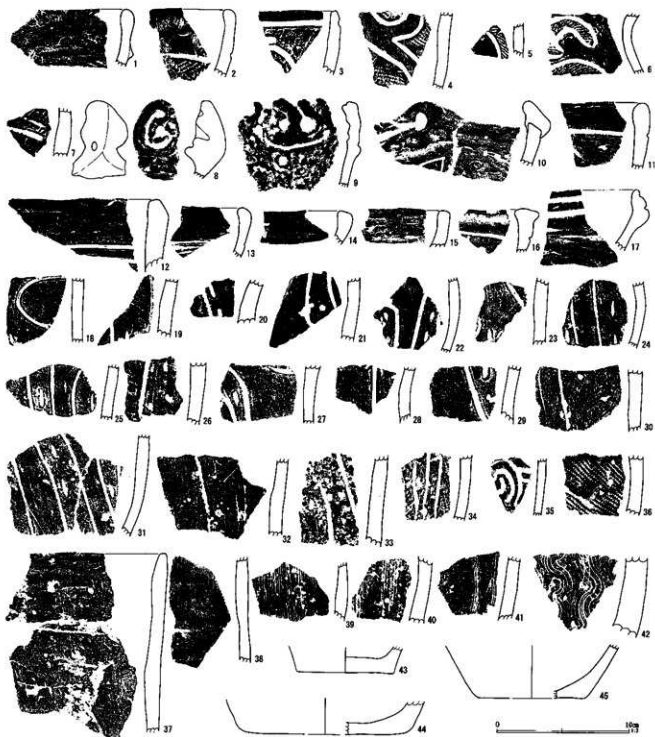
第24図 第8・9号住居跡



第25図 第8・9号住居跡ピット深度



第26図 第8号住居跡出土遺物



第27図 第9号住居跡出土遺物

縁部。38～42は条線文。43～45は底部である。称名寺式を主体とする。

(3) 埋壘

第46号土坑 (第28・29図)

調査時点では土坑番号を付したが、縄文時代の埋壘であるため別に報告する。

Z-3グリッドに位置する。平面形は円形で、規

模は直径0.68m、深さ0.38mを測る。ローム主体の掘り方の中央に、底部を欠いた大型の深鉢を据える。第29図2は埋壘の土器で、口端部に沈線文を巡らし、胴部に条線文が垂下する。1は伴出した耳状突起で、小さな円孔を施す。他に出土遺物はない。

(4) 土坑

調査区北側では合計31基の土坑を検出した。晩期

の第39号土坑を除き、いずれも後期前葉の土坑と考えられる。なお第8号、第9号住居跡の推定範囲内で検出された土坑は、住居・土坑の遺構確認面が住居の床面レベルにほぼ等しかった関係から、一部を除いて、住居跡との切り合い関係を明確に把握することは出来なかった。

第36号土坑 (第30図)

Z-3グリッドに位置する。第62号土坑を壊し、第37号・第38号土坑に壊される。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は円形である。規模は直径1.22m、深さ0.72mを測る。

出土遺物は少なく、6点を図示した(第33図)。

第39号土坑 (第30図)

Z・A-3グリッドに位置する。第51号土坑を壊す。平面形は円形である。規模は直径0.9m、深さ0.07mを測る。ごく浅い土坑である。覆土中から小形壺が割れた状態で出土した(第33図)。

第42号土坑 (第30図)

Y-2グリッドに位置する。平面形は方形に近い円形で、規模は直径0.74m、深さ0.25mを測る。

出土遺物は少なく、4点を図示した(第33図)。

第44号土坑 (第30・34図)

A-3グリッドに位置する。平面形は円形で、南側の立ち上がりが緩やかとなる。規模は直径1.44m、深さ1.25mを測る。土坑は半分程の深さで径をすぼめ、底部で再び大きく広がる袋状土坑となる。

底面は直径1.52mで、中央やや東寄りに直径0.65mの落ち込みを有する。遺物は1層と2層の下方で主に出土し、上層には大形の破片も多い。北に約10m離れた第47号土坑から、第44号土坑の遺物と同一個体の破片が出土している(第33・41図参照)。

第45号土坑 (第30・37図)

A-3・4グリッドに位置し、第44号土坑と横に並ぶ。平面形は円形で、規模は直径1.4m、深さ1.79mを測る。土坑は下3分の2が大きく広がる袋状土坑である。底面は直径2mで、北側に直径0.4m、深さ0.08m程のピットを持つ。

出土遺物は多く、6層中にまとまる。ほぼ完形に復元される土器4点が検出された(第37~40図)。

第47号土坑 (第30図)

Y-3グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径0.96m、深さ0.47mを測る。

出土遺物は多くない(第33図)。

第49号土坑 (第30図)

A-4グリッドに位置し、第50号、第69号土坑を壊す。平面形は不整形円形で、主軸方向はN-41°-Eをとる。規模は長軸1.4m、短軸1.1m、深さ0.48mを測る。出土遺物は小片が多い(第33図)。

第50号土坑 (第30図)

A・B-4グリッドに位置する。第69号土坑を壊し、第48号、第49号土坑に壊される。平面形は円形で、規模は直径1.0m、深さ1.55mを測る。土坑は底面に向かって広がる袋状土坑である。底面は直径1.2mを測る。出土遺物は多くない(第41図)。

第51号土坑 (第30・41図)

Z-3グリッドに位置する。第39号土坑に壊される。平面形は不整形円形で、規模は直径1.06m、深さ0.26mを測る。

遺物は比較的多く、器形の分かる個体も出土した。

第52号土坑 (第30・42図)

Z-3グリッドに位置する。東端を第67号土坑に壊される。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は不整形である。南北を主軸とすると、規模は長軸1.32m、短軸0.92m、深さ0.3mを測る。

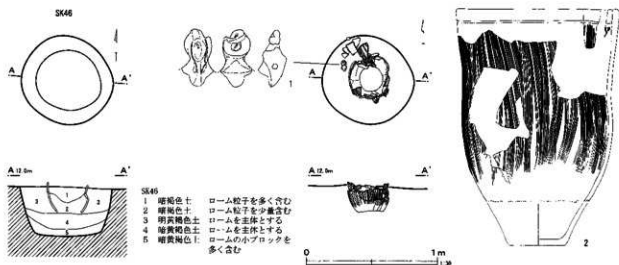
土坑は楕円が2つ並んだ形をとり、北側が浅く、南側に深く掘り込まれる。断面によると堆積は一様である。遺物は遺構確認面付近から多く出土した。

第53号土坑 (第30・43図)

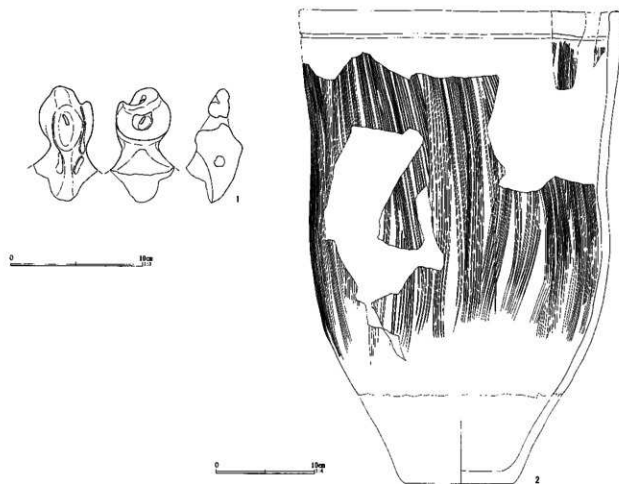
Z-3グリッドに位置する。第8号住居跡より新しいと考えられる。第9号住居跡との新旧関係は不明である。平面形は円形で、規模は直径0.86m、深さ0.29mを測る。出土遺物は1層中に多い。

第55号土坑 (第31図)

Z-3グリッドに位置する。東側が一部調査区外



第28図 第46号土坑・埋戻し出土状況



第29図 第46号土坑出土遺物

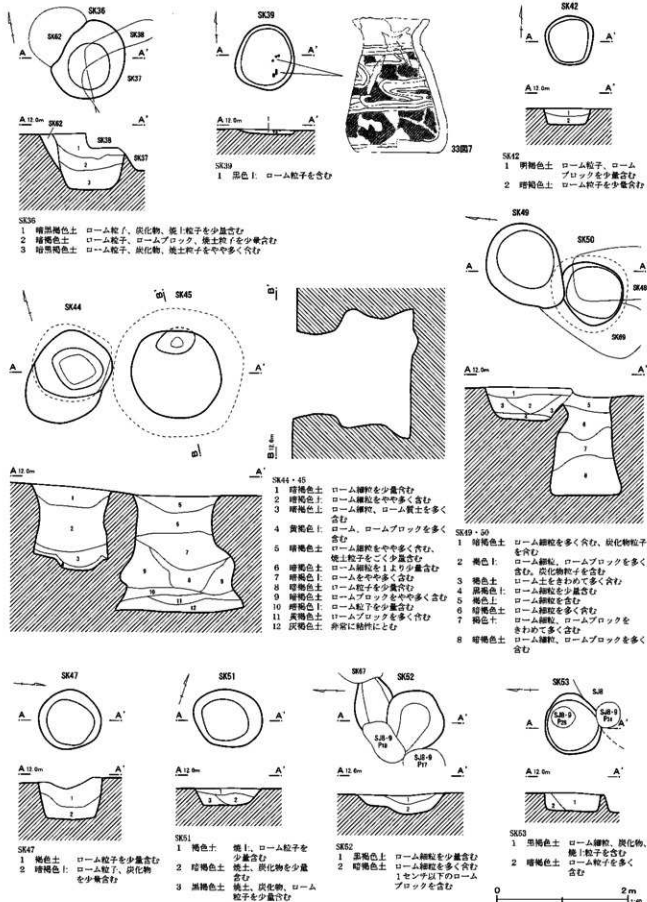
に及ぶ。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は円形と見られ、検出された範囲の規模は南北を基準に長軸1.14m、短軸0.74m、深さ0.2mを測る。

出土遺物は少ない(第44図)。

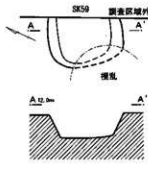
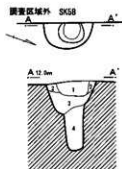
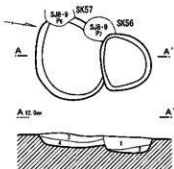
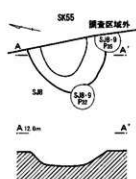
第56号土坑(第31図)

Z-3グリッドに位置する。第57号土坑を壊す。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は不整形で、規模は直径0.76m、深さ0.28mを測る。

出土遺物は少なく、2点を図示した(第44図)。

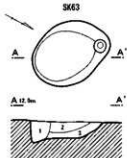
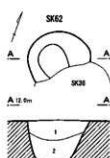
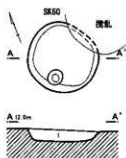


第30図 土坑 (1)



- SK56・57
- 1 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
 - 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
 - 4 暗褐色土 ローム・焼土粒下を少量含む

- SK58
- 1 暗黒褐色土 ローム粒子、炭化物を少量含む
 - 2 褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 3 褐色土 ロームブロックを少量含む
 - 4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む

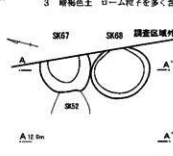
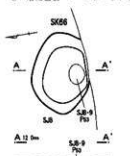
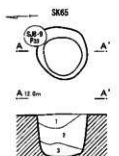
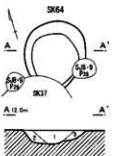


- SK60
- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む

- SK61
- 1 暗褐色土 ローム細粒を少量含む
 - 2 黄褐色土 ロームを多く含む

- SK62
- 1 暗褐色土 ローム細粒を少量含む
 - 2 暗褐色土 ロームブロックを含む

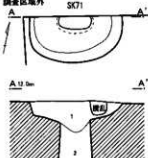
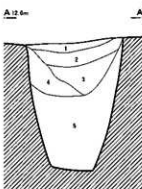
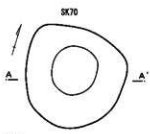
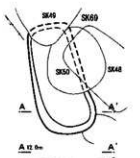
- SK63
- 1 黒褐色土 ローム細粒、ロームブロックを含む
 - 2 暗褐色土 ローム細粒を少量含む
 - 3 暗褐色土 ローム粒子を多く含む



- SK64
- 1 暗褐色土 ローム粒を含む
 - 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 3 暗褐色土 ロームを多く含む

- SK65
- 1 黒褐色土 ロームブロックを少量含む
 - 2 暗褐色土 ローム細粒、ロームブロックをやや多く含む
 - 3 暗褐色土 ロームを多く含む

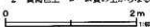
- SK66
- 1 黄褐色土 ロームを多く含む



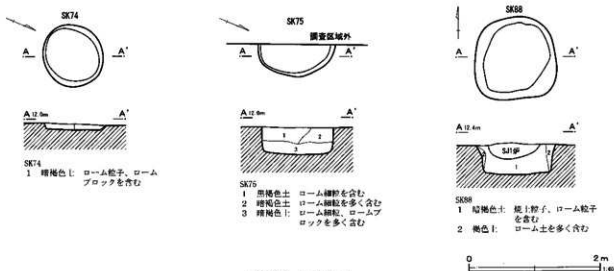
- SK69
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 2 黄褐色土 ロームブロックを多く含む

- SK70
- 1 暗褐色土 ローム細粒、炭化物粒子を含む
 - 2 暗褐色土 ローム細粒、炭化物粒子をやや多く含む
 - 3 黄褐色土 ローム細粒を含む
 - 4 黄褐色土 ロームをやや多く含む
 - 5 黄褐色土 ロームブロック、ソフトロームからなる

- SK71
- 1 暗褐色土 ローム細粒を含む
 - 2 黄褐色土 ローム質の土からなる



第31図 土坑 (2)



第32図 土坑 (3)

第57号土坑 (第31図)

Z-3グリッドに位置する。第56号土坑に壊される。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は楕円形で、主軸方向はN-85°-Eをとる。規模は長軸1.2m、短軸1.0m、深さ0.21mを測る。

出土遺物は少ない(第44図)。

第58号土坑 (第31図)

Z-3グリッドに位置する。西側が一部調査区外に及ぶ。平面形は円形と見られ、中央に深いピットを伴う。規模は南北を基準に直径0.74m、深さ0.87mを測る。出土遺物は殆どない(第44図)。

第59号土坑 (第31図)

Z-3グリッドに位置する。西側の壁を攪乱され、東側は一部調査区外に及ぶ。第7号住居跡との新旧関係は不明であるが、第60号土坑が住居跡に壊されることから、同様に住居跡より古い可能性がある。

平面形は隅丸方形と見られ、検出された範囲の規模は長軸1.12m、短軸0.6m、深さ0.34mを測る。

出土遺物はごく少ない(第44図)。

第60号土坑 (第31図)

Z-3グリッドに位置する。東側の壁を攪乱される。第7号住居跡に壊される。平面形は円形で、南東隅にピットを伴う。規模は直径1.08m、深さ0.2mを測る。出土遺物はない。

第61号土坑 (第31図)

Z-3グリッドに位置する。住居跡との新旧関係

は不明である。平面形は円形で、規模は直径0.74m、深さ0.17mを測る。出土遺物は少ない(第44図)。

第62号土坑 (第31図)

Z-3グリッドに位置する。第36号土坑に壊される。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は円形と見られ、規模は直径0.94m、深さ0.59mを測る。

出土遺物はない。

第63号土坑 (第31・45図)

Z-3グリッドに位置する。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は楕円形で、北東隅にピットを伴う。主軸方向はN-28°-Wをとる。規模は長軸1.2m、短軸0.92m、深さ0.26mを測る。

覆土上層から完形に近い個体が1点出土した。

第64号土坑 (第31図)

Z-3グリッドに位置する。第37号土坑に壊される。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は円形で、規模は直径1.0m、深さ0.19mを測る。

出土遺物は少ない(第46図)。

第65号土坑 (第31図)

Z-3グリッドに位置する。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は不整形円形で、規模は直径0.78m、深さ0.62mを測る。

出土遺物は殆どなく、3点を図示した(第46図)。

第66号土坑 (第31図)

Z-3グリッドに位置する。住居跡のピットと見られるP53を切っており、第8号住居跡より新しい。

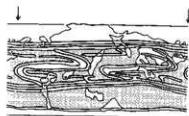
S K36



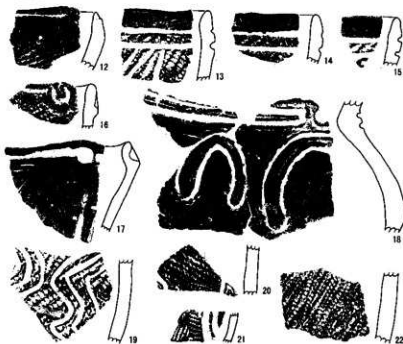
S K42



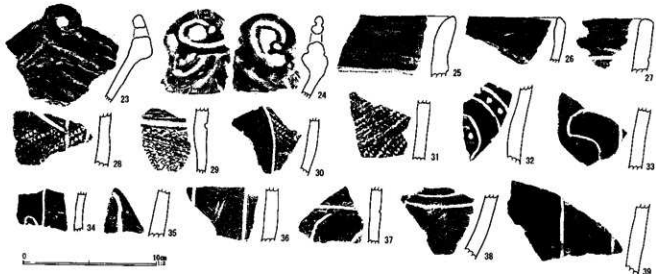
S K39



S K47

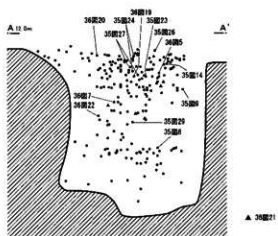
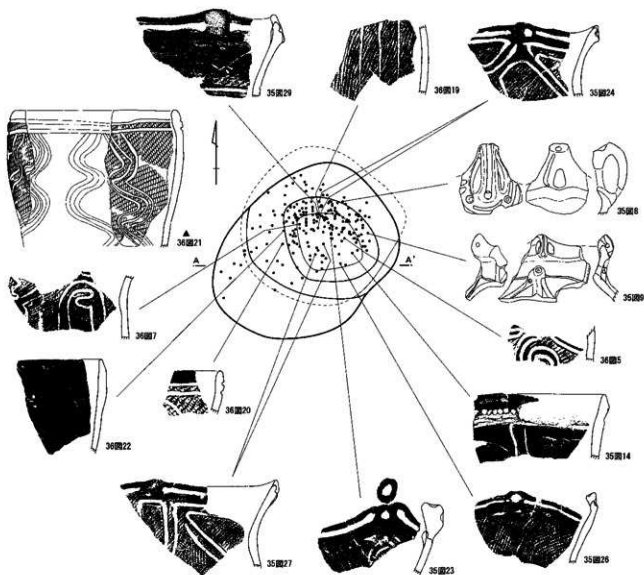


S K49

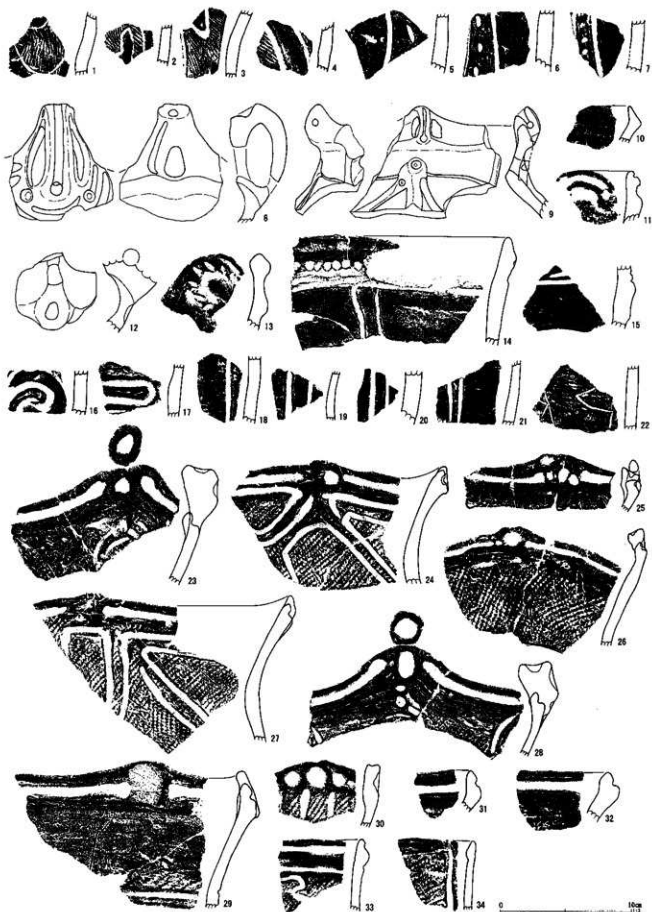


0 10m

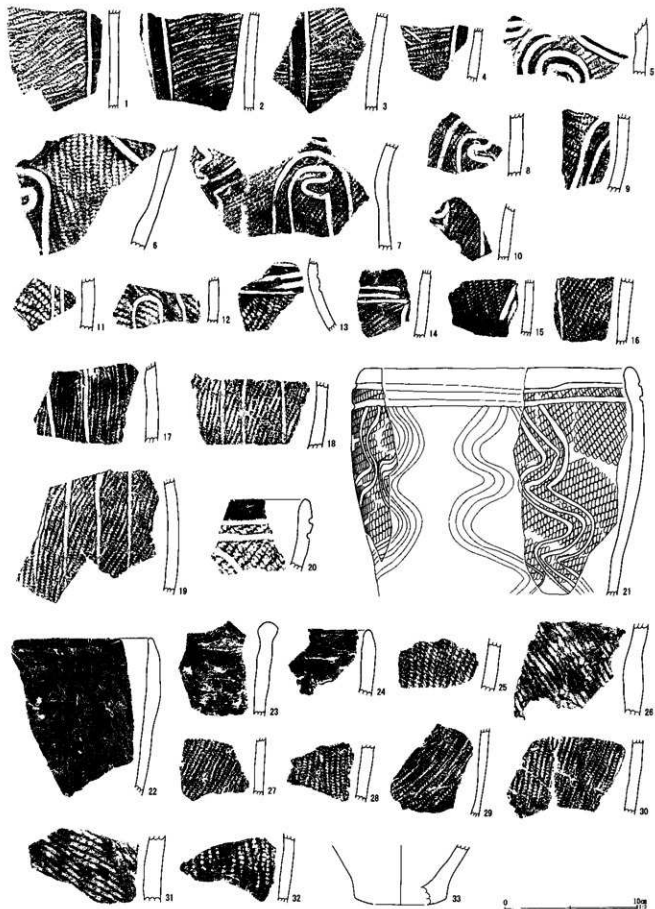
第33图 土坑出土遺物 (1)



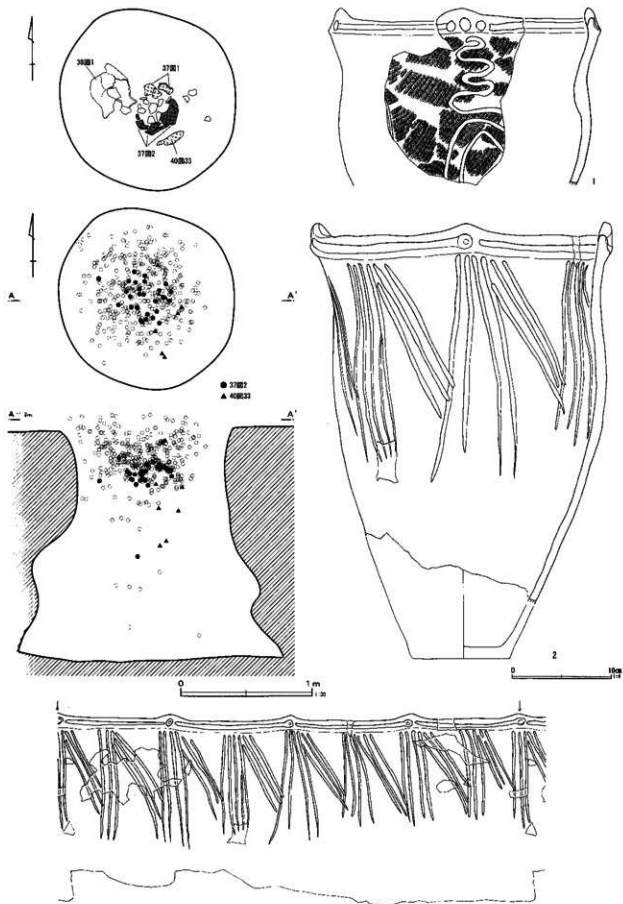
第34图 第44号土坑遺物出土狀況



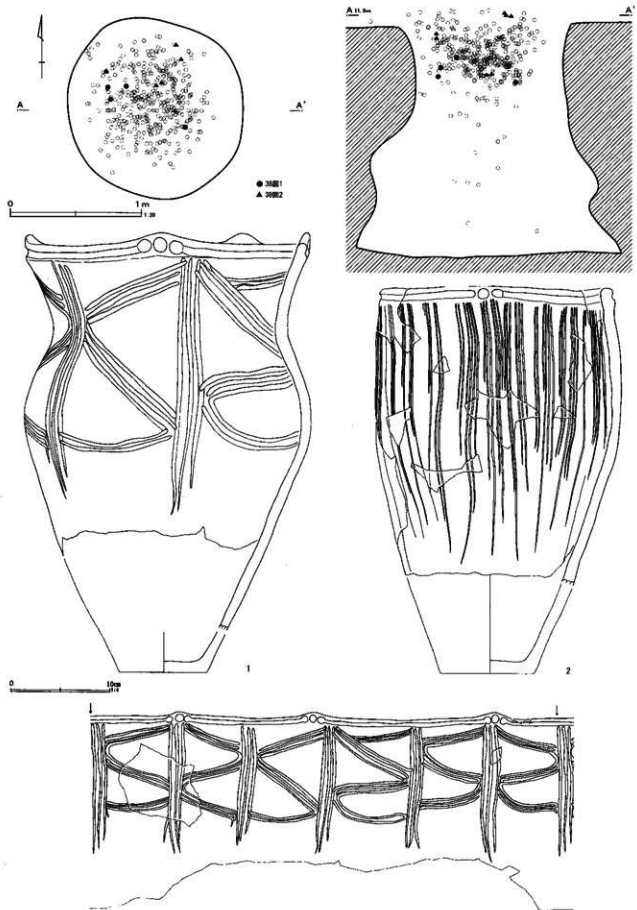
第35图 第44号土坑出土遗物(1)



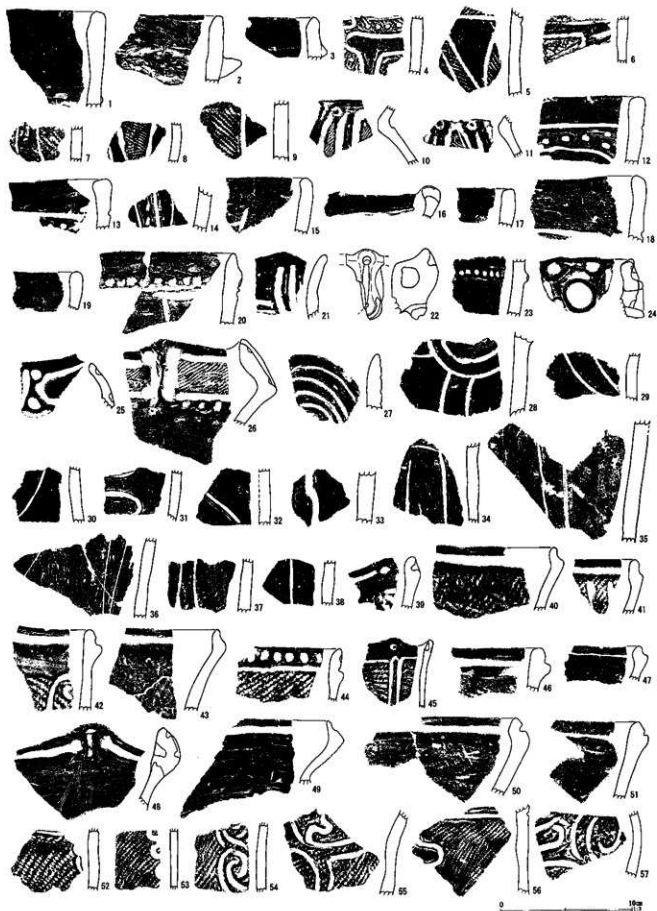
第36图 第44号土坑出土遗物 (2)



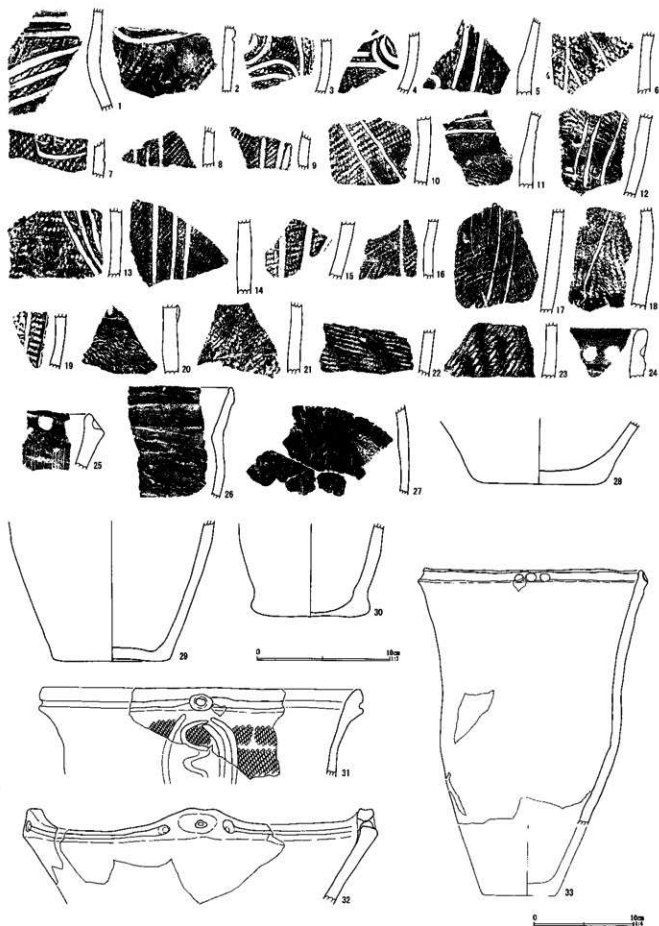
第37图 第45号土坑遺物出土状況・出土遺物(1)



第38图 第45号土坑遺物出土狀況・出土遺物(2)

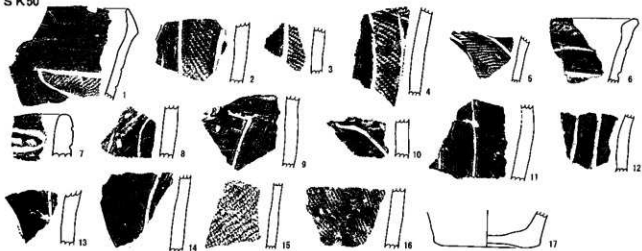


第39图 第45号土坑出土遗物(3)

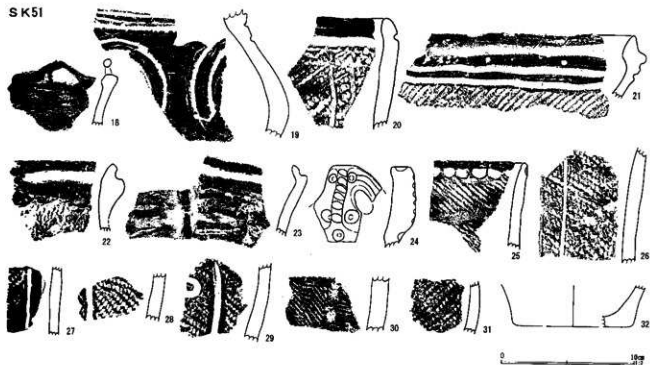


第40图 第45号土坑出土遗物(4)

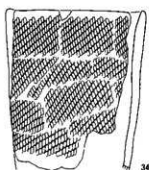
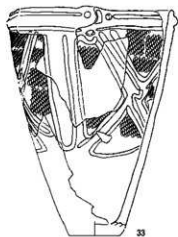
SK50



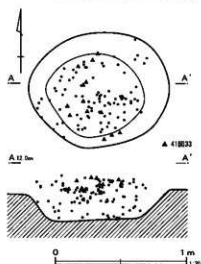
SK51



0 10cm

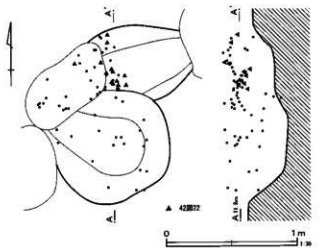
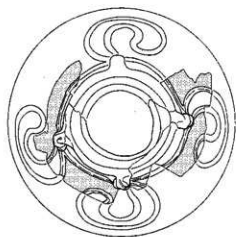
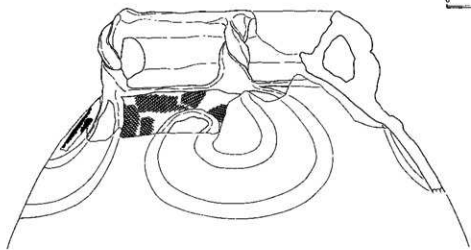
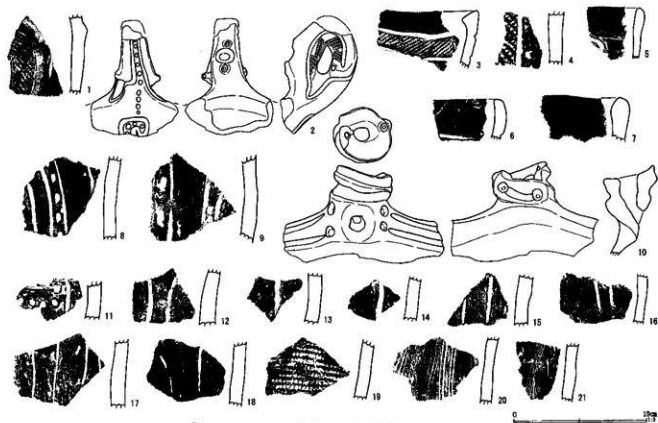


0 10cm

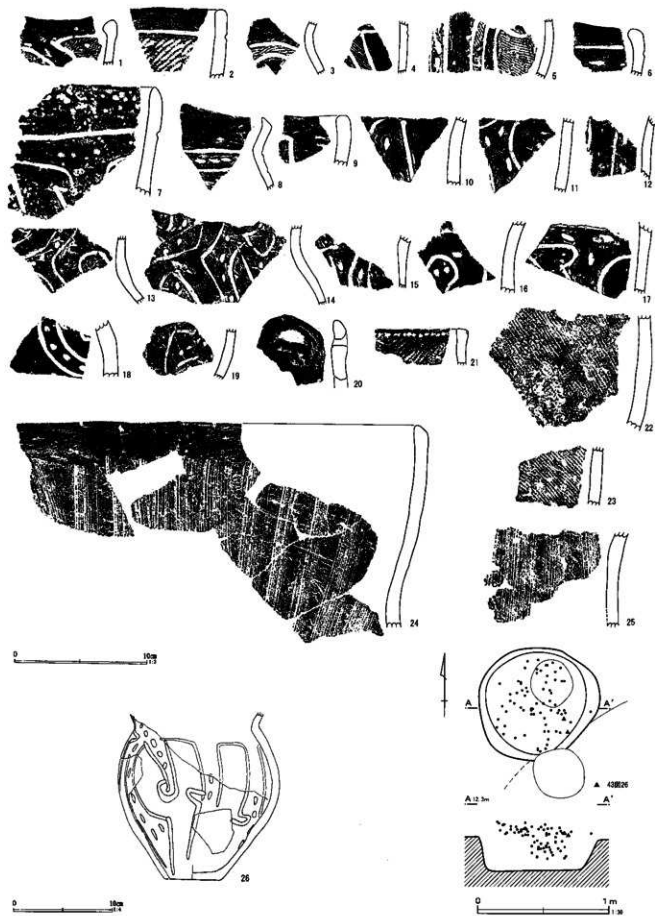


0 1m

第41图 土坑出土遗物 (2) · 第51号土坑遗物出土状况



第42图 第52号土坑遗物出土状况·出土遗物



第43圖 第53号土坑遺物出土狀況・出土遺物

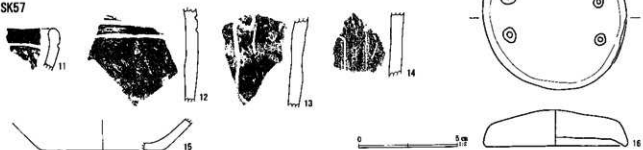
SK55



SK56



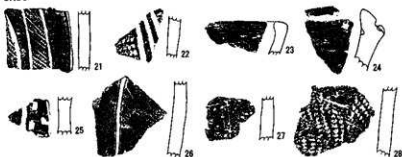
SK57



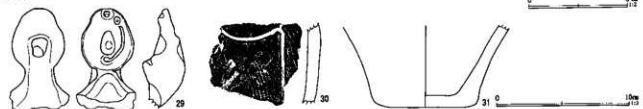
SK58



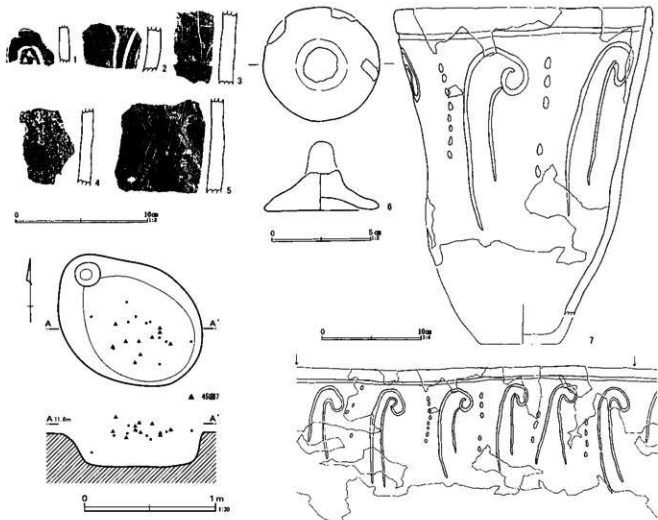
SK59



SK61



第44圖 土坑出土遺物 (3)



第45図 第63号土坑遺物出土状況・出土遺物

平面形は楕円形で、主軸方向はN-85°-Eをとる。規模は長軸1.2m、短軸0.86m、深さ0.18mを測る。

出土遺物は殆どなく、2点を図示した(第46図)。

第67号土坑(第31図)

Z-3グリッドに位置する。第52号土坑を切り、一部調査区外に及ぶ。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は円形と見られ、規模は直径0.78m、深さ0.19mを測る。出土遺物は殆どない(第46図)。

第68号土坑(第31図)

Z-3グリッドに位置する。第67号土坑と接し、一部調査区外に及ぶ。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は円形と見られ、規模は直径0.88m、深さ0.15mを測る。出土遺物は殆どない(第46図)。

第69号土坑(第31図)

A・B-4グリッドに位置する。第48号、第49号、

第50号土坑に壊される。平面形は長方形で、主軸方向をN-26°-Eにとる。規模は長軸が推定で1.66m、短軸0.8m、深さ0.24mを測る。

出土遺物は殆どない(第46図)。

第70号土坑(第31図)

Y-2グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は直径1.64m、深さ1.91mを測る。

出土遺物は少ない(第46図)。

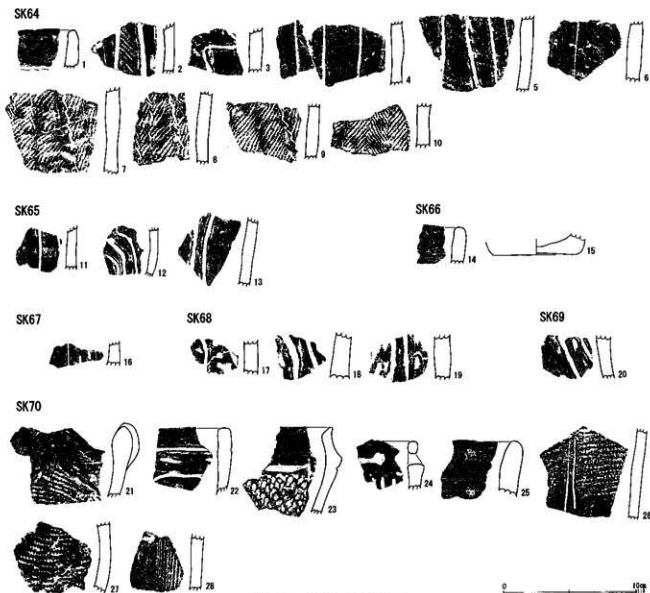
第71号土坑(第31図)

Y-2グリッドに位置する。北側が調査区外に及ぶ。平面形は円形と見られ、中央にピットを伴う。規模は東西を軸に直径1.4m、深さ1.05mを測る。

出土遺物はない。

第74号土坑(第32図)

B-4グリッドに位置する。平面形は円形で規模



第46図 土坑出土遺物(4)

は直径0.94m、深さ0.1mを測る。出土遺物はない。

第75号土坑 (第32図)

B-4グリッドに位置する。西側が調査区外に及ぶ。平面形は円形と見られる。規模は南北方向を軸に直径1.14m、深さ0.41mを測る。出土遺物はない。

第88号土坑 (第32図)

E-3グリッドに位置する。第1号住居跡の炉が

上に構築されている。住居の炉を構築する以前に掘られた土坑である。平面形は不整形で、規模は直径1.22m、深さ0.48mを測る。出土遺物はない。

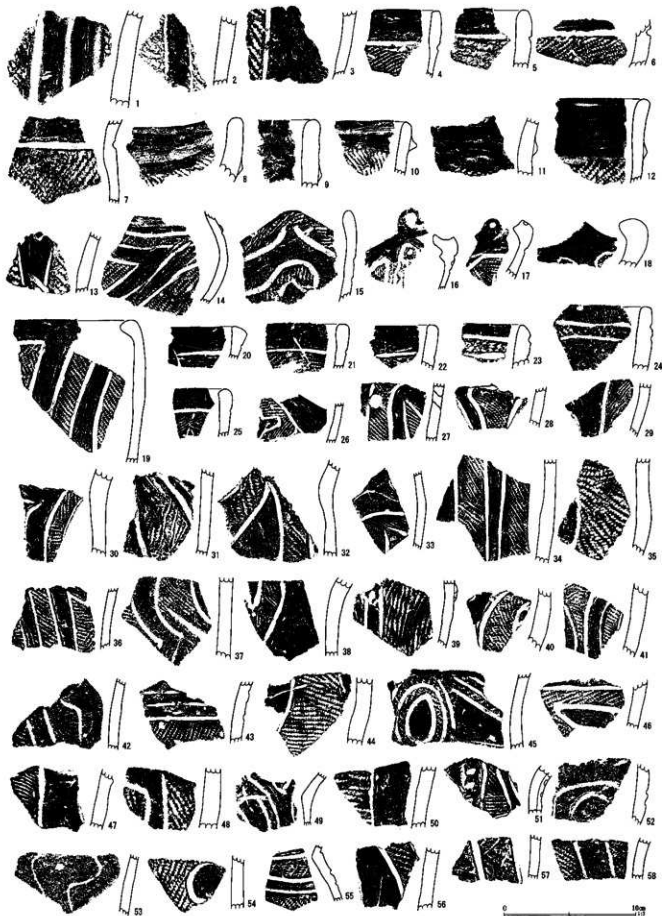
土坑出土遺物 (第33・35~46図)

第33図1~6は第36号土坑出土。1~2は口縁で、3~4と同様に沈線を施すと見られる。

7は第39号土坑出土。晩期の小形壺で、沈線文、

第5表 縄文時代ピット(調査区北側)一覽

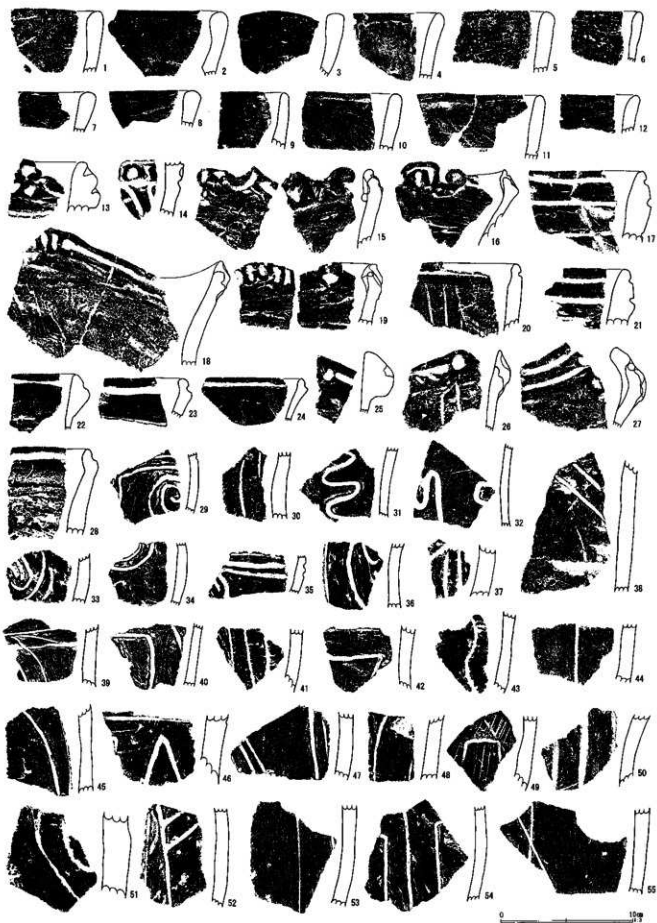
グリッド	番号	径(m)	深さ(m)	グリッド	番号	径(m)	深さ(m)	グリッド	番号	径(m)	深さ(m)
Y-2G	P1	0.34	0.41	Y-3G	P7	0.28	0.16	B-4G	P3	0.34	0.53
Y-2G	P2	0.30	0.13	Z-2G	P1	0.37	0.12	B-4G	P4	0.16	0.11
Y-2G	P3	0.37	0.73	Z-3G	P14	欠番		B-4G	P5	0.24	—
Y-2G	P14	0.35	0.22	Z-3G	P16	長1.17×幅0.60		B-4G	P6	0.25	0.25
Y-3G	P3	0.61	0.11	B-4G	P1	0.56	0.21	B-4G	P7	0.30	0.24
Y-3G	P4	0.35	0.38	B-4G	P2	0.42	0.31	B-4G	P8	0.31	0.22



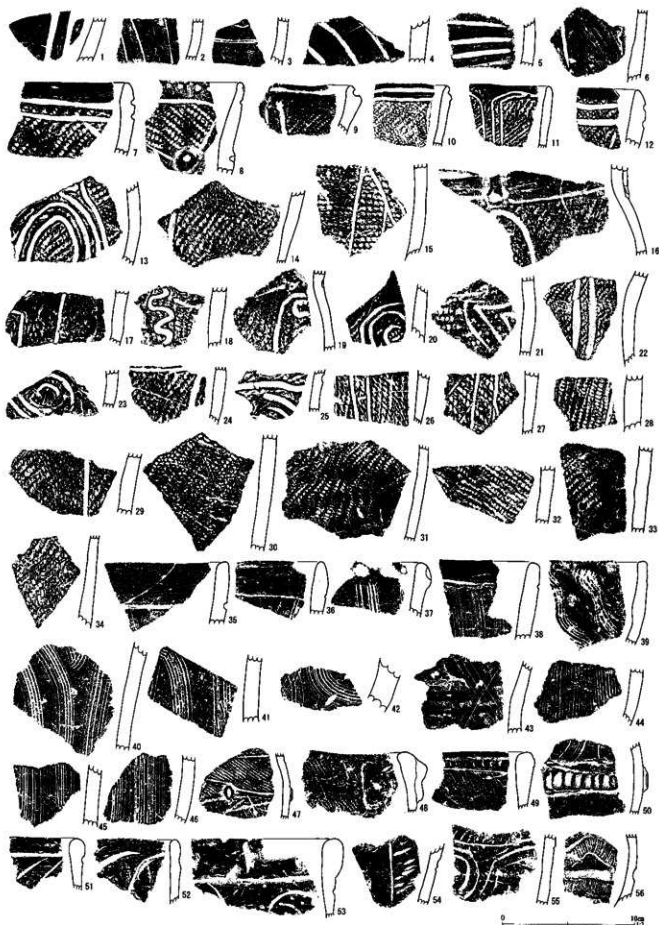
第47图 遺構外出土遺物 (1)



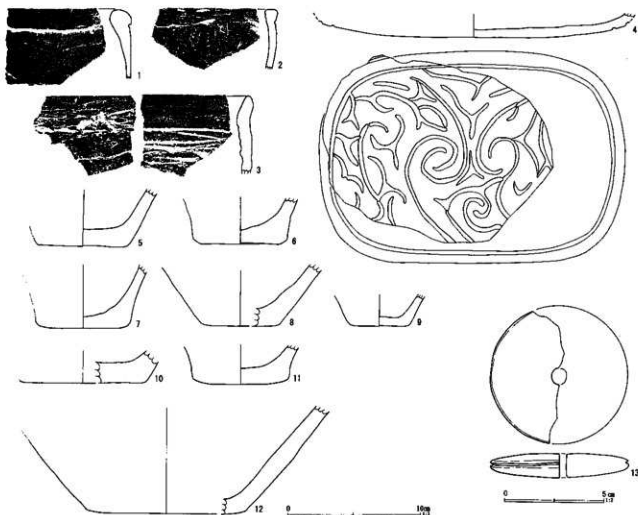
第48图 遺構外出土遺物 (2)



第49図 遺構外出土遺物 (3)



第50图 遼構外出土遺物(4)



第51図 遺構外出土遺物(5)

無節の縄文を施す。

8~11は第42号土坑出土。9は沈線のみで、貼付文を施す。12~22は第47号土坑出土。18は逆U字のモチーフを描くもので、第51号土坑から同一個体が出土している(第41図19)。17・18を除き、縄文地に沈線が認められる。

23~39は第49号土坑出土。23~24は突起部で刺突と沈線を施す。25~27は沈線を施す口縁部。

第35・36図は第44号土坑出土。1~4は沈線区画内に縄文を、5~7は列点を施す。8~14は沈線と刺突を施す口縁部。9は隆帯が垂下し右端に穴を施す。15~22は沈線のみを施す。23~34は縄文地に沈線を施す土器の口縁。口縁部に沈線と刺突を施す。

第36図1~19は胴部破片である。5~8は渦巻や菱形状文を施す。20、21と第33図13・19は同一個体で、口縁部からS字状に沈線が垂下する。

第37~40図は第45号土坑出土。第37図1は口縁部文様帯の下にS字状に連続した沈線が垂下する。2は胴部に3・4本一組で沈線を施す。第38図1は縦の沈線の間にS字状に斜めに沈線を施す。2は胴部に条線を施す。

第39図1~3は口縁に平行して微隆起線を施す。4~14は沈線区画内に縄文や列点を施す。15~21は口縁。20は刺突を施し、23も同類か。22は把手。24は中央に穴を施す。25~26は浅鉢形土器。27~38は沈線のみを施す。39~51及び第40図32は、口縁部区画帯に沈線や刺突を施す口縁。

第39図52~57及び第40図1~19、31は縄文地に沈線を施す。第40図20~23は縄文、24~25は刺突と条線を施す。33は胴部が無文の深鉢で、底部を除き完形に復元される。第44号、第45号土坑は称名寺式~堀之内式。



第52図 遺構外出土遺物 (6)

第6表 出土石器(調査区北側)一覧

図番号	図内番号	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
14	14	SJ1	石鏃	黒曜石	[2.0]	1.4	0.5	0.7
23	50	SJ7	打製石斧	緑泥石片岩	9.5	3.9	2.1	89.0
52	1	SK3	石鏃	チャート	2.0	[1.3]	0.3	0.8
52	2	SK37-38	石鏃	チャート	[2.5]	1.8	0.5	2.0
52	3	F-4	磨製石斧	トレモウ閃石	[4.2]	3.8	1.5	42.2
52	4	SD1	石鏃	砂岩	5.3	3.2	1.7	39.5
52	5	SD1	打製石斧	砂岩	10.3	7.1	2.3	138.5
52	6	SK37-38	打製石斧	ホルンフェルス	10.1	6.4	2.1	121.6
52	7	SD2	磨石	安山岩	6.0	6.5	4.3	260.3
52	8	SK48	磨石	安山岩	[4.7]	8.0	3.0	142.5
52	9	Z-3	磨石	安山岩	[10.5]	8.8	4.9	530.0

第41図 1～17は第50号土坑出土。1～5は沈線区画内に縄文を、6～14は沈線や列点を施す。

18～34は第51号土坑出土。19は第47号土坑出土土器と同じモチーフである(第33図18)。20～22は口縁部区画帯に沈線、下に縄文地を施す。23は胴部に隆帯が垂下する。24は把手。33は小形の深鉢で縄文地に沈線で文様を描く堀之内式。

第42図は第52号土坑出土。1は微隆起線を施す。2、10は把手。3～9、11は沈線区画内に縄文や列点を施す。22は壺形土器の口縁から肩部。胴部は大きなJ字状のモチーフと見られ、モチーフの外に縄文を施す。網取式の影響を受けた土器であろう。他はいずれも小片である。

第43図は第53号土坑出土。1～5は沈線区画内に縄文を、6～19、26は列点を施す。26は括れ部から上を欠く深鉢形土器。24、25は条線を施す。

第44図 1～8は第55号土坑、9～10は第56号土坑出土。1～3は沈線を施す口縁。4・5は把手。6は縄文地に沈線を施し、9も同じである。

11～16は第57号土坑、17～20は第58号土坑出土。11は列点を施す。12～14、17～19は沈線を施す胴部の破片。16は両端に2孔を施す蓋形土製品。

21～28は第59号土坑、29～32は第61号土坑出土。29は耳状把手、32は把手を有する蓋形土製品。他は小片である。

第45図は第63号土坑出土。7は沈線による蕨手状文と列点を施す。6はつまみを持つ蓋形土製品。

第46図は第64号～第70号土坑出土。ほとんどが小片である。1、14、21～25は各種の口縁。

(5) ビット (第5表・第11図)

調査区北側において、何らかの柱穴と考えられるビットが合計17基検出された。ビット番号は近世のビットとあわせ、グリッド毎の通し番号とした。ビットはY～Bグリッドに散在している。

(6) 遺構外出土遺物 (第47～52図)

第47図 1～14は加曾利E式とその系統の土器。8～12、14は胴部との境に微隆起線を施す。

15～58は沈線区画内に縄文を施す。15～26は口縁で波状口縁を含む。51は垂下する隆帯に刺突を施す。称名寺1式。

第48図 1～24は沈線区画内に列点を施す。14は垂下する隆帯を伴う。称名寺2式。25～30は把手で沈線と刺突を施すことで共通する。31・32も把手付近の破片。34～55は口縁部に沈線や刺突を施す一群をまとめた。44は浅鉢形土器の口縁。

第49図 1～12は1以外無文だが、下に沈線文を施す土器の可能性が有る。13～28は口縁部に沈線を巡らし、小波状部に刺突を施す。29～55及び第50図 1～6は沈線のみを施す一群。称名寺2式から堀之内1式にかけての土器である。

第50図 7～29は縄文地に沈線を施す。8は刺突も施す。16、18～20、23などにS字や蕨手状の垂下文が認められる。堀之内1式。30～34は縄文のみ。35～46は条線を施す。後期の粗製土器と見られる。

第50図47～第51図 4は後期後葉以降の土器。47～49は後期安行式。52～56は安行3c式。第51図 1～3は無文。4は底部が隅丸長方形を呈する浅鉢形土器。沈線で三叉文を密に施す。5～12には底部をまとめた。13は後期の土製円盤。側面に沈線を巡らし、中央に孔を施す。

第52図は石器である。1・2は石鏃である。1は無茎で、基部に浅い抉りが入る。2は有茎で基部の先端を欠損する。

3は磨製石斧。横断面形が方形状となる、いわゆる定角式とされるものである。基部を欠損する。4は石錘である。両端を打ち欠いて抉りを入れている。

5・6は打製石斧である。5は表面に自然面を残す。裏面は剥落している。6は分銅形の形状である。裏面に1次剝離面を大きく残す。左側縁を欠損する。

7～9は磨石である。いずれも、周縁部に敲打が加えられており、面が作り出されている。敲石としても使用されていたと考えられる。7・9の表裏面には、敲打痕が認められる。また、9の表裏面には凹部が1箇所ずつ認められる。

3. 縄文時代（調査区南側）

(1) 概要

調査区南側の縄文時代の遺構には住居跡4軒、土坑9基、調査区南東部のピット群がある。いずれも縄文時代後期後葉から晩期の安行式期の遺構である。

隣接する運田市教育委員会による調査においても、後・晩期の住居跡が調査され、土坑、ピット群なども見つっている（埼玉県1999・2001）。

調査区南側はローム面の標高が12.2m前後のほぼ平坦な部分があり、調査区南端付近ではやや南に向かって傾斜し、標高12mを測る。

当調査区の南に位置する久台遺跡第1次調査区（ささらⅡ）遺跡）では谷地形が認められた。台地縁部から低地部にかけて調査が行われており、安行3c式・3d式を多量に含む遺物包含層が発達している（橋本1985）。谷地形に面した北側に安行式期の居住域が広がると考えられ、第1次、第5次南半、第6～8次の各調査区から住居跡が見つっている（第4図）。

今回報告する住居跡のうち第4号住居跡は晩期前葉の安行3a式期、第5号住居跡は晩期中葉の安行3c式期であり、ややまとまった出土遺物がある。第4号住居跡からは動物形土製品が出土している。この2軒以外の遺構は出土土器が少ないか、混在が著しく、安行式のどの段階のものか明瞭なものは少ない。

調査区南半では本来安行式土器を包含する黒褐色土が広がっていたものと考えられる。重機による表土掘削後、安行式期の包含層を調査するため、精査を行いながら、幅1mのトレンチを設置し、土層断面の観察をした。第9図に基本層序を示した。

その結果、予想以上に近・現代の攪乱、近世の溝、古墳時代の方形周溝墓などが、縄文時代の包含層を壊している状況が確認された（第9図I）。平面的に見て、方形周溝墓や攪乱の範囲は少ない（第53図）。ローム面においてもこうした状況なので、より上部の包含層においてはさらに後世の影響が著

しかった。遺構外の遺物は、後世の遺構覆土や攪乱から出土したものが少ない。

包含層である黒褐色土（第9図Ⅱa層）は局地的に残存するのみで広がりをもって残存する部分が多かった。

その中で、H-3・4グリッド、I-3・4グリッドにかかる部分では、縄文時代晩期の遺物が遺されている部分があった。安行3d式のややまとまった出土があった。また、H-7グリッド周辺においてもわずかながら包含層の残存した部分があった。こうした遺物包含層の残存部を包含層①・②として報告する。

本来、縄文後・晩期の黒褐色土（Ⅱa層）があり、その下層にはロームを含む明褐色層（Ⅱb層）、ローム漸移層（Ⅱc層）を経てソフトローム（Ⅲ層）にさかのぼる層位が広がっていたものと考えられる。部分的にローム層の観察も行ったが、立川ロームが標高11～12mにかけて堆積している以外にはめだつた所見はなかった。

遺構外からは多量の遺物が出土した。出土土器は安行式土器がほとんどである。後続する千網式段階のものも含んでいる。安行式以前の土器群は早期・前期・中期のものがわずかに出土した。後期前葉の土器は調査区北側の集落に隣接するにも関わらずごく少数であった。また、後期中葉の土器もごく少数であった。集落の形成は当調査区に限ると、安行1式段階からと考えられる。

土器以外の遺構外の遺物として、土製円盤・土鏃・玉類・手燭形土製品・土版・岩版・耳飾り等の土製品・石製品、土偶、石器がある。

(2) 住居跡

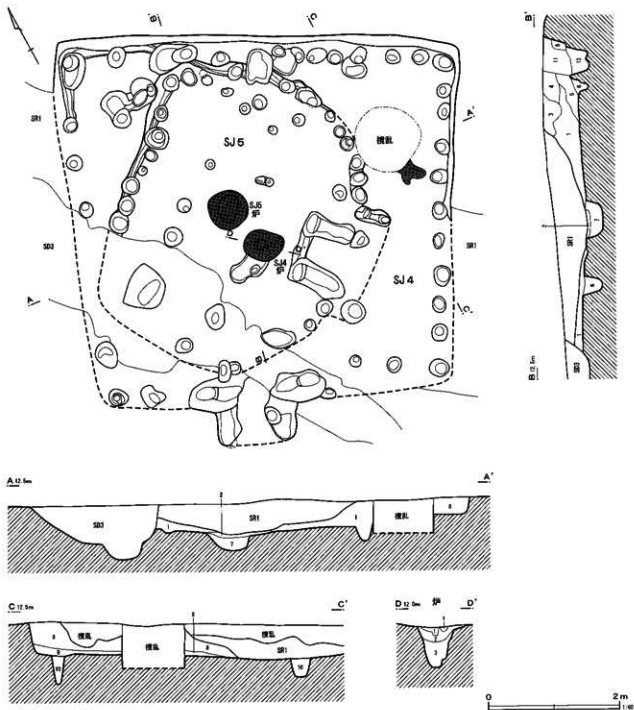
第4号住居跡（第54～56図）

H-5・6グリッドに位置する。平面形は楕円形である。主軸方向はN-24°-Eである。規模は長軸6.14m、短軸5.68m、深さ0.26mを測る。

平面は正方形で南西側に入口部がある。覆土の大



第53図 縄文時代（調査区南側）全体図



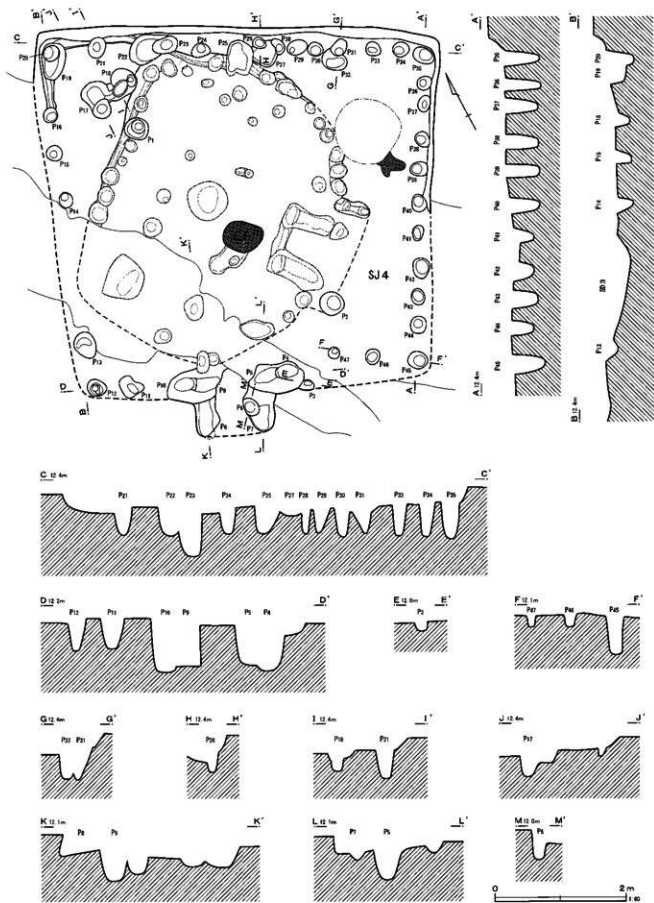
SJ 4・5

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| 1 褐色土 | ローム粒子和珪土粒子を層状に含む、ロームブロック、珪土ブロックを少量含む |
| 2 褐色土 | ロームブロック、珪土ブロックを多く含む |
| 3 赤褐色土 | ローム粒子、珪土粒子を層状に含む、1よりローム粒子はやや少ない |
| 4 暗褐色土 | 1と異なるがやや色調が異なる、ローム粒ははやや少ない |
| 5 暗褐色土 | 1と同色だがやや色調が異なる |
| 6 暗黄褐色土 | ロームを多く含む、珪土粒子は、ほとんど含まない、第5号住居跡の柱穴 |
| 7 赤褐色土 | 珪土粒子を含む |
| 8 褐色土 | ローム、炭土細粒、炭化物粒子を含む |
| 9 黄褐色土 | ロームを多量に含む、炭土粒子、炭化物粒子を含む |
| 10 暗黄褐色土 | ロームを多量に含む、炭土粒子は、ほとんど含まない、第4号住居跡の柱穴 |
| 11 暗褐色土 | ローム、珪土細粒をごく少量含む |
| 12 黄褐色土 | ロームを多く含む、珪土を含まない |

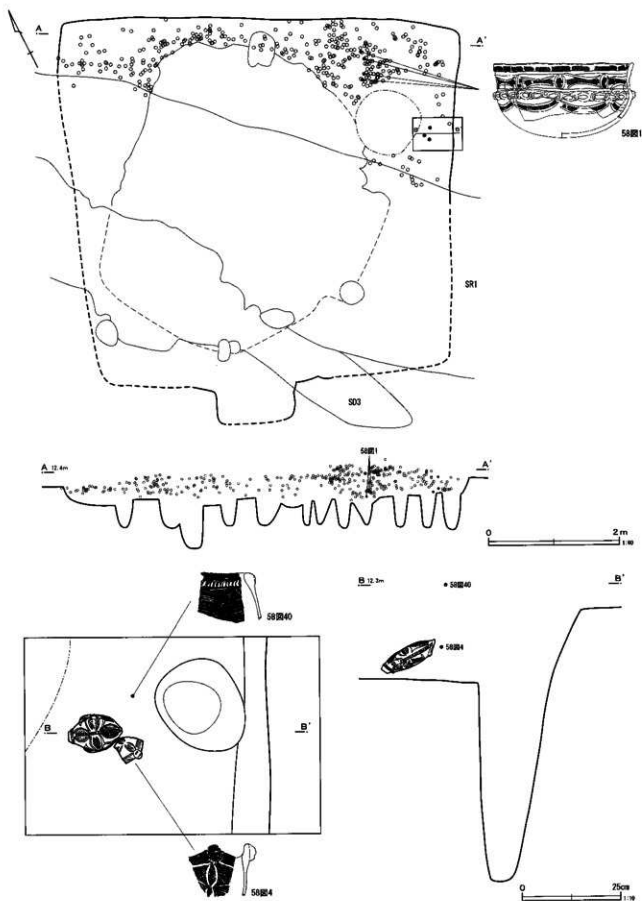
SJ 4 伊勢

- | | |
|--------|---|
| 1 赤褐色土 | 珪土粒子と珪1センチ前後の珪土ブロックを含む、ローム粒子を多く含む |
| 2 暗褐色土 | 珪土粒子と珪1センチ前後の珪土ブロックを含む、ローム粒子と珪2センチ前後のロームブロックを多く含む |

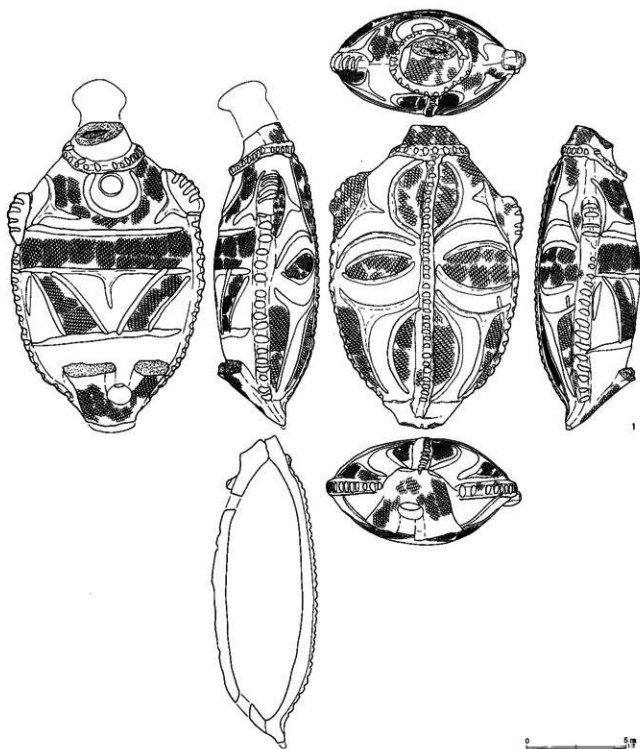
第54図 第4・5号住居跡



第55图 第4号住居跡



第56图 第4号住居跡遺物出土状況



第57図 第4号住居跡出土動物形土製品

半は第5号住居跡、第1号方形周溝墓、近世の第3号溝、攪乱によって壊されていた。

第5号住居跡は第4号住居跡の中央部を壊している。第5号住居跡の床面の深さは第4号住居跡の床面の深さと比較して最大でも0.2m程度であった。第4号住居跡の床面を第5号住居跡が浅く掘りこんで

いる状況であった。したがって、第4号住居跡の炉跡やピットは第5号住居跡によって、完全には壊されていないかった。

第1号方形周溝墓の南西溝は住居跡の北西壁、南東壁、南コーナーを壊している。方形周溝墓の深度は第4号住居跡の深度とほぼ同じであり、床面・柱

穴への影響はなかった。

近世の第3号溝は第4号住居跡の西壁から南壁にかけて延びている。深度が床面より深く、壁柱も壊している。また、南壁は攪乱(第53図)の影響もあって壁は検出されなかったが、南壁に沿った壁柱、入口部の柱は検出された。

第4号住居跡を構成する柱穴、炉穴などは後世の遺構・攪乱等を受けながら深度の関係で残されていた。しかし、第56図の遺物分布図で明らかのように、覆土は北東壁に残っているのみであった。

炉は第5号住居跡による影響を受けているが、残存していた長軸は0.58m、短軸0.44m、深さ0.63mであった。

主柱穴は4本と考えられ、北側(P1)と南側(P2)が残存していた(第55図)。P1は第5号住居跡の壁柱、P2は入口部の柱穴と区別がつかない位置である。重複しているかもしれない。P1は深さ0.61m、P2は深さ0.73mあり、平均的な壁柱より深く、この周辺は攪乱を受けていないことから、主柱と考えておく。

西側の柱穴は第3号溝が深く、残されていないと考えられる。東側は第5号住居跡の壁柱としたP88(第60図)が深さ0.72mと深い、直径は0.21mとやや小さかった。東側の主柱付近は円形の攪乱があるため、残されていないかと考えている。

第4号住居跡の覆土は第54図8~12層である。C-C'付近は床面に堆積した9層中に焼土、炭化物粒子が多く含まれていた。第54図東壁付近、トーンで示した焼土範囲の北東から動物形土製品が出土しており、巻頭図版1に見るような焼土が床面に認められた。

住居跡の北隅周辺で周溝が確認された。深さ0.1m程度であった。

出土土器は安行式各期のものを含むが、床面近くから出土した第57図1の動物形土製品、第58図1の浅鉢形土器、第58図4の深鉢形土器などから安行3a式期と考えられる。

第4号住居跡出土遺物(第57~59図)

第57図1は動物形土製品である。

住居跡の東コーナー近く、南東壁の壁際から出土している。床面からやや浮いた状態で出土している(第56図)。

長さ15.5cm、幅9.5cm、厚さ5.3cm、重さ260g。頭部と脚部は欠損している。体部は三叉文、直線、弧線によって区画され、区画内に単節LRの縄文を施す。

頭部との境には隆帯が走り、その隆帯に直行して背中側に隆帯が延びている。隆帯には点列を加える。腹部側には2箇所にも孔を施す。

沈線内、点列内には赤色塗彩の顔料がわずかに残存している。

中空のつくりである。図版22にはX線写真を示した。第57図の断面図はX線写真を参考に作製した。側面のX線写真から、楕円形の小皿のように腹部と背中をそれぞれつくっておいてから、つなぎ合わせて中空の胴体としたことがうかがえる。

第58、59図は出土土器である。

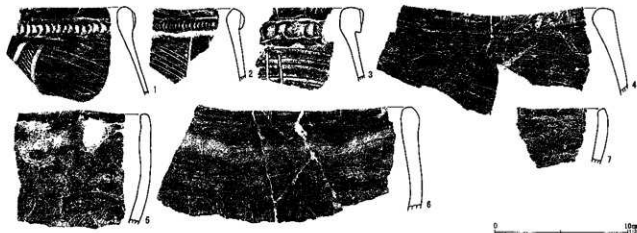
第58図1は浅鉢形土器である。口縁に沿って横線が走り、弧線文を縦横に施して磨消縄文とする。体部との境には隆帯を巡らせる。体部には2条の弧線文を施し、沈線間に縄文を施す。40%程度が残存。安行3a式である。

第58図2、3は大波状口縁深鉢形土器の波頂部の破片である。4は動物形土製品に伴出した土器。波状口縁の土器で、弧線文、単節RLの縄文を施す。5、6は蛇行沈線を施す。単節RLの縄文を施す。7は大波状口縁深鉢形土器の波底部周辺の破片である。沈線による帯状区画を隆起させ、その内外をよく磨いている。胴部はケズリ調整。安行3b式であろうか。2、3は安行3b式、4は安行3a式、5~7は安行3a式と思われる。

第58図8~14は縄文施文の平口縁深鉢形土器。8~13は口縁部が内湾する形態の平口縁深鉢形土器。いずれも帯縄文を施す。8は縦長の貼付文、10は刻みのある縦長の貼付文、11は横S字状の文様を施す。



第58图 第4号住居跡出土遺物 (1)



第59図 第4号住居跡出土遺物(2)

8は安行1式、9～13は安行2式～安行3a式。14は口縁部がやや外傾する。安行3b式であろうか。

第58図15・16は浅鉢形土器である。15は三叉文。16は無文。安行3c式であろう。

第58図17～23は胴部、24、25は底部の破片。17～19は縄文、20は細密沈線、21は列点、22は刻み、23は沈線を施す。いずれも晩期安行式。

第58図26～40、第59図1～3は経線文系土器である。26～38は条線が浅く細いか、明瞭でないもの。34～38は口辺部に弧線文等の文様を施す。第58図39、40、第59図1～3は条線が明瞭。口縁部に隆帯を施す。第58図26～40、第59図1～3は安行2式～晩期安行式にかけての土器である。

第59図4～6は無文の深鉢形土器、7は無文の浅鉢形土器である。晩期安行式。

第5号住居跡(第60図、第61図)

H-5グリッドに位置する。第4号住居跡を壊している。第4号住居跡と同様に覆土の大半は第1号方形周溝墓、近世の第3号溝、攪乱によって壊されていた(第53図、第54図)。

平面形はホームベースの頂角を切り取った隅丸の六角形に近い形態である。入口部と炉跡を結ぶ主軸方向はN-42°-Wをとる。入口部から炉跡を結ぶ軸が4.04m、それに直行する軸で4.34mを測る。

覆土は北東壁の壁際に残存していたほかは、第1

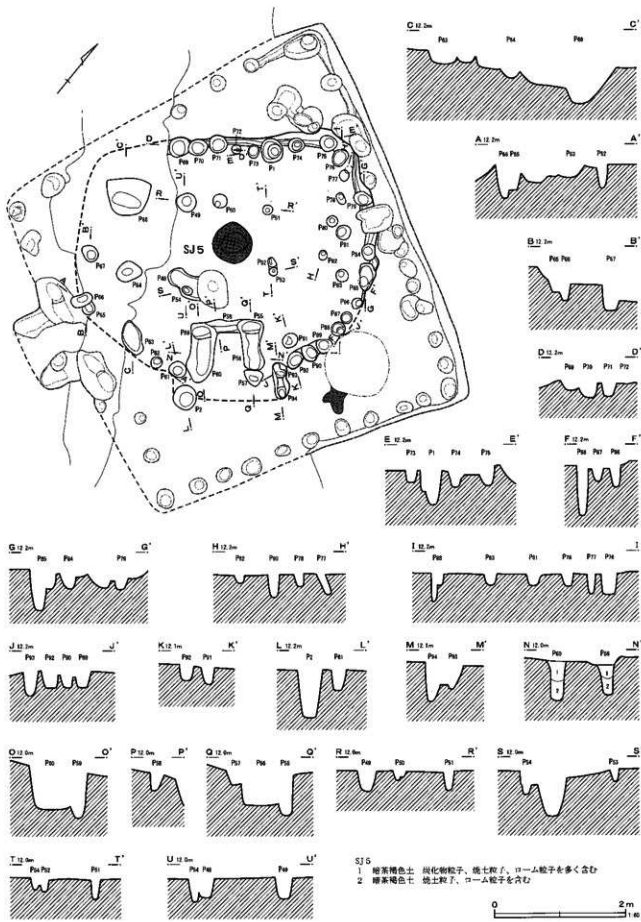
号方形周溝墓の直下にわずかな厚みで残されていた。(第54図A-A')。住居跡の南西壁近辺は第3号溝に壊され、壁柱も失われていた。

炉の規模は長軸0.62m、短軸0.6m、深さ0.26mである。

柱穴の深度は第60図に示した。住居跡の中央付近、P48～P54が主柱を構成すると思われるが、それぞれの床面からの深度はP48が0.28m、P49が0.32m、P50が0.1m、P51が0.29m、P52が0.17m、P53が0.18m、P54が0.35mとばらつきがある。規模(径)もばらつきがあり、配置も明確さに欠く。

P76を北コーナー付近、北東壁をP76からP86の間とみると、北東壁に伴う壁柱はややばらつきながらも2重になっていると思われる。一部周溝を施す。P86からP92にかけては東コーナーから入口部を結ぶラインで壁柱の残りもよかった。入口部から南コーナーを結ぶP61からP66のラインでは壁柱の残りは不良であった。南西壁から西コーナー周辺では第3号溝に壊されて壁柱はほとんど失われていた。北西壁はP69からP76にかけて壁柱が検出され、一部周溝も確認された。周溝の深度は0.1m程度であった。

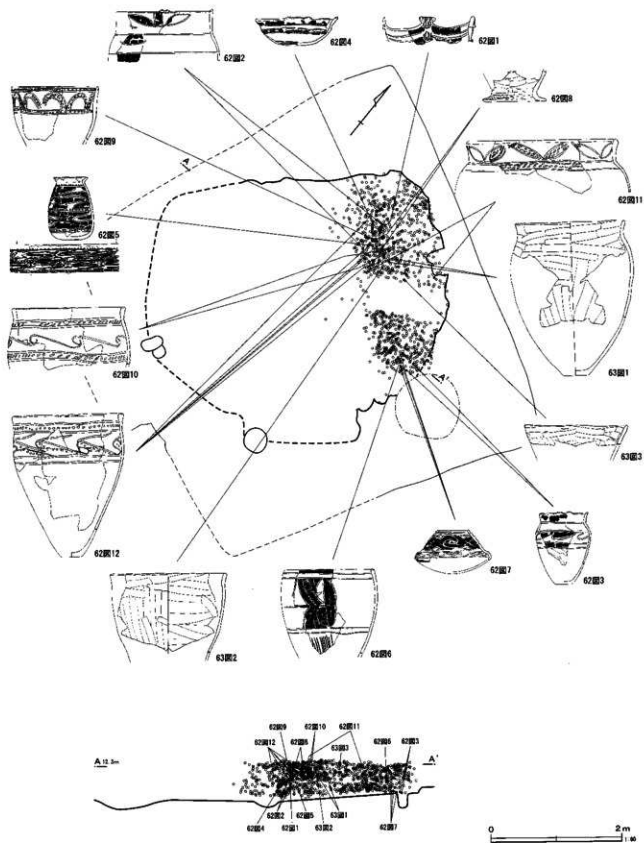
出土土器は安行式の各期のものを含むが、晩期安行式が主体であり、中でも安行3c式が多いことから、住居跡の時期も安行3c式期と考えておく。



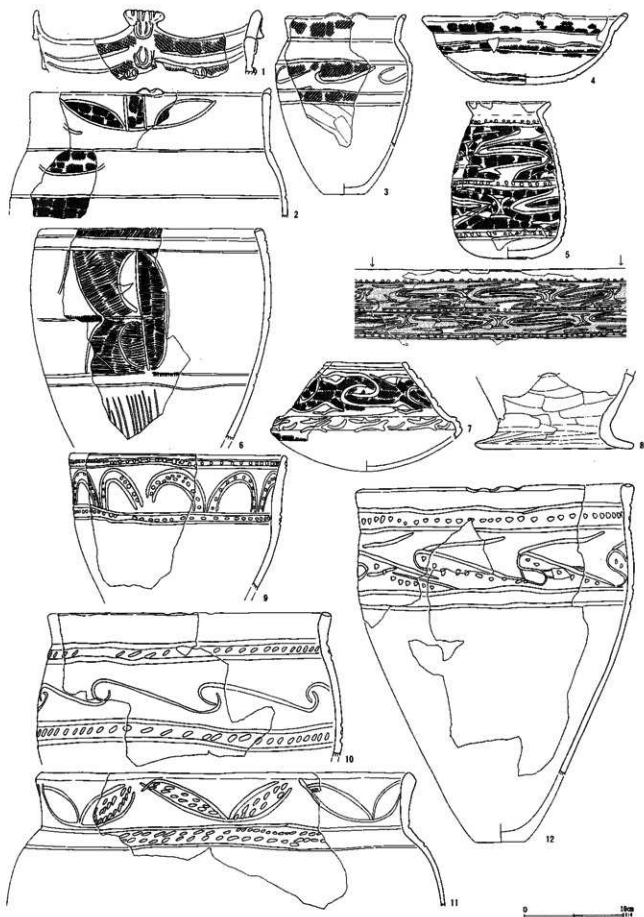
SJ5
 1 暗茶褐色土 炭化物粒子、焼七粒了、 α -ム松子を多く含む
 2 暗茶褐色土 焼土粒了、 α -ム松子を多く含む



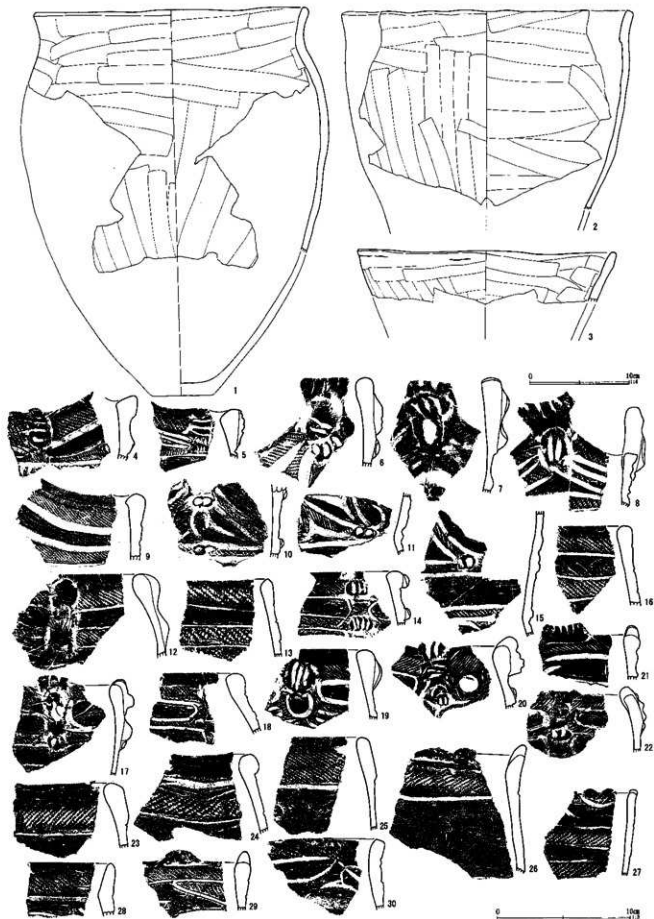
第60図 第5号住居跡



第61图 第5号住居跡遺物出土状況



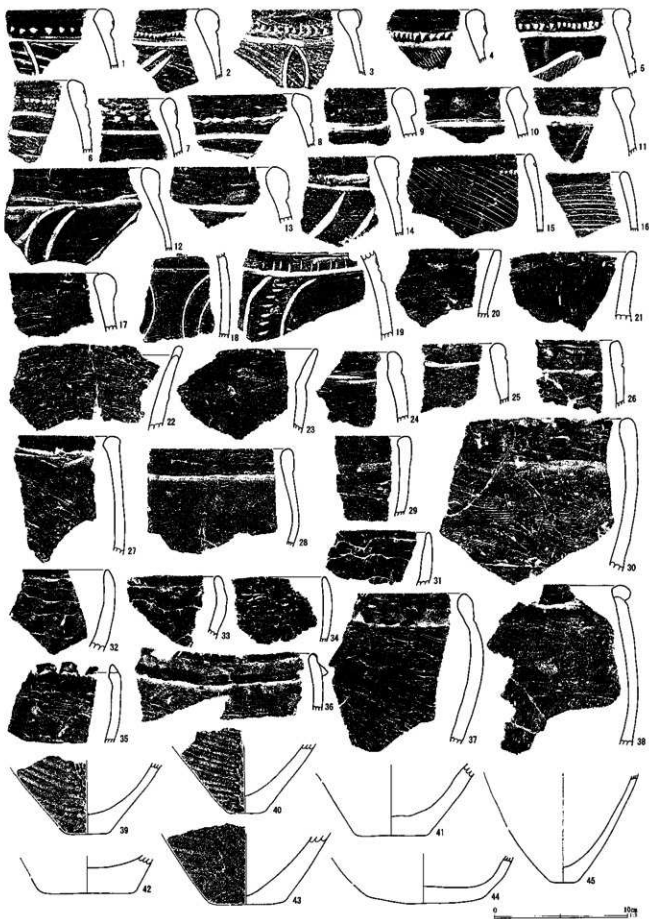
第62图 第5号住居跡出土遺物(1)



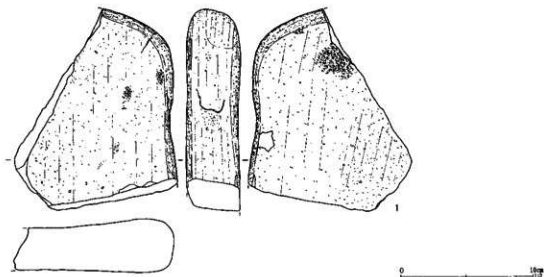
第63图 第5号住居跡出土遺物(2)



第64图 第5号住居跡出土遺物(3)



第65图 第5号住居跡出土遺物(4)



第66図 第5号住居跡出土遺物(5)

第5号住居跡出土遺物(第62~66図)

第62図1は大波状口縁深鉢形土器の波頂部から波底部にかけての破片である。2はほぼ直立するように立ち上がる形態の平口縁深鉢形土器である。3は口縁部が外傾する平口縁の深鉢形土器。胴部に釣針状の沈線を施し、磨消状文とする。4は浅鉢形土器で、並行する沈線間に縄文を施文する。5は壺形土器である。口縁が外傾する。体部は横線と点列で区画し、体部には曲線、三叉文を配し、磨消縄文を施す。6は細密沈線を施す深鉢形土器である。幾何学的文様を配す。口縁部には刻み、胴部下半には条線を施す。7は注口土器である。口辺部には曲線的な文様に磨消縄文を施す。最大径付近には三叉文、弧線文を施す。体部下半は欠損しているが、縄文を施文するようである。8は無文の台付鉢台部である。ケズリ調整を施す。

第62図9~11は列点文を施す平口縁の深鉢形土器である。各種の文様を施す。

第62図1の縄文は単節のRL、3~5、7は単節のLRを施す。第62図1~4、6、7は安行3b式期、5・8~12は安行3c式期と思われる。

第62図4、12が50%、5が80%、1~3、6~11は10%程度の残存である。

第63図1~3は無文の深鉢形土器。ケズリ調整を

内外に施す。1は20%、2、3は10%の残存度。

第63図4~11、15は大波状口縁の深鉢形土器である。4、5は縄文と刻みを施す。三角形区画文内に6は弧線文、10、11は三叉文を施す。7が単節LR、それ以外は単節RLの縄文を施す。9以外はいずれも貼付文を施す。4、5は安行2式、6~15は晩期安行式であろう。

第63図12~14、16~26は口縁部が内湾する平口縁の深鉢形土器である。12は縦長の貼付文を施す。安行1式。12~14、16~19、21、25は単節RLの縄文、20、22~24、26は単節RLの縄文を施す。13、14、16~26は安行2式~晩期安行式である。

第63図27~30は口縁部が直立ないしは外傾して立ち上がる平口縁深鉢形土器である。27は単節LRの縄文、28~30は単節RLの縄文を施す。27、28、30は晩期安行式、29は安行2式と思われる。

第64図1~3は各種の浅鉢形土器。1は単節RLの縄文により帯縄文を施す。安行1式。2は三叉文により磨消縄文を施す。安行3a式。3は釣針状の沈線と磨消縄文を施す。安行3b式。2、3は単節LRの縄文を施す。

第64図4は口縁部が外傾する平口縁深鉢形土器の胴部破片である。単節LRの縄文を施す。安行3b式。

第64図5は口縁部が内湾する平口縁の深鉢形土器である。縦長の貼付文を施す。縄文は施されないが、安行1式か。

第64図6、7は細密沈線文を施す土器である。安行3b式であろう。6は口縁部が内湾する形態、7は外傾する形態の深鉢形土器である。

第64図8、9は沈線文を施した浅鉢形土器である。安行3c式。

第64図10、12は口縁部が外傾する平口縁の深鉢形土器である。沈線を施す。安行3c式。

第64図11は単節LRを施す深鉢形土器の胴部下半の破片である。晩期安行式。

第64図13は外傾する口縁部に列点を施す平口縁の深鉢形土器である。安行3c式。

第64図14は不明瞭な単節LRの縄文を施した平口縁深鉢形土器である。安行3c式と思われる。

第64図15~17は列点文を施す深鉢形土器、18は横線を施す浅鉢形土器、19、20は口縁部が無文の深鉢形土器である。21は複列の列点文を施す。15~21は安行3c式である。

第64図22は入組状三叉文を施す。安行3d式。

第64図23、24、26は安行3c式の胴部破片で列点文を施す。25は弧線文間に列点を施した浅鉢形土器である。安行3c式。

第64図27~第65図14は紐線文系土器の口縁部である。第64図27~第65図6は安行2式から晩期安行式、第65図7~14は安行3b式から安行3c式であろう。

第64図27~35、第65図3は口縁部に隆帯が巡る。第64図31~35、第65図3は口辺部に弧線文、斜沈線を施す。

第64図36~40、第65図1、2、4~14は口縁部に沈線が巡る。1は口辺部に弧線文、2は斜沈線を施す。4、6は単節RL、5は単節LRを施す。7、8は口縁部に点列、10は窪みを施す。9、11~14の口縁部は沈線が巡るのみである。

第64図15、16は横位、斜位に条線を施す深鉢形土器である。

第64図17~38は平口縁の深鉢形土器である。晩期安行式である。第64図17、20~23は無文、18、19は弧線文を施す胴部破片である。24~30は口縁部に沈線、段差が巡る。30は無節Lの縄文を施す。31~33は輪積痕を顕著に残す。34はケズリ調整を施す。35は口唇部に貼付文を施す。36は隆帯が巡る。37、38は最上段の粘土紐を積み上げて痕跡が顕著である。粘土紐を下位の器壁より太くし、口縁部を厚くしている。

第65図39~45は底部である。39、40、43は条線を施す。安行2式~安行3a式であろう。41、42、44、45は無文の底部である。晩期安行式である。

第66図1は磨石である。表裏面と側縁を磨面として使用している。部分的に敲打痕が認められる。

第6号住居跡(第67図)

J-4グリッドに位置する。平面形は正方形である。攪乱に著しく壊されており、覆土・炉跡・壁等は確認されなかった。柱穴のみが見ついている。

主軸方向はN-9°-Eである。規模は長軸5.7m、短軸5.0mである。

P45~P49が主柱を構成すると考えられるが、攪乱で壊された部分が多く明確ではない。

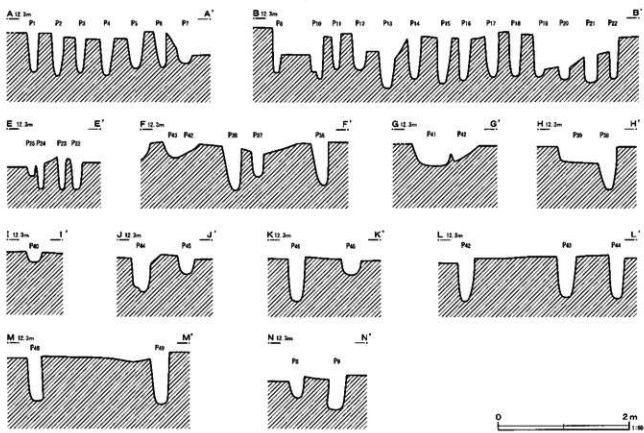
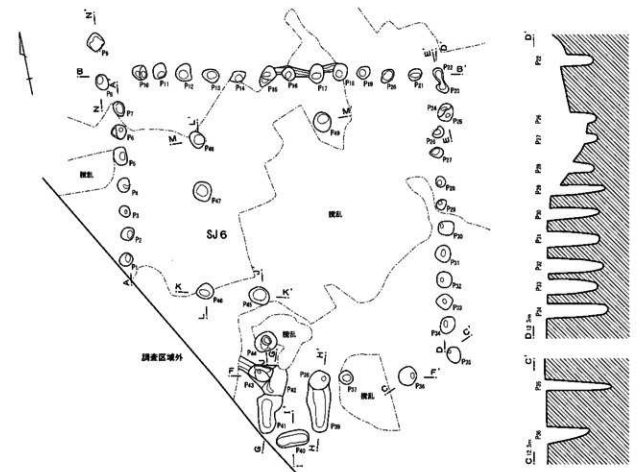
P1~P9が西壁、P9~P23が北壁、P23~P35が東壁に沿った壁柱穴である。北壁の一部に深さ0.1m程度の周溝が見ついている。

入口部の柱穴は細長いP39~P41などで構成されている。

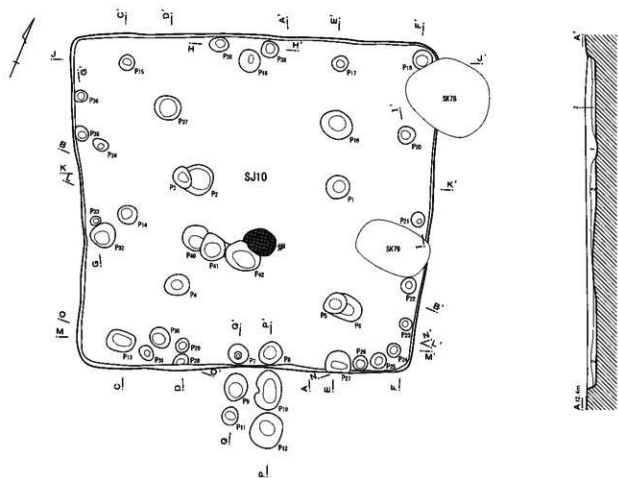
遺物は凶化できるものがなく、時期的には安行式期以上の限定ができない。

第10号住居跡(第68図、第69図)

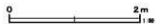
H-I-6・7グリッドに位置する。H-6・7グリッドではわずかではあるが、方形周溝墓・近世の溝・攪乱など後世の影響をまぬがれて、安行式期の遺物包含層が残存していた(包含層②)。この遺物包含層を調査し、掘り下げて精査を繰り返したところ、暗褐色土のプランが確認された。炉跡も確実に確認されたので、遺物包含層よりも古い時期、遺



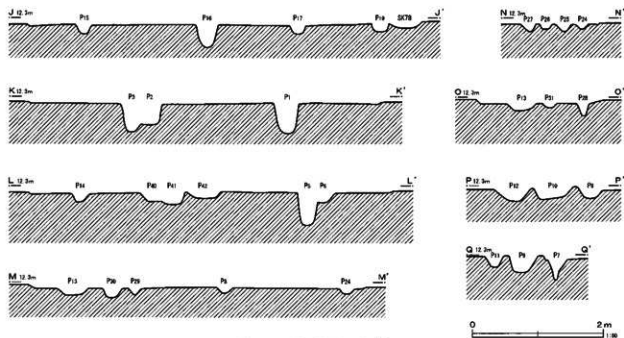
第67圖 第6号住居跡



- SJ10
- 1 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む
 - 2 暗褐色土 ローム粒子をきわめて多く含む
 - 3 暗褐色土 ローム粒子、黄土粒子を多く含む



第68図 第10号住居跡 (1)



第69図 第10号住居跡 (2)



第70図 第10号住居跡出土遺物

物包含層形成以前の住居跡と考えた。

第87図9層が第10号住居跡の覆土に当たり、安行3b式～3c式の土器を主体とする遺物包含層に覆われている。

第78号・第79号土坑と重複するが、新旧関係は明らかにし得なかった。

平面形は正方形である。主軸方向は $N-22^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸5.0m、短軸5.28m、深さ0.08mを測る。

炉は長軸0.4m、短軸0.5m、深さ0.07mである。

P1～P6が主柱を、P7～P12が入口部を構成すると考えられる。壁柱穴はまばらであり、明らかに第4～6号住居跡の様相とは異なる。雅楽谷遺跡1号住居跡（橋本1990）などと類似する点、晩期の遺

物包含層より古い点などから後期安行式期の住居と考えられる。

第10号住居跡出土遺物（第70図）

出土遺物はきわめて少なかった。土器はいずれも後期安行式から晩期にかけての時期である。

第70図1、2は口縁部が内湾する形態の深鉢形土器である。単節RLの縄文を施す。

第70図3、5、6は条線を施した深鉢形土器の胴部破片である。5は点列が巡る。

第70図4は単節LRを施して磨消縄文する深鉢形土器の胴部破片である。

第70図7、8は土製の耳飾りである。環状の形態である。内面に貼付文、沈線を施す。

(3) 土坑

9基が検出された。第41号土坑はまとまった出土遺物があった。第77～80・87号土坑には固化する出土遺物がなかった。

第41号土坑 (第71図)

I-7グリッドに位置する。平面形は円形である。規模は直径1.4m、深さ0.26mを測る。ピット群のP19に壊されている。

第76号土坑 (第71図)

I-7グリッドに位置する。平面形は楕円形である。ピットと重複している。長径は推定で1.5m、短径0.8m、深さ0.1mを測る。

第77号土坑 (第71図)

H-6グリッドに位置する。第1号方形周溝墓に南側を壊されている。規模は径1.1m、深さ0.19mを測る。

第78号土坑 (第71図)

H-7グリッドに位置する。第10号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明。平面形は楕円形。規模は長径1.28m、短径1.06m、深さ0.1mを測る。

第79号土坑 (第71図)

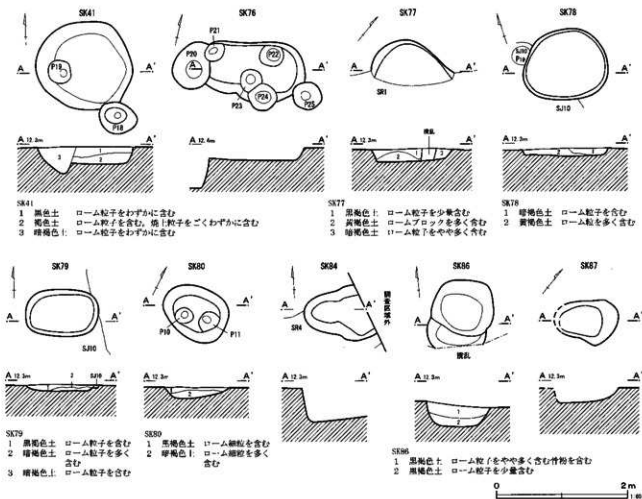
H-7グリッドに位置する。第10号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明。平面形は楕円形。規模は長径1.1m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。

第80号土坑 (第71図)

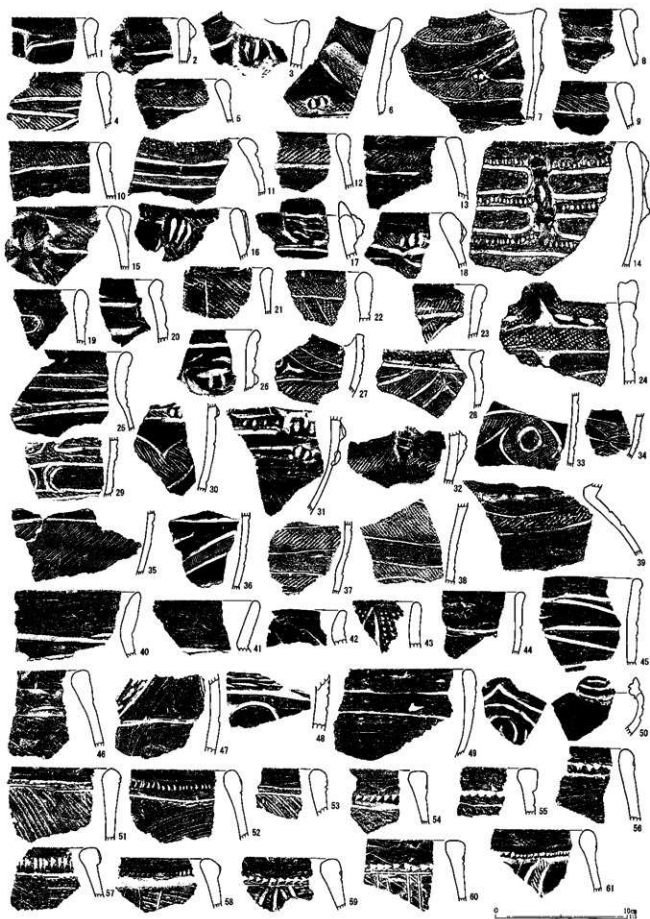
H-7グリッドに位置する。平面形は楕円形である。ピットと重複している。規模は長径1.1m、短径0.75m、深さ0.1mを測る。

第84号土坑 (第71図)

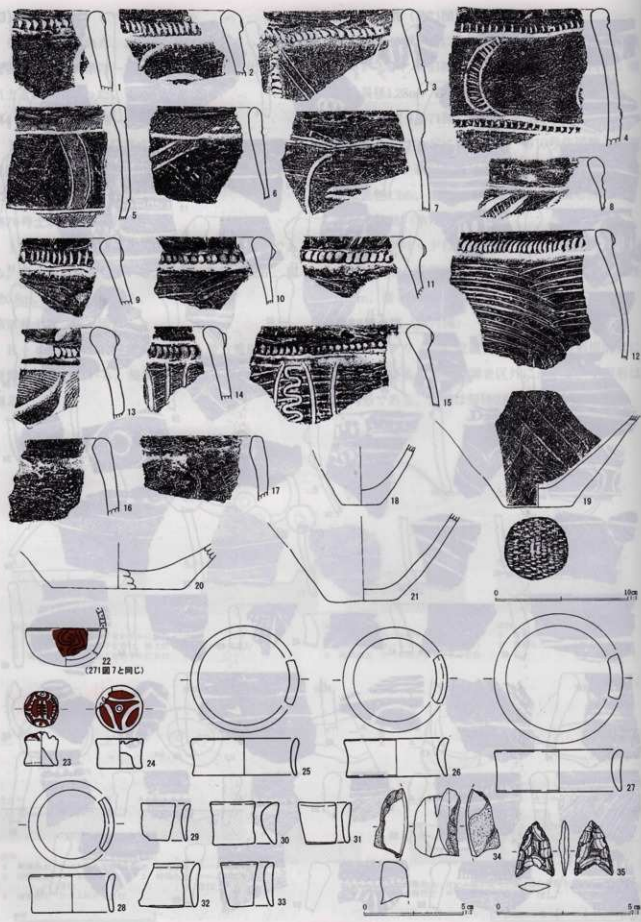
I-7グリッドに位置する。第4号方形周溝墓に壊されている。東側は調査区外にかかる。平面形は楕円形である。規模は短径0.8m、深さ0.4mを測る。



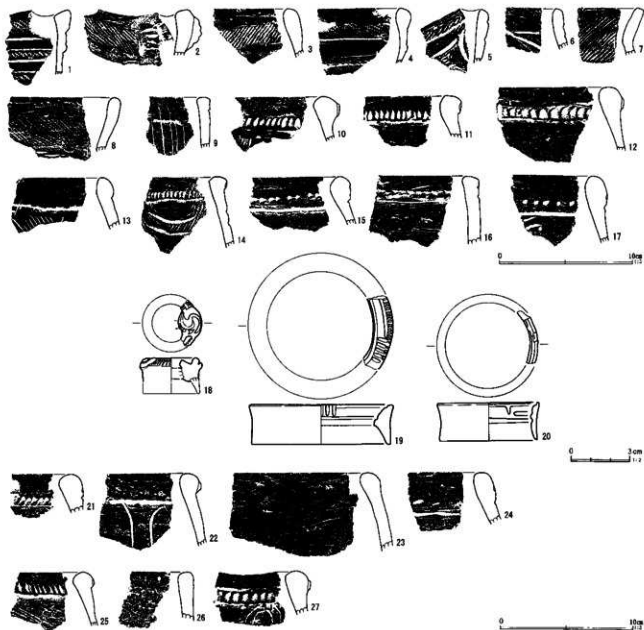
第71図 土坑



第72图 土坑出土遗物 (1)



第73図 土坑出土遺物(2)



第74図 土坑出土遺物 (3)

第86号土坑 (第71図)

I-7グリッドに位置する。平面形は楕円形。規模は長径0.9m、短径0.8m、深さ0.4mを測る。

第87号土坑 (第71図)

H-6グリッドに位置する。第1号方形周溝墓に壊されている。平面形は楕円形である。規模は短径0.75m、深さ0.1mを測る。規模は直径1.1m、深さ0.19mを測る。

第41号土坑出土遺物 (第72図、第73図)

第72図1、2は口縁部が内湾する形態の深鉢形土器。縦長の貼付文を施す。安行1式。第72図3、6、

7は大波状口縁の深鉢形土器。安行3b式であろう。

第72図4、5、8-22は口縁部が内湾する形態の深鉢形土器。第72図22-25は口縁部が直立、ないしは外傾する深鉢形土器。第72図4、5、8-25後期安行式から晩期安行式を含む。

第72図26-28は浅鉢形土器。安行3a式~3b式。第72図29-39は縄文施文の深鉢形土器の胴部破片。後期安行式から晩期安行式を含む。第72図40-50は沈線文や列点を施す。いずれも晩期安行式。40-48は深鉢形土器、49、50は浅鉢形土器。

第72図51-第73図15は縄線文系土器。後期安行式

から晩期安行式を含む。第73図16、17は晩期安行式の無文深鉢形土器。第73図18～21は底部。

第72図22は赤色塗彩されたミニチュア土器。晩期安行式。第73図23～33は土製の耳飾り。22、23は白形で赤彩を施す。24～33は環状。無文である。第73図34は三叉文を施した岩版。第73図35は無茎の石鎌である。側縁は外湾する。基部には逆「V」字状の抉りが入る。

第76号土坑出土遺物 (第74図1～20)

第74図1、2は大波状口縁の深鉢形土器。1は安行1式。2は安行2～3a式。3、4は口縁部が内湾する深鉢形土器。5は施山系の波状口縁深鉢形土器。6は沈線文を施す。7、8は口縁部が外傾する深鉢形土器。3～8は晩期安行式。10～17は紐線文系土器。後期安行式から晩期安行式を含む。18～20は土製の耳飾り。18はブリッジ状、19、20は環状の形態。刻み、沈線文を施す。

第84号土坑出土遺物 (第74図21～24)

第74図21、22は紐線文系、23は無文、24は列点を施す深鉢形土器。いずれも晩期安行式。

第86号土坑出土遺物 (第74図25～27)

第74図25、27は紐線文系、26は無文の深鉢形土器。いずれも晩期安行式。

(4) ビット群

調査区の南東隅、1-7グリッドを中心にビットが集中する部分があった。調査区の南端は南に向かって緩やかに傾斜している。第75図に平面図、第76図に深度を示した。建物跡等の配置などは見いだせなかった。方形周溝墓や攪乱に壊されていた。

第14号ビット出土土器 (第77図1～4)

1は口縁部が外傾する無文の深鉢形土器。2は沈線間に縄文、3、4は列点を施文する。いずれも晩期安行式である。

第20号ビット出土土器 (第77図5～12)

5は口縁部が内湾する深鉢形土器で、縄文・沈線文を施文する。6は大波状口縁の深鉢形土器。7は条線を施した紐線文系土器。貼付文を施す。8は列点

文を施した深鉢形土器の胴部破片。9～11は紐線文系土器である。いずれも晩期安行式であろう。

第29号ビット出土土器 (第77図13～15)

13は直立して立ち上がる深鉢形土器。縄文と横線を施文する。14は隆帯系、15は紐線文系土器。13、14は後期、15は晩期安行式と思われる。

第32号ビット出土遺物 (第77図16、第78図44)

第77図16は口縁部に刻みを施す。晩期安行式。第78図44は有茎の石鎌である。自然面を残す。

第33号ビット出土土器 (第77図17～19)

17～19は沈線文を施す深鉢形土器。安行3c式。

第35号ビット出土土器 (第77図20、21)

20・21は細密沈線文を施す深鉢形土器。安行3b～3c式。

第38号ビット出土遺物 (第77図22～24、第78図42、43)

第77図22・23は紐線文系土器、24は無文の粗製土器である。22は安行1式、23、24は晩期安行式。第78図42は環状、無文の土製の耳飾りである。43は条線文の土器片を用いた土製円盤である。

第39号ビット出土土器 (第77図25～27)

25は隆帯を施した紐線文系土器。安行2式か。26は列点文を施す大波状口縁深鉢形土器。27は横線・点列を施した浅鉢形土器。安行3c式。

第42号ビット出土土器 (第77図28～30)

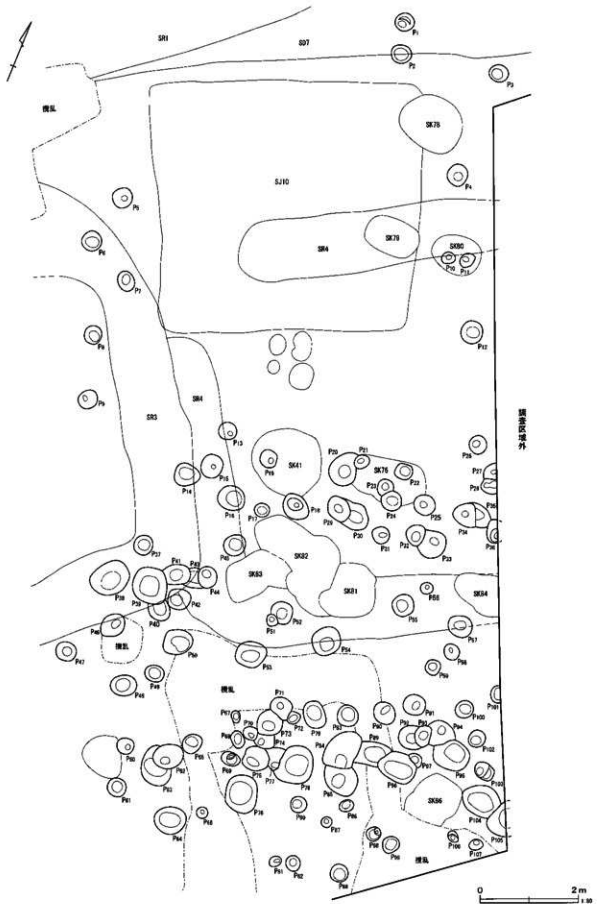
28は紐線文系土器。安行2～3a式。29は列点文を施す。安行3c式。30は帯縄文、豚鼻状貼付文を施した胴部の破片。安行3a式か。

第44号ビット出土土器 (第77図31、32)

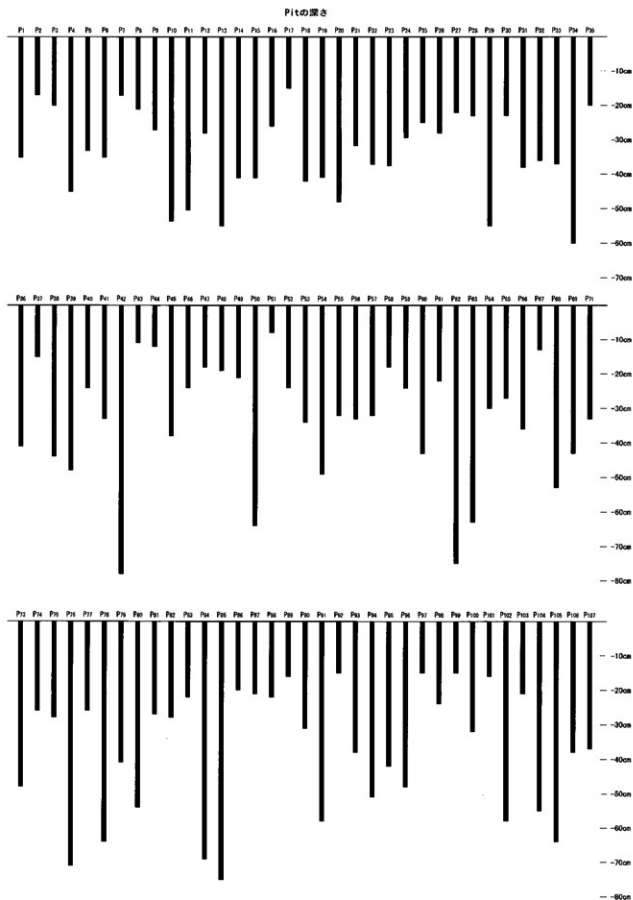
31は隆帯を施す紐線文系土器。安行2式か。32は細密沈線文を施す深鉢形土器の胴部破片。安行3b式。

第45号ビット出土遺物 (第77図33～35、第78図41)

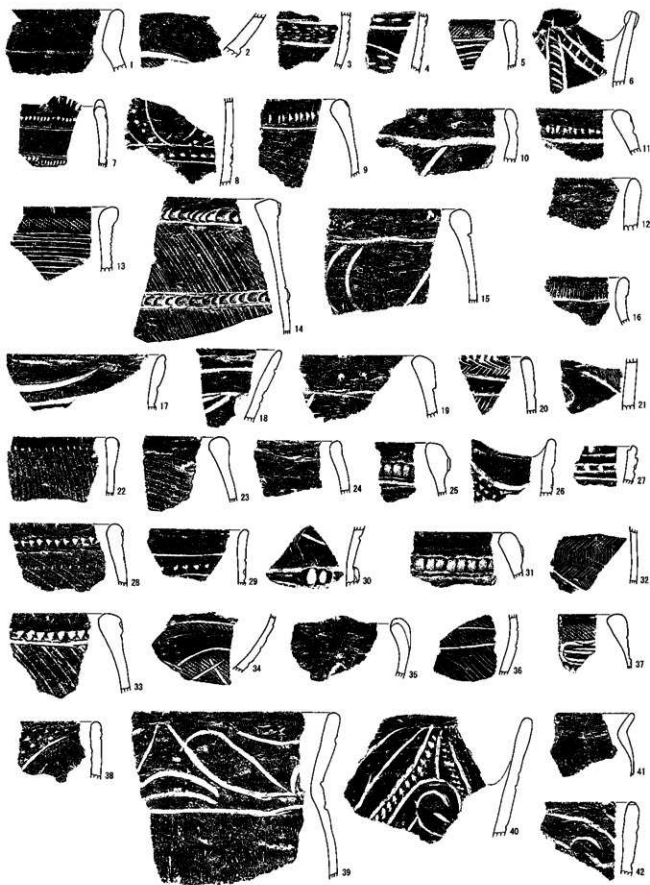
第77図33は紐線文系土器。安行2～3a式。34は浅鉢形土器の体部か。35は貼付文を施した深鉢形土器。34、35は晩期安行式。第78図41は沈線文を施した環状の土製耳飾りである。



第75図 ビット群

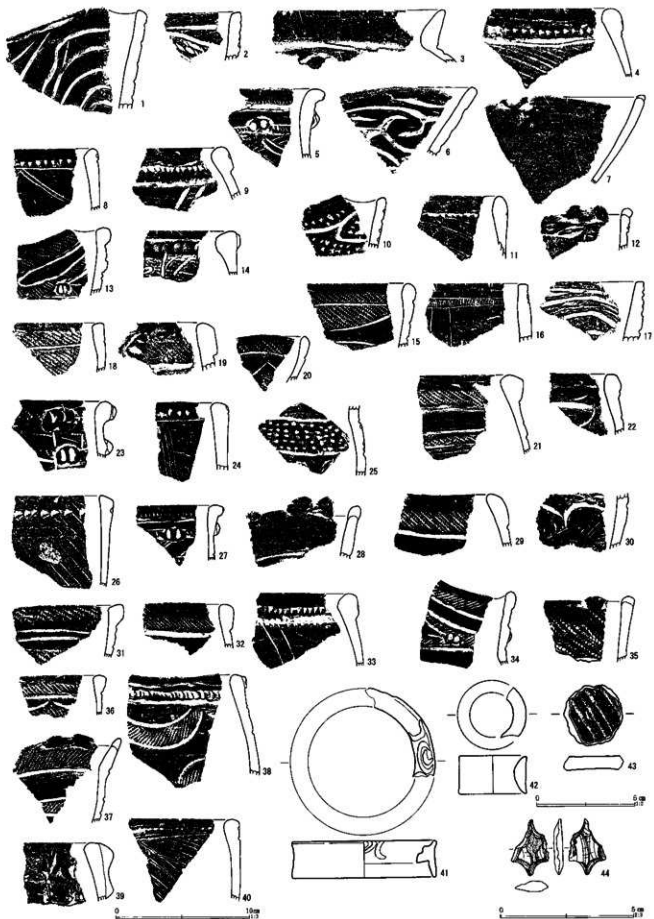


第76図 ビット群ビット深度



0 10mm

第77図 ビット群出土遺物 (1)



第78図 ビット群出土遺物 (2)

第46号ビット出土土器 (第77図36)

単節RLの縄文を施した深鉢形土器の胴部破片である。条線文を施す。安行2～3a式。

第47号ビット出土土器 (第77図37)

口縁部が内湾する形態の深鉢形土器である。単節RLの縄文を施す。安行2～3a式。

第49号ビット出土土器 (第77図38)

列点文を施す深鉢形土器である。安行3c式。

第50号ビット出土土器 (第77図39～42)

39、42は沈線文、40は列点文を施す深鉢形土器である。41は無文の深鉢形土器。いずれも安行3c式。

第53号ビット出土土器 (第78図1、2)

1は波状口縁の深鉢形土器である。安行3d式。2は列点文を施す深鉢形土器。安行3c式。

第54号ビット出土土器 (第78図3～7)

3は沈線を施す深鉢形土器。安行3c式。4は紐線文系土器。安行2～3a式。5は台付鉢。安行2～3a式。6は入組状三叉文を施す。安行3d式。7は無文の浅鉢形土器。晩期安行式。

第56号ビット出土土器 (第78図8)

紐線文系土器である。晩期安行式。

第60号ビット出土土器 (第78図9)

紐線文系土器である。晩期安行式。

第62号ビット出土土器 (第78図10～12)

10は列点文を施す。安行3c式。11は紐線文系土器、12は粗製土器である。11、12は晩期安行式。

第64号ビット出土土器 (第78図13、14)

13は大波状口縁の深鉢形土器である。晩期安行式。14は隆帯系の紐線文系土器。安行2式。

第73号ビット出土土器 (第78図15～17)

15は平口縁の深鉢形土器である。安行2～3a式。16は紐線文系土器。17は列点文を施す。16、17は晩期安行式。

第75・78号ビット出土土器 (第78図18、19)

18、19は口縁が内湾する深鉢形土器である。単節RLの縄文を施す。安行2～3a式。

第76号ビット出土土器 (第78図20)

単節RLの縄文を施した浅鉢形土器。安行2～3a式。

第79号ビット出土土器 (第78図21、22)

口縁部が内湾する深鉢形土器。21は単節RLの縄文を施す。安行2式。22は沈線を施す。晩期安行式。

第80号ビット出土土器 (第78図23)

台付鉢形土器の口縁部であろう。安行2式。

第84号ビット出土土器 (第78図24、25)

24は安行1式の紐線文系土器。25は列点文を施した深鉢形土器の胴部。安行3c～3d式。

第85号ビット出土土器 (第78図26～28)

26は安行1式の紐線文系土器。27は台付鉢形土器の口縁部であろう。安行2～3a式。28は口縁部が外傾する形態の深鉢形土器。単節LRの縄文と貼付文を施す。安行3b式。

第90号ビット出土土器 (第78図29)

口縁部が内湾する深鉢形土器。安行2～3a式。

第94号ビット出土土器 (第78図30)

深鉢形土器の胴部破片。安行3c～3d式。

第95号ビット出土土器 (第78図31～33)

31は平口縁の深鉢形土器。安行1式。32は口縁部が内湾する深鉢形土器。安行2～3a式。33は紐線文系土器。

第96号ビット出土土器 (第78図34～38)

34は大波状口縁の深鉢形土器である。晩期安行式。35は口縁部が外傾する形態の深鉢形土器。単節LRの縄文と貼付文を施す。安行3b式。36は平口縁の深鉢形土器。安行2～3a式。37は台付鉢か浅鉢形土器である。単節LRの縄文と貼付文を施す。安行3b式。38は隆帯を施した紐線文系土器である。単節LRを施す。晩期安行式。

第102号ビット出土土器 (第78図39)

口縁部が内湾する形態の深鉢形土器。縦長の貼付文を施す。安行1式。

第105号ビット出土土器 (第78図40)

紐線文系土器である。安行1式。

(5) 遺物包含層

包含層①(第79図、第80図)

調査区の西端に位置する。北西のH-3、北東のH-4、南西のI-3、南東のI-4グリッドにまたがる遺物集中である。遺物集中とは言っても、遺物包含層は安行式期の集落域に広がっていたと考えられ、この部分のみ後世の影響から免れたということである。

東側は第2号方形周溝墓の西隅に壊されている。北側及び南側は表土層がロームまで及び、遺物包含層である黒褐色土は残されていなかった。遺物包含層は黒褐色土(第79図1層)とその下層の暗褐色土(2層)中に含まれていた。2層の暗褐色土は黒褐色土とローム漸移層である暗褐色土(3層)との中間的な性格の層位で、ローム粒子を黒褐色土より多く含む。土層断面図にはポイント間の幅1mの遺物を投影した。

包含層①出土遺物(第81~85図)

遺物は土器・土版・耳飾り、土偶、磨石が出土している。晩期の安行3d式がややまとまっている。

第81図1~4は列点文を施す深鉢形土器である。安行3c式~3d式である。

第81図5~9は安行3d式。5、6、9は三角形の区画内に対向する三叉文を施す。5は浅鉢形土器、6・9は壺形土器である。7も壺形土器である。頸部に点列のある隆帯を巡らせる。第81図10は口縁部に隆帯が巡る粗製土器である。ケズリ調整を施す。晩期安行式。11は橋状の把手を施す。9と同様な土器で壺形土器と思われる。12、13は把手部の破片である。隆帯や横線を施す。大洞C2式。

第81図1、7~9は10%、5は30%、6は20%程度、他は5%程度の残存度であった。

第82図1~3は中期の加曾利E式。4は後期初頭の称名寺I式である。5~22は縄文施文の安行式である。5は胴部の破片で安行1式。6、7は大波状口縁の深鉢形土器。6は晩期安行式。7は安行2式。8~16は口縁部が内湾する形態の深鉢形土器であ

る。安行2式から安行3a式。17は玉抱三叉文を施した鉢形土器である。安行3a式。18、19は姥山系の波状口縁深鉢形土器、20は平口縁の深鉢形土器。安行3b式と思われる。21、22は晩期安行式。

第82図23~26は大波状口縁の深鉢形土器である。23~25は安行3c式、26は安行3d式。27~45、47、48は各種の平口縁深鉢形土器である。46、49、50は胴部の破片である。27~50は安行3c式で一部安行3d式を含むと思われる。

第83図1~35は安行3d式の深鉢形土器である。1~4は波状口縁の土器である。5~18は平口縁の土器と深鉢形土器の胴部破片である。19~22は列点文を一部に施す土器である。23~27は矢羽根状沈線を施す。28~30は沈線間に細沈線を施す。

第83図31~35は胴部の破片で、沈線間に列点を施す。安行3c~3d式。

第83図36~41は大洞系の土器である。36は羽状縄文、37は結節縄文を施す。38は点列のある隆帯を施した壺形土器である。39~41は捺糸文を施す。

第84図1~27は紐線文系土器である。1~3は後期安行式、4~22は晩期安行式と思われる。23~25は沈線・段差を、26、27は隆帯を巡らせる。晩期安行式。第84図28~47は無文の深鉢形土器である。48~51は底部。晩期安行式。

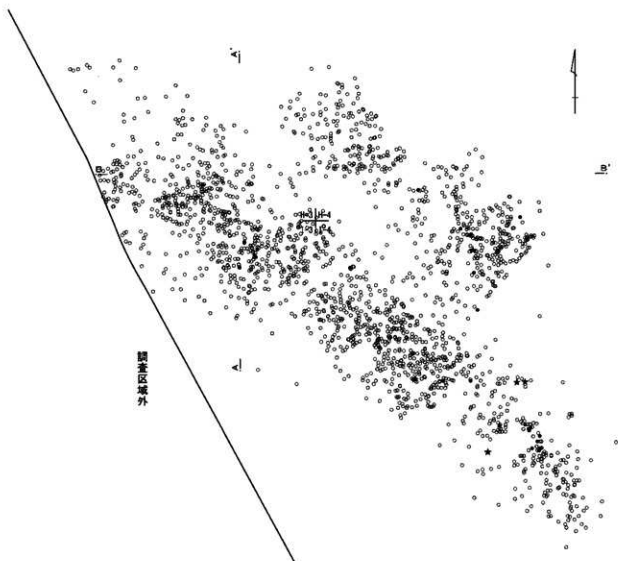
第85図1、2は土版である。1は三叉文、弧線文により、磨消縄文を施す。安行3a式期であろう。2はやや摩滅しており、文様が不明瞭である。沈線文、列点文を施す。安行3c~3d式期である。

第85図3~6は土製の耳飾りである。3は環状の形態で、沈線文を施す。4はブリッジ形、5、6は臼形である。

第85図7、8、第86図1~3は土偶である。5点出土した。

第85図7は木莖型中空土偶の右腕で、腕先が外反し、側面に放射状の沈線が施されるのが特徴である。腕の部分には無節Lの縄文が施される。

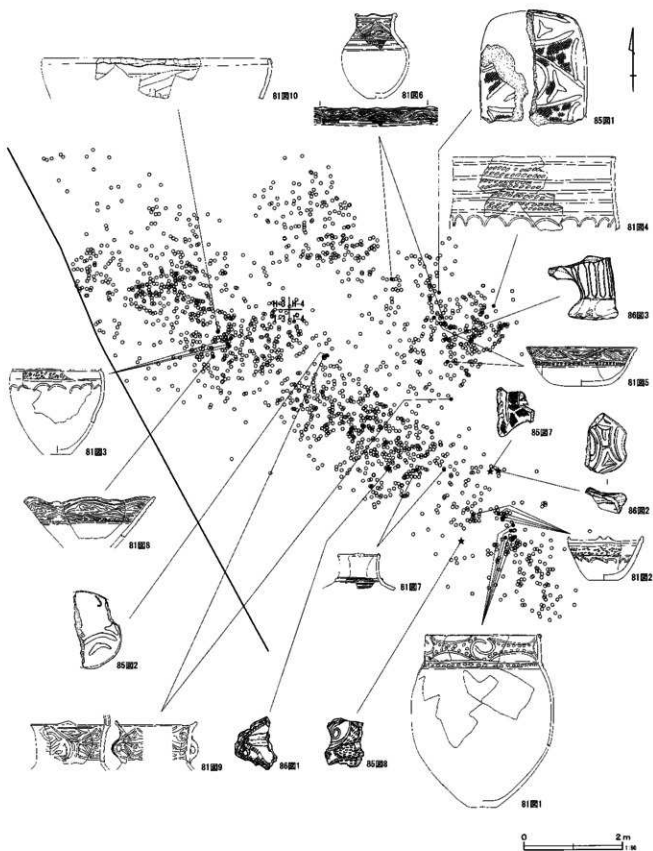
第85図8と第86図1、2は遮光器系土偶で、いず



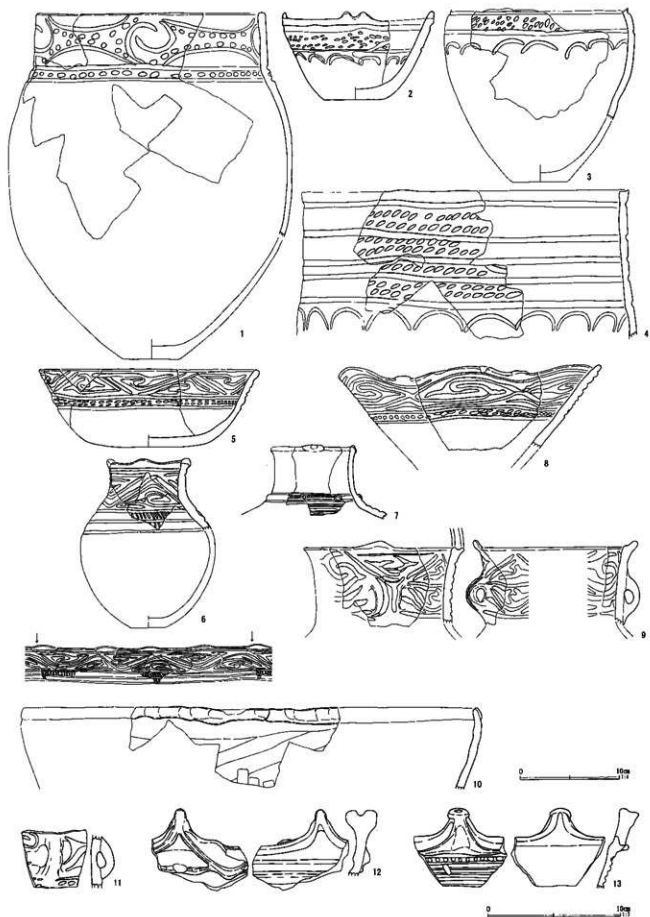
- 1 黒褐色土 遺物を多量に含む。ローム粒子をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム顆粒層、ロームを多く含む。
- 4 ツアトローム
- 5 黒褐色土 ロームを多量に含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒子を露降状に含む。



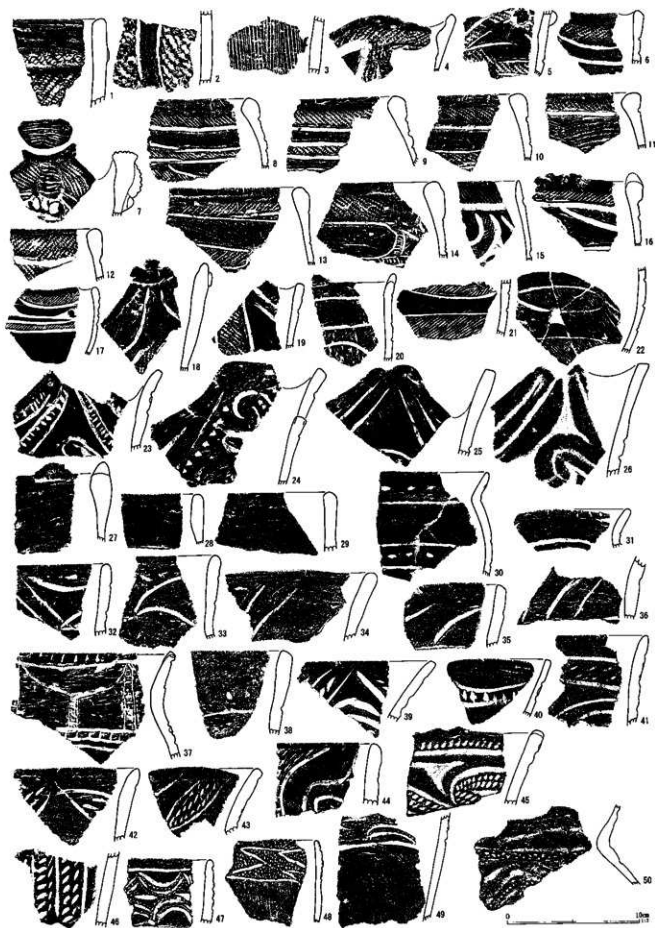
第79図 包舎層①



第80圖 包含層①遺物出土狀況



第81图 包含層①出土遺物 (1)



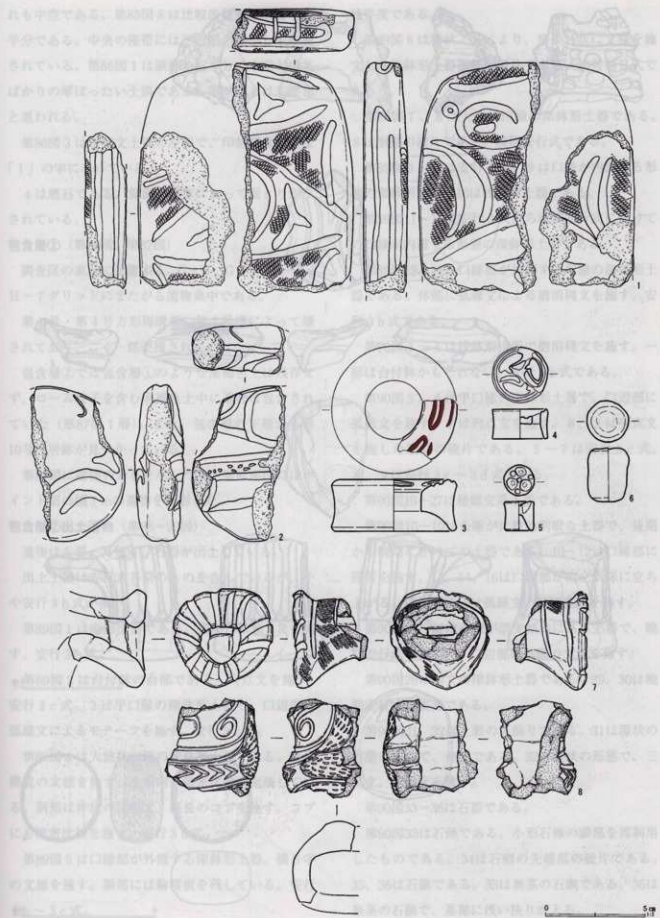
第82图 包含層①出土遺物 (2)



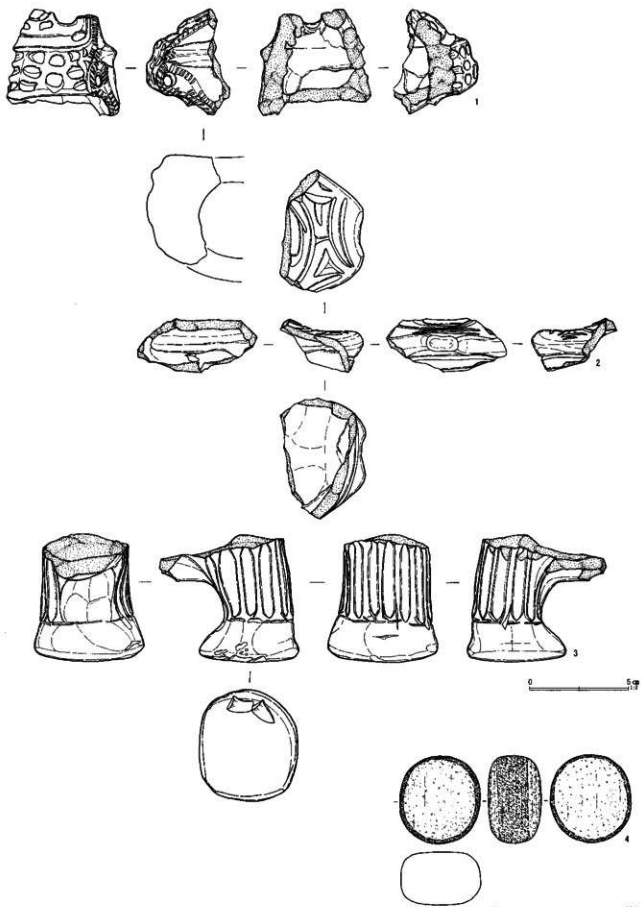
第83圖 包含層①出土遺物 (3)



第84图 包含層①出土遺物 (4)



第85図 包含層①出土遺物 (5)



第86图 包含層①出土遺物 (6)

れも中空である。第85図8は比較的扁平な胴部の右半分である。中央の隆帯には三角形の透かし影が施されている。第86図1は頭部の右半分で中空とは名ばかりの厚ぼったい土偶である。第86図2は左腰部と思われる。

第86図3はI字文土偶の左脚で、印刻部は完全な「I」の字になっている。

4は磨石である。側面は敲打によって面とりがなされている。

包含層② (第86図、第87図)

調査区の東端に位置する。G-6、G-7、H-6、H-7グリッドにまたがる遺物集中である。

第1号・第4号方形周溝墓、第7号溝によって埋されており、ごく一部が残されていた。

包含層②では包含層①のような黒褐色土は残存せず、ローム粒子を含む明褐色土中に遺物は包含されていた(第87図1層)。また、包含層の下層から第10号住居跡が見つかっている。

第87図に遺物の分布を示した。土層断面図にはポイント間の幅1mの遺物を投影した。

包含層②出土遺物 (第88～90図)

遺物は土器、耳飾り、石器が出土している。

出土土器は安行式各期のものを含んでいるが、やや安行3b式が多い。

第89図1は壺形土器である。頸部に単節LRを施す。安行3b式。

第89図2は台付鉢の台部である。列点文を施す。安行3c式。3は平口縁の深鉢形土器で、口辺部に弧線文によるモチーフを施す。安行3c式。

第89図4は大波状口縁の深鉢形土器である。菱形構成の文様を施す。沈線内は細密沈線で充填している。胴部には杵状の沈線文、縦長のコブを施す。コブにも細密沈線を施す。安行3b式。

第89図5は口縁部が外傾する深鉢形土器。横S字の文様を施す。胴部には輪積痕を残している。安行3b～3c式。

第89図1、2、4は10%、3は15%、5は20%の

残存度である。

第89図6は櫛状工具により、格子目状に文様を施文した深鉢形土器胴部の破片である。加曾利B式であろう。

第89図7、8は大波状口縁の深鉢形土器である。8は胴部の破片である。晩期安行式である。

第89図9、10は安行1式。9は口縁が内湾する形態の深鉢形土器、10は浅鉢形土器である。

第89図11～14は安行2式から晩期安行式にかけての口縁が内湾する形態の深鉢形土器である。

第89図15、16は口縁部が外傾する形態の深鉢形土器である。体部に弧線文による磨消縄文を施す。安行3b式である。

第90図1～4は浅鉢形土器で磨消縄文を施す。一部は台付鉢かもしれない。安行3b式である。

第90図5、6は平口縁の深鉢形土器で、口辺部に弧線文を施す。7は列点文を施す。8、9は列点文を施した胴部の破片である。5～7は安行3c式。8、9は安行3c～3d式である。

第90図10～27は紐線文系土器である。

第90図10～19は条線が比較的明瞭な土器で、後期から晩期にかけての土器である。10～12は口縁部に隆帯を施す。13、14、16は口縁部が直立気味に立ち上がる。口辺部に15は弧線文、19は直線を施す。

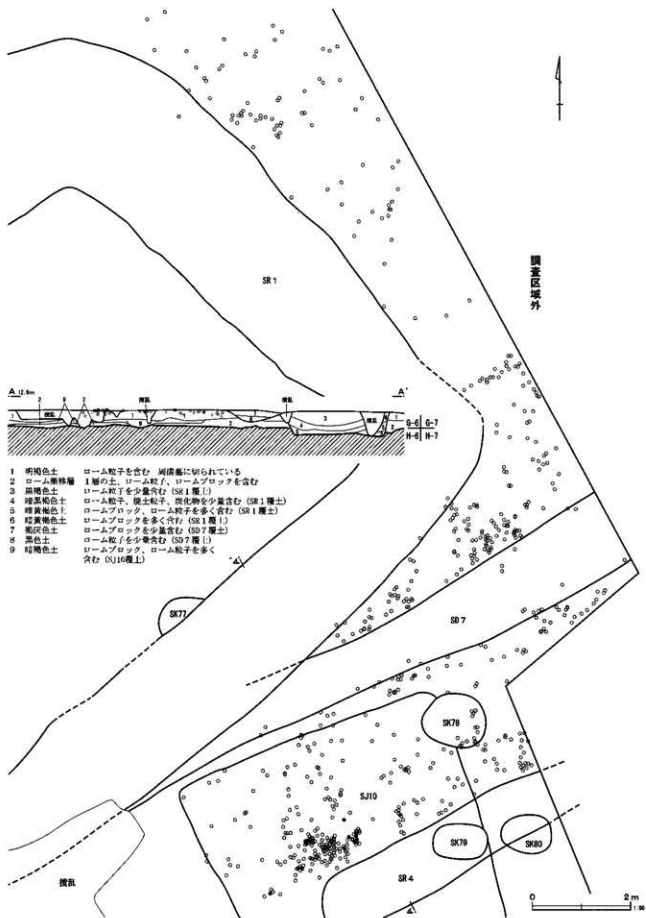
第90図20～27は条線が消失傾向にある土器で、晩期安行式であろう。口辺部に各種の文様を施す。

第90図28は無文の深鉢形土器である。29、30は晩期安行式の底部である。

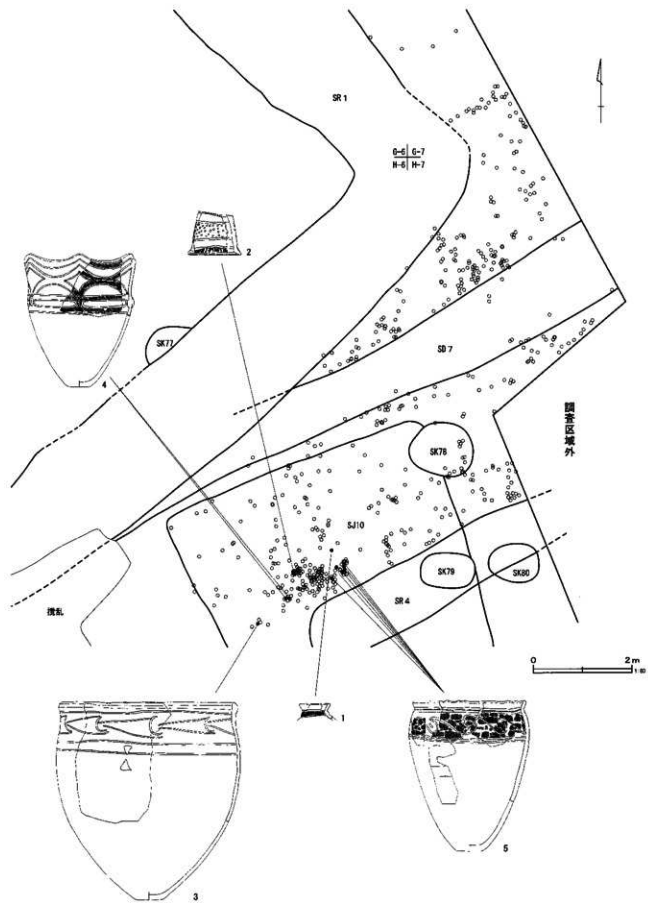
第90図31、32は土製の耳飾りである。31は環状の形態のもので、無文である。32も環状の形態で、三叉文、沈線文を施す。

第90図33～36は石器である。

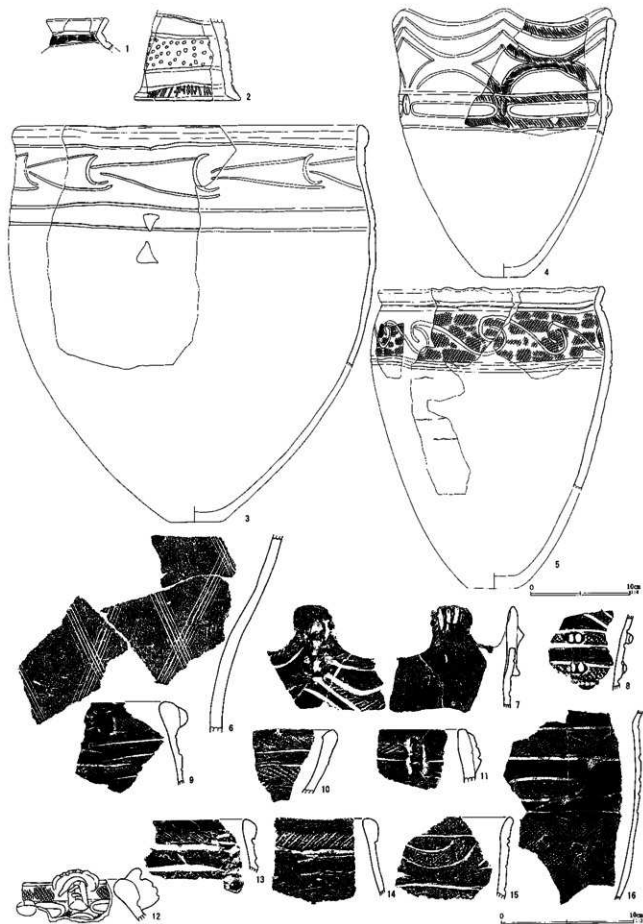
第90図33は石錘である。小形石棒の頭部を再利用したものである。34は石剣の先端部の破片である。35、36は石鏃である。35は無茎の石鏃である。36は無茎の石鏃で、基部に浅い抉りが入る。



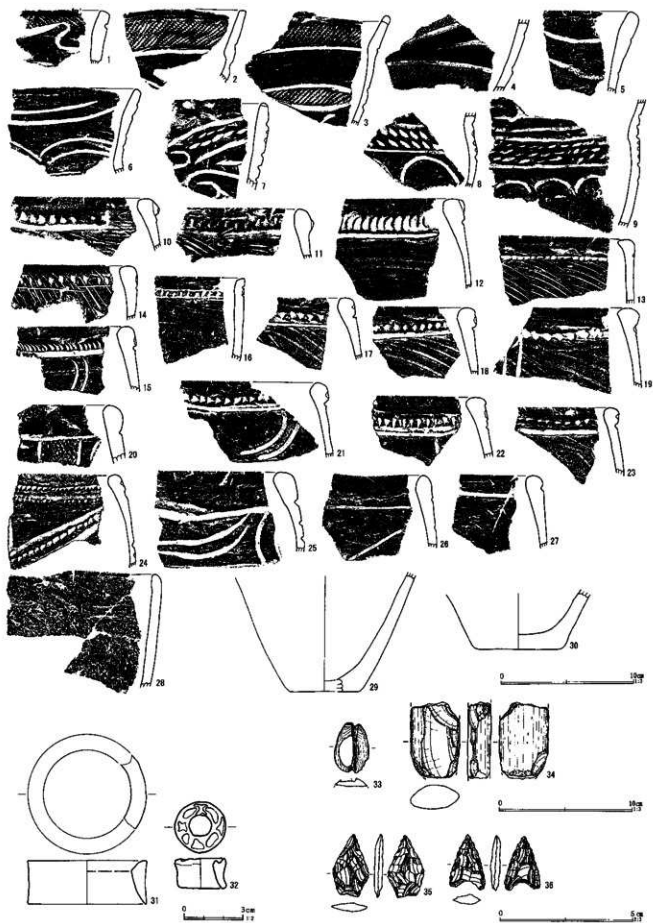
第87図 包含層②



第88图 包含層②遺物出土状況



第89图 包含层②出土遗物 (1)



第90图 包含層②出土遺物 (2)

(6) 遺構外出土遺物

ここでは遺構外出土の遺物を土器、土製品・石製品、耳飾り、土偶、石器の順で報告する。耳飾りは点数が多く、土製品とは別に一項を設けた。

土製品・石製品、耳飾り、土偶、石器は遺構内からも出土しており、挿図が分散している。そこで、各一覽の頭に遺構内出土の遺物も掲載しておいた(第7表～第10表)。したがって各一覽が土製品・石製品、耳飾り、土偶、石器の調査区南側における全挿図掲載遺物となっている。

土器

第1類(第91図、第92図1～25)

安行式以前の土器群を一括する。

第91図1は早期の野鳥式である。沈線と刻みを施す。2は前期の関山式である。組紐による縄文を施す。第91図3～14は中期前半の土器である。胎土に雲母を含む。4～13は隆帯にそって角押文を施す。14は沈線、刻み、縦長の貼付文を施す。

第91図15～39は中期後半の加曾利E式である。15は熱糸文を胴部に施す。16、17、20～23は口縁部に沈線、18、19、24～27は隆帯が巡る。28～33は沈線、34～39は隆帯を施す胴部の破片である。

第91図40～51は後期前葉の土器である。40～45は沈線間に縄文を施す深鉢形土器。46は口縁部が内傾する形態の浅鉢形土器。沈線間に縄文と刺突を施す。47は沈線間に点列、48は沈線間を無文とする。49は沈線間に縄文を施す胴部破片。50は櫛歯状工具、51は沈線を施す深鉢形土器の胴部破片である。

第91図52～60は後期中葉の加曾利B式、曾谷式である。52は深鉢形土器、53～55は浅鉢形土器である。56～58は深鉢形土器の胴部破片である。56、57は沈線文を施す。58は沈線と縄文を施す。59、60は瓢形の深鉢形土器であろう。

第92図1～25は縄文を施した深鉢形土器の胴部破片である。後期前葉の土器と思われる。

第2類(第92図26～52、第93図～第99図、第163図15)

安行式の波状口縁深鉢形土器のうち縄文を施すものおよびそれに類するものを一括する。文様としては安行1式の帯縄文の土器、およびそれに後続する三角形区画文の土器である。安行1式から安行3c式を含む。

A(第92図26～46)

安行1式の波状口縁深鉢形土器である。26～36は縦長のコブ文を施す。26～28、30は波頂部、29、31～36は波底部付近の破片。36、40は縄文の代わりに刻みを施す。他は単節RLの縄文を施す。

B(第92図47～52、第93図1～49)

三角形区画文や胴部文様帯などに刻みを施す土器である。豚鼻状の貼付文を施すものが多い。安行2式～3a式である。第93図48が単節LRを施文している以外はいずれも単節RLの縄文を施す。

第92図47、48は無文のコブを施す。第92図49～52、第93図1、2は波頂部もしくは波頂部付近の破片である。第93図4～14は波底部付近の破片である。第93図15～49は胴部破片である。49は10%の残存度である。

C(第94図～第97図、第98図1～32、第163図15)

三角形区画文や胴部文様帯などに刻みを施さないもの。主に縄文帯で文様が構成される。単節RLとLRの両者がある。安行3a～3b式が主体である。

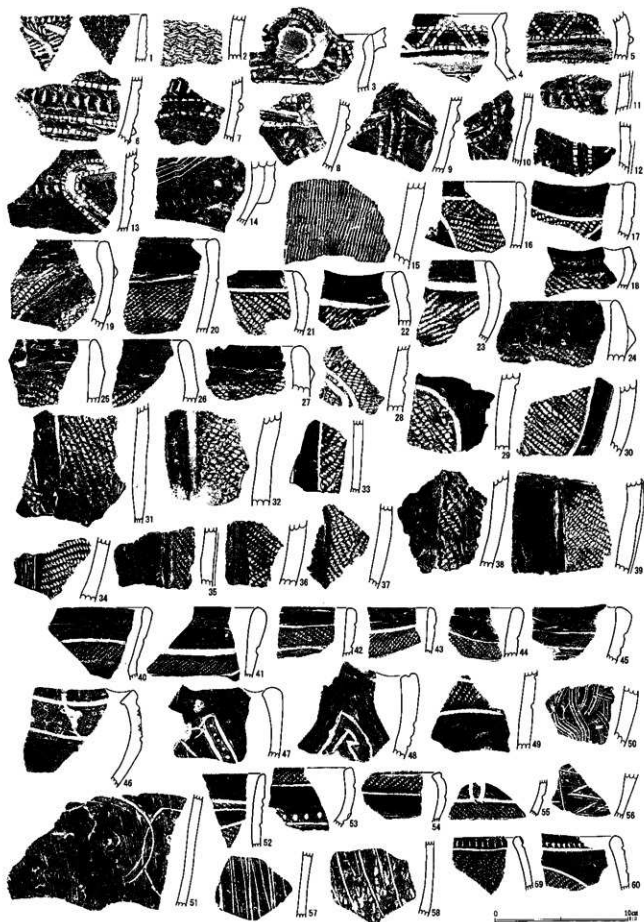
第94図、第95図、第96図1～48は波頂部、波底部とその付近の破片。いずれも貼付文を施す。

第94図1～31、34～36は安行3a式を主体とする。把手の装飾も各種がある。

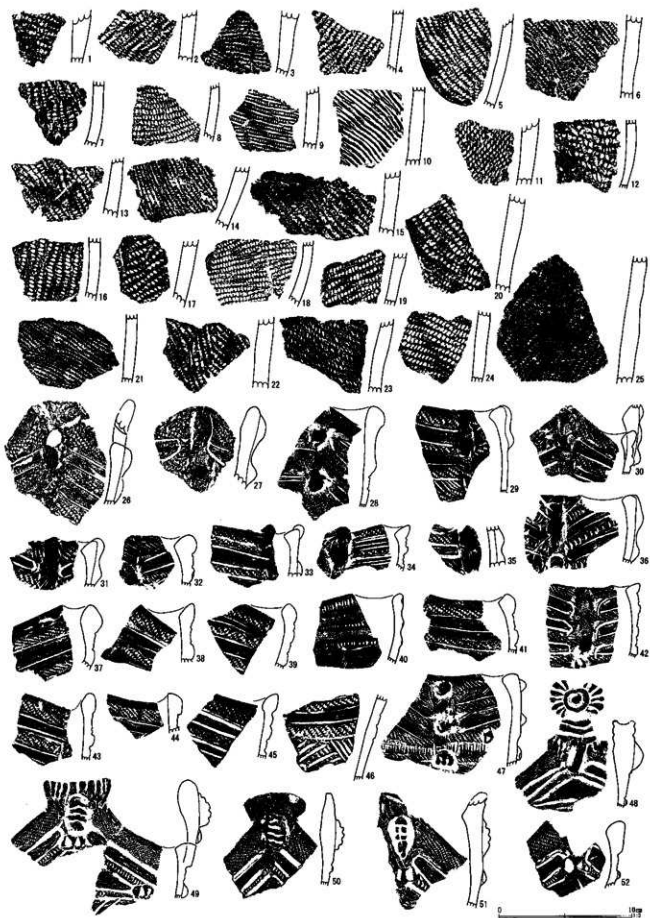
第94図32、33、37～40、第95図、第96図1～41は波頂部下に2段に縦長の豚鼻状貼付文(第95図12、第96図28～41のように貼付内の点文がひとつのものを含む)を施す土器である。安行3b式であろう。把手の装飾は第94図1～17などに比べてより単純化、簡略化されている。

第95図9、10、12は10%、11は20%の残存度である。

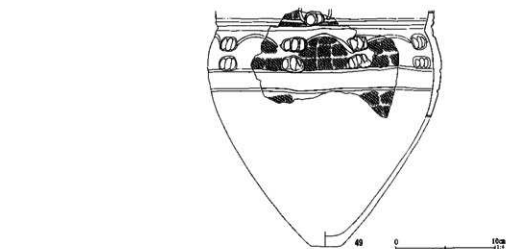
第96図42～49、第97図1～42は波頂部以外の口縁



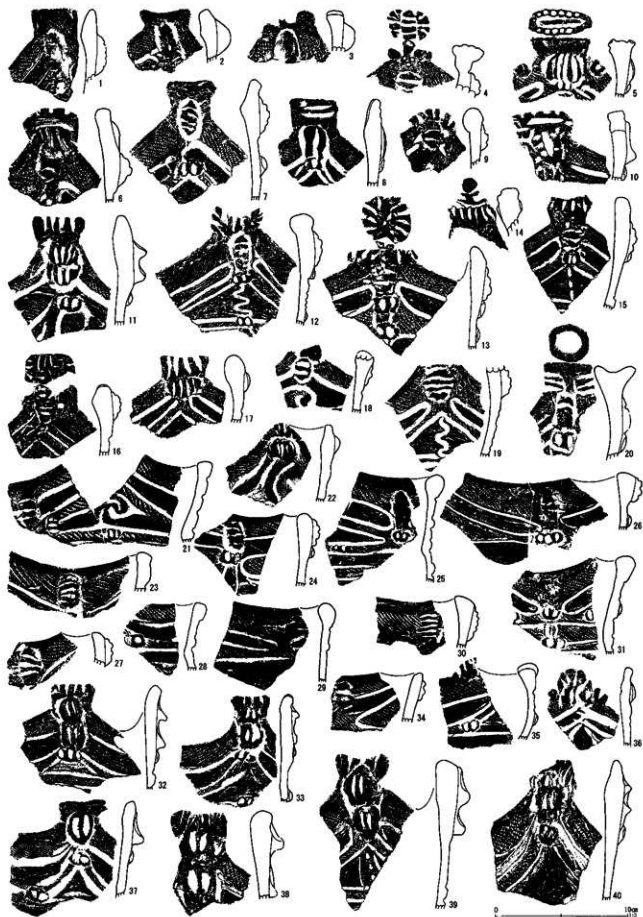
第91图 土器 (1)



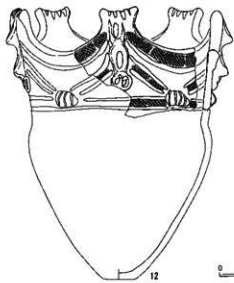
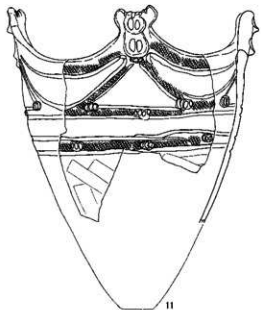
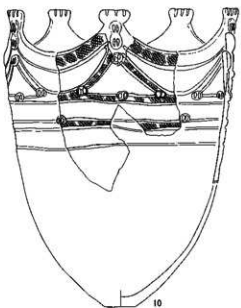
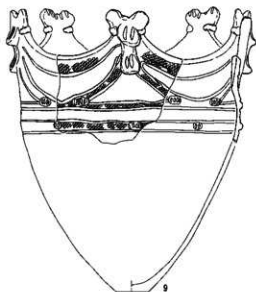
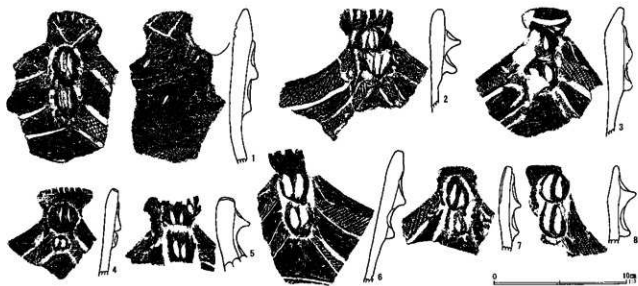
第92图 土器 (2)



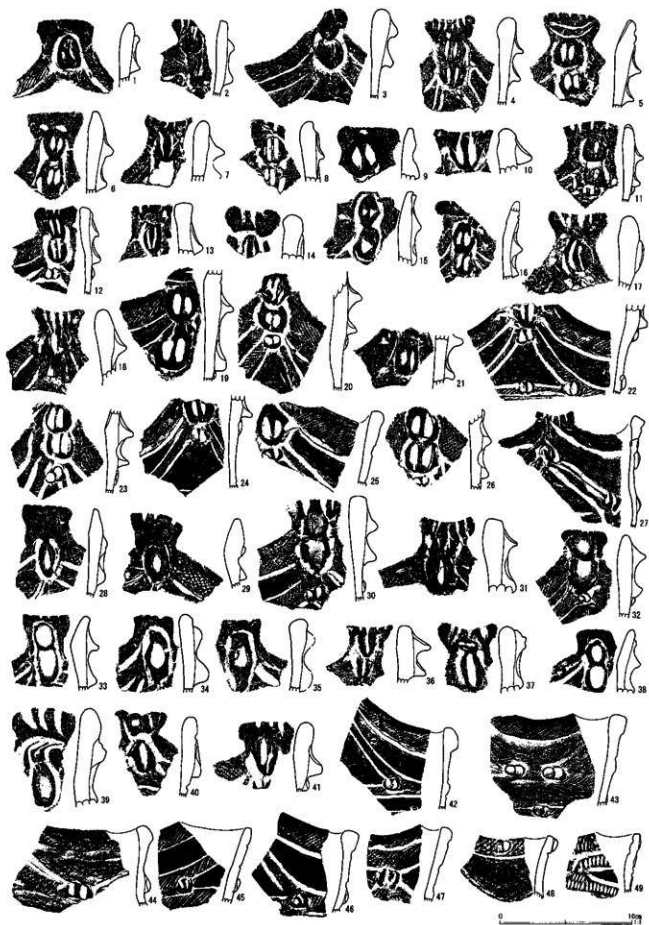
第93圖 土器 (3)



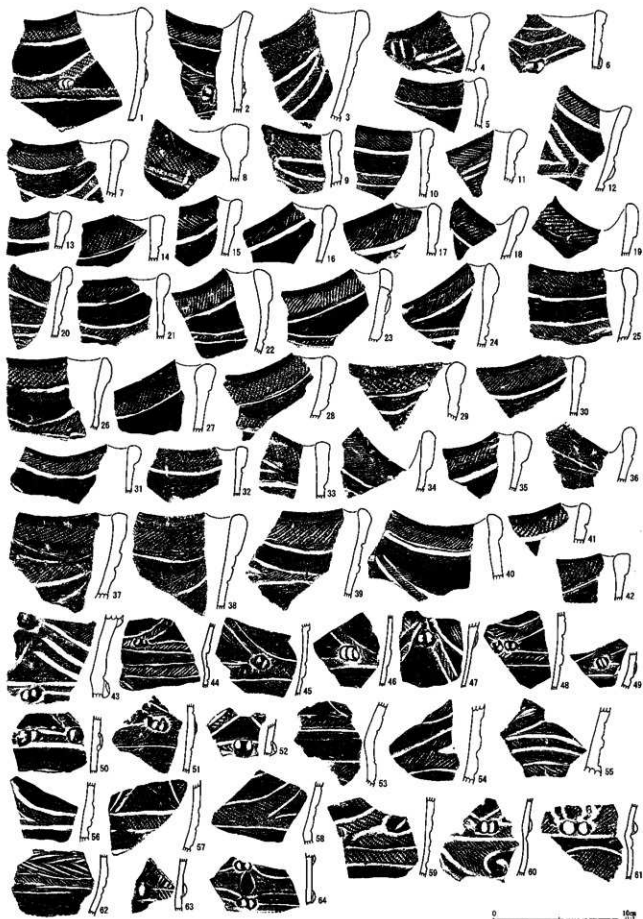
第94回 土器 (4)



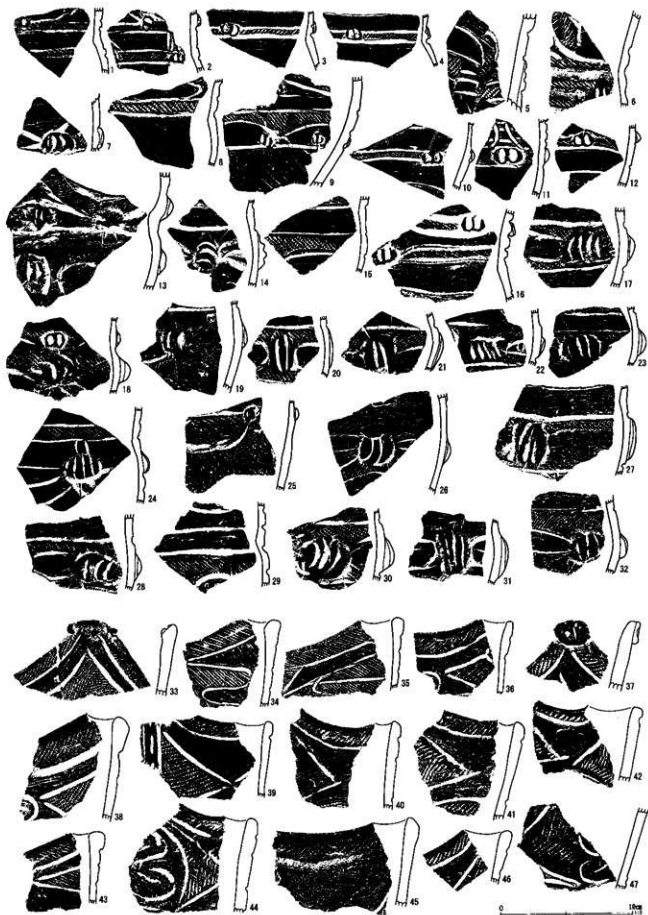
第95圖 土器 (5)



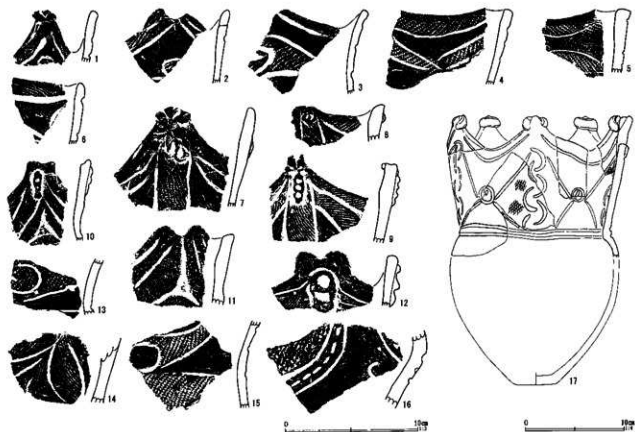
第96圖 土器 (6)



第97圖 土器 (7)



第98圖 土器 (8)



第99図 土器 (9)

部破片である。第96図49は縄文の代わりに刺突を施す。第97図43～58は三角形区画文付近の破片である。第97図59～64、第98図1～8、13～16は括れ部近くの破片である。第98図9～12、第98図17～32は胴部の破片である。

第163図15は波状4単位の土器で、三角形区画文の土器である。波底部下の文様は残存せず不明。口縁部には幅の狭い無文の部分がある。突起の裝飾から、安行3c式と思われる。10%の残存度である。

第3類 (第98図33～47、第99図)

「焼山Ⅱ式」とその系統をひく土器を焼山系土器群として一括する。

安行3b式が主体で一部に安行3c式を含む。当類は後述する第15類Bにつながる土器群である。

第98図34、35、第99図1、5、6は単節RLの縄文を施し、これ以外はいずれも単節LRの縄文を施す。単節LRが多い。

菱形の文様構成を基本とする。

菱形内部の文様は直線を垂下させるもの(第98図39、第99図7～9)、弧線文を施すもの(第98図44、47、第99図1～3、13～15、17)、三叉文を施すもの(第99図10、11)などがある。

三叉文を施すものは菱形構成をとるのか判然とせず、先の第2類Cとしたほうがいいかもしれない。

第99図12は口縁部に無文部があるもの、第99図16は列点文を施す。後出の要素であり、安行3c式であろう。

第99図17は赤褐色をした独特な色調の土器である。復元できず、いくつかの小片に分かれている。10%の残存度である。

第4類 (第100図～第110図、第111図1～38)

口縁部が内湾する形態の平口縁深鉢形土器である。

第100図、第101図1～9は無文縦長の貼付文を施すもの。安行1式を主体とする。第100図1～22、24～30、32～34、36～43は単節RLの縄文、第100図23、31、35、44～49、第101図1～3は単節LR

の縄文、第101図4～9は縄文を施文しない土器である。第101図4～9は後出かもしれない。

第101図10～32は口縁部の縄文帯の直下に三角形の刺突文がめぐるもの。安行1式を主体とする。

第101図10～12、14～29は単節RLの縄文、第101図13は単節LRの縄文、第101図30～32は口縁部に縄文を施文しない土器である。内湾の度合いが高い土器が多く、瓢形の形態をとるものが多いと思われる。

第101図33～59、第102図～第104図、第107図1～17は豚鼻状貼付、刻みのある縦長の貼付、円形の貼付など各種の貼付文を施すものである。安行2式から晩期安行式を含む。

第103図42は2段、第103図43、第107図1は3段に帯縄文を施す。第107図2は体部に三叉文と弧線文を施す。第103図42、43、第107図1、2は10%の残存度である。

第105図、第106図、第107図18～54、第108図～第110図、第111図1～38は貼付文のない部位、もしくは貼付文を施さない土器である。やはり、安行2式から晩期安行式を含む。

第5類 (第111図39～72、第112図1～32、34～46)

胴部で括れ、口縁部が外傾して立ち上がる形態の平口縁深鉢形土器を一括する。

第111図39～42は安行1式である。口辺部に帯縄文、その下位に弧線文による磨消縄文を施す土器である。単節RLの縄文を施す。

第111図43～66は口縁部の縄文帯より下位の文様が不明なものが多い。43は刻みのある縦長の貼付文、他は弧線文、並行沈線などの文様を口辺部に施す。第111図43～66は安行2式～安行3b式。43～51、53～57は単節RLの縄文、52、58～66は単節LRの縄文を施す

第111図67～72は縄文帯の下位に多条の横線、弧線文を施す。いずれも単節RLの縄文を施す。68は胴部に弧線文による磨消縄文を施す。第111図67、68は安行2式～安行3a式。

第112図1～32、34～39は口縁部の縄文帯の下に

弧線や斜沈線などによって、菱形、三角形、レンズ形などのモチーフを描き磨消縄文とするもの。1～16のようにしばしば蛇行沈線文を施す。また、20、23、39などのように弧線や斜沈線自体を蛇行させる土器もある。1～8、10～17、20～23、25～32、34、35、37～39は単節RLの縄文、9、18、19、24、36は単節LRの縄文を施す。安行2式～安行3a式である。

第112図40～46は口縁部に弧線による磨消縄文、三叉文を施す。縄文は単節LRを施す。

第6類 (第113図17、19、第114図、第115図、第116図1～23)

胴部が張り、口縁部付近で「く」の字状に強く屈曲し、口縁部が外傾して立ち上がる形態の深鉢形土器である。

第113図17は入組文が横位に連続した磨消縄文を施す。10%の残存度である。19は横「S」字の沈線を連続させ磨消縄文としている。15%の残存度である。17、19は単節LRを施す。安行3b式。

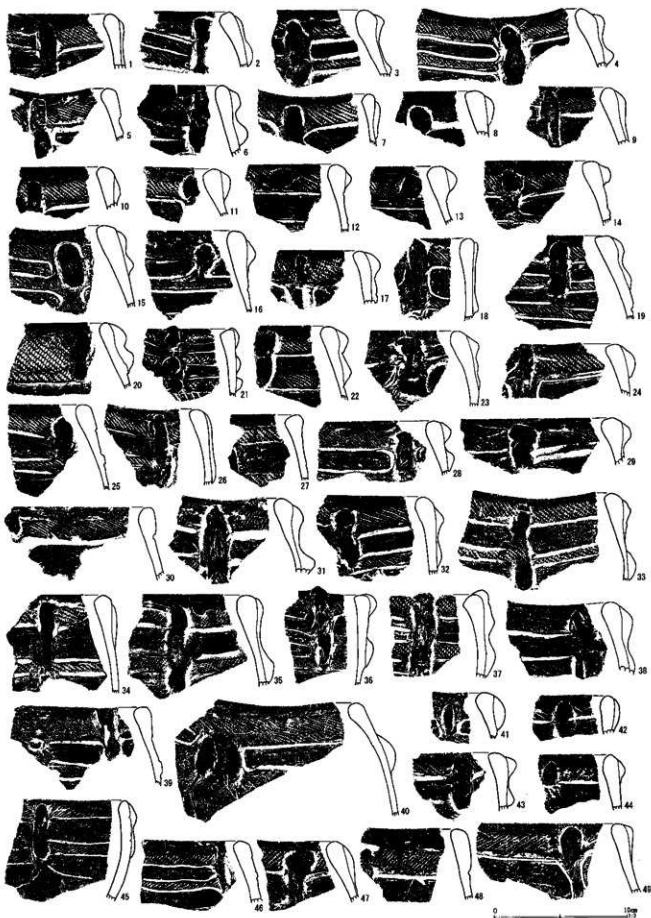
第114図には口縁部付近の破片をまとめた。第114図1は刻み目、貼付文を施す。安行3a式であろう。2～69はほとんどが安行3b式と思われる。口縁部に縄文を施す土器である。2～8は単節RL、9～66は単節LRの縄文を施す。67は第113図19と同様に口縁部が無文である。68、69はかすかな縄文が認められる。

第115図1～22、38は口縁部から胴部にかけての破片である。地文縄文に弧線文、三叉文を施すもの(5)、玉抱三叉文を施すもの(6)、無文部に弧線文を施すもの(11)、弧線文による磨消縄文(16～19)、横位に連続する入組文を施すもの(15)などがある。

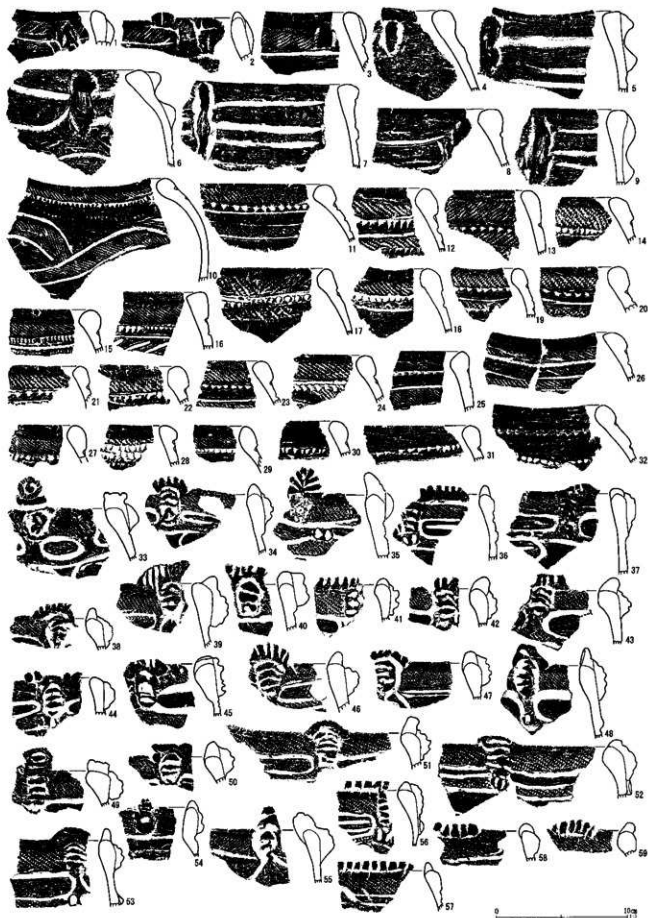
第115図15、23～32は口縁部に無文部がある。33～37は2条沈線が巡る。

第115図39～45、第116図1～23は胴部破片。

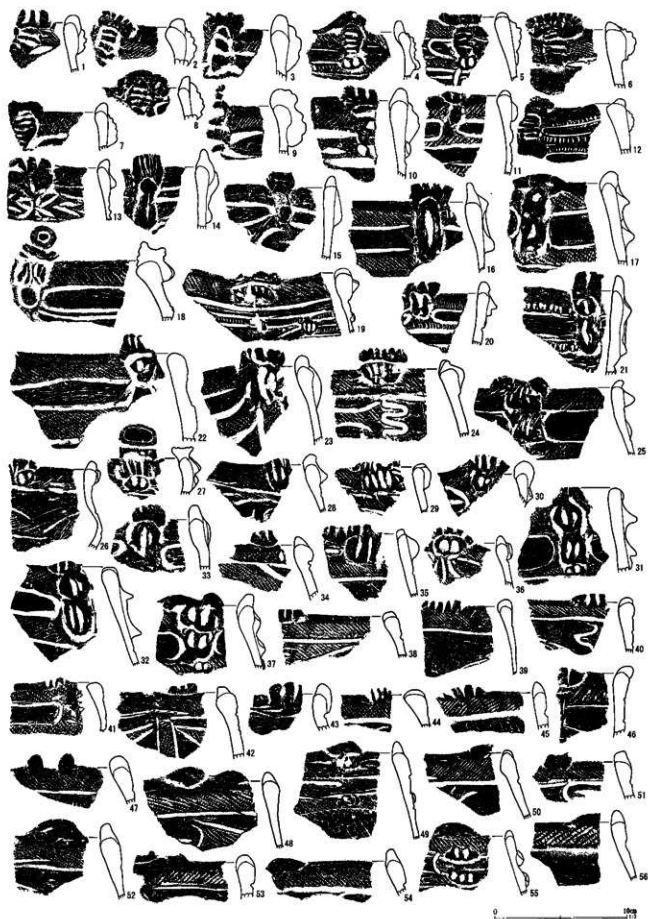
第115図、第116図1～23は一部安行3a式(6、39)を含むが、ほとんどが安行3b式であろう。縄文は単節LRが主体である。



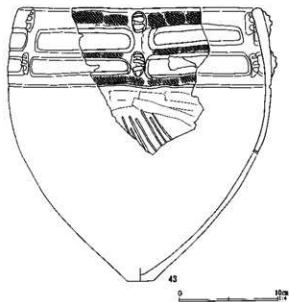
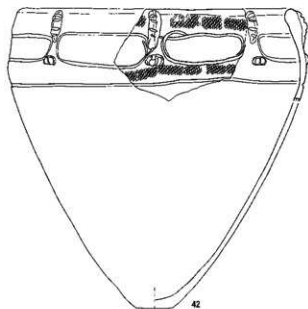
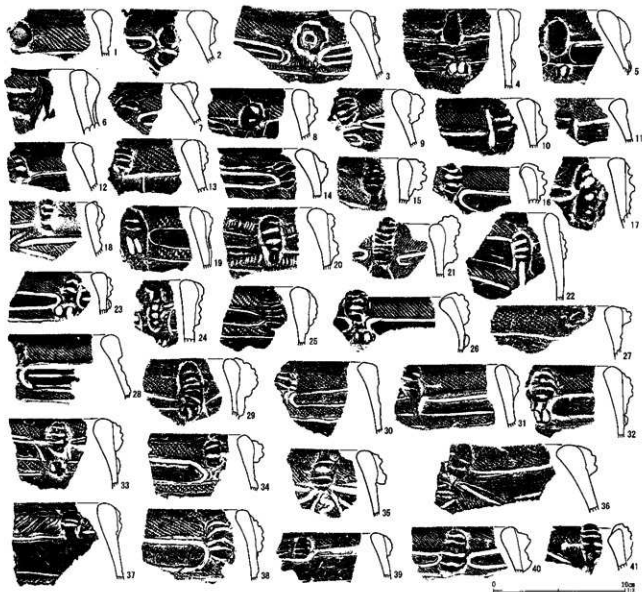
第100图 土器 (10)



第101图 土器 (11)



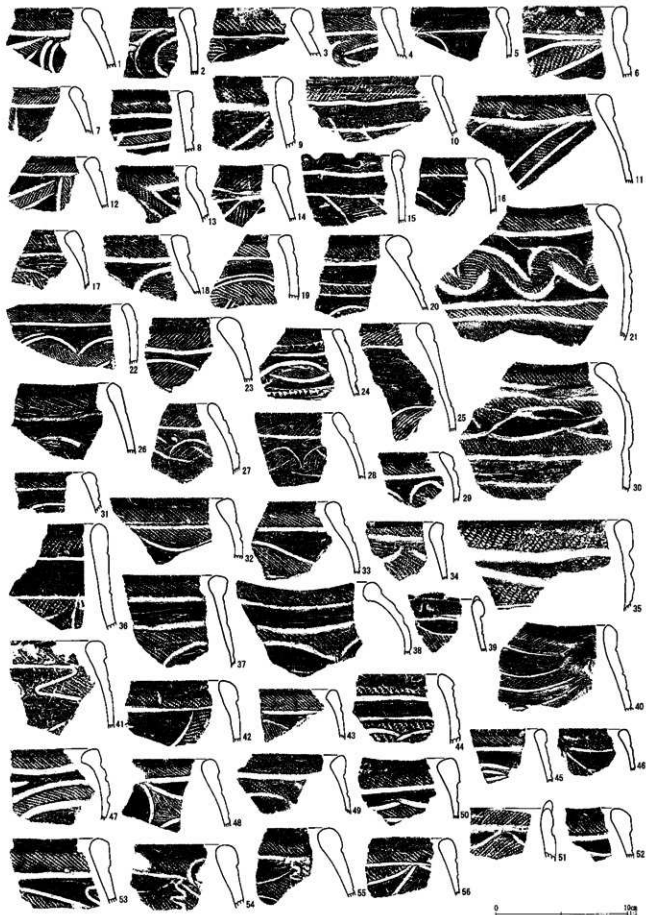
第102图 土器 (12)



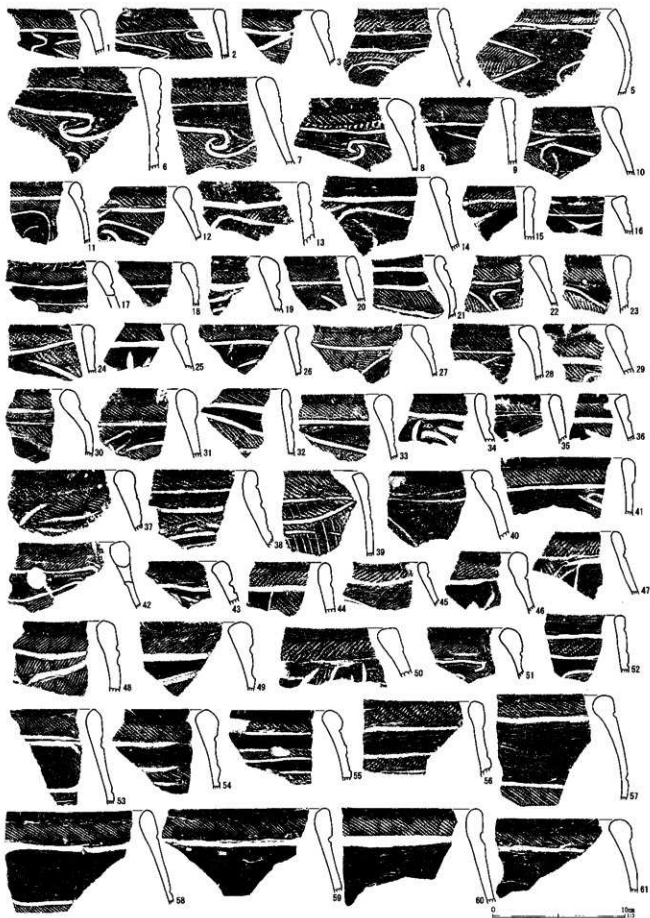
第103圖 土器 (13)



第104图 土器 (14)



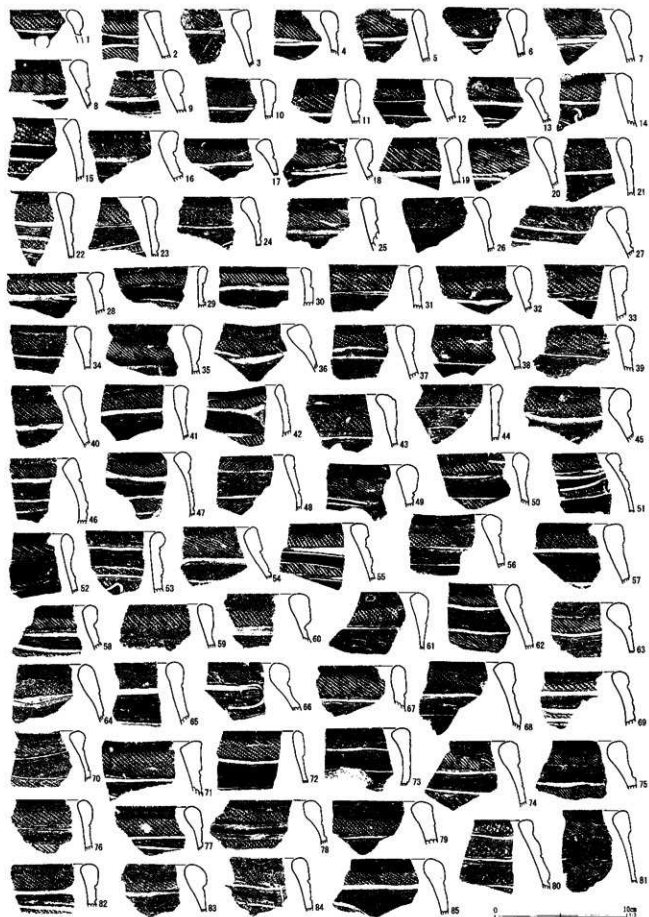
第105圖 土器 (15)



第106圖 土器 (16)



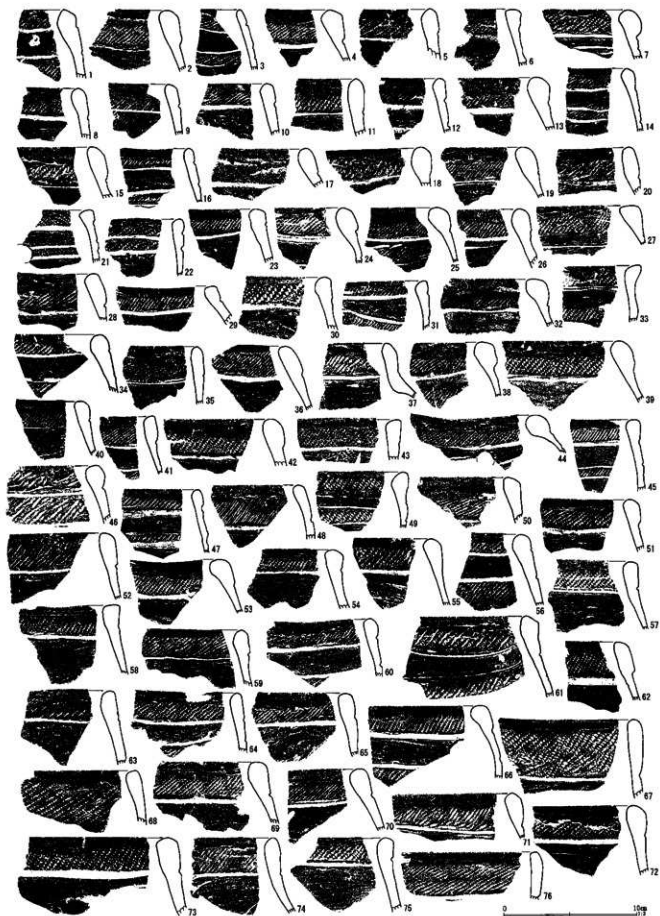
第107图 土器 (17)



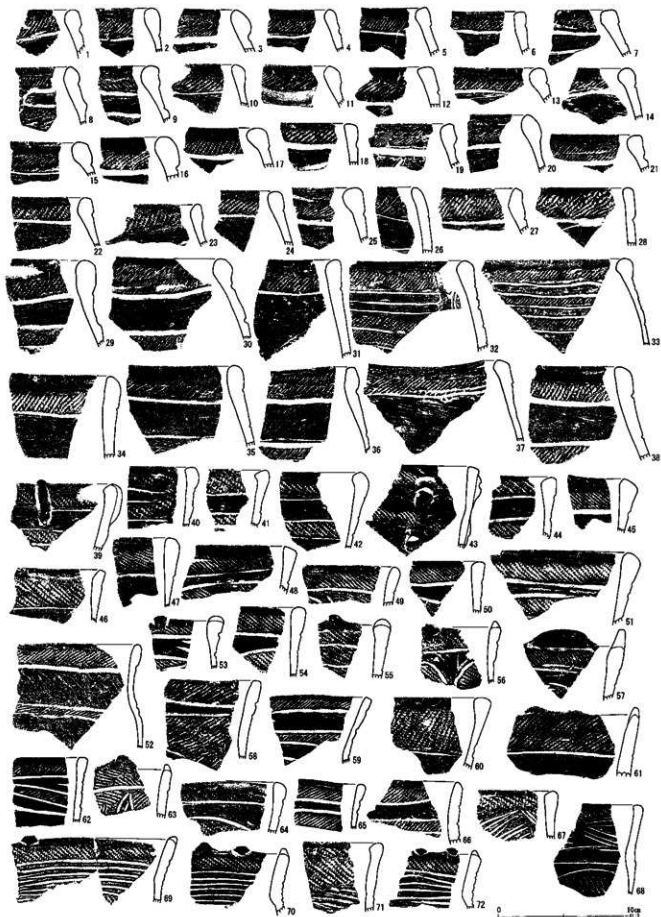
第108图 土器 (18)



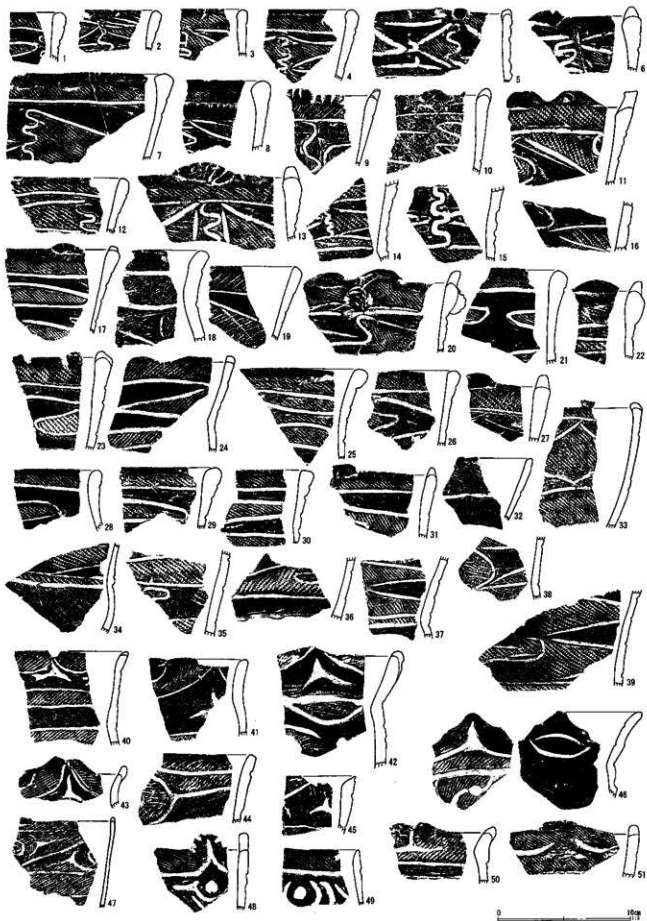
第109圖 土器 (19)



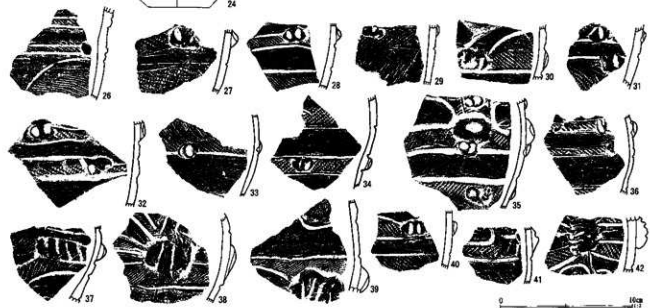
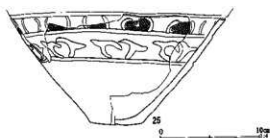
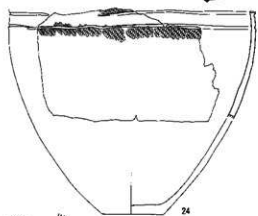
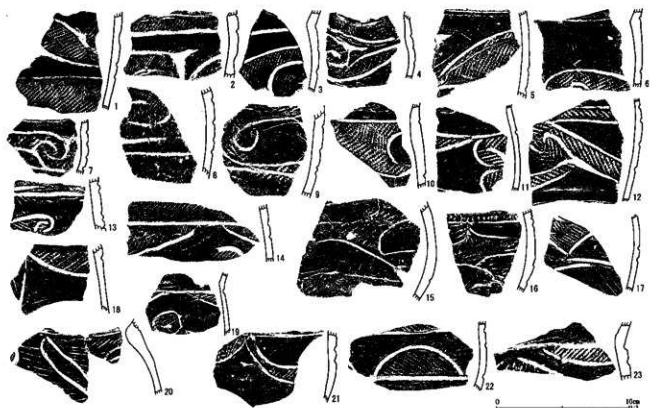
第110圖 土器 (20)



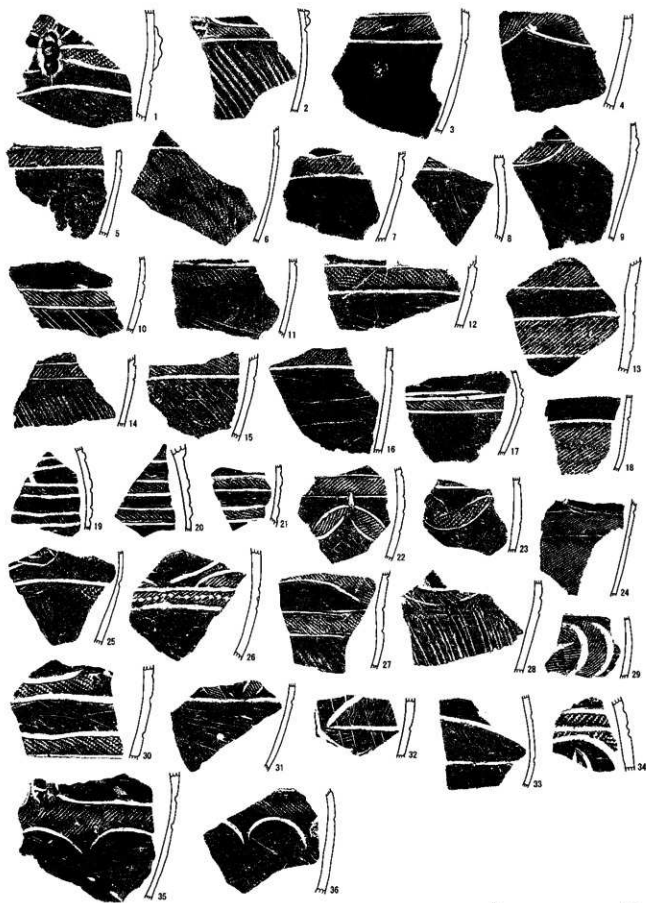
第111圖 土器 (21)



第112圖 土器 (22)



第116圖 土器 (26)



第117图 土器 (27)

第7類 (第112図33、47～51、第113図1～16、18)

縄文を施文する深鉢形土器で、第2類～第6類の分類からもれたものを一括する。

各種の土器があるが、形態的には、直立気味に立ち上がるものが多い。

第112図33は菱形の磨消縄文を施す。第112図47～51は口辺部に三叉文や弧線文を施す。33、48、49、51は単節RL、47、50は単節LRを施す。安行2式～3b式。

第113図1～16は各種の文様がある。3、4は角底土器に似た構成。6～8は同一個体である。9、10も同一個体である。第113図12は口縁部に隆帯が巡る。

第113図3、4は単節RL、第113図1、2、5～16は単節LRの縄文を施す。1～5、9、10は安行3a式～3b式。6～8、11～16は安行3b式～3c式であろう。

第113図18は胴部が緩く張り、口縁部が直立して立ち上げる形態の深鉢形土器である。文様は口縁部の縄文帯下に入組文を施し、入組文の外に単節LRの縄文を施文する。文様構成は第113図17と同様であるが、形態と文様の配置が崩れた安行3c式と思われる。入組文自体も横に連続せずにやや崩れている。40%の残存度である。

第8類 (第116図24～42、第117図1～36)

第2類～第7類の胴部に相当する破片であるが、各分類への帰属を判断できないものを一括する。

第116図24は横線と単節RLの縄文を施す。10%の残存度である。25は横線、弧線文、対向する三叉文、単節RLの縄文を施す。15%の残存度である。

第117図も横線、弧線文を施す。

第116図26は安行1式。他は晩期安行式。

第9類 (第118図～第120図、第121図1～37、第123図1～8)

縄文施文の浅鉢形土器、鉢形土器を一括する。例外として第123図4などは縄文がないが、安行3c式より古いものはここにまとめた。

A (第118図1～18、第120図48～57)

口辺部に横線による磨消縄文を施すもの。

第118図1～6、10、11、14、16～18、第120図48は単節RL、第118図7～9、12、13、15、第120図49～57は単節LRの縄文を施す。第118図1は安行1式、2～18は安行2～安行3a式、第120図48～57は安行3b式と思われる。

B (第118図19～38、40～43、第123図1)

隆帯を体部に施すもの。眼鏡状の隆帯が多い。

第118図21は突起下のみ貼付文かもしれない。縄文は単節LR、RLがほぼ半数。安行3a式が主体である。

第123図1は隅丸方形の浅鉢形土器である。刻みのある隆帯を弧状に施す。弧線文、三叉文を施す。30%の残存度である。安行3a式。

C (第118図39、44～66、第119図1～15、第123図2、3、8)

三叉文を施す土器で隆帯のないもの。第118図39、44～47、第123図3は玉抱三叉文を施す。縄文と三叉文が接するものが多いが、判断がつかない破片もある。安行3a式を主体とする。縄文は単節RLとLRを含む。

第123図2、8は10%、第123図3は50%の残存度である。

D (第119図16～59、第123図5、6)

弧線文を施して各種の磨消縄文を施すもの。縄文は30、41、42、50、54、55が単節RLだが、他は単節LRであり多数を占める。安行3b式が主体であるが、30は安行2式～3a式かもしれない。58、59は木の葉状の文様である。安行3c式か。

第123図5は単節RL、6は単節LRの縄文を施す。5は50%、6は10%の残存度である。

E (第119図60～64、第120図1～25、第123図7)

ステッキ状の文様を施すもの。

第119図60～64はステッキ状の沈線を組み合わせで施す。縄文は61～63が単節RL、60、64は単節LRの縄文を施す。安行3a～3b式。

第120図1～25は横位にステッキ状の沈線を繰り返す土器である。15、19～23はステッキ状の沈線と緩い弧線を組み合わせて磨消縄文とする。24、25はステッキ状文を一筆書き風に横位に連続させたもの。6、13、15以外は単節LRの縄文を施す。第120図1～25は安行3b式である。

第123図7は波状3単位の浅鉢形土器である。50%の残存度である。

F (第120図26～47、第123図4)

その他の浅鉢形土器、鉢形土器を一括する。

第120図26～36は各種の貼付文、37～47は磨消縄文を施す。30、42～45は単節LR、他は単節RLの縄文を施す。26～41は安行3a式、42～47は安行3b式であろう。

第123図4は弧線文を組み合わせた文様構成である。角底土器の文様構成と同様だが、丸底である。60%の残存度である。

G (第121図1～37)

浅鉢形土器の体部の破片を一括した。

第121図1～3は刻文帯、4は刻みのある縦長の貼付文を施す。安行2～3a式である。

第121図5～37は各種の磨消縄文を施す。安行3a～3b式である。

第10類 (第121図38～53、第122図、第123図9～15)

縄文や刻みを施す台付鉢形土器を一括する。

A (第121図38～53)

刻みや帯縄文を施すもの。第121図38は安行1式。刻みと条線を施す。39～53は安行2式から安行3a式にかけての台付鉢形土器である。40、42～46、48は単節RLの縄文を施す。

B (第122図、第123図9～15)

入組文、弧線文、横線による磨消縄文を施すもの。第122図1～5、第123図9は外傾する口縁部に縄文を施し、体部に入組文等を施す。第122図1は単節RLの縄文。安行3a式。第122図2～5、第123図9は単節LRの縄文。安行3b式。

第122図6、8は入組文による磨消縄文、7は口縁部に弧線文を施す。単節LRの縄文。安行3b式。

第122図9～19は体部、第122図20～26、第123図11は台部との連結部付近、第122図27～49、第123図10、12～14は台部の破片。台部のうち第122図27～41、43～49、第123図10、12～14には透かしを施す。安行3b式を主体とする。第123図9～15は5%の残存度である。

第11類 (第124図、第125図)

細密沈線文の土器を一括する。

細密沈線文は第124図1～31、第125図1、5のような細密沈線文特有の深鉢形土器に施される場合と第124図32～59、第125図2～4、6～43のように縄文施文の代わりに施される場合がある。

前者の第124図1～31、第125図1、5のような土器に縄文が施文されることはおそらく稀であるが、後者の第124図32～59、第125図2～4、6～43のような土器は縄文を施文する場合が通常である。後者は細密沈線文が縄文のかわりであることから、様々な器形、形態の土器に及んでいる。これまで土器を形態別に分類してきたので、普通なら各分類に置くべきかもしれないが、細密沈線文の土器については分散をさける意味でまとめて挿入を構成し、第11類として記述する。時期的には安行3b式が主体であるが、一部安行3c式を含むと思われる。

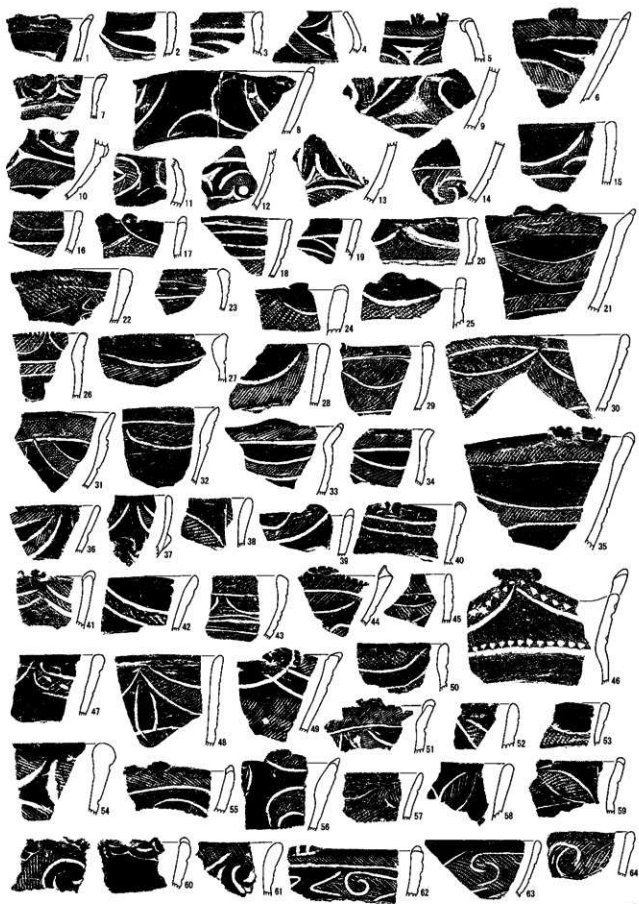
A (第124図1～31、第125図1、5)

細密沈線文特有の深鉢形土器である。いくつかのタイプがある。

第124図1～25、第125図1は胴部が張り、口縁部が内湾気味、もしくは直立気味に立ち上がる単純な形態の深鉢形土器である。口縁部には横線を巡らせ、体部には幾何学的文様を施すことが多いが、第125図1は横線のみである。口唇部に刻みを施すもの(第124図1～6)、沈線に沿って刺突を施すもの(第124図7、8、18、19)、刺突を充填するもの(第125図1)など、刻みや刺突の有無がある。また、口縁部に細密沈線文を施文するものと無文帯とする



第118圖 土器 (28)



第119图 土器 (29)



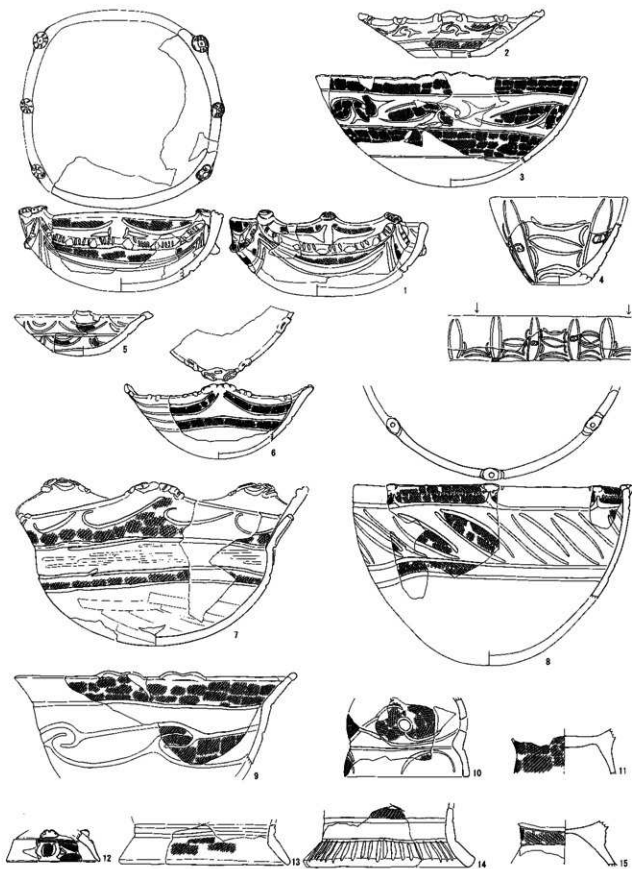
第120回 土器 (30)



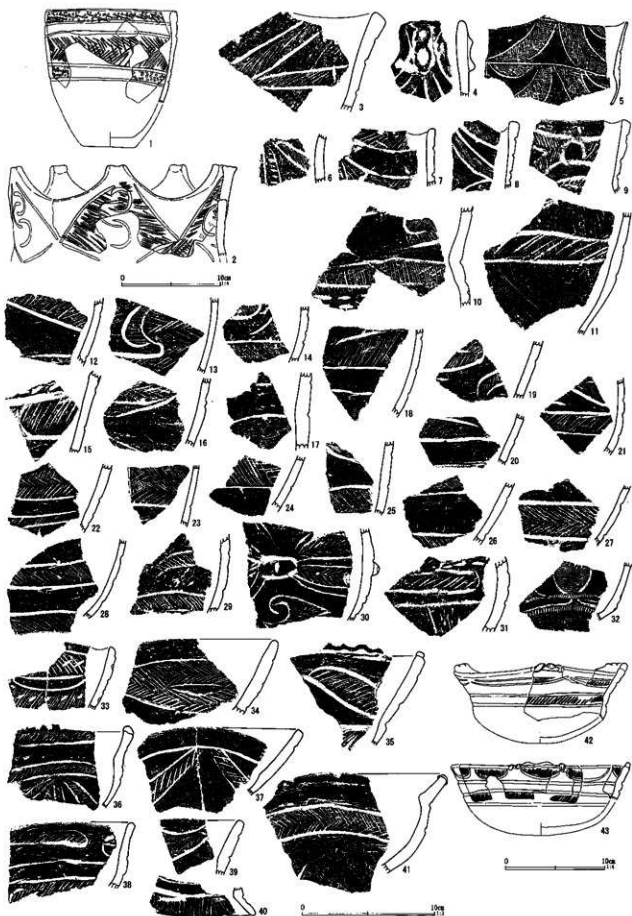
第121图 土器 (31)



第122圖 土器 (32)



第123图 土器 (33)



第125图 土器 (35)

もの(第124図5、10、11、14、15)がある。第125図1は20%の残存度である。

第124図26～31は胴部で括れる形態である。26、27は口縁部に沿って刺突を施す。同一個体かもしれない。28～31は胴部の破片である。

第124図5の一例は薄手のつくりをした波状口縁深鉢形土器である。口辺部の文様は安行式波状口縁の三角形区画文というよりは、先の幾何学的構成による文様施文の手法に近い。

B(第124図32～59、第125図2～4、6～43)

細密沈線文を縄文の代わりに施した土器である。

第124図32～41、46は第6類の胴部が張り、口縁部付近で「く」の字状に強く屈曲し、口縁部が外傾して立ち上がる形態の深鉢形土器の縄文を細密沈線文に置き換えたものである。

第124図42～45、47～59は各種の平口縁、波状口縁深鉢形土器である。横線、弧線、斜沈線を施す。

第125図2～4、6～9は第2類、第3類の波状口縁深鉢形土器の縄文を細密沈線文に置き換えたものである。第125図2は15%の残存度である。

第125図10～32は深鉢形土器の胴部破片である。

第125図33～39、41～43は弧線文、横線を施す浅鉢形土器である。第125図40は台付鉢形土器の台部である。42は20%、43は30%の残存度である。

第12類(第126図～第152図)

紐線文土器を一括する。

紐線文土器は口縁部の文様が沈線によるものか、紐線によるものかという区別がある。

その他にも安行1式のように口縁部が直立する形態から安行2式のような内湾する形態への変化がある。また、晩期に入ると条線が明瞭なものから条線が消失する変化がある。大宮台地では安行3a式でこうした変化が生じるようである。

時間軸だけでなく口辺部の文様があるものについては弧線文を施すものか直線文を施すものかといった地域的な差異もある。また、分散化するのをさけるため口辺部の文様に縄文を施文するものはまとめ

て掲載するようにした。

第126図～第148図は口縁部である。

口縁部の形態は、第126図、第127図、第135図の一部が口縁部直立の形態、その他は内湾する形態が多数を占める。

口辺部の文様については第126図から第137図が文様のないもの、第138図から第148図が文様のあるものである。文様のないものは文様のある個体の文様のない部位である場合もあるのでこの分類は必ずしも排他的ではない。当地域では安行1式の口縁部が直立する形態の土器には、口辺部の文様は未発達である。そこで、文様のないものからあるものの順で便宜的に挿図全体を構成した。また口辺部の文様は弧線文と直線文の2者があるので、それぞれ弧線文、直線文の順に構成した。

次に、条線の有無である。これも条線は徐々に不明瞭になっていくので、はっきり2分できる性格のものではない。第126～133図、第135図56～66、第136図、第137図の大部分、第138図～第141図、第146図の一部、第147図1～23が条線の認められる土器である。

最後に紐線を用いるか、紐線を用いず沈線や点列を施す土器なのかという区別についてふれる。第126～134図、第135図1～55、第138図、第139図、第142～143図、第144図1～38、第147図1～11、24～41、第148図1～22は紐線を用いず、沈線や点列を施す土器である。また、第135図56～66、第136図、第137図、第140図、第141図、第144図39～48、第145図、第146図、第147図12～23、第148図23～47は紐線を施す土器である。

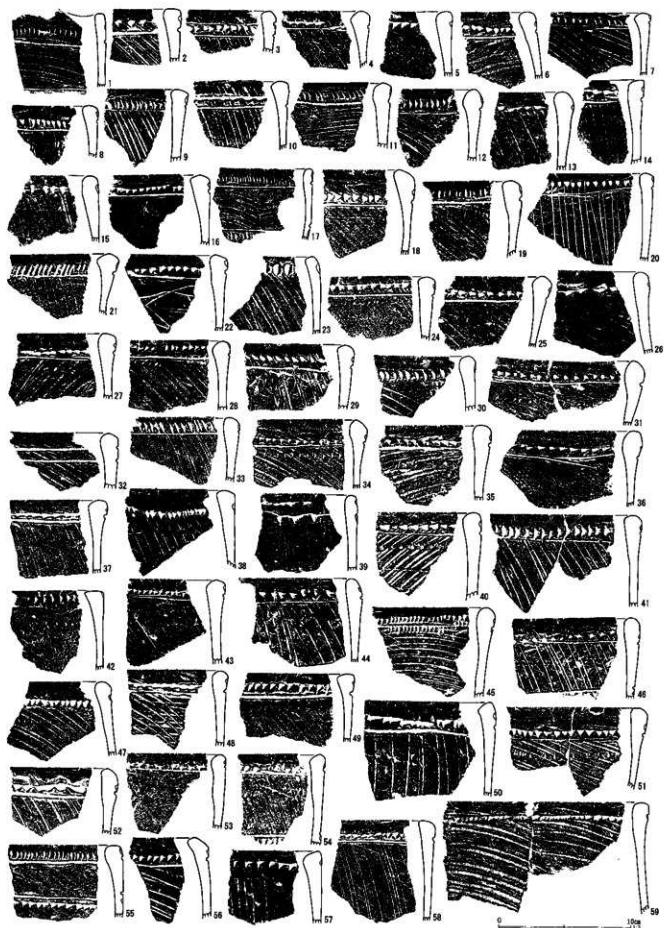
挿図別に土器の内容についてふれておく。

第126図、第127図は条線を施文、口辺部の文様がないもので、紐線を施さず口縁部に沈線、点列を施す土器である。口縁部は直立気味に立ち上がる形態である。安行1式を主体とする。

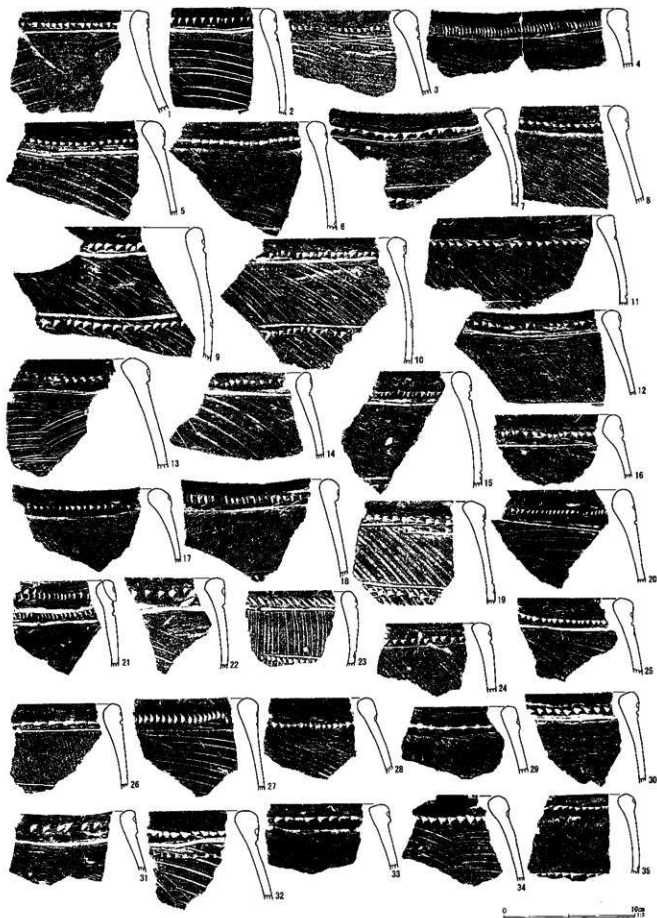
第128図～第133図も条線を施文する土器で、口辺部の文様がなく、紐線を施さず口縁部に沈線、点列



第126图 土器 (36)



第127圖 土器 (37)



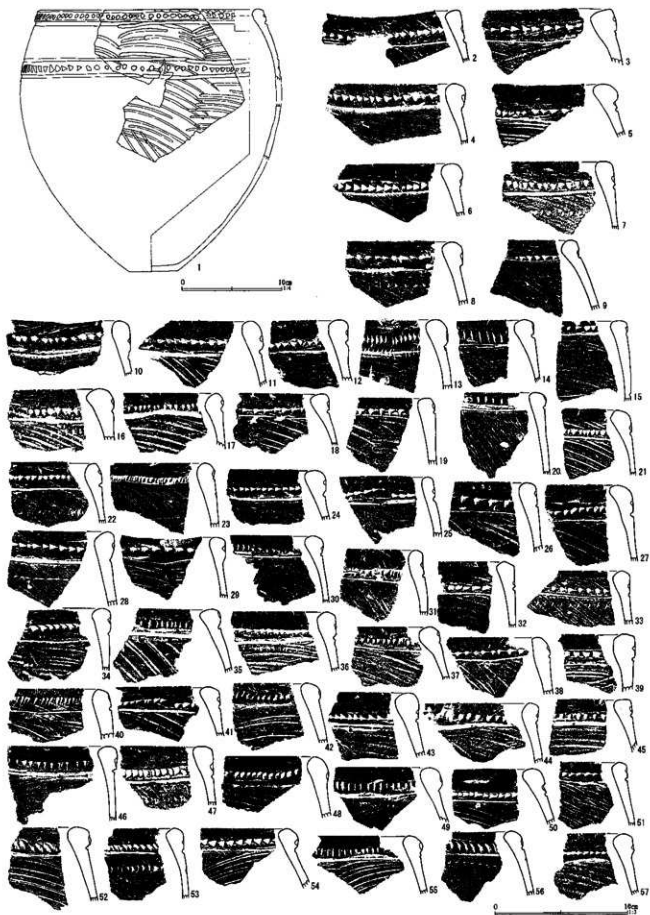
第128图 土器 (38)



第129图 土器 (39)



第130图 土器 (40)



第131图 土器 (41)



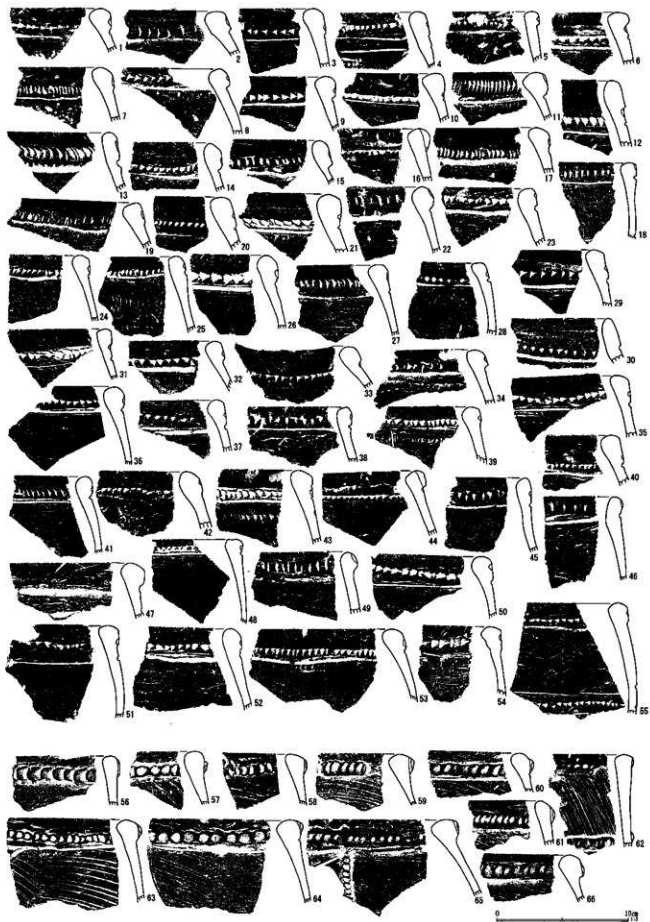
第132圖 土器 (42)



第133圖 土器 (43)



第134圖 土器 (44)



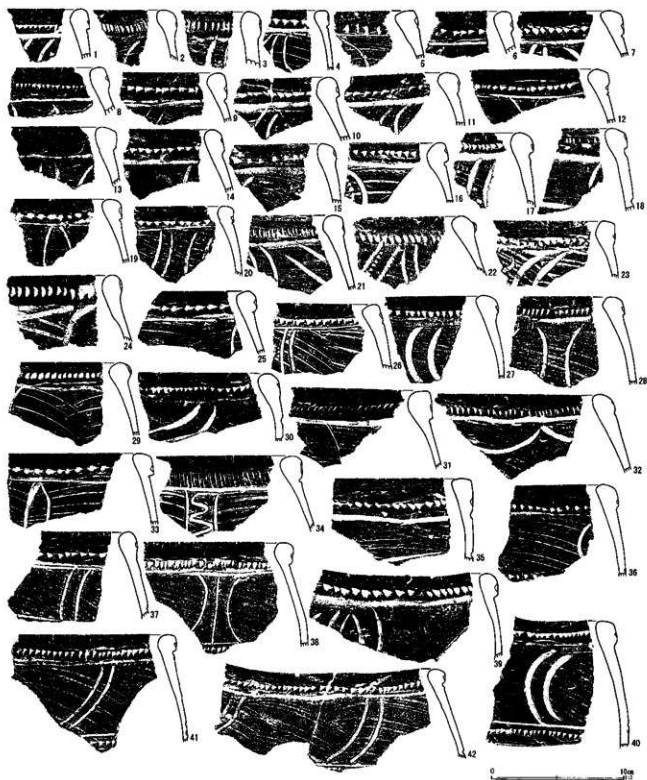
第135图 土器 (45)



第136图 土器 (46)



第137圖 土器 (47)



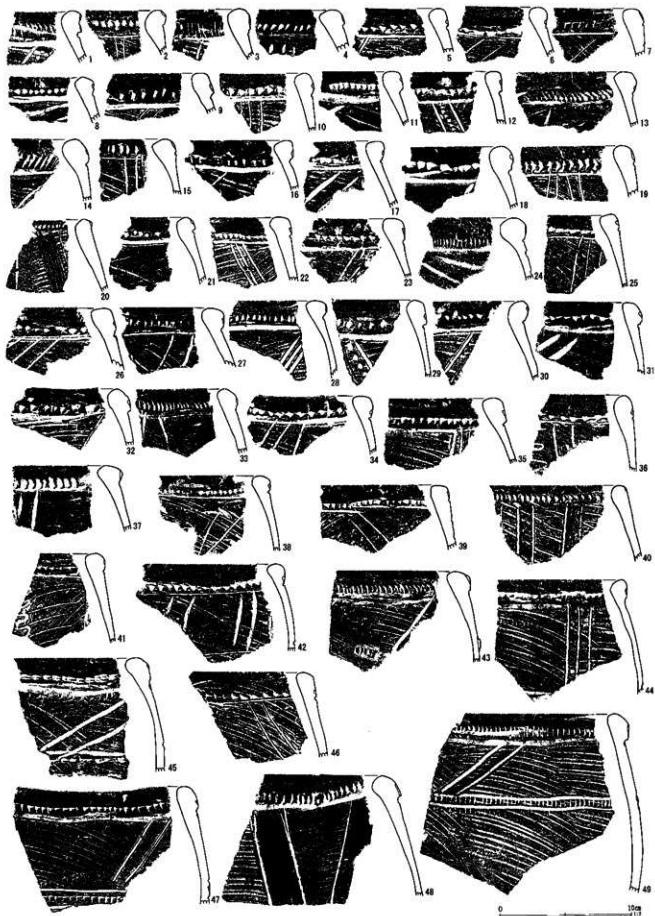
第138図 土器 (48)

を施す土器である。口縁部は内湾気味に立ち上がる形態である。安行 2～3 a 式が主体を占める。第131図1は10%の残存度である。

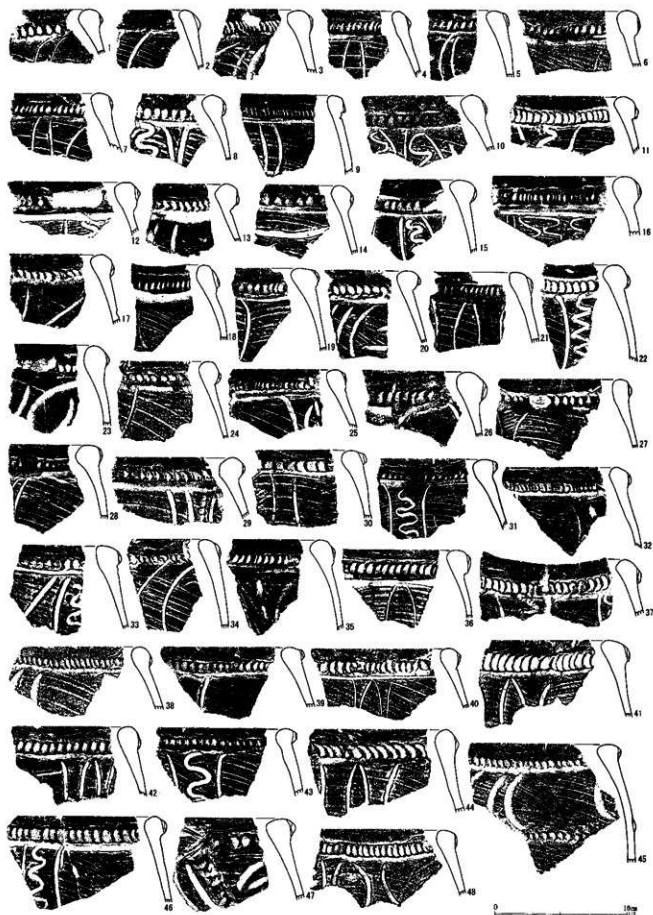
第134図、第135図 1～55は条線が消失した段階の土器である。口辺部の文様がなく、紐線を施さず口

縁部に沈線、点列を施す土器である。口縁部は内湾気味に立ち上がる形態である。安行 3 a～3 b 式。

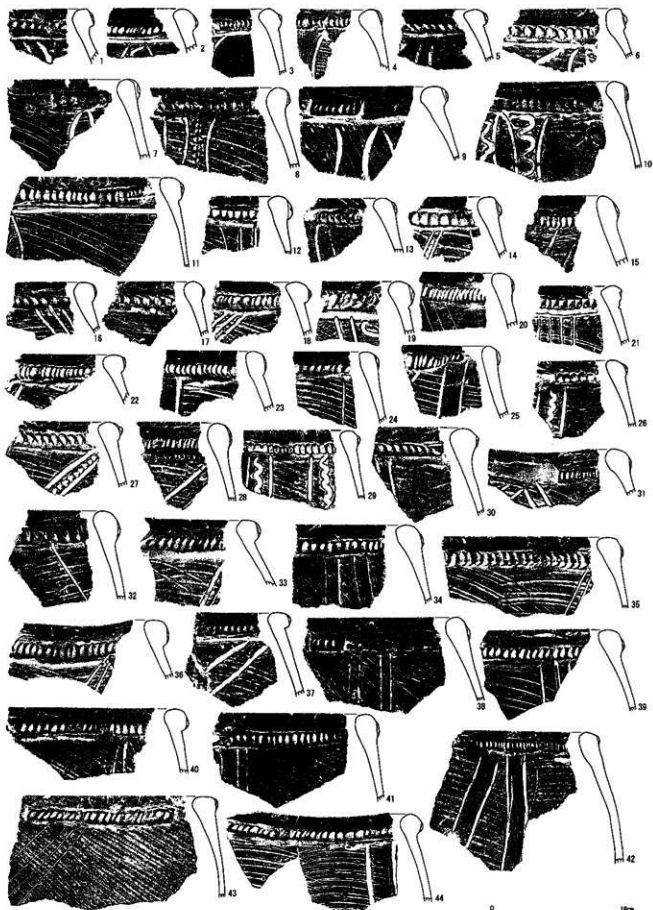
第135図56～66、第136図、第137図は口辺部の文様がなく、紐線を施す土器である。第135図56、62は口縁部が直立気味に立ち上がる形態の土器で、安



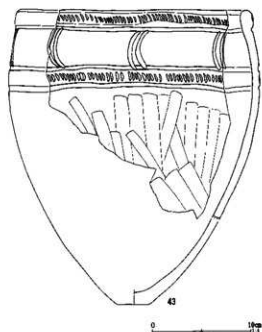
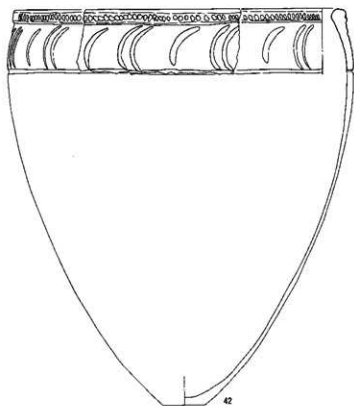
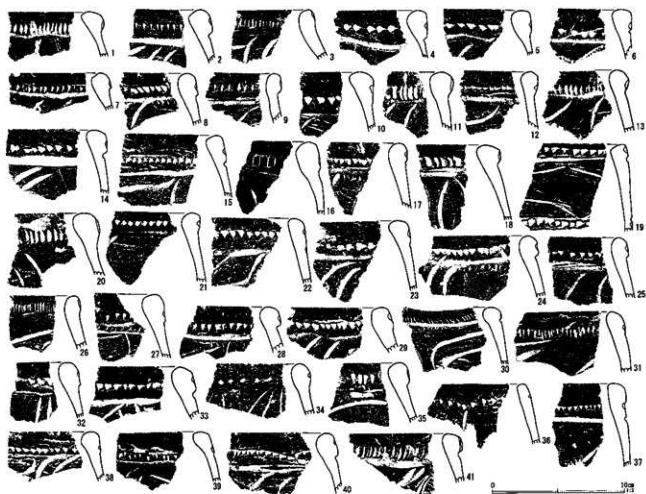
第139回 土器 (49)



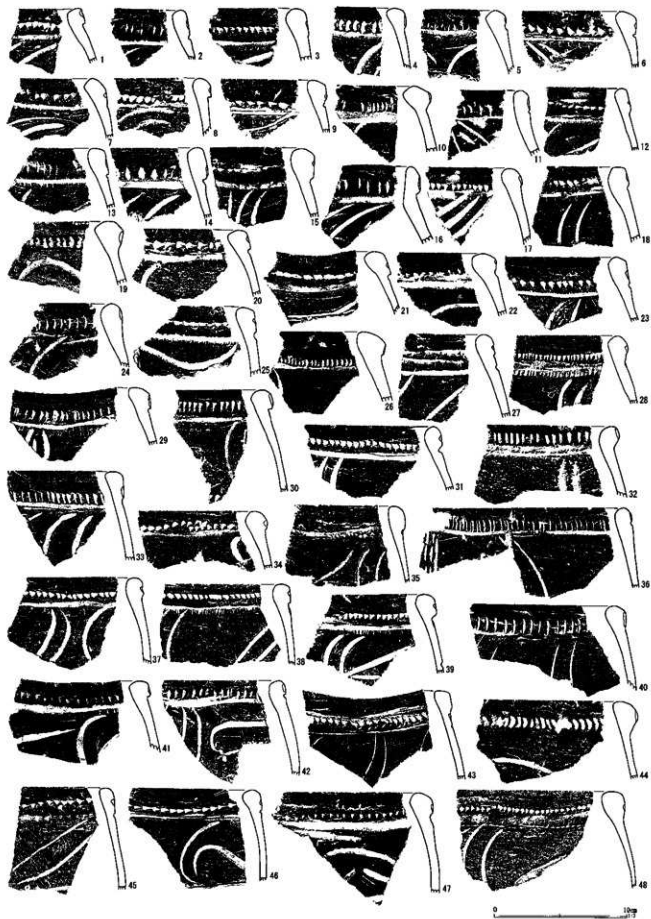
第140图 土器 (50)



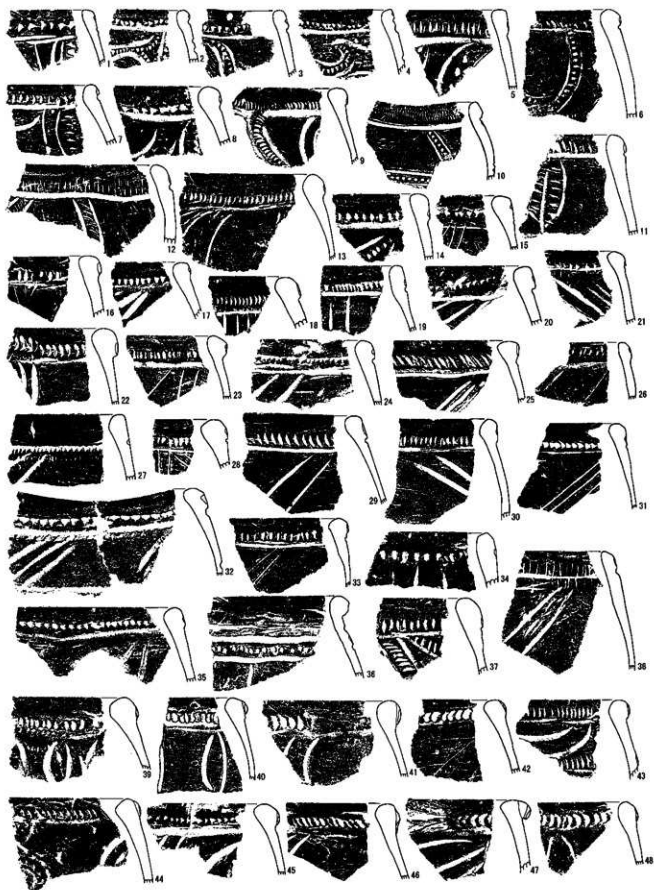
第141图 土器 (51)



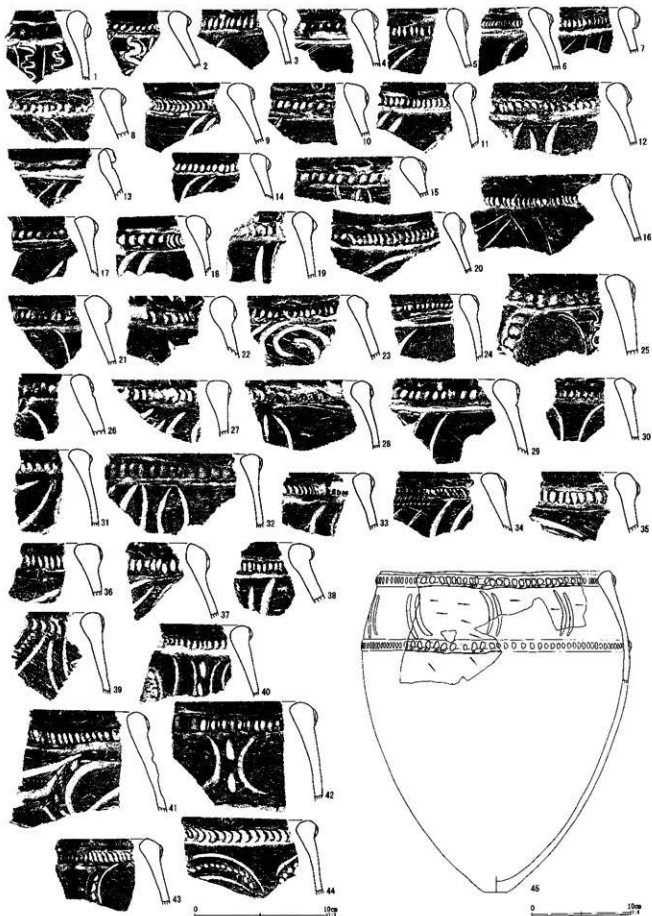
第142圖 土器 (52)



第143图 土器 (53)



第144图 土器 (54)



第145圖 土器 (56)

行1式と考えられる。

第135図57～61、63～66、第136図、第137図1～50は口縁が内湾する形態で、条線を施す土器。安行2～安行3a式が主体を占める。

第137図51、52は同様に口縁が内湾する形態であるが、条線が消失する段階の土器である。安行3a～安行3b式。

第138図、第139図は条線を施し、口縁部が内湾する形態の土器で、口縁部に文様を施す土器である。紐線を施さず口縁部に沈線、点列を施す土器である。安行2～3a式である。第138図は弧線文、第139図は直線文を口縁部に施す。

第140図、第141図は条線を施し、口縁部が内湾する形態の土器で、口縁部に文様を施す土器である。紐線を施す。安行2～3a式である。第140図、第141図1～13は弧線文、第141図14～44は直線文を口縁部に施す。

第142図、第143図、第144図1～38は条線が消失した段階の土器で、口縁部が内湾する形態の土器である。紐線を施さず口縁部に沈線、点列を施す土器である。安行3a～3b式である。第142図、第143図は弧線文、第142図1～15は弧線文と列点、16～36は直線文、37、38は直線文と列点を口縁部に施す。第142図42は10%、43は20%の残存度。

第144図39～48、第145図、第146図は口縁部が内湾する形態の土器である。紐線を施す。安行3a～3b式である。第144図39～48、第145図は弧線文、第146図は直線文を口縁部に施す。第144図39、第145図40～44は弧線文間に列点を施す。第145図45は10%の残存度である。大部分は条線がないが、第146図27、29には条線が認められる。

第147図、第148図には口縁部の文様の沈線間に縄文を施文するものをまとめた。いずれも口縁部が内湾する形態の土器である。安行3a～3b式である。第147図1～11、24～41、第148図1～22は紐線を施さず、第147図12～23、第148図23～47は紐線を施す。第147図1～14は条線を施す。第147図15～23は条線

が不明瞭、第147図24～41、第148図は条線が消失した段階の土器である。

第147図1～9、12～19、21、22、29、33は単節RL、第147図10、11、20、23～28、30、31、32、34～41は単節LRの縄文を施す。第147図41は10%の残存度である。

第148図1、2、9、18～20、24、25、27、29、30、35、36、39、40、42、44、45は単節RL、第148図3～8、10～17、21～23、26、28、31～34、37、38、41、43、46は単節LRの縄文を施す。第148図47は10%の残存度である。

第149図～第152図は紐線文土器の胴部破片である。第149図、第150図は紐線を施さない。第151図、第152図は紐線を施す。

第149図は条線を施文する土器で口縁部に文様がないもの。横線や点列が巡る。

第150図1～30は条線が消失傾向にある。6、13、14、22には部分的に条線が認められる。一部に口縁部の文様が施される。第150図31～46は1条の横線と点列、47～60は点列のみ巡る。37、41、60などは条線が認められないが、それ以外は条線を施す。

第151図1～40は条線施文、41～52は条線を施さない。51は豚鼻状貼付を施す。

第151図53～62、第152図は口縁部に各種の文様を施す土器である。このうち、第152図16、19～24、26～28、30～33、43～47、50、53、55～57には条線が認められない。

第152図48～57は縄文を施す。48、49、51、52、54は単節RL、50、53、55～57は単節LRの縄文を施す。

第13類 (第153図～第157図)

粗製土器のうち、口縁部の裝飾が簡素なもの、ないものを一括する。晩期安行式である。

A (第153図1～22、第157図)

口縁部に沈線、段差が巡り、体部に条線を施すもの。第157図1～13は1～多条の横線を口縁部に沿って巡らせる。条線施文の後に横線は施されている。



第146図 土器 (56)

B (第153図23~60、第154図、第155図1~36)

Aと同様に口縁部に沈線、段差が巡るが、条線は消失しているもの。ケズリの調整がなされる。

第155図32は輪積痕を残しており、口縁部を肥厚させる方法がよくわかる。33は刻みのある円形の貼付文を施す。貼付文の下に直線文を垂下させ、沈線間に刻みを施すようである。弧線文も施す。34は縦長の貼付文、35、36は口唇部に貼付文を施す。

C (第155図37~59、第156図1~21)

輪積みの粘土帯最上段を隆帯状に巡らせる土器である。第155図37~59、第156図1~9の口縁部は無文、第156図10~12、14、15は指頭による窪み、第

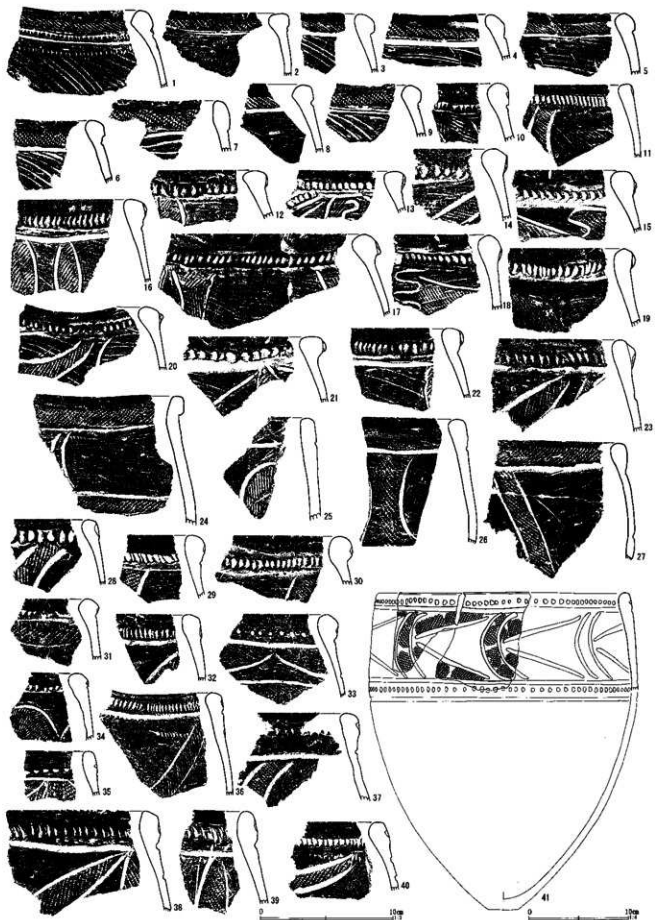
156図13、16~21は刺突文を施す。第155図38、42、48、第156図3、4、17、21は輪積痕を残すが少数派であり、他はケズリによる調整痕を残す。

D (第156図22~48)

口縁部の装飾はなく、条線のみを施すもの。横位、斜位に条線を施している。

第14類 (第158図~第162図、第163図1~13)

紐線文土器の構成を引き継ぐ土器を一括する。「安行3c式小豆沢型副文様帯土器群」と呼称される土器である(鈴木1993)。括れ部の下に副文様帯のない第161図2、3のような土器もここにまとめた。破片のため、括れ部の横線、列点文以外の文様



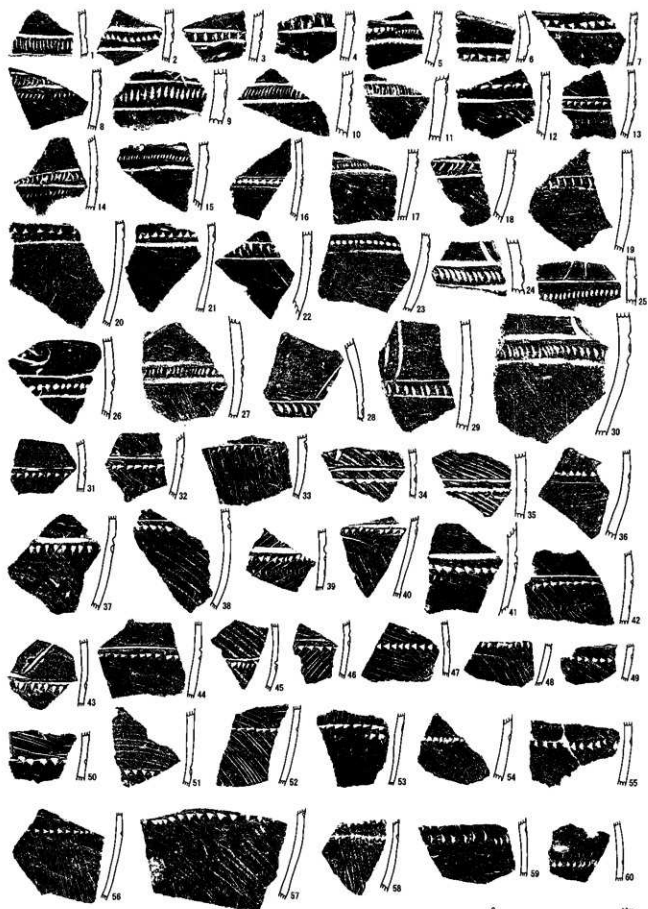
第147图 土器 (67)



第148图 土器 (58)



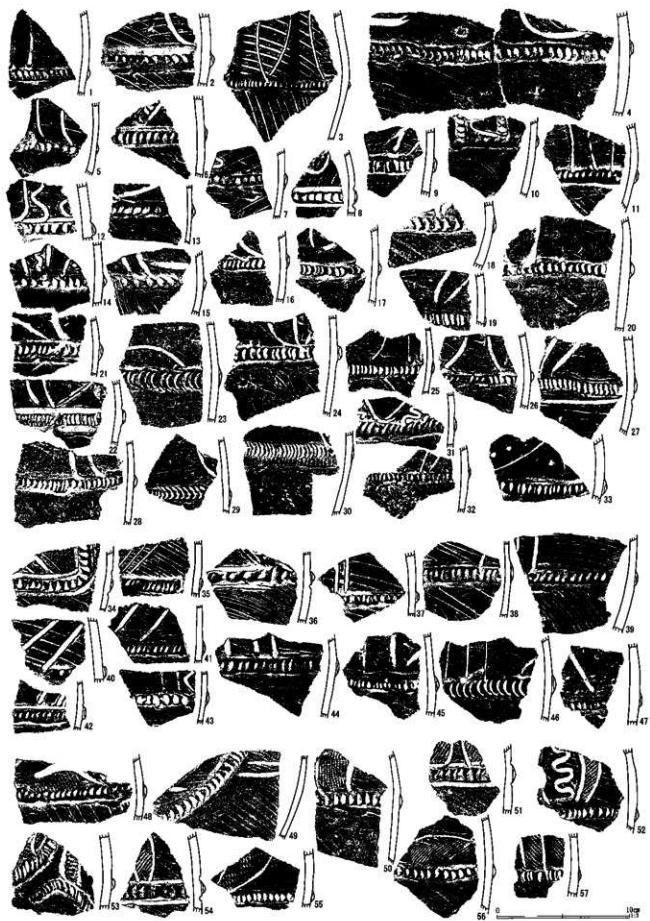
第149圖 土器 (59)



第150图 土器 (60)



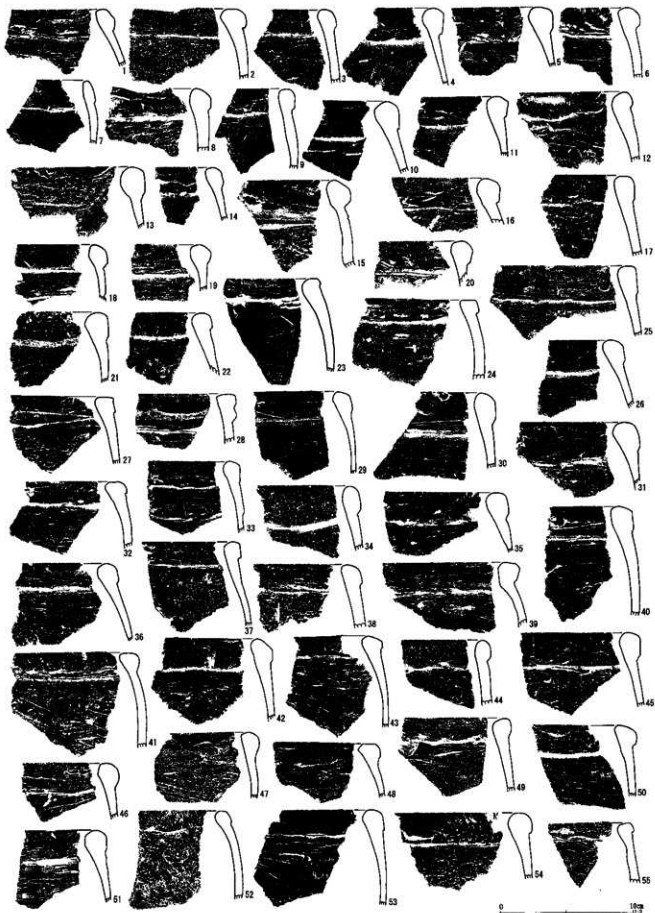
第151图 土器 (61)



第152圖 土器 (62)



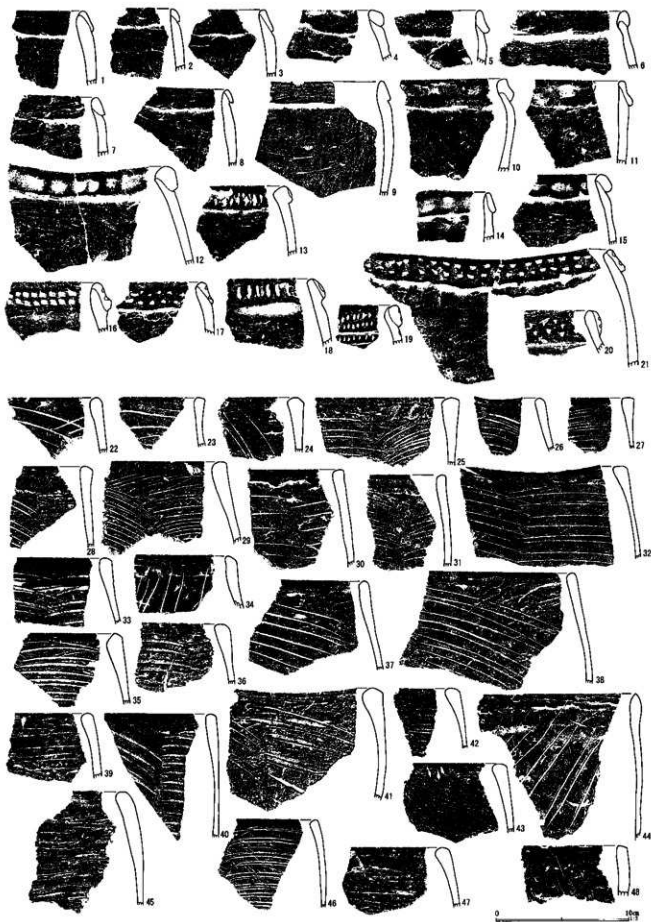
第153圖 土器 (63)



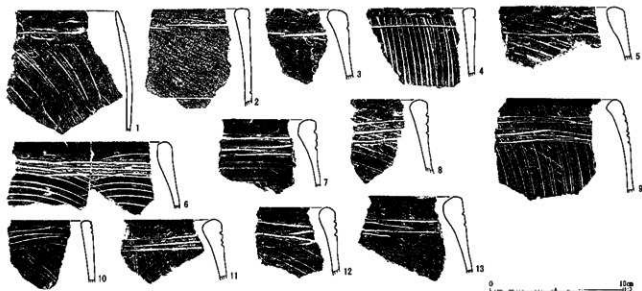
第154圖 土層 (64)



第155号 土器 (65)



第156号 土器 (66)



第157図 土器 (67)

の有無が不明なものも多く、副文様帯以外の文様が施文されるものもあるかもしれない。

第158図、第159図は紐線文土器の構成を強く残したものの。この中にはやや口縁部が肥厚するものもあり、安行3b式を少量含んでいるかもしれないが安行3c式が主体と思われる。

第158図1～30、34は沈線のみを施し、列点文のないもの。いずれも弧線文を施す。

第158図31～33、35～48、第159図1～45、47、第160図1～4は口縁部に列点文を施すものである。第159図46は口縁部に波状の沈線文を施す。口縁部が直立気味になるものが認められる。第159図47は10%の残存度である。

第160図5～46、第160図、第161図は口縁部に無文部があるもの。口縁部は直立ないしは外傾する。第160図5～46、第161図1～21は横線間に列点文を施す。第161図12～21は複列に列点文を施す。第161図22～32、第162図1～46は1条ないしは2条の横線を施す。第160図46、第161図1、2は10%、3は15%の残存度である。

第163図1～13は胴部の破片である。1～11は単列、12、13は複列に列点文を施す。

第160図～第162図、第163図1～13は安行3c式である。

第15類 (第163図14、16、17、第164図、第165図) おもに沈線文や列点文を施す安行3c式の波状口縁深鉢形土器を一括する。

A (第163図14、16、第164図、第165図1～5) 三角形構成の土器を一括する。

第163図14、16は波状5単位の土器である。波頂部下に貼付文を施す。14は沈線間に列点文、16は沈線のみを入組文を口辺部に施す。10%の残存度。

第164図1～5は波頂部の破片で、波頂部下に縦長の貼付文を施す。1は沈線文のみ、2～5は沈線文間に列点文を施す。

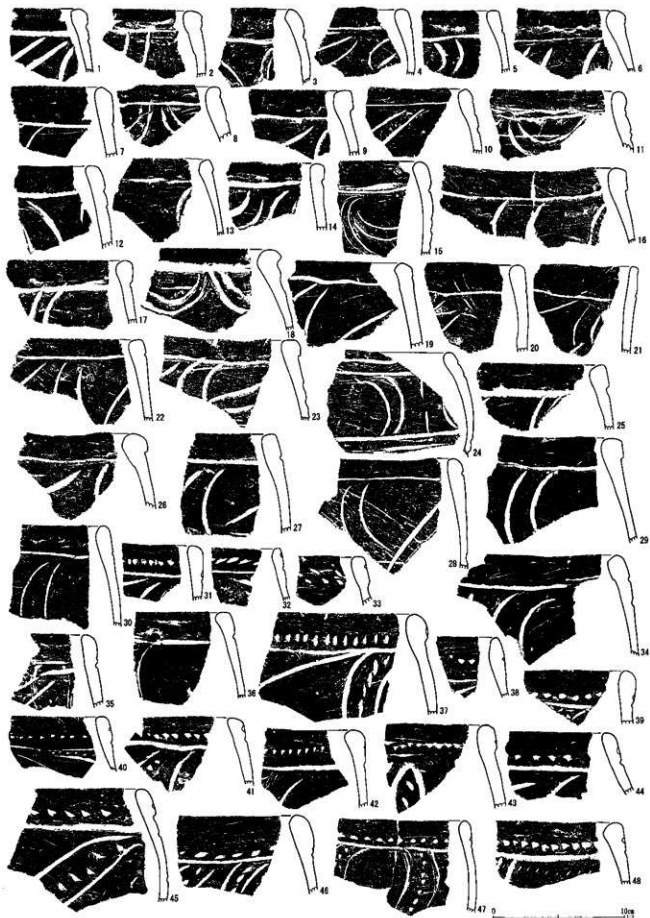
第164図8～11は沈線文のみ、第164図6、7、12～17、25は沈線文間に単列の列点文、第164図18～24、26～44、第165図1～5は沈線文間に複列の列点文を施す。

B (第163図17、第165図6～39) 菱形構成の土器を一括する。

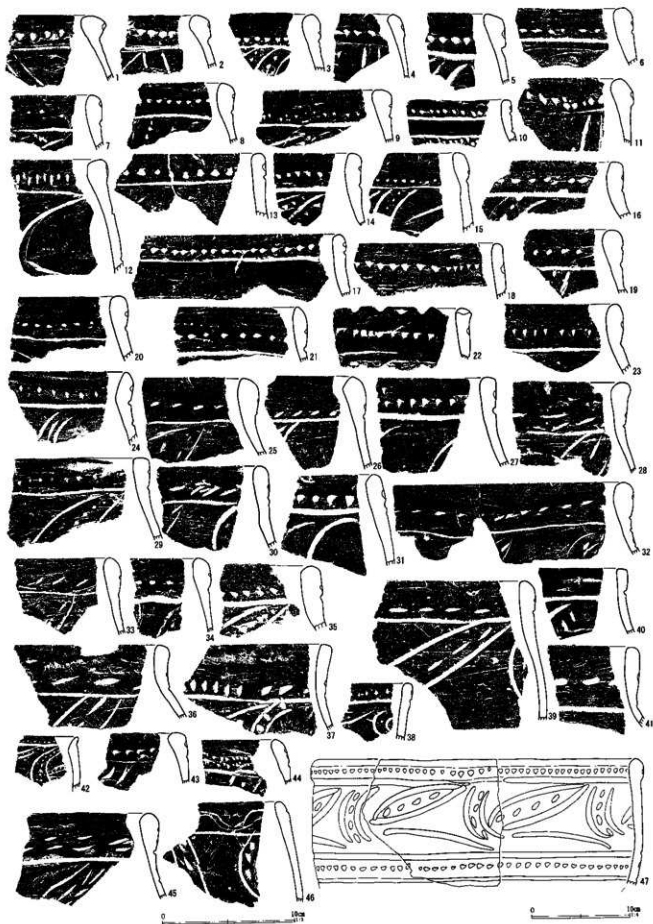
第163図17は波状5単位の土器である。波頂部下に貼付文を施す。70%の残存度である。

第165図6～19は口辺部に菱形構成の文様を施す。8、9は不明であるが、他はいずれも菱形文内部に弧線文を施す。第165図6～11は沈線文のみで構成する。12～19は沈線と単列の列点文を施す。

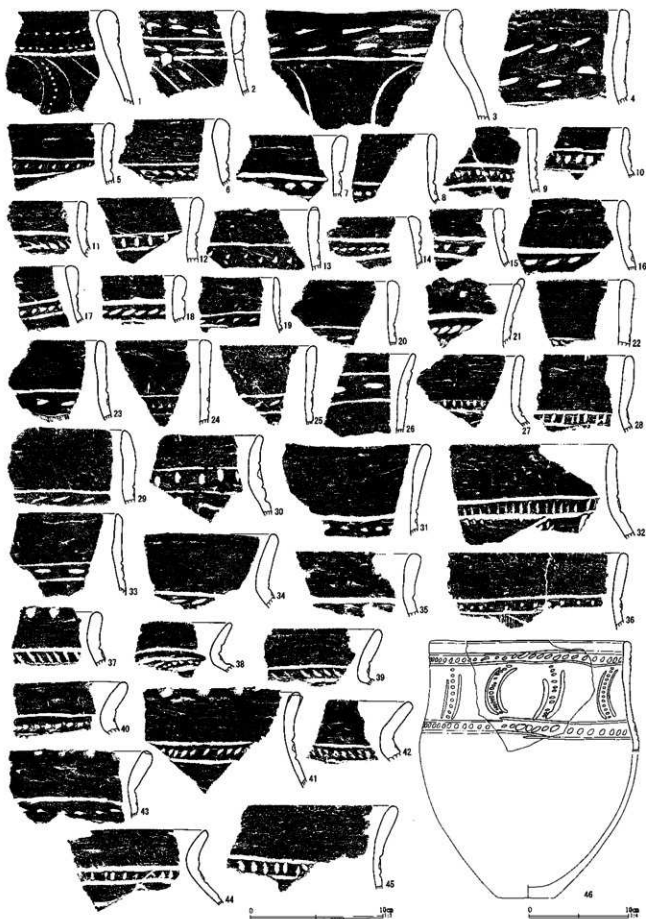
第165図26～39は菱形文内部に縦線の沈線を施す。



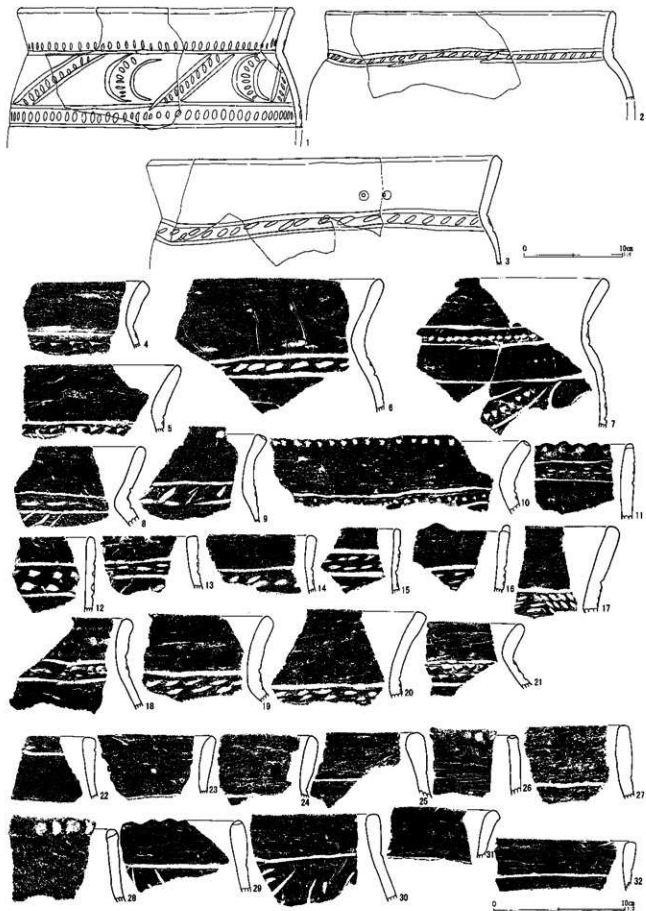
第158圖 土器 (68)



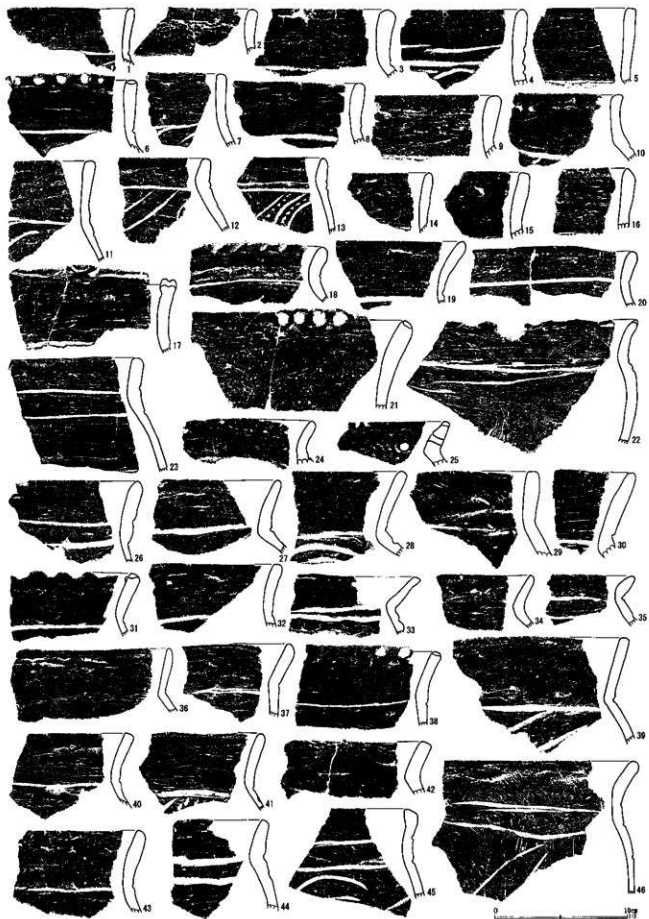
第159图 土器 (69)



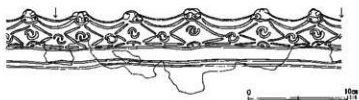
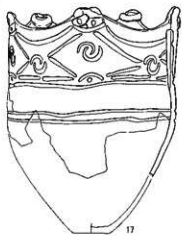
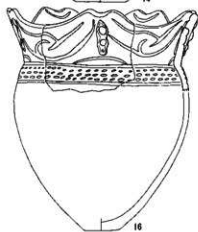
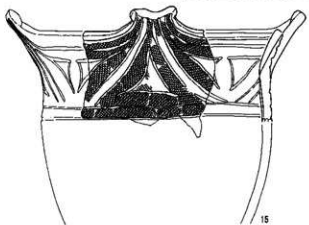
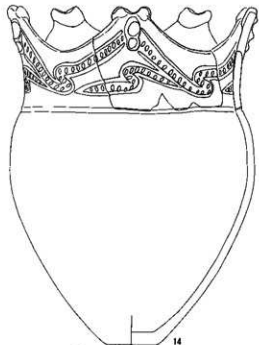
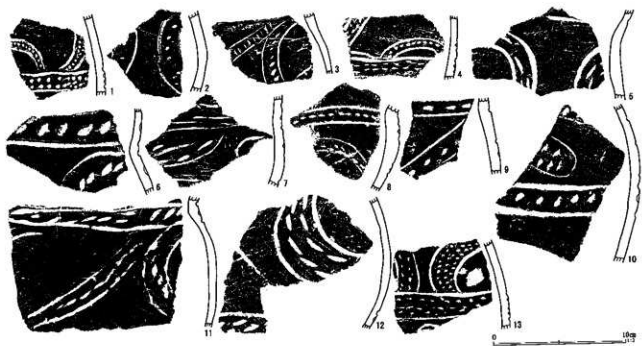
第160圖 土器 (70)



第161图 土器 (71)



第162図 土器 (72)



第163图 土器 (73)

26～29、31、33、34、36は単列に、30、32、35、37～39は複列に列点文を施す。

第165図24は弧線文によって、横位に菱形構成を連続させる。第165図20～23、25も菱形文を構成すると思われる。

C (第165図40～48)

その他の波状口縁深鉢形土器を一括する。

第165図40～44は部位が限られ、文様の全形が不明であり、ここにまとめた。第165図45は横線、46は斜沈線と横線間に列点文を施す。47は口縁部に沿った弧線を施す。48の体部は無文であるが波頂部の裝飾が本類と同様のためここにまとめた。

第16類 (第166図～第173図、第174図1～16)

沈線文、列点文を施す平口縁深鉢形土器を一括する。各種の形態の土器がある。

A (第166図1～28、36～43、第172図2)

胴部がはり、口縁部付近で屈曲して立ち上がる形態の土器。文様帯が括れ部下にあるもの。第166図1～28は第6類の構成を継承する土器である。第166図8～10、13～15、25などは次第に屈曲が弱まる傾向にあるが、横位に連続する入組文を施すものはここにまとめた。第172図2は安行3c式に見られるステッキ状の文様の系統をひく土器である。10%の残存度である。第166図36～43は同様な形態の土器で、弧線文を施すものである。38～43は先の第15類Bと似た文様構成の土器である。本類は安行3c式が主体である。

B (第166図29～35、第167図1～19)

口縁部が内湾して立ち上がる形態のもの。第166図29～35は第4類からの系統をひくものである。少数であった。棒状の沈線を施す。第167図1～19は文様が明確な土器が少ないが、横位に連続する文様を施したもの。安行3c式である。

C (第168図～第171図、第172図1、4～42、第173図、第174図1～16)

口縁部が外傾して立ち上がる形態の深鉢形土器を一括する。口辺部に文様を施す。安行3c式が主体

である。第168図、第169図、第170図1～29は「安行3c式小豆沢型副文様帯土器群」であり(鈴木1993)、紐線土器の文様変化である。

第168図、第169図1～33は紐線土器口辺部に施される弧線文の文様系統をひく。第168図1～14は沈線のみ、第168図15～49、第169図1～33は沈線間に列点文を施す。第169図1は5%の残存度。

第169図34～43、第170図1～29は紐線土器口辺部に施される直線文の文様系統をひく。第169図2のように直線文のモチーフの間に弧線文が施される土器も少なくない。

第169図34～43は沈線のみ、第169図2、第170図1～29は沈線間に列点文を施す。第169図2は10%の残存度である。

第170図30～51、第171図、第172図4～14は弧線文を施す土器である。第170図30～51は沈線のみ、第171図、第172図4～14は沈線間に列点文を施す。第170図51、第172図7～14は木の葉状のモチーフを施す。

第172図1は入組文、列点文を施す。30%の残存度である。

第172図15～22は姥山系波状口縁深鉢形土器の菱形に構成する文様の系統をひく土器である。菱形文内部に16は円文、15、17、19～22は縦位の沈線文を施す。

第172図23～42は横位の沈線文を多用する。23、24は沈線のみ、25～42は沈線間に列点文を施す。

第173図は沈線文、列点文による文様の間に三叉文を施す土器である。1～5は列点文を施さず、沈線のみを施す。6～49は列点文を施す。46、47は同一個体である。第174図1～16は口辺部から胴部にかけての破片である。

D (第167図20～39、第172図3)

A～C以外の各種の平口縁深鉢形土器を一括する。第167図20～22、30～33、37～39は各種の沈線文を施す。23～29、34～36は横線と列点を施す。第172図3は細密沈線文の幾何学的な文様構成の系統

をひく土器である。10%の残存度である。

第17類 (第174図17~30)

第14~16類の胴部破片のうち、部位が限られ層属が明確でないものを一括する。いずれも沈線間に列点文を施す。安行3c式である。

第18類 (第175図~第177図)

三叉状入組文を施す安行3d式の波状口縁深鉢形土器を一括する。

第175図は菱形の区画構成で三叉状入組文を施す。菱形の内部には対向する三叉文を施す。10~13は縦位の沈線の内部に列点文を施す。第175図1、3は15%、2は20%の残存度である。

第176図1~16は三角形の区画構成をとると思われる。第176図17~31、第177図1~48は全体の構成が不明なものが多い。

第19類 (第178図~第182図、第183図1~9)

三叉状入組文等を施す安行3d式の平口縁深鉢形土器を一括する。

第178図~第181図は各種の三叉状入組文を施す。

第182図1~7、9、10は口縁部に2条の横線を巡らせ、沈線間に列点文を施す。8は沈線の上位に列点文を施す。

第182図11~20は三叉状入組文と沈線間の列点文を施す。

第182図26~36は沈線間に細沈線を施す。

第182図37~51、第183図1~9は三叉状入組文以外の文様である。第182図37~45、47、48は多条の横線を施す。46、49、50は方形の区画内に弧線を施す。51は曲線的な文様を施す。第183図1、2は楕円形の文様を施す。第183図3~9は矢羽状の沈線を施す。5、9は横線間に施す。9は30%の残存度である。

第20類 (第183図10~32)

第18類、第19類の口辺部から胴部にかけての破片を一括する。三叉状入組文を施している。安行3d式である。

第21類 (第184図~第186図、第187図1~9)

安行3c式から安行3d式の胴部破片を一括する。第184図、第185図は2条の沈線や2条の沈線間に列点文を施して区画した胴部の破片である。区画の下位には弧線文が横位に連続する。

第186図1は弧線文がない土器である。第186図2~5、7は2条の弧線文、6は楕円形文を横位に連続させる。5は弧線文間に列点を施す。第186図8~11は径が復元できたやや大形の破片である。9は5%、8、10、11は10%の残存度である。

第187図1~9は広口壺の胴部破片か。各種の文様を施す。

第22類 (第187図10~17)

壺形土器を一括する。

第187図10は蛇行沈線、斜沈線を施し、沈線間に単節LRの縄文を施す。内部に赤色顔料が付着している。安行3b~3c式である。11は頸部に隆帯と貼付文を施し、その上下に三叉状入組文を施す。12、13は頸部に三叉状入組文を施す。11~13は安行3d式である。14~17は口縁部の破片である。安行3c~3d式であろう。第187図11~17は10%、10は20%の残存度である。

第23類 (第187図18~41、第188図~第190図)

沈線文、列点文を施す安行3b式から3d式の浅鉢形土器を一括する。

第187図18~41は安行3b~3c式の浅鉢形土器である。18~20は口縁部に貼付文を施す。21、22、24~28、32は並行沈線が巡る。23は輪積痕を残す。29~31、33~41は横線、斜沈線、弧線文等を施す。39、41は列点文を施す。

第188図1、2、6、15は沈線文、第188図3~5、7~14、16~41は沈線文、列点文を施す。安行3c式を主体とする。

第188図14は5%、1、4、5、9、13は10%、2は40%、3は20%、6、7、8、12は30%、10は80%、11は25%の残存度である。

第189図1~24は沈線文、列点文を施す。第189図25~30はやや崩れた弧線文を施す。第189図31~42

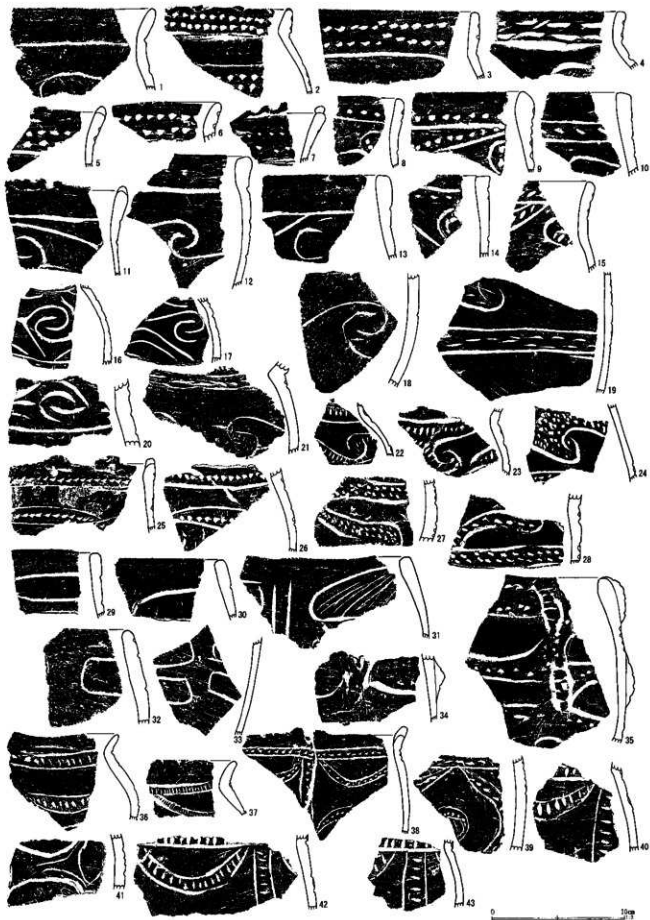


0 10cm

第164圖 土器 (74)



第165圖 土器 (75)



第166圖 土器 (76)



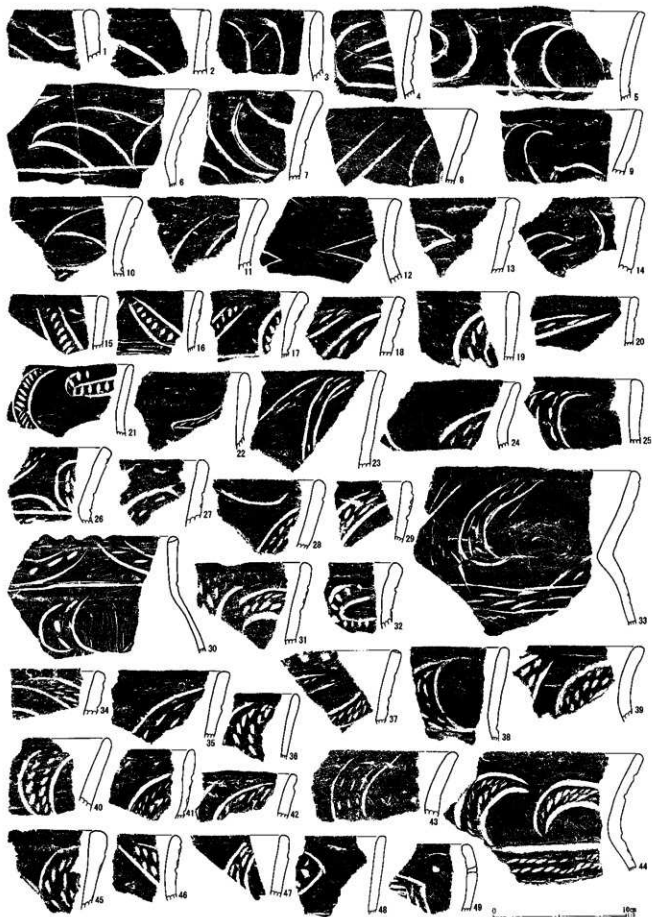
第167図 土器 (77)

は沈線のみで文様を施す。43～48は体部の破片で沈線文と列点文を施す。第189図は安行3c～3d式である。

第190図1～6は三叉状入組文や多条の沈線を施

す安行3d式の浅鉢形土器である。

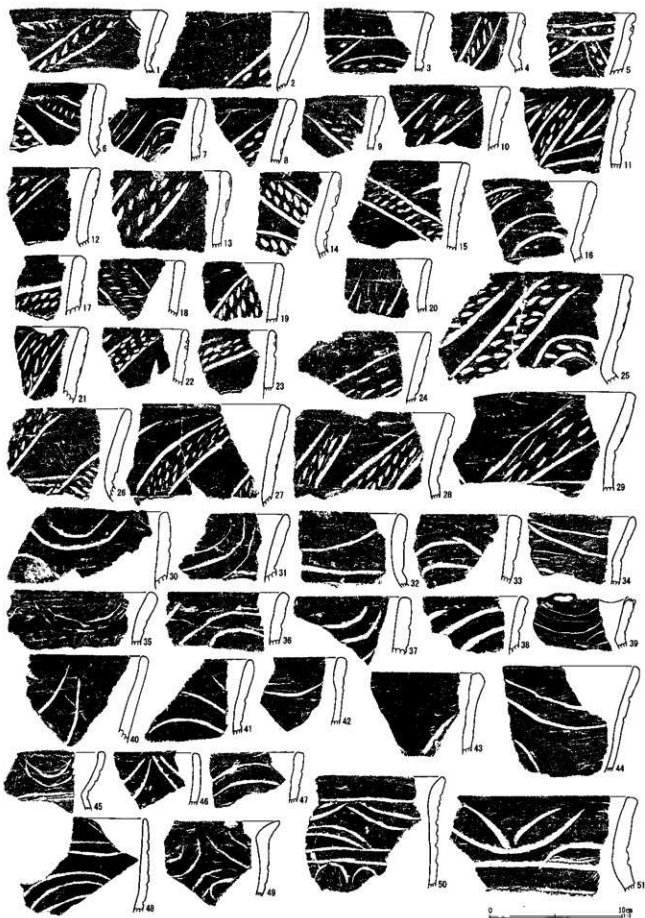
第190図7～37は体部を無文とする浅鉢形土器である。口縁には各種の貼付文等を施す。安行3b～3d式である。



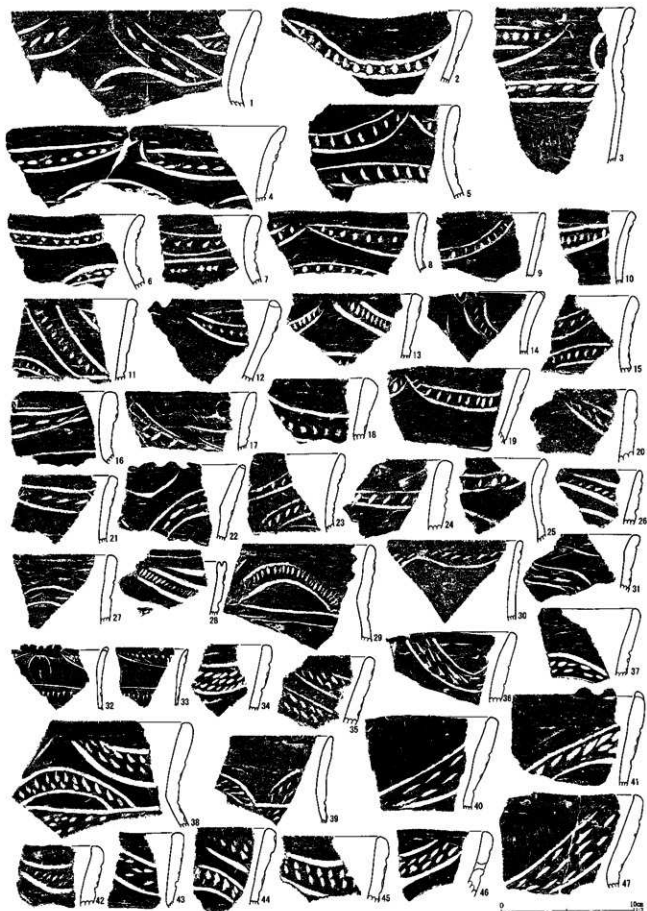
第168圖 土器 (78)



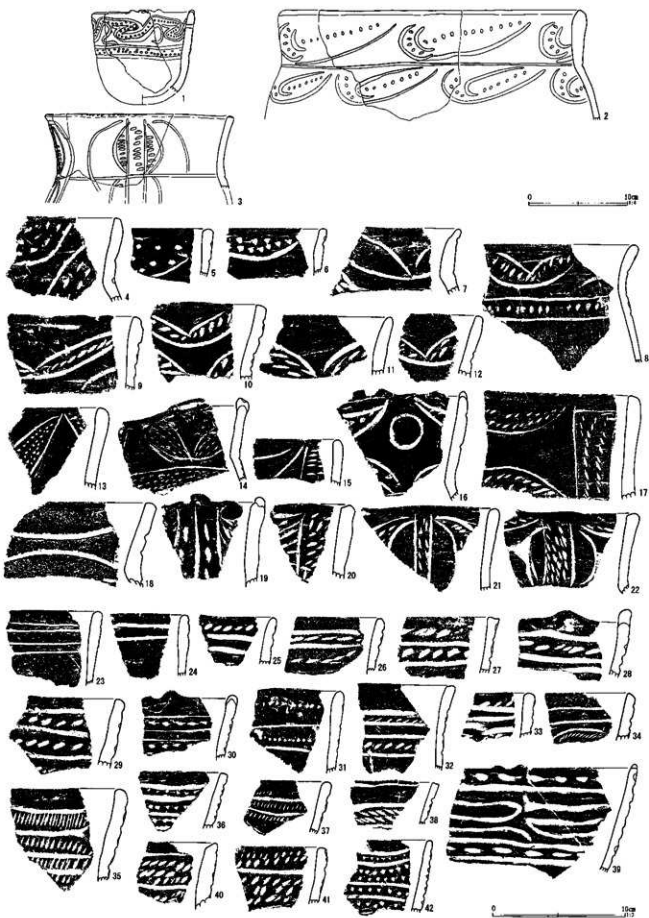
第169图 土器 (79)



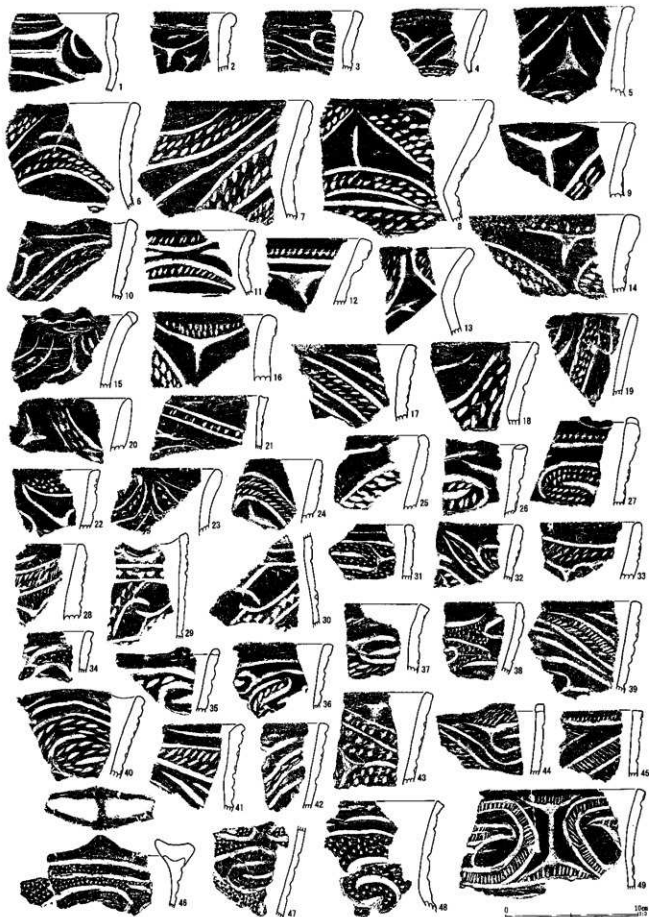
第170图 土器 (80)



第171图 土器 (81)



第172圖 土器 (82)



第173图 土器 (83)



第174図 土器 (84)

第190図1、6は10%、2、4、5、8は20%、3は25%、7は40%、9、10、11は30%の残存度である。

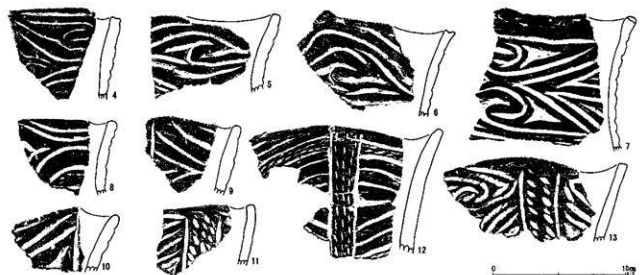
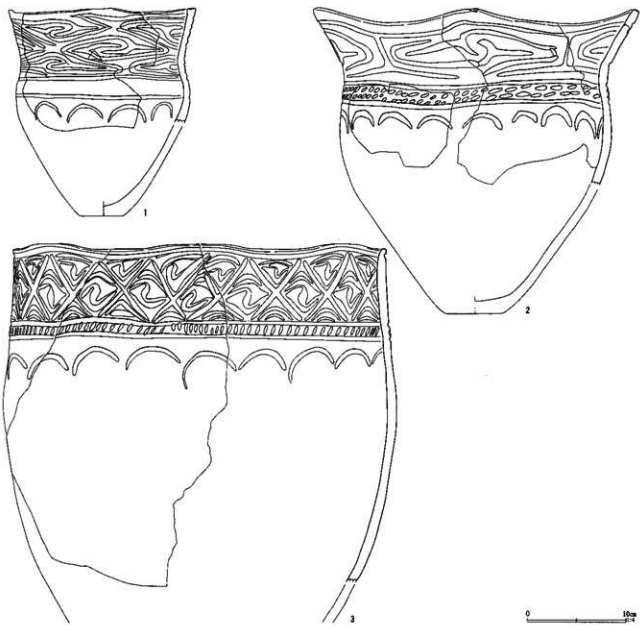
第24類 (第191図、第192図)

沈線文、列点文を施す安行3c式～3d式の台付鉢形土器を一括する。

第191図1、3～5は鉢部の破片である。第191図1は木の葉状の文様、3～5は三又状入組文を施す。

第191図2は鉢部から台部にかけての破片である。弧線文、単節RLの縄文を施す。1、2は安行3c式、3～5は安行3d式であろう。第191図6～9は沈線間に列点文を施す安行3c式の台部である。9は円形の透かしを施す。

第191図10～21は台部と鉢部の連結部付近の破片である。10は三又文と円形の透かし、11、14は円形の透かし、21は三又文の透かしを施す。安行3c～



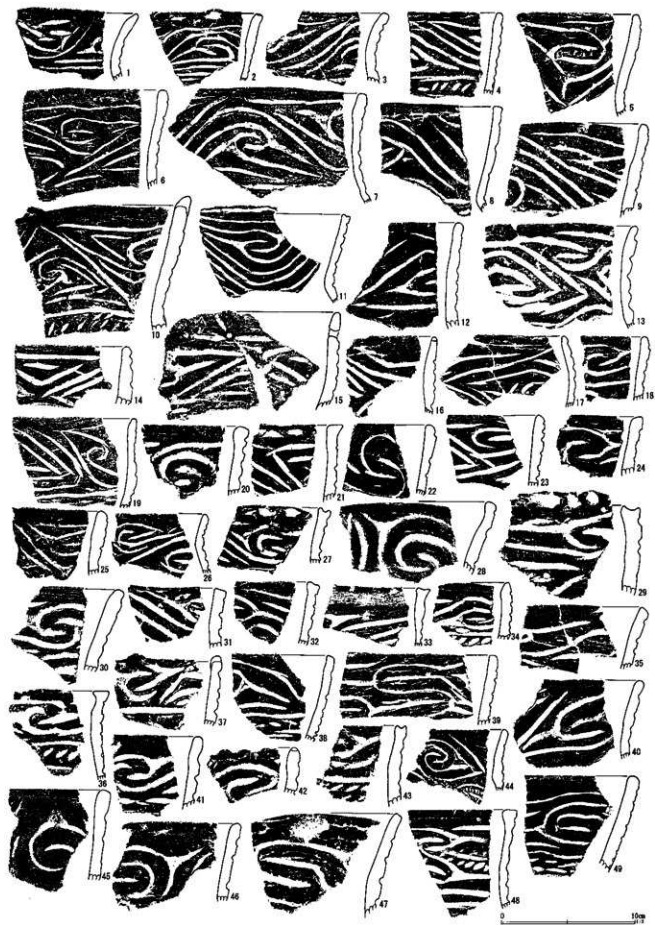
第175圖 土器 (85)



第176圖 土器 (86)



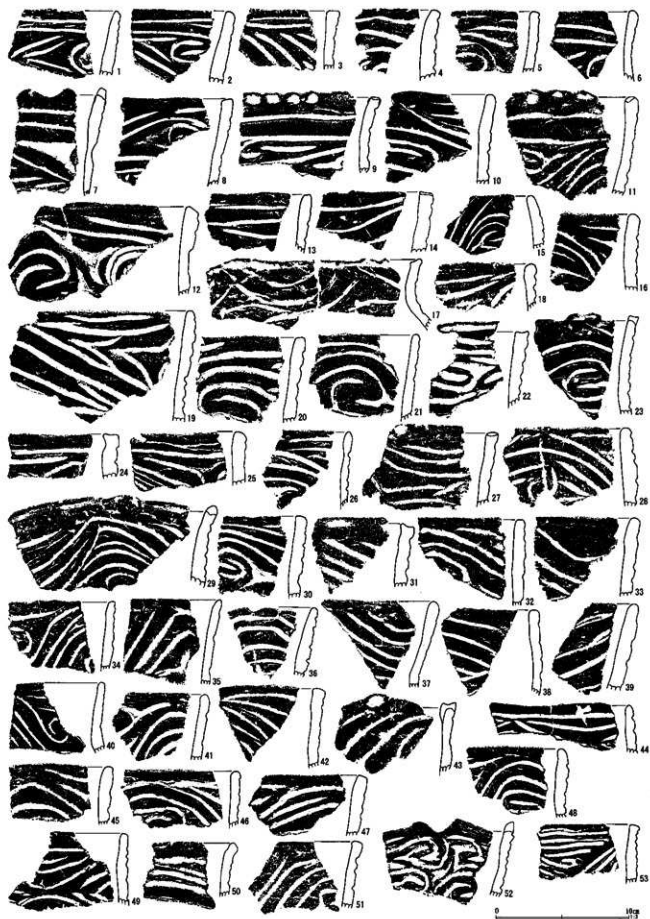
第177圖 土器 (87)



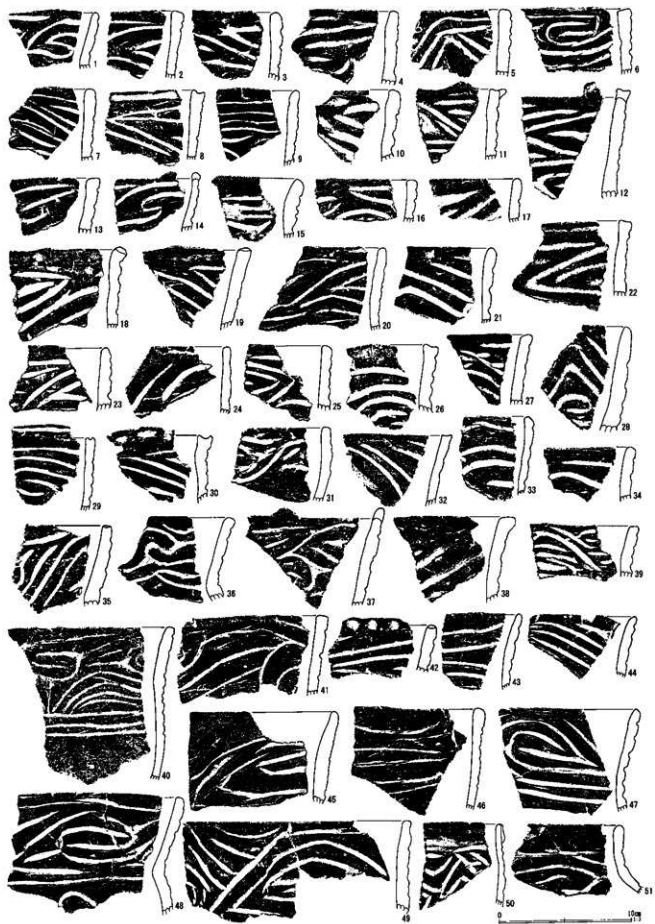
第178圖 土器 (88)



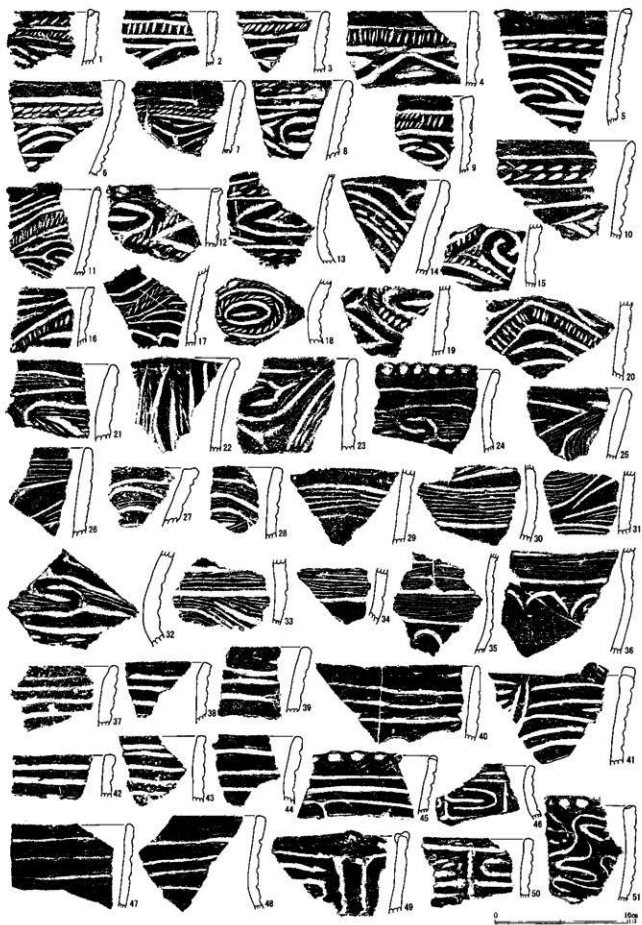
第179回 土器 (89)



第180图 土器 (90)



第181圖 土器 (91)



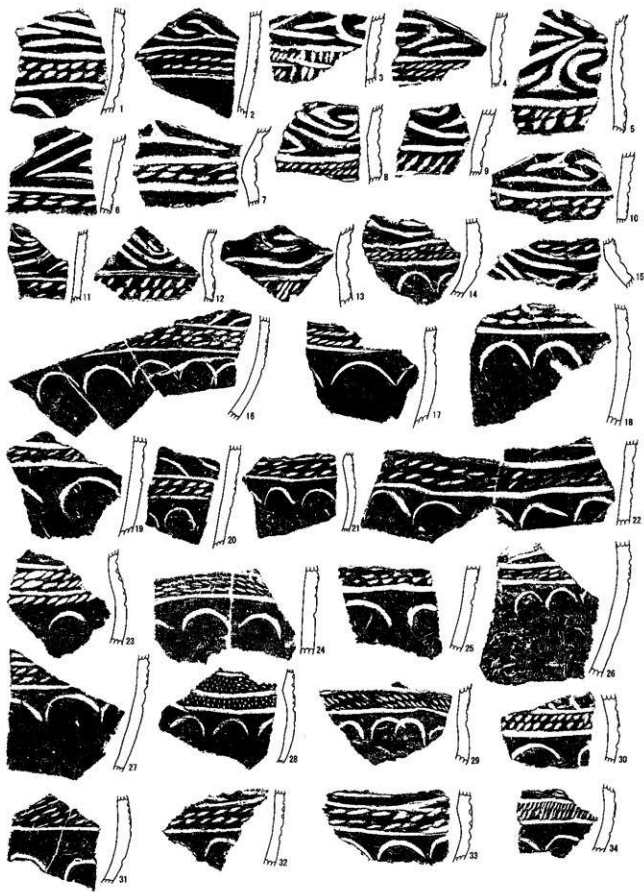
第182圖 土器 (92)



第183图 土器 (93)

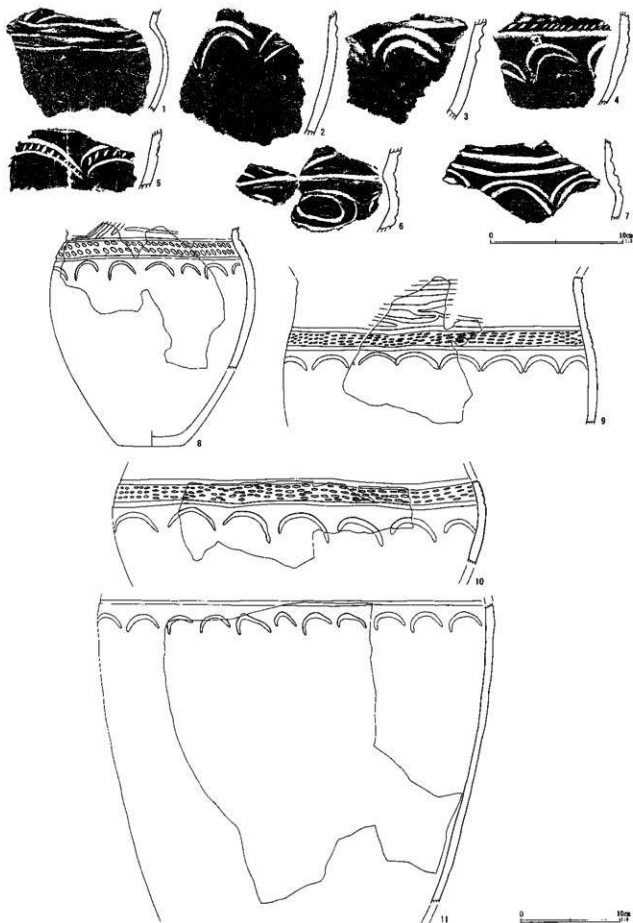


第184图 土器 (94)

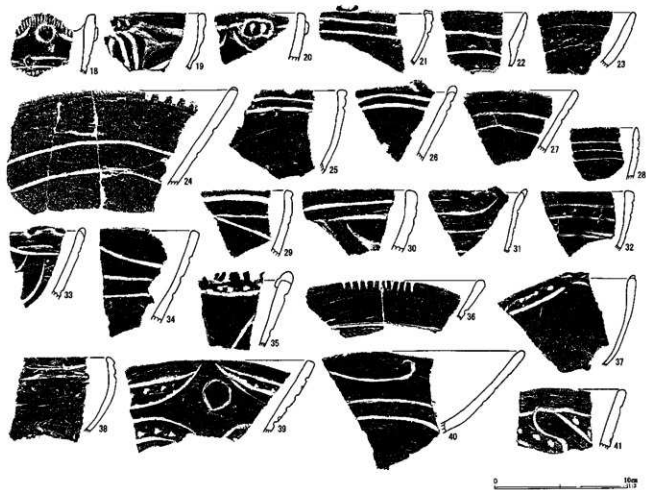
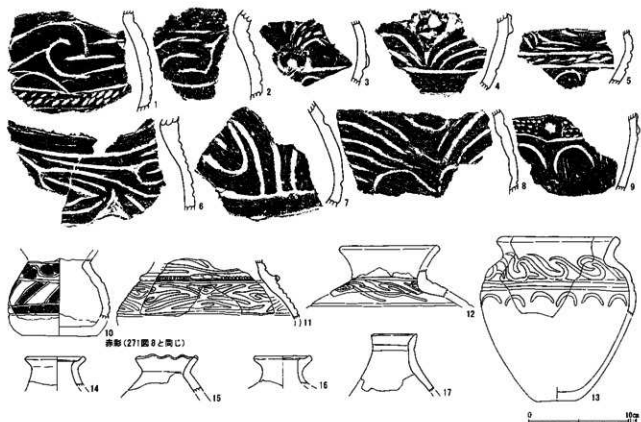


0 10cm

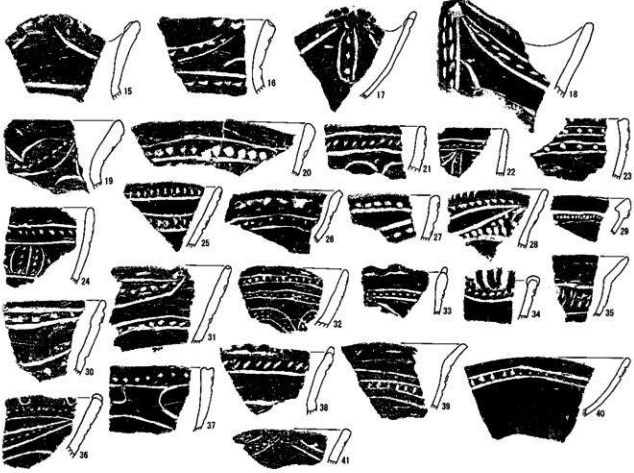
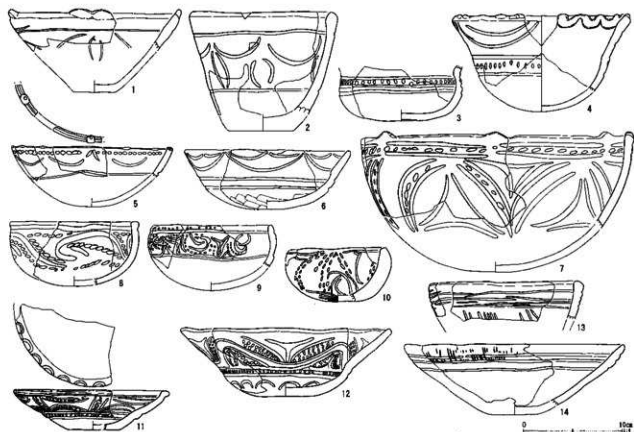
第185圖 土器 (96)



第186圖 土器 (96)



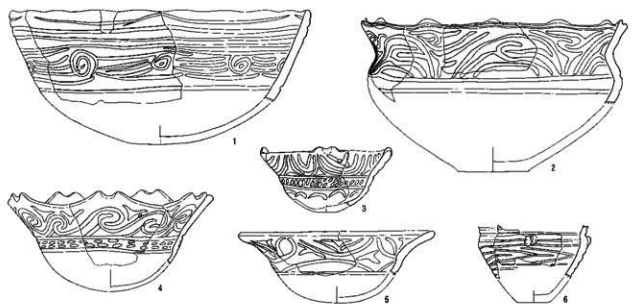
第187回 土器 (97)



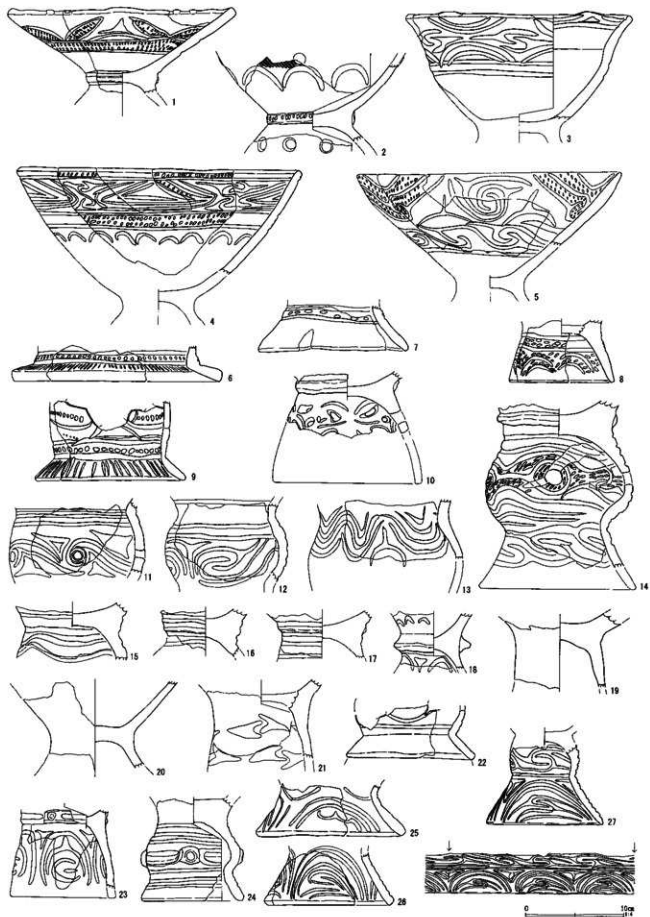
第188图 土器 (98)



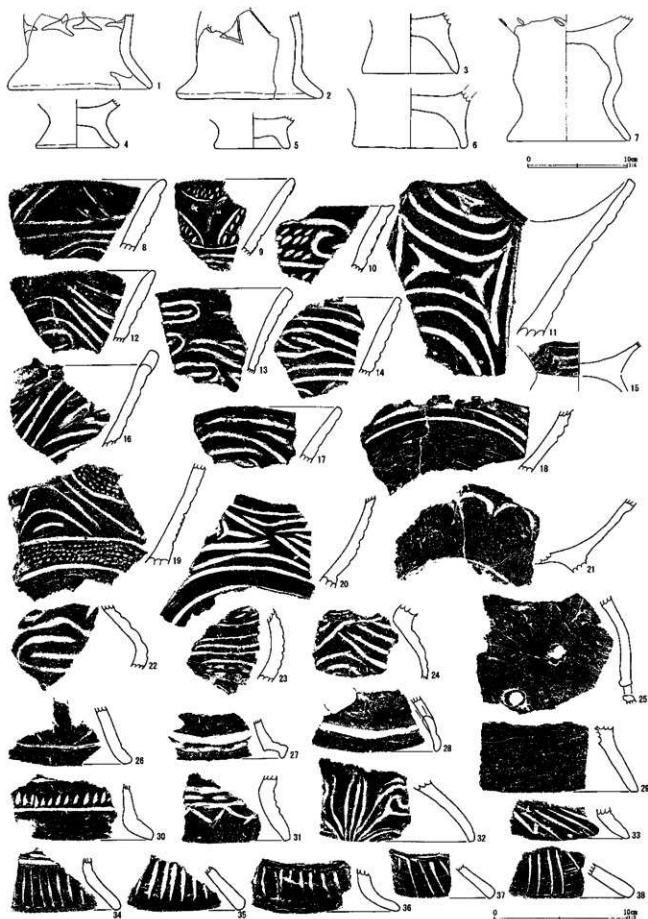
第189图 土器 (99)



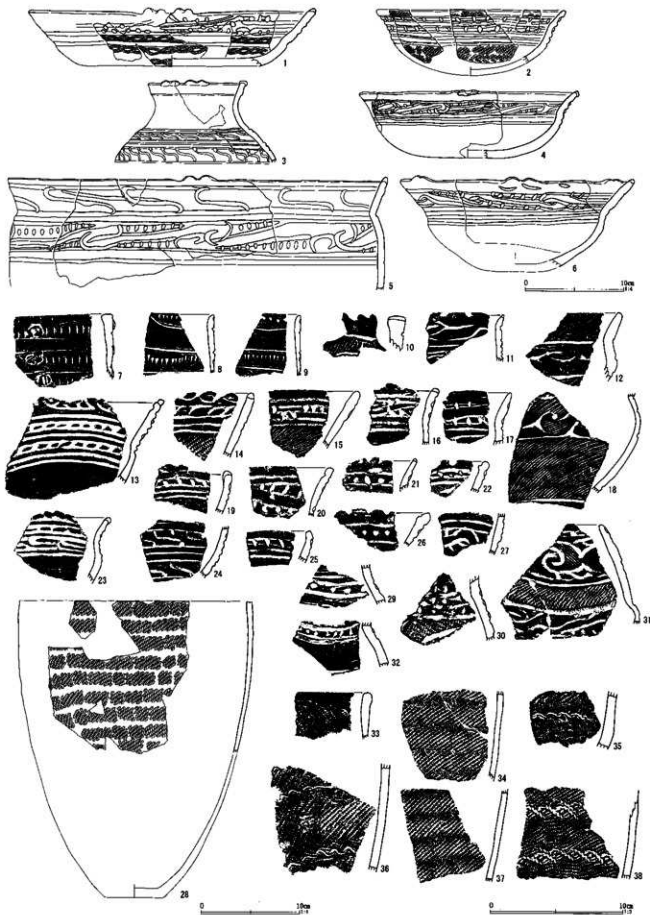
第190圖 土器 (100)



第191图 土器 (101)



第192图 土器 (102)



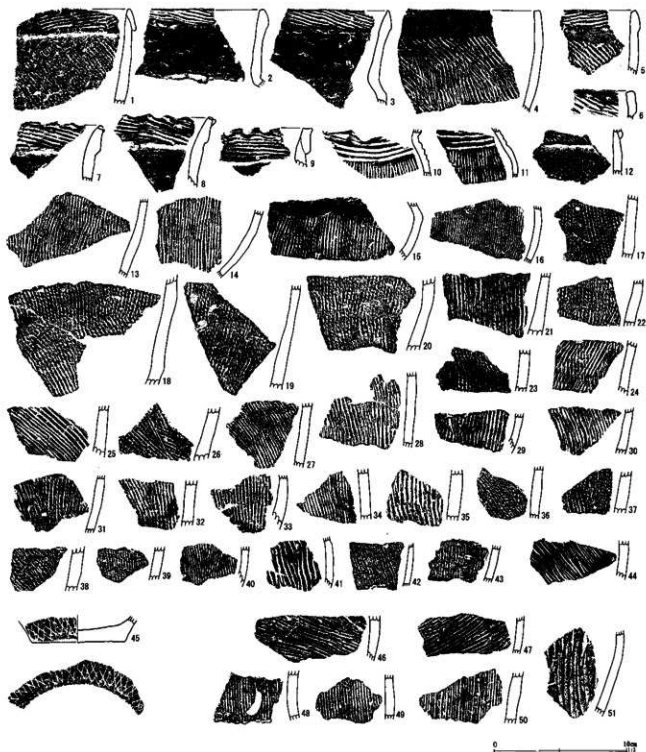
第193号 土器 (103)



第194图 土器 (104)



第195圖 土器 (105)



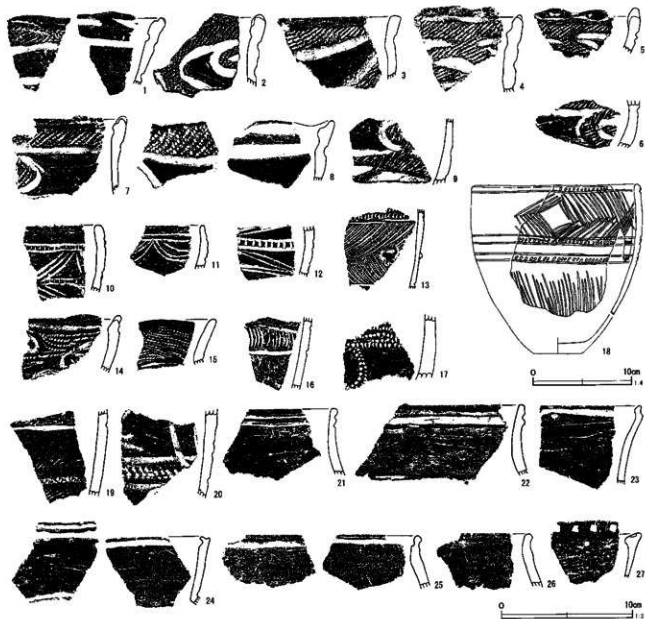
第196図 土器 (106)

3d式である。第191図22~27は多条の沈線を施す台部の破片である。安行3d式であろう。22は三叉状の透かしを施す。

第191図1~5、9、10、14、15、21、24、27は20%、6は5%、7、8、11~13、16~20、22、23、25、26は10%の残存度である。

第192図1、2は三叉文の透かしを施す。3~7は無文の台部である。第192図1~7は10%の残存度である。

第192図8~17は鉢部、18~21は鉢部下半、22~38は台部の破片である。25は円形の透かしを施す。はみ出した粘土をそのまま残している。26は三叉文、



第197図 土器 (107)

28は円形の透かしを施す。安行3c～3d式。

第25類 (第193図～第196図、第197図1～27)

他地域の土器や不明な土器を一括する。安行式に併行する土器群である。

第193図1～6は羊歯状文等を施す土器である。1は単節LRを結節した縄文を体部下半に施す。2は単節LRの縄文を施す。3は壺形土器である。4、6は浅鉢形土器、5は深鉢形土器である。大洞BC～C₁式に類似する。第193図1、2、6は20%、3、5は10%、4は40%の残存度である。

第193図7～9は後期コブ付土器の模倣であろう

か。7は豚鼻状貼付を施す。10～12、18は大洞B式に類似する。10は波状口縁深鉢形土器の波頂部の破片である。11は深鉢形土器、12、18は浅鉢形土器である。

第193図13～27、29～31は大洞BC～C₁式に類似する。13～27は浅鉢形土器、29、30、32は壺形土器、31は注口土器である。

第193図28、33～38は器面全体に縄文を施す土器である。33は単節RL、28、34～38は単節LR、35、36、38は結節縄文を施す。第193図28は15%の残存度である。大洞式の粗製土器に類似する。

第194図、第195図1～12は雲形文等を施した大洞C₁～C₂式に類似する土器である。第194図1～35、第195図12は浅鉢形土器の口縁部、第194図36～55、第195図1～9は体部の破片である。第195図10は注口土器の破片か。第195図11は壺形土器の胴部下半と思われる。第195図11は15%、12は25%の残存度である。

第195図13～26、29～39、第196図は大洞C₂式に類似する土器である。13～19は鉢形土器の把手部分の破片である。20～22、26、29は深鉢形土器、23～25は壺形土器である。30～33はメガネ状付帯文を施す浅鉢形土器である。35、36は壺形土器と思われる。37～39は浅鉢形土器である。34～39は隆帯上に点列が加えられている。

第196図は粗製の深鉢形土器である。

第196図1～9は燃糸文を施す土器の口縁部の破片である。12は口縁部に近い部位。1、4、12は単純な形態の深鉢形土器である。1、12は付帯口縁の土器である。2、3は括れを有する。7～9も同類と思われる。

第196図10、11、13～43は燃糸文を施した胴部の破片である。10、11は横線が巡る。第196図45は網目状燃糸文を施した底部である。燃糸文に対して、網目状燃糸文の土器はきわめて少ない。

第196図44、46～51は条痕文である。

第195図27、28は横線を施した浅鉢形土器である。西日本系の土器であろうか。

第197図1～9は前浦式である。太い沈線、単節LRの縄文を施す。

第197図10～13、18は遊賀里式の有文土器に類似するものである。いずれも細沈線を施す。10、12、13、18は沈線間に刻みを施す。18の口辺部の斜沈線は菱形構成に施される。仮に上下に分けて施文順位を記すと、上段左下がり、下段右下がり、下段左下がり、上段右下がり、上段左下がり、下段右下がりの順に施文している。20%の残存度である。

第197図14～17、19、20は貝殻による文様を施す。

第197図21～26は口縁部に横線を施す以外は無文の土器である。外反する形態のものが多く、第197図27は口唇部に四角形の刺突を施す。

第26類 (第198図～第207図)

粗製土器を一括する。無文の土器が主体である。

第198図～第202図は口縁部が内湾する形態の土器である。第198図18は10%、19、20は20%の残存度である。

第203図は口縁部が内湾ないしは直立気味に立ち上がる土器である。第203図52～55、58～61は口唇部に刺突を施す。

第204図～第207図は緩い括れを有する形態である。第204図16、17は10%の残存度である。第207図2～16は口唇部に刺突、21～25は貼付を施す。33～39は波状を呈する。

第27類 (第208図、第209図)

製塩土器を一括する。薄いつくりで、赤褐色の色調を呈する土器が多い。

第208図1～40は口唇部端部を尖り気味に整形した土器である。

第208図41～49に当類の底部と思われる土器をまとめた。41、47はケズリの調整が底部までであるもので、製塩土器の底部と思われる。42～44、48は色調、器壁の薄さからこの種の土器の底部と思われるもの。45、46、49も42～44、48などと同様であるが、底部を平滑に仕上げている。

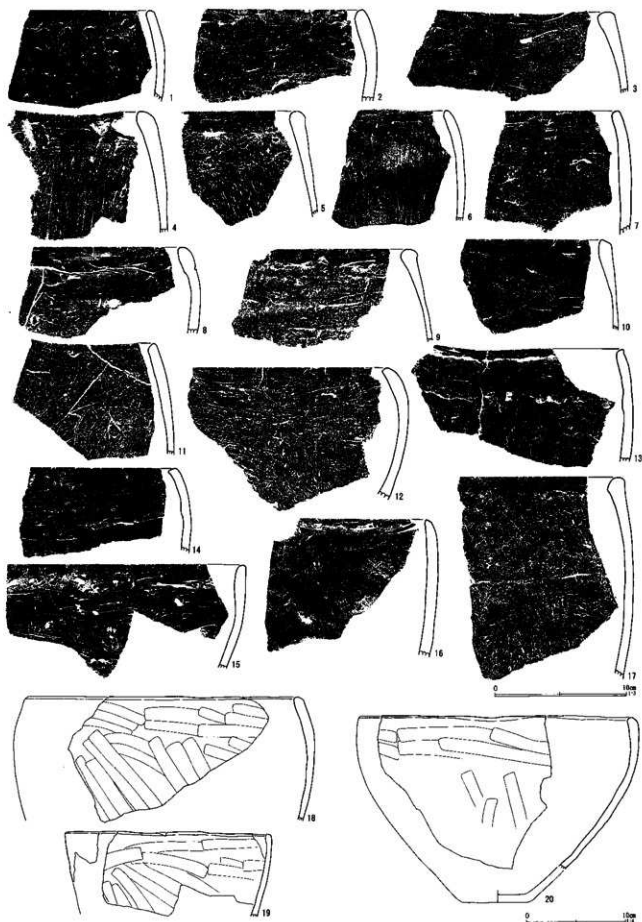
第209図1～14は口唇部端部を平滑に仕上げた土器である。第209図15～38は胴部の破片である。

第28類 (第210図1～16)

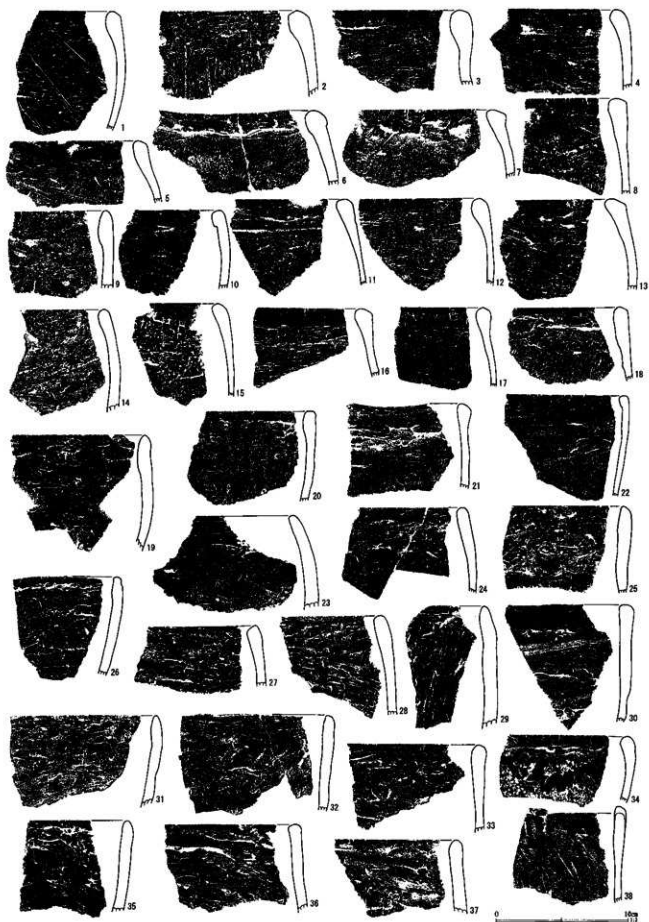
注口土器を一括する。

第210図1～4は球形の体部を有する土器で、注口土器と思われる。貼付文を施す。1、3、4は刻文帯、2は単節RLの縄文を施す。安行2～安行3a式である。

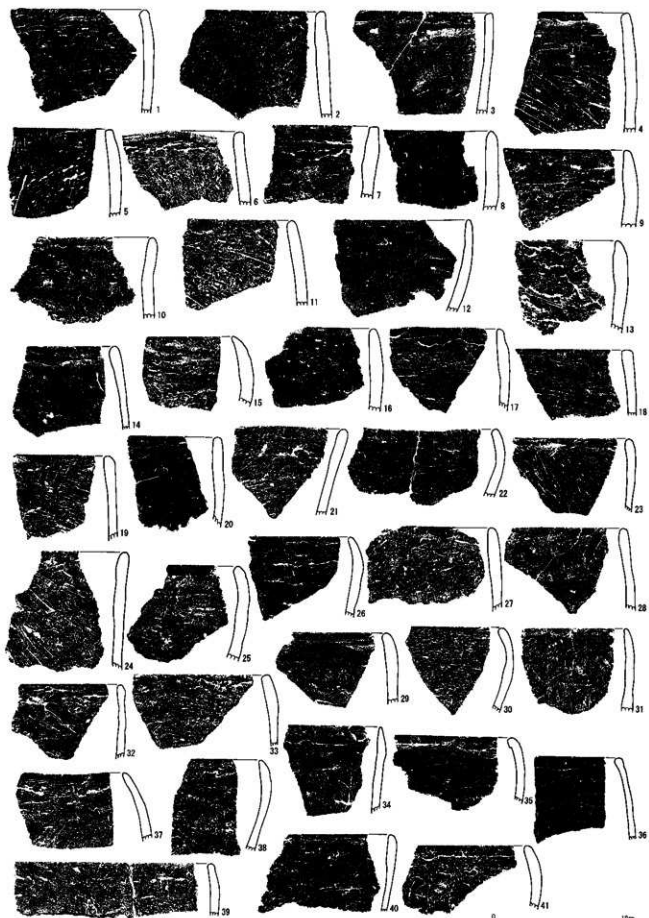
第210図5～16は注口部付近の破片である。5～12は安行2～3b式である。6～12は注口部下に各種の貼付文を施す。13は小形の注口土器で30%の残



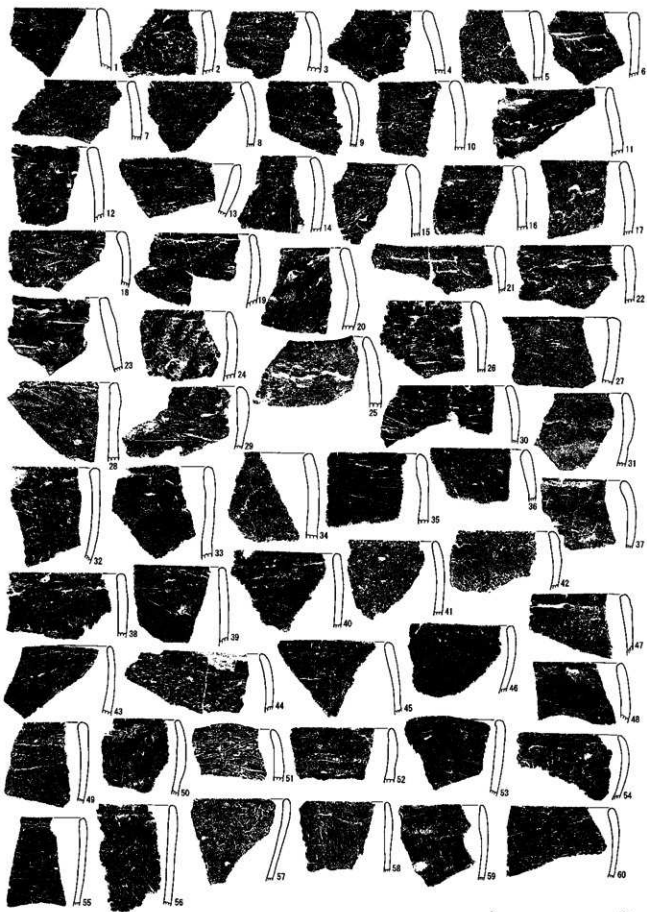
第198图 土器 (108)



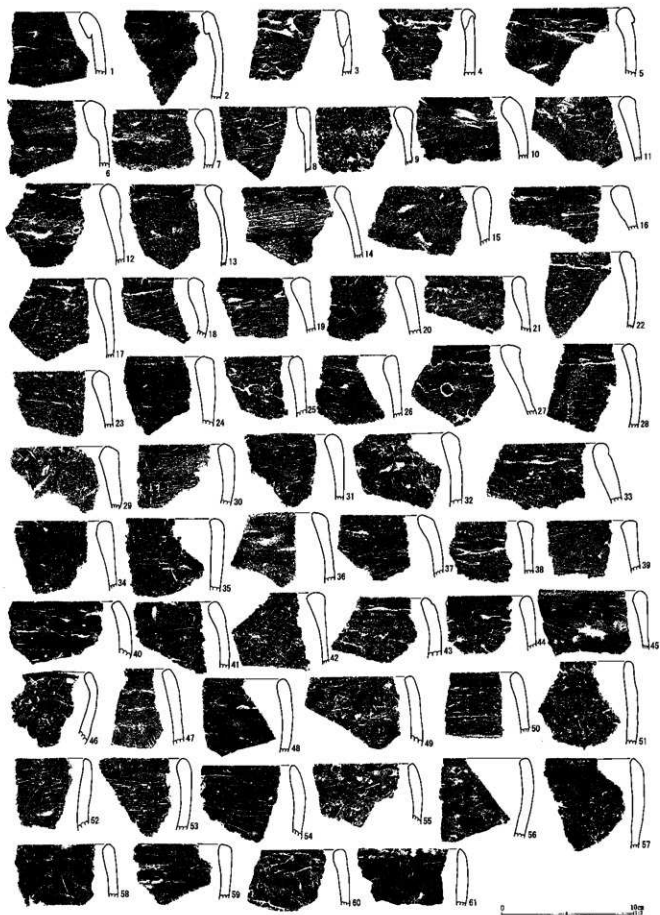
第199圖 土器 (109)



第200图 土器 (110)



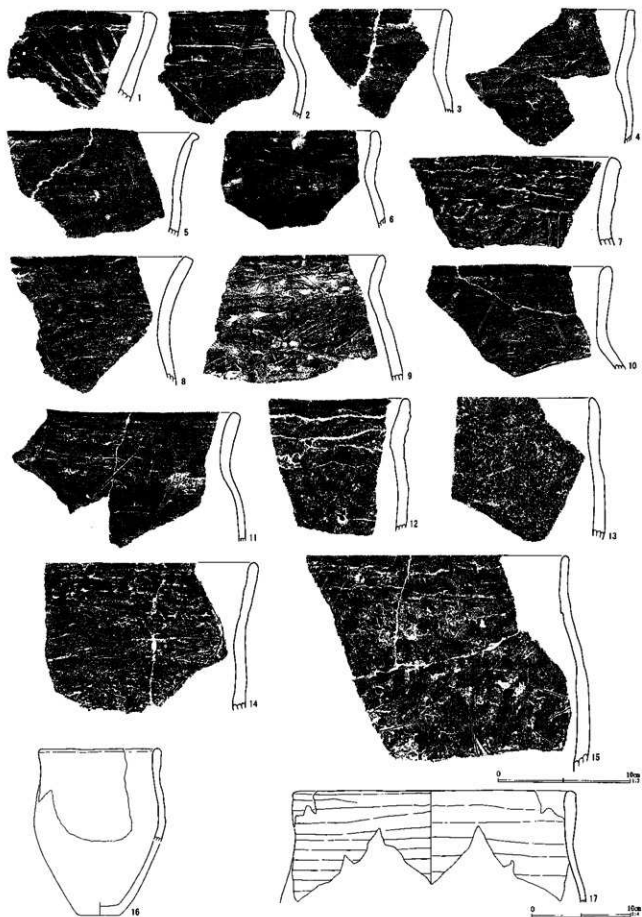
第201图 土器 (111)



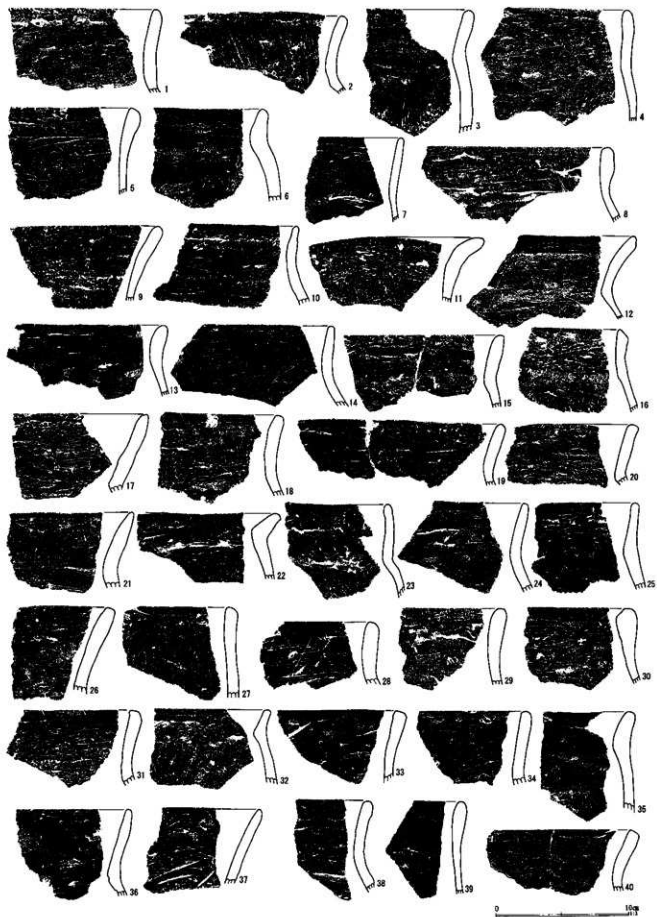
第202圖 土體 (112)



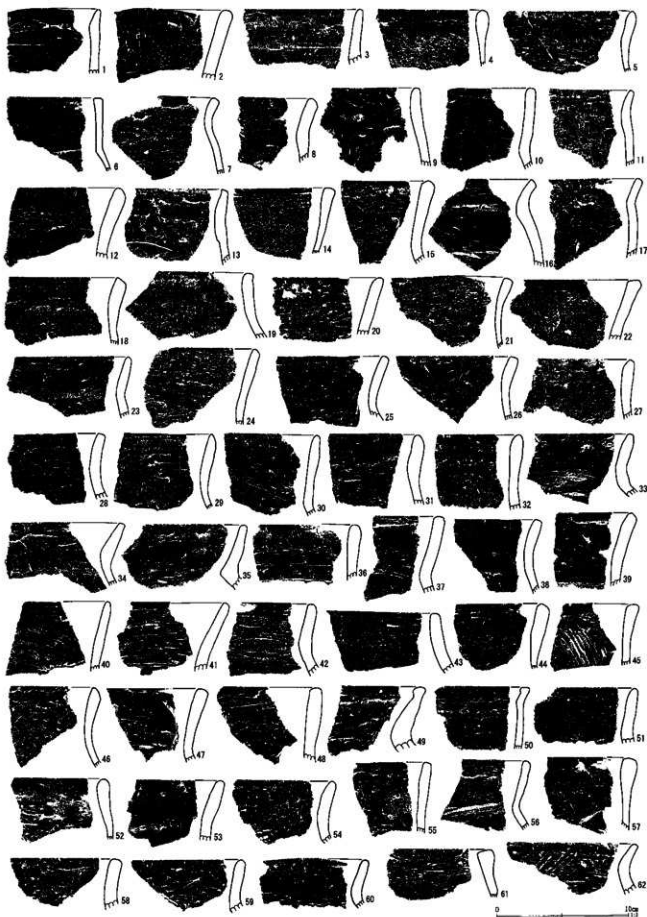
第203圖 土器 (113)



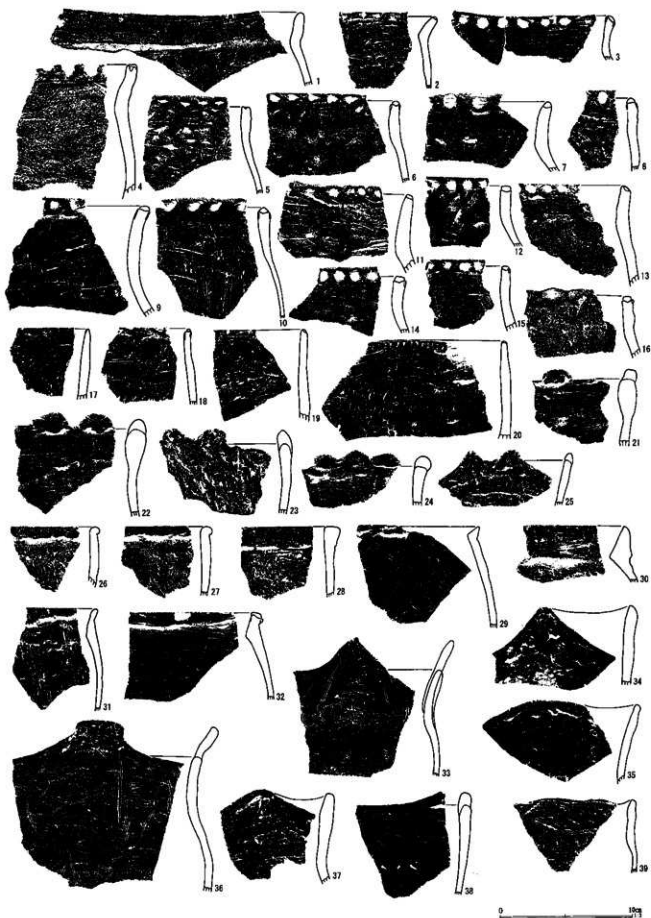
第204图 土器 (114)



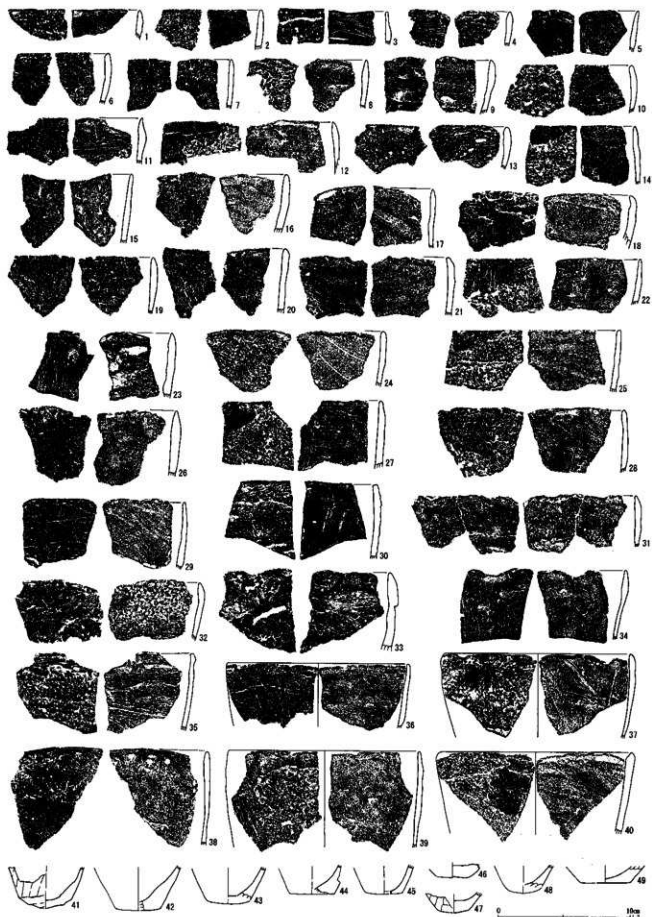
第205図 土器 (115)



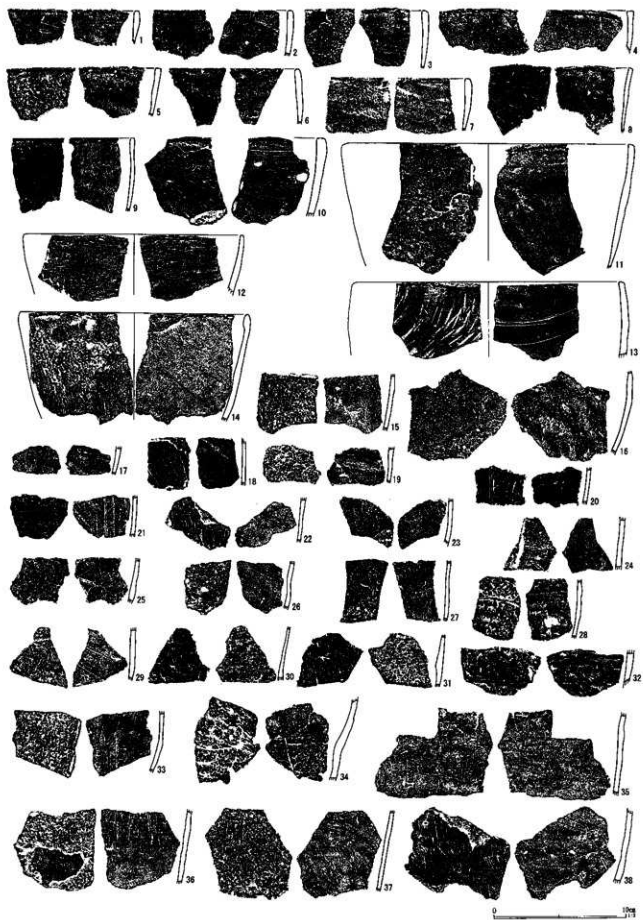
第206图 土器 (116)



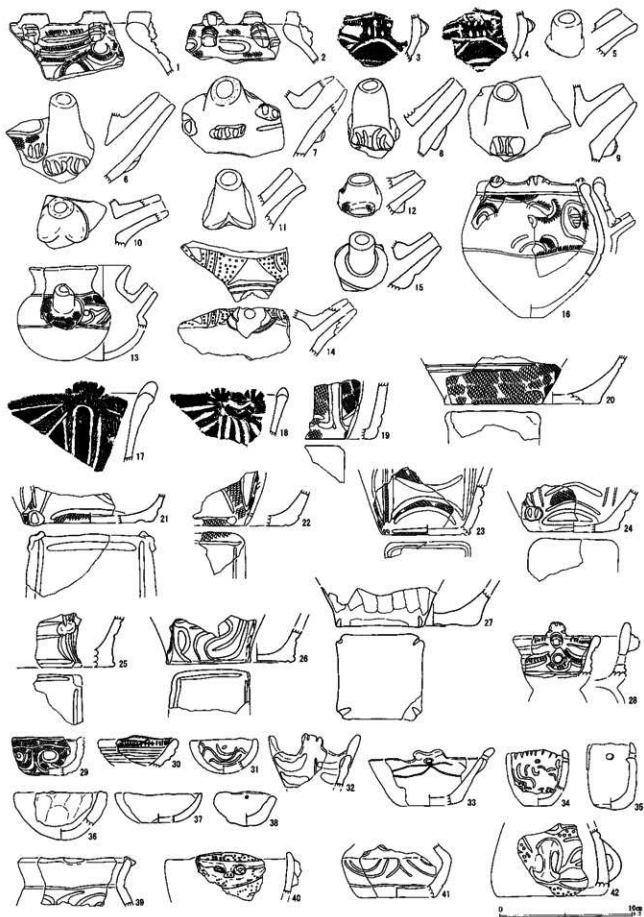
第207図 土器 (117)



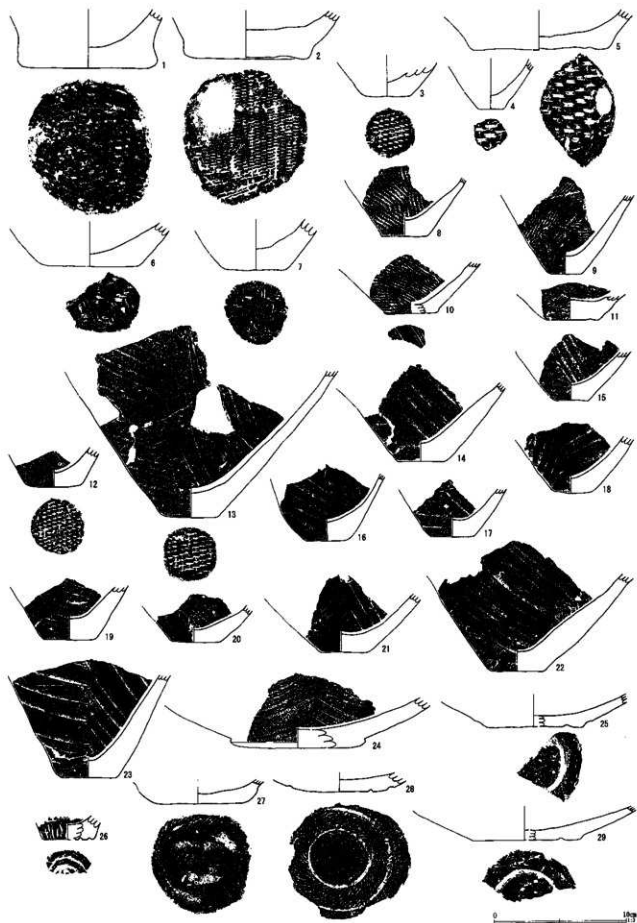
第208回 土器 (118)



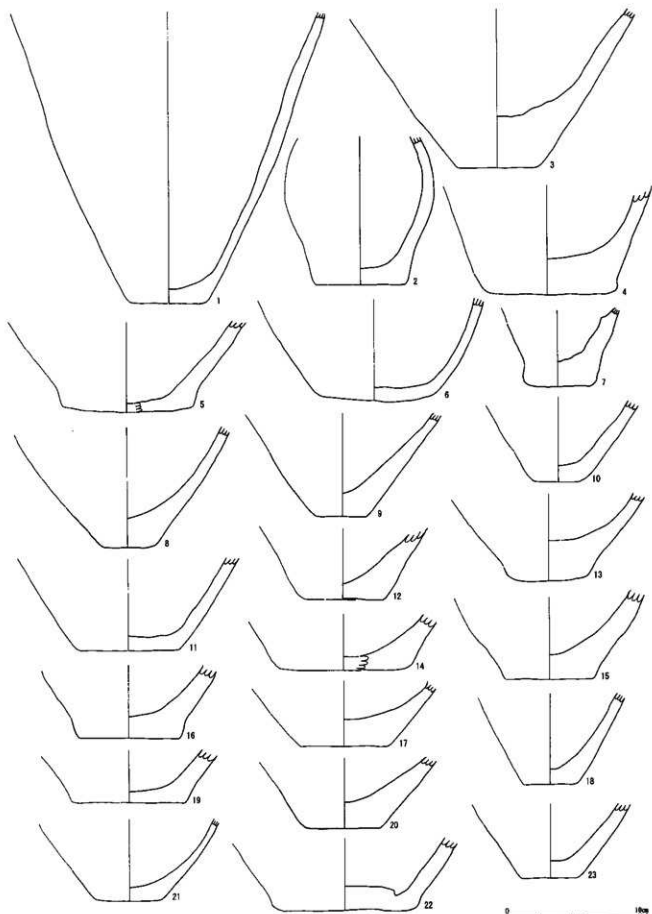
第209回 土器 (119)



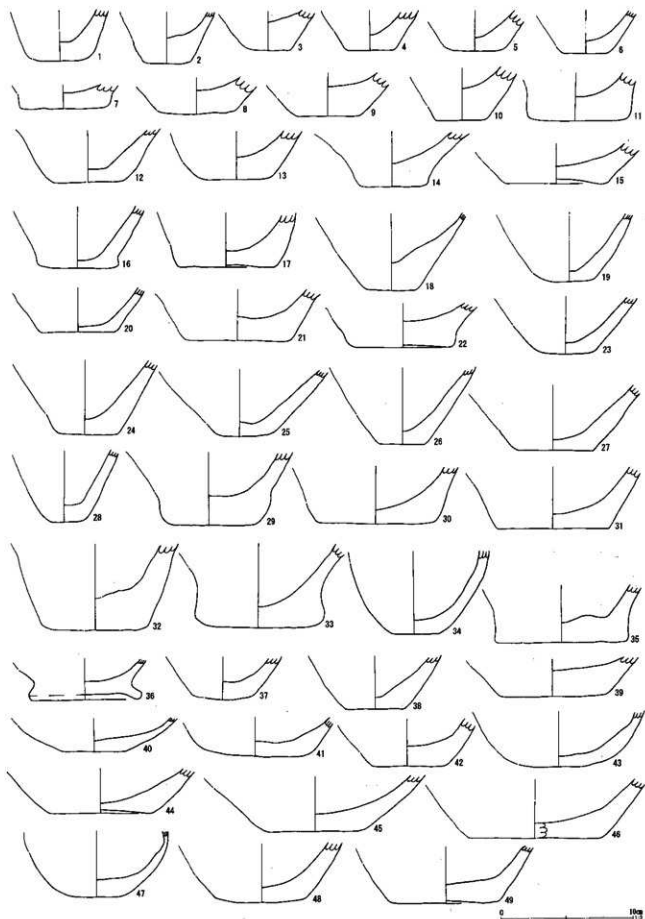
第210图 土器 (120)



第211号 土器 (121)



第212图 土器 (122)



第213圖 土器 (123)

存度。玉抱三叉文、単節LRの縄文を施す。安行3a式。14は沈線と刺突を施す。安行3c式と思われる。15は円形の沈線を施す。安行3b式。16は曲線的な沈線に沿って刻みを施す。15%の残存度。安行3a式であろう。

第29類 (第210図17~27)

角底土器を一括する。第210図17、18は口縁部。縄文は単節RL。19、20、22~24は単節RL、21は単節LRの縄文を施す。25、26は沈線を施す。27はケズリの調整を残す。17~24は安行2~安行3b式、25~27は晩期安行式である。

第30類 (第210図28)

異形台付土器である。刻み、円孔、貼付文を施す。安行3a式であろう。

第31類 (第210図29~42)

ミニチュア土器を一括する。いずれも晩期安行式であろう。第210図29は沈線文と単節LRの縄文を施す。30は横線と刻み、31~34、39、41は各種の沈線を施す。35~38は無文の土器。33~35、38は口縁部に孔を施す。40は人面付の小形深鉢形土器。隆帯、貼付によって眉、鼻、目を表現する。細かい刺突を施す。42は壺形であろうか。橋状の把手を施す。

第32類 (第211図~第213図)

底部を一括する。

第211図1~7は網代痕を残す。晩期安行式。

第211図8~11は縄文を施す。8、10は単節RL、9、11は単節LRの縄文を施す。10は底面に条線を施す。8~10は安行2式~安行3a式。11は晩期安行式であろう。

第211図12~24は体部に条線を施す。12、13は網代痕を残す。24は浅鉢形土器である。安行1式~安行3a式。

第211図25~29は底面に文様を施す。25、27~29は浅鉢形土器、26は小形の深鉢形土器と思われる。25、26、29は円形の沈線、27は単節LRの縄文、28は円形の沈線間に単節LRの縄文を施す。

第212図、第213図は晩期安行式の底部であろう。

土製品・石製品

各種の土製品・石製品が出土した。

土製円盤 (第214図1~10)

第214図1、2は単節RLの縄文を施した後・晩期の土器片を利用している。1は切り込みが入れられている。3は紐線と条線が施された紐線土器を利用している。4~6は条線を施す。7~10は無文である。3~6は安行1~3a式、7~10は晩期安行式の土器片を利用したものである。

土錘 (第214図11、12)

有溝の土錘である。縦横に溝を施す。

玉・垂飾類 (第214図13~17)

第214図13はヒスイ製の玉である。14は黒色をした蛇紋岩製の玉。半分に割れたものに円孔を施し、垂飾として再利用したと思われる。15は扁平な緑色岩に抉りを入れ、円孔を施した垂飾である。16、17は土製の勾玉である。16は端部を欠く。

不明土製品 (第214図18、第215図5)

第214図18は褐色をした土製品で、一部を欠損するがほぼ完形。研磨等の調整は顕著でない。

第215図5は褐色をした板状の土製品である。一部を欠損する。コブ文を2箇所に施す。

手燭形土製品 (第215図1~3)

いずれも柄部の破片。2箇所の円孔を施す。晩期安行式と思われる。1は上面に弧線と短沈線、下面に沈線文と単節RLの縄文を施す。端部の隆帯部分は剥落し欠損している。2の上面は沈線と単節RLの縄文を施す。下面側は剥落し欠損している。3は沈線文を施す。1は褐色、2、3は灰褐色を呈する。

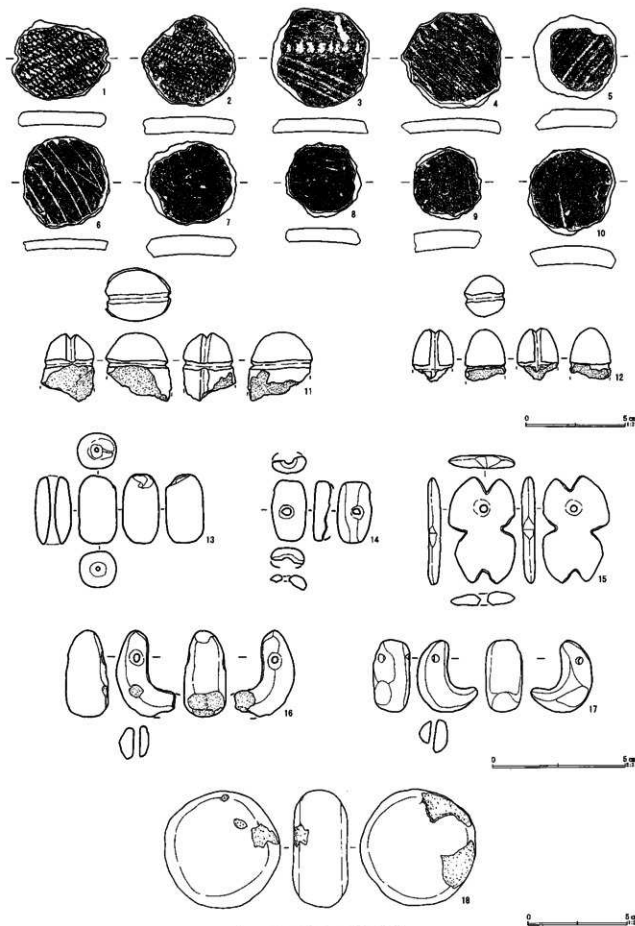
スプーン状土製品 (第215図4)

柄部のつけね部分の破片である。褐色を呈する。柄部は棒状のつくりをしている。一部にケズリの調整痕を残す。

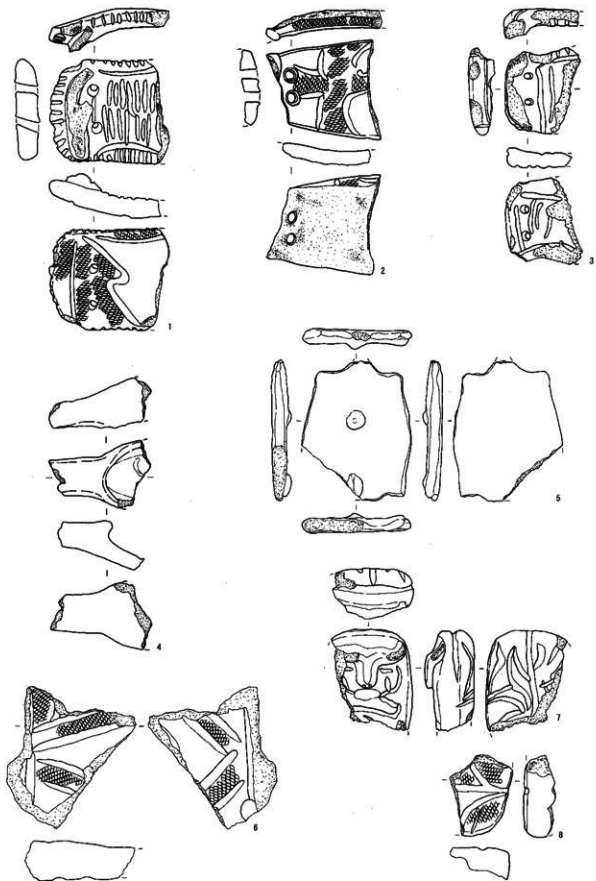
土版・岩版 (第215図6~8、第216図、第217図)

第216図2が石製の他は土製である。

第215図6、8は単節LRの縄文、沈線文を施す。6は褐色、8は黒褐色を呈する。第215図7は人面

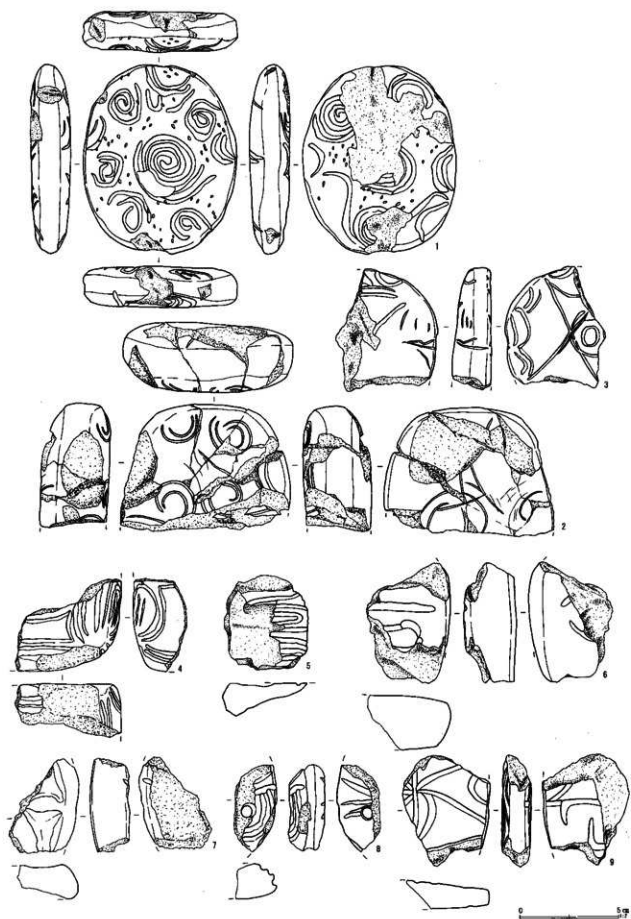


第214圖 土製品・石製品 (1)

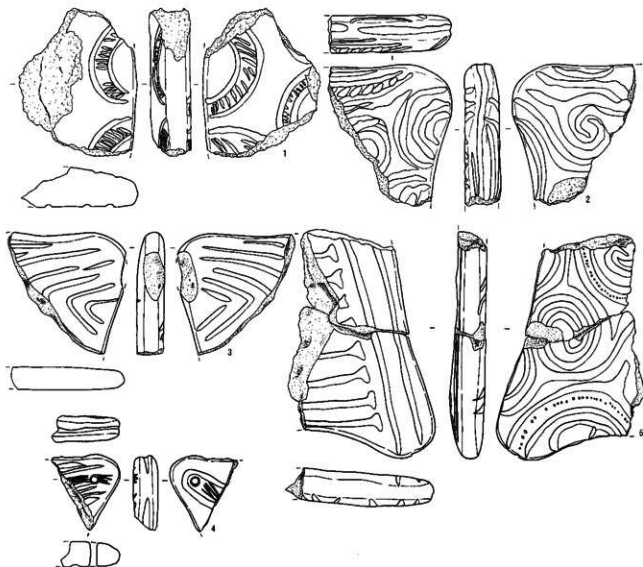


0 5cm

第215圖 土製品・石製品 (2)



第216図 土製品・石製品 (3)



第217図 土製品・石製品 (4)

付の小形の土版である。眉と鼻は隆帯、目、口、鼻の穴は窪みで表現されている。背面には沈線文を施す。第215図6～8は晩期安行式期である。

第216図1は黄褐色を呈する。ほぼ完形。渦巻文と刺突を施す。2は白色をした岩版である。2条の沈線により円形の文様を施す。第216図3～9は各種の沈線文を施す。3～5は灰褐色、6は褐色を呈する。7～9は黒褐色を呈する。沈線の一部に赤色顔料が残存する。8は円孔を施す。第216図1～9

は晩期安行式期と思われる。

第217図1は弧線文間に刻みを施す。黒褐色。安行3c式期であろう。

第217図2～5は多条の沈線を施すもので、安行3d式期と思われる。2は三叉状入組文、列点文を施す。3は矢羽状沈線を施す。4は沈線間に細沈線を施す。円孔を施す。5は「I」字文、三叉状入組文、刺突を施す。2は黒褐色、3は褐色、4、5は灰褐色を呈する。

第7表 土製品・石製品一覧

図番号	図内番号	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
57	1	SJ4	動物形土製品	—	[15.5]	9.5	5.3	260.0	
73	34	SK41	岩版	凝灰質泥岩	[3.4]	[2.4]	[1.7]	[8.1]	
78	43	ビツ群P38	土製円盤	—	3.1	—	0.7	7.7	
85	1	包含層①	土版	—	[11.7]	(11.0)	2.2	[275.6]	
85	2	包含層①	土版	—	7.8	[4.8]	2.5	[77.0]	
214	1	SR4	土製円盤	—	5.0	—	0.9	19.2	
214	2	H-5	土製円盤	—	4.8	—	1.0	18.2	
214	3	SR1	土製円盤	—	5.0	—	0.9	23.5	
214	4	I-7	土製円盤	—	5.1	—	0.8	20.9	
214	5	I-7	土製円盤	—	4.2	—	1.2	19.8	
214	6	SR1	土製円盤	—	4.6	—	0.7	14.5	
214	7	SR1	土製円盤	—	4.7	—	1.2	23.6	
214	8	SR4	土製円盤	—	3.9	—	0.8	12.4	
214	9	I-4	土製円盤	—	3.7	—	1.1	15.5	
214	10	SR1	土製円盤	—	4.5	—	1.1	20.3	
214	11	表採	土鏃	—	[3.5]	[3.4]	[2.7]	[26.7]	
214	12	H-5	土鏃	—	[2.6]	[2.1]	[2.1]	[8.9]	
214	13	SR3	玉	ヒスイ	2.6	1.5	1.4	9.5	
214	14	SR1	垂飾	滑石	2.3	1.3	0.6	2.3	
214	15	I-5	垂飾	綠色岩	4.0	2.5	0.5	8.6	
214	16	SR1	土製勾玉	—	[3.3]	[2.3]	1.6	[7.3]	
214	17	I-5	土製勾玉	—	2.8	2.4	1.4	5.4	
214	18	J-6	不明土製品	—	5.9	—	2.9	100.7	
215	1	K-5	手燭形土製品	—	[6.1]	5.3	1.0	48.9	
215	2	K-5	手燭形土製品	—	[5.9]	5.1	0.9	24.3	
215	3	J-4	手燭形土製品	—	[3.9]	4.3	0.9	16.5	
215	4	SR1	スプーン形土製品	—	[5.2]	[3.4]	1.8	20.6	
215	5	SR3	不明土製品	—	7.1	5.5	1.0	31.2	
215	6	H-4	土版	—	[7.2]	[6.6]	[2.1]	[66.3]	
215	7	SR1	土版	—	[5.1]	[4.1]	2.5	[44.4]	
215	8	H-4	土版	—	[4.1]	[3.2]	[1.6]	[16.4]	
216	1	SR1	土版	—	9.6	7.9	2.1	151.6	
216	2	表採	岩版	凝灰質泥岩	[6.4]	[8.7]	3.4	[111.8]	
216	3	I-5	土版	—	[6.2]	[5.2]	2.1	[57.0]	
216	4	H-5	土版	—	[4.6]	[5.4]	[2.7]	[53.8]	
216	5	SR1	土版	—	[4.8]	[4.3]	[1.8]	[26.9]	
216	6	J-4	土版	—	[6.1]	[4.3]	2.7	[58.7]	
216	7	SR4	土版	—	[4.7]	[3.6]	[2.0]	[23.3]	
216	8	H-6	土版	—	[4.4]	[2.2]	1.8	[13.4]	
216	9	I-6	土版	—	[5.7]	[4.5]	1.5	[31.8]	
217	1	H-5	土版	—	[7.5]	[6.1]	2.0	[90.0]	
217	2	SR1	土版	—	[7.2]	[6.3]	1.9	[79.1]	
217	3	SR1	土版	—	[6.2]	[6.0]	1.4	[39.0]	
217	4	H-5	土版	—	[3.9]	[3.5]	1.3	[12.2]	
217	5	I-6	土版	—	[11.5]	[7.6]	1.9	[110.3]	

耳飾り (第218～227図)

調査区南側からは多数の耳飾りが出土した。数量は住居跡2点、土坑14点、ピット2点、包含層6点、遺構外307点、合計331点である。遺構外は実測し得ない小片36点を除いて全て図化した。図示しなかった小片はいずれも環状の無文部である。

分類は設楽(1983)を参考に簡略化した。分類は形態と文様をそれぞれ識別し、両者の組み合わせによって表している(第8表参照)。

分類のうち形態のⅢには、環状で内側にテラス状に張り出すもの、いわゆるブリッジの施されるもの、内外面の径が異なり側面から見て漏斗状・逆台形を呈するものを含めた。この形態は上面の張り出し部分に、各種の文様を施すことが特徴的である。Fの三叉文には雲形文や、金城・宮尾(1996)の言う唐草・重花文などを含めた。

土製の耳飾りは中期に出現し、安行1式以降の後晩期に関東・中部地方を中心に盛んに用いられ、後晩期の遺跡からしばしば発見される(百瀬1979, 金城・宮尾1996)。

久台遺跡では過去の調査で100点報告されており、今回の報告分を合わせて総点数431点となる。多量に出土する遺跡は全国的にも限られ(長野県エリ穴遺跡、群馬県茅野遺跡、栃木県寺野東遺跡、藤岡神社遺跡、埼玉県雅楽谷遺跡など)、久台遺跡の数はかなり多い部類と言える。

第218図1～6・9は白形、7・8・11は環状で無文のもの。10・14・15は刺突、13は浮文。12は両面に沈線を、16は側面に文様を施す。18はブリッジ形の無文で、これに沈線等を施したのが19～20・22となる。23～25は沈線と細かい刺突を組み合わせ、文様が複雑化する。23は形態が漏斗状である。17、21は三叉文。26は外縁に刻目を施す。

27～28は沈線文。29・32は豚鼻状の貼付文。30は沈線が内向し刺突を伴う。31は十字のブリッジで文様は沈線と刻目による。33は同心円状の沈線を施す。34も31等と同様と見られる。

35～44は三叉文。35～36は破片だがテラス状の張り出しに三叉文を施し、隙間に刻目を充填する。37・42は、沈線と刻目による文様が口辺と一段下がったブリッジ部分全体に及ぶ。三叉文がより立体的に表現されるのが38～39・41である。この文様が三叉文のみになるのが40・43・44である。

40は透かしを持ち2本沈線による弧状文を描く。赤城遺跡でも複数出土している。43は三叉状のブリッジで内側が繋がれる。同様に耳飾りが多く出土した雅楽谷遺跡では、三叉文をモチーフとする耳飾りは認められない。三叉文を施す耳飾りが多いことは、晩期中葉の土器を主体とする久台遺跡の特徴のひとつと言えよう。

第219図1～3は環状の内側に部分的に突起を施す。4～8は口縁上に浮文・貼付文を施す。いずれも沈線を主とし、一部に刻目を伴う。7は恐らく第218図42や44と同形。第219図9～21、及び第220図1～3は環状で、沈線と刻目を施すものをまとめた。小片が多く全体のモチーフは不明である。

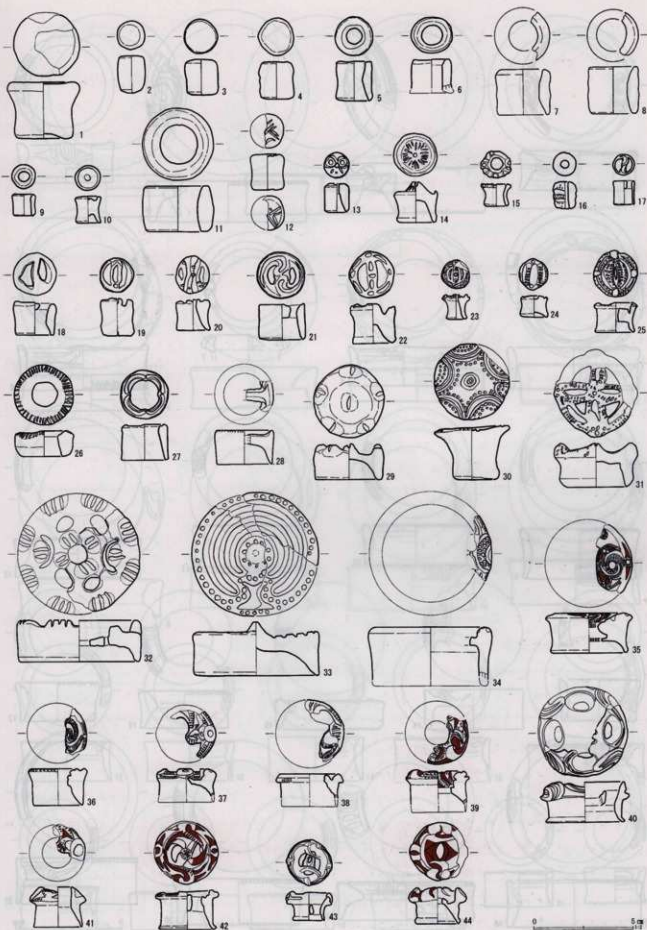
第219図15は浮文の一種。21は三叉文状に連続するものか。第220図4～6は刻目のみを施すもの。

第220図7～第222図17には、沈線のみを施すものをまとめた。第220図7は第218図27と同じ構成で、三叉文である。ほかに三叉文や沈線が渦を巻くものとして、第220図8・10・11・18、第221図2・5・6・8・9・12、第222図4・14などが認められる。

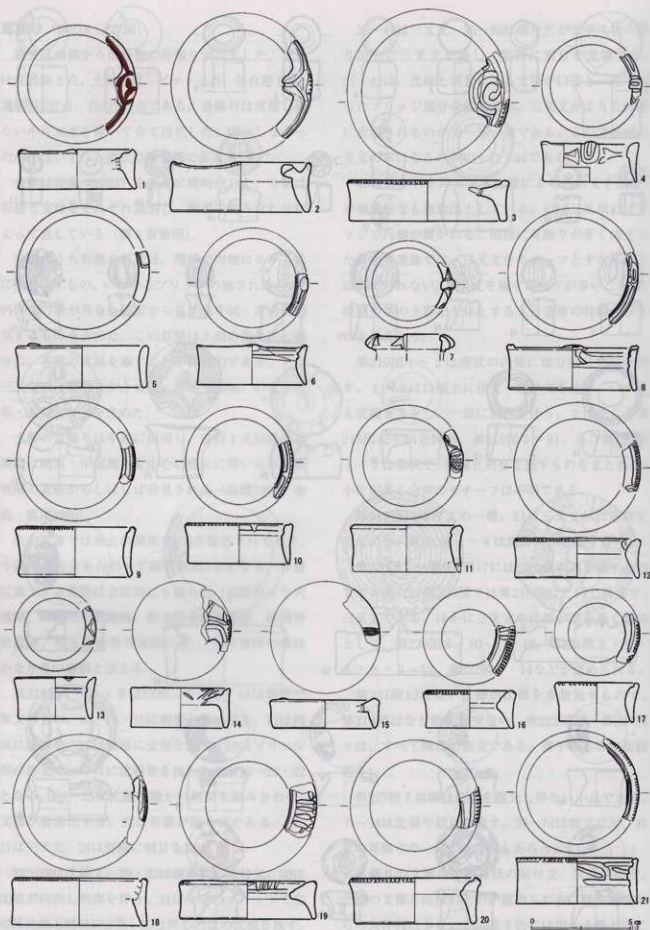
第221図13は短い直線の沈線を多数施すもので、第218図12など類品は少ない。第222図18～第227図6は、すべて環状の無文である。薄手のものが比較的多い。

第227図7以降は直径を復元し得ない小品である。7～38は沈線と刻目を施す。39～74は無文だが、有文の耳飾りの一部の可能性もあろう。

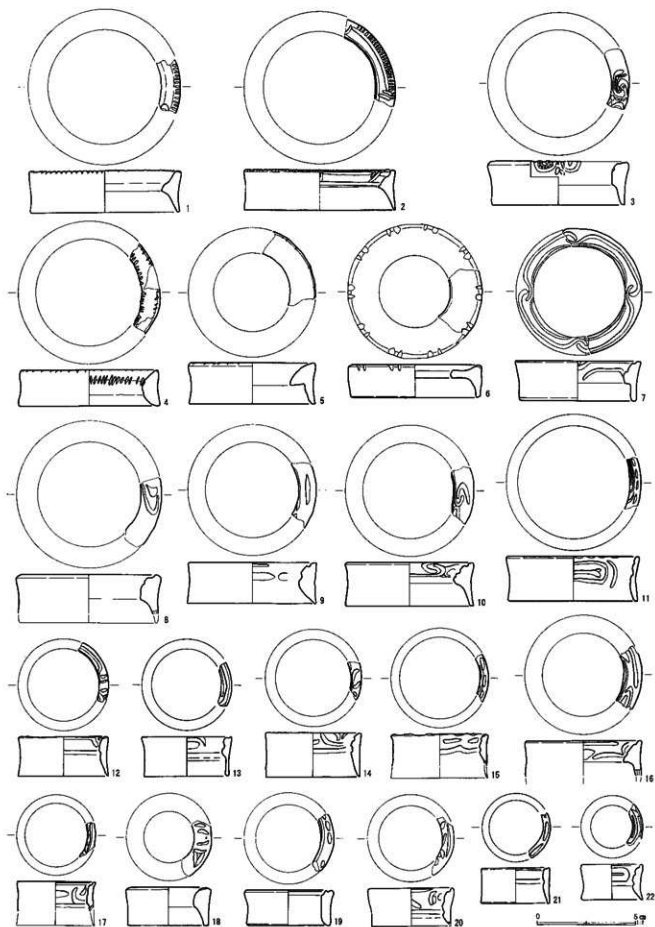
耳飾りの文様は、豚鼻状の貼付文、三叉文など、土器の文様と同種のもので認められる。包含層等からの共伴例は少ないが、基本的には出土土器と同じ晩期安行式期に伴うものと考えられる。



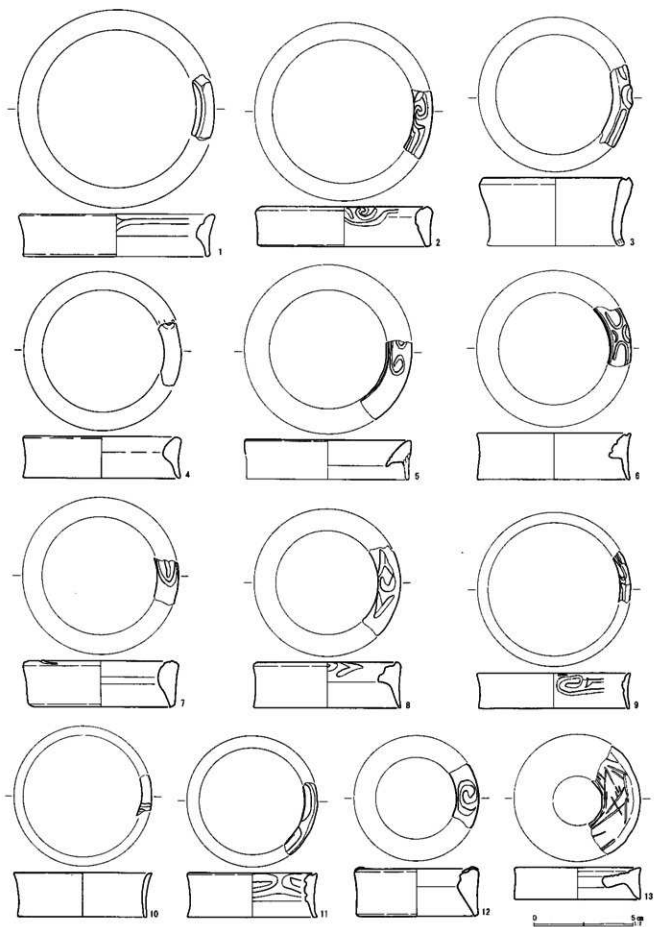
第218図 耳飾り (6)



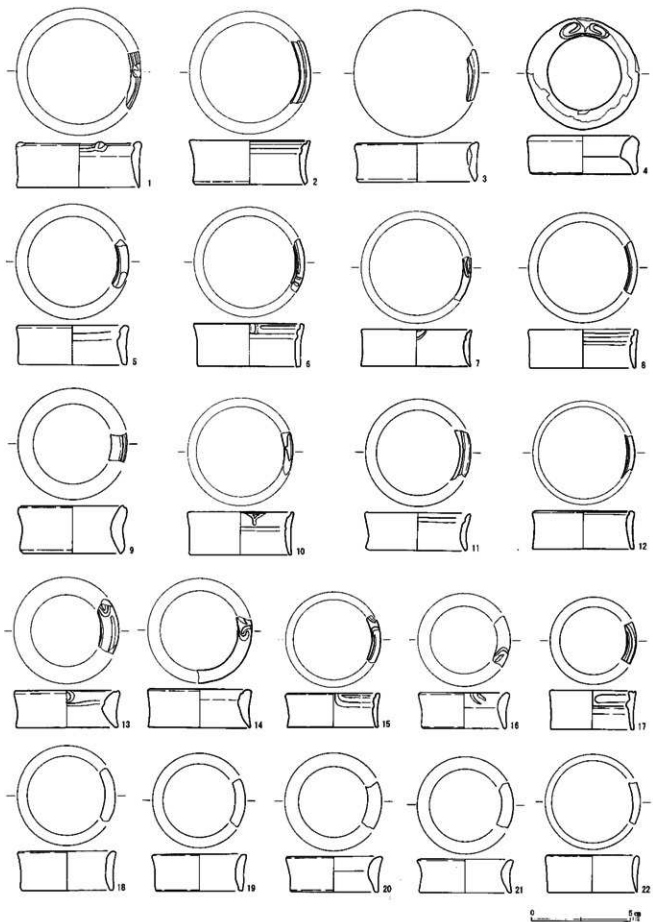
第219図 耳飾り (2)



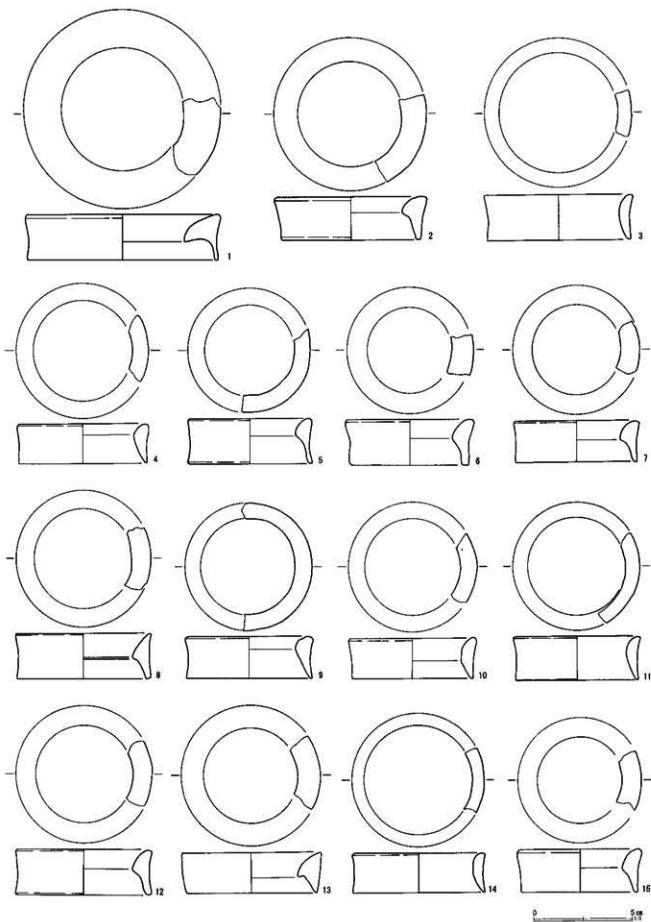
第220图 耳饰切(3)



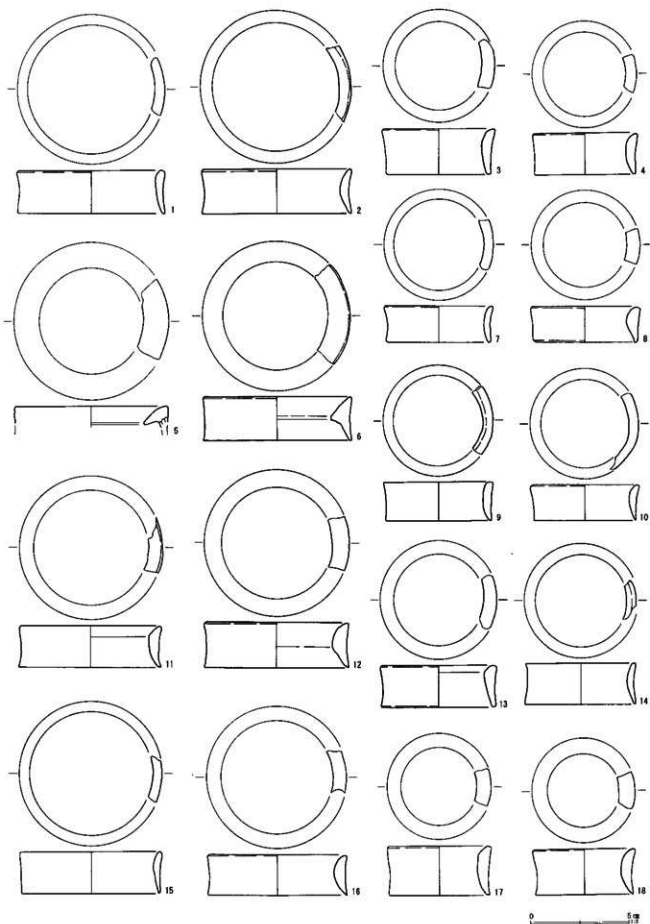
第221图 耳飾り (4)



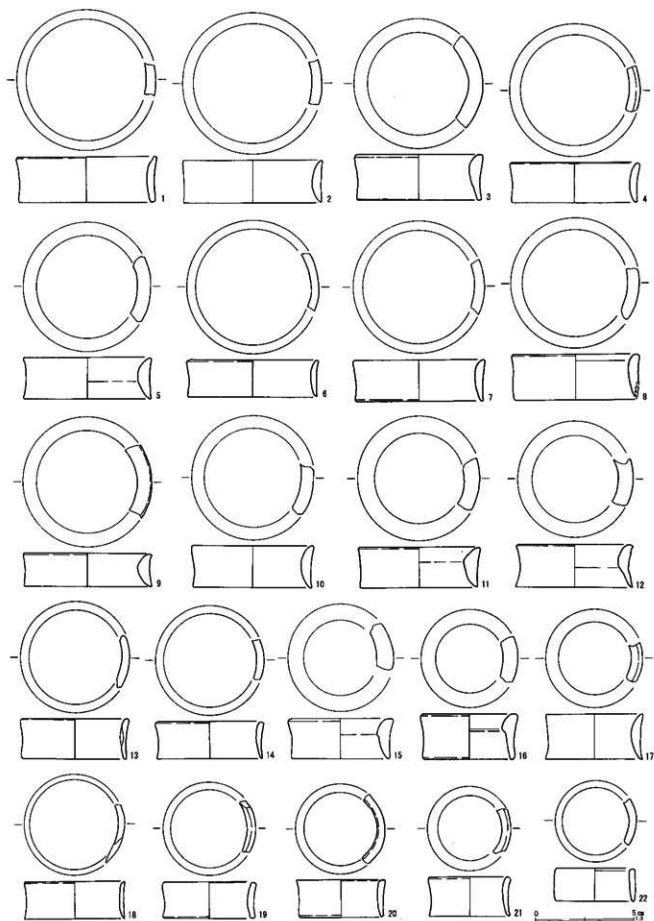
第222图 耳饰(5)



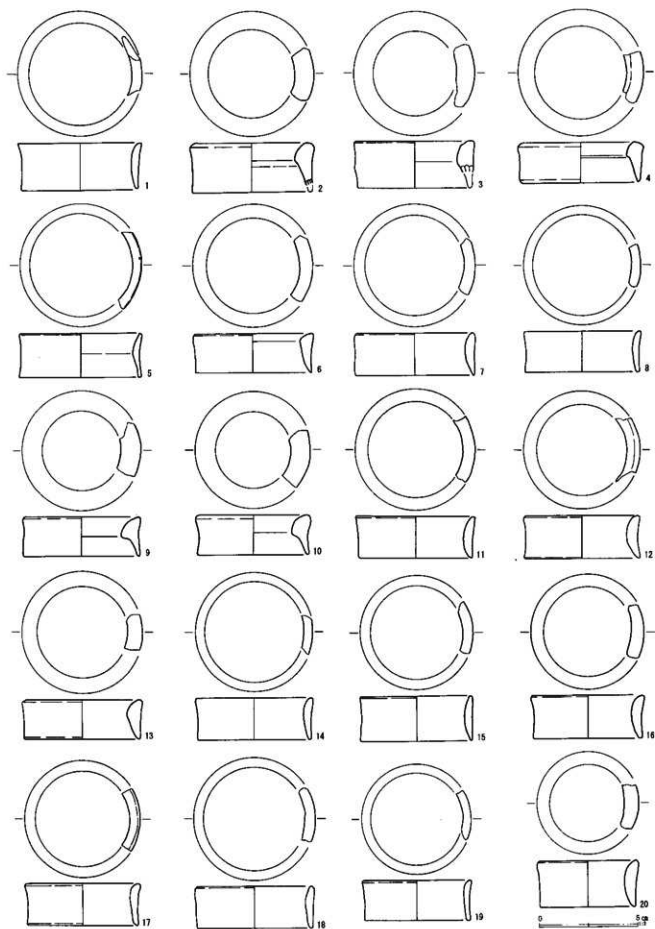
第223図 耳飾り (6)



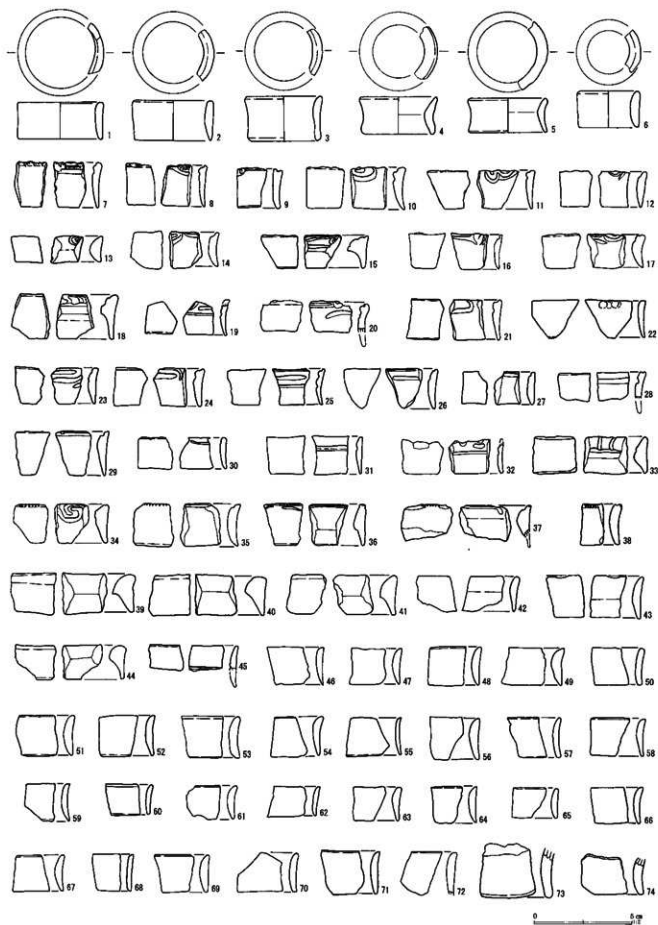
第224図 耳飾り (7)



第225図 耳飾り (8)



第226図 耳簪り(9)



第227図 耳飾り (10)

第8表 耳飾り一覽(第218~227図)

梅田番号	出土地点	外径(最大径cm)	内径(最小径cm)	高さ(cm)	分類	梅田番号	出土地点	外径(最大径cm)	内径(最小径cm)	高さ(cm)	分類
70	7 SJ10 P7	(2.2)		2.3	D	219	10 SD7	(5.5)	(5.2)	2.0	E2D
70	8 SJ10 P7	(4.7)	(4.5)	2.0	H3D	219	11 H-5	(5.7)	(5.4)	(2.1)	E2D
73	23 SK41	1.7	1.5	1.7	1D	219	12 H-6	(6.5)	(6.2)	2.0	E1D
73	24 SK41	2.4	2.2	1.5	1E	219	13 SR4	(4.2)	(3.8)	2.1	E3D
73	25 SK41	(5.4)	(5.1)	1.8	H3A	219	14 I-7	(5.0)	(5.0)	2.0	H1D
73	26 SK41	(5.4)	(5.0)	1.9	H3A	219	15 SR4	(5.6)	(5.4)	1.5	H1C
73	27 SK41	(6.6)	(6.3)	2.1	H2A	219	16 SD7	(4.7)	(4.4)	(1.9)	E1D
73	28 SK41	(4.4)	(4.1)	1.9	H3A	219	17 I-6	(4.3)	(3.8)	1.8	E2D
73	29 SK41	(1.8)		1.9	A	219	18 I-6	(6.9)	(6.8)	2.4	E1D
73	30 SK41	(2.3)		2.2	A	219	19 I-7	(7.0)	(6.8)	1.9	E1D
73	31 SK41	(2.3)		2.2	A	219	20 I-6	(6.6)	(6.2)	2.3	E1D
73	32 SK41	(1.9)		2.2	A	219	21 I-4	(6.2)	(6.0)	2.3	E3E
73	33 SK41	(1.9)		2.1	A	220	1 I-7	(7.8)	(7.5)	2.1	E1D
74	18 SK76	(2.9)	(2.8)	(1.2)	H2E	220	2 I-7	(7.7)	(7.5)	4.1	E1D
74	19 SK7	(7.3)	(7.0)	2.0	H1D	220	3 I-4	(7.2)	(6.7)	2.2	E1D
74	20 SK76	(5.2)	(4.9)	1.9	H3A	220	4 I-7	(7.2)	(7.0)	1.8	H1B
78	41 比分析P45	(7.5)	(7.2)	1.9	H1D	220	5 I-7	(6.5)	(6.2)	2.0	H1B
78	42 比分析P38	(3.5)	(3.4)	1.9	H2A	220	6 H-5	(6.8)	(6.6)	1.6	H1B
85	3 H-4	(6.4)	(6.0)	2.6	H1D	220	7 SR4	(8.4)	(8.0)	2.0	E1E
85	4 I-4	(2.8)	(2.7)	1.5	H2E	220	8 I-6	(7.4)	(7.0)	(2.0)	E1D
85	5 I-3	1.5	1.4	1.5	1B	220	9 G-6	(6.6)	(6.4)	2.0	E1D
85	6 I-4	2.1	1.9	2.7	1A	220	10 I-4	(6.6)	(6.3)	2.2	E1E
90	31 H-7	(6.1)	(5.9)	2.2	H1A	220	11 H-7	(6.9)	(6.4)	2.3	E3E
90	32 H-6	2.5	2.3	1.5	H1E	220	12 I-6	(4.6)	(4.4)	2.0	E2D
218	1 H-5	3.7	2.8	2.9	1A	220	13 H-7	(4.6)	(4.3)	2.0	E2D
218	2 I-4	1.5	1.5	1.9	1A	220	14 SD7	(5.0)	(4.7)	2.2	E2D
218	3 I-6	1.7	1.6	1.8	1A	220	15 H-6	(5.0)	(4.8)	(1.5)	E2D
218	4 H-5	1.8	1.6	1.9	1A	220	16 I-7	(6.0)	(5.8)	(1.7)	E1D
218	5 H-6	1.9	1.7	2.0	H1A	220	17 I-7	(4.0)	(3.8)	2.2	E3D
218	6 G-6	2.0	1.9	(1.5)	H1A	220	18 K-5	(4.4)	(4.1)	1.9	E1E
218	7 H-7	(2.8)	(2.6)	2.3	H1A	220	19 SR3	(4.6)	(4.2)	1.8	E2D
218	8 I-7	(2.6)	(2.4)	2.5	H1A	220	20 H-5	(4.4)	(4.0)	(1.8)	E2D
218	9 SR1	1.2	1.1	1.1	1A	220	21 H-7	(3.5)	(3.4)	1.8	E3D
218	10 H-6	1.3	1.1	1.3	1B	220	22 I-7	(3.2)	(2.9)	1.8	E2D
218	11 SR1	3.6	3.6	2.3	H1A	221	1 SR4	(10.0)	(9.4)	2.2	E1D
218	12 H-6	1.7	1.6	1.8	1D	221	2 H-5	(9.0)	(8.8)	2.0	E1E
218	13 表振	1.2	1.2	1.5	1C	221	3 G-5	(7.8)	(6.7)	(3.4)	E2D
218	14 I-6	2.2	1.8	2.0	1B	221	4 I-6	(8.0)	(7.8)	2.1	E1D
218	15 I-6	1.5	1.1	1.1	H1B	221	5 SR3	(8.5)	(8.4)	2.0	E1D
218	16 I-6	1.2	1.0	1.4	1D	221	6 I-J-7	(7.8)	(7.5)	2.3	E1E
218	17 H-7	1.0	1.0	1.2	H2E	221	7 H-5	(7.9)	(7.5)	2.3	E1E
218	18 H-6	2.2	2.0	1.7	H2A	221	8 I-5	(7.6)	(7.3)	2.3	E1E
218	19 I-6	1.7	1.5	1.9	1D	221	9 G-6	(7.8)	(7.5)	1.8	E3E
218	20 G-6	1.8	1.5	1.5	1D	221	10 I-7	(7.0)	(6.4)	2.2	E3D
218	21 H-6	2.4	2.3	1.8	H2E	221	11 K-5	(6.6)	(6.3)	2.1	E3D
218	22 H-5	2.3	2.0	2.0	1D	221	12 I-4	(6.3)	(6.1)	2.5	E1D
218	23 I-4	1.4	0.9	1.3	H3C	221	13 I-7	(6.4)	(6.3)	3.2	H1D
218	24 H-5	1.4	1.2	1.1	1D	222	1 H-7	(6.4)	(6.2)	2.3	H2C
218	25 I-4	2.2	1.8	1.5	H2C	222	2 I-5	(6.2)	(5.7)	2.2	E3D
218	26 H-6	3.0	2.9	1.3	H1B	222	3 I-4	(6.4)	(6.1)	2.2	E2D
218	27 SR1	2.4	2.3	1.8	H2D	222	4 SR1	5.7	5.4	2.0	E1D
218	28 SR3	(3.0)	(2.9)	1.7	H2D	222	5 I-6	(5.8)	(5.5)	2.0	E2D
218	29 SR4	3.6	3.5	1.8	1C	222	6 I-5	(5.6)	(5.2)	2.1	E3D
218	30 H-5	3.8	2.2	2.7	1D	222	7 I-7	(5.6)	(5.4)	1.9	E3D
218	31 I-4	4.3	3.7	2.2	H2C	222	8 I-7	(5.6)	(5.4)	2.0	E3D
218	32 H-5	(6.3)	(6.3)	2.1	1C	222	9 H-6	(5.6)	(5.2)	2.4	E2D
218	33 H-5	6.4	6.2	2.7	1D	222	10 SR4	(5.4)	(5.2)	2.1	E3E
218	34 H-5	(6.2)	(5.8)	(2.4)	H2D	222	11 G-6	(5.4)	(5.0)	1.9	E3D
218	35 I-4	(4.4)	(3.7)	4.0	H1E	222	12 H-7	(6.2)	(5.0)	2.9	E3D
218	36 SR4	(3.0)	(2.6)	1.9	H1E	222	13 SR4	(5.4)	(5.0)	1.9	H1D
218	37 I-7	(3.0)	(2.7)	2.7	H1E	222	14 SR4	5.3	(5.1)	2.0	H1D
218	38 SR4	(3.4)	(2.8)	1.2	H1E	222	15 I-4	(4.8)	(4.5)	1.7	E3D
218	39 SR1	(3.2)	(2.8)	1.7	H1E	222	16 I-7	(4.7)	(4.3)	1.8	H1D
218	40 H-6-7	(4.5)	(3.7)	2.0	H3E	222	17 H-5	(4.4)	(4.2)	2.0	E2D
218	41 H-5	(2.9)	(2.2)	(1.7)	H2E	222	18 SR4	(5.0)	(4.7)	2.0	E2A
218	42 G-6	3.2	2.6	2.0	H2E	222	19 I-6	(4.8)	(4.5)	1.8	H2A
218	43 I-7	2.3	1.5	1.5	H3E	222	20 H-6	(5.0)	(4.5)	1.8	H1A
218	44 I-4	3.0	2.2	1.9	H3E	222	21 SR4	(4.9)	(4.5)	1.7	E2A
219	1 I-5	(6.0)	(5.8)	2.0	H2E	222	22 SD7	(4.8)	(4.6)	1.9	E3A
219	2 I-6	(7.2)	(6.9)	2.5	H1E	223	1 I-7	(10.0)	(9.6)	2.3	H1A
219	3 H-6	(8.3)	(8.0)	2.0	H1D	223	2 SR4	(7.8)	(7.2)	2.2	H1A
219	4 I-7	(5.0)	(4.7)	2.0	H2C	223	3 SR3	(7.6)	(7.2)	2.2	E2A
219	5 SR1	(6.7)	(6.5)	2.1	H3C	223	4 H-6	(6.8)	(6.6)	2.0	H1A
219	6 SK3	(5.6)	(5.4)	2.0	H3C	223	5 I-6	(6.4)	(6.2)	2.3	H1A
219	7 I-7	(4.4)	(3.5)	(0.9)	H2C	223	6 SR4	(8.4)	(8.1)	2.3	H1A
219	8 I-6	(6.6)	(6.4)	2.2	H3C	223	7 SR1	(6.5)	(6.2)	2.1	H1A
219	9 K-5	(6.0)	(5.6)	2.5	H3D	223	8 I-7	(7.0)	(6.7)	2.3	H1A

探洞番号	出土地点	外径(最大径cm)	外径(最小径cm)	高さ(cm)	分類
223 9	H-7	6.6	6.2	2.1	IIA
223 10	J-6	(6.8)	(6.2)	2.1	IIA
223 11	H-6	(6.5)	(6.2)	4.4	IIA
223 12	I-7	(7.0)	(6.7)	2.3	IIA
223 13	SR3	(7.2)	(6.9)	2.1	IIA
223 14	K-5	(6.8)	(6.6)	2.0	IIA
223 15	I-6	(6.4)	(6.0)	2.2	IIA
224 1	J-4	(7.6)	(7.4)	2.2	IIA
224 2	I-7	(7.8)	(7.4)	2.2	IIA
224 3	J-4	(5.8)	(5.4)	2.3	IIA
224 4	H-7	(5.4)	(5.2)	2.1	IIA
224 5	J-4	(8.0)	(8.0)	1.0	IIA
224 6	I-7-H-6	(7.6)	(7.4)	2.2	IIA
224 7	I-6	(5.6)	(5.3)	1.9	IIA
224 8	H-7	(5.8)	(5.4)	1.8	IIA
224 9	I-6	(5.6)	(5.4)	2.0	IIA
224 10	J-4	(5.6)	(5.2)	1.8	IIA
224 11	SR7	(7.2)	(7.0)	2.1	IIA
224 12	K-5	(7.4)	(7.2)	2.3	IIA
224 13	SD7	(6.0)	(5.8)	2.1	IIA
224 14	I-4	(5.8)	(5.5)	2.0	IIA
224 15	I-6	(7.3)	(7.1)	2.1	IIA
224 16	I-6	(7.2)	(7.0)	2.0	IIA
224 17	G-6	(5.4)	(5.1)	2.5	IIA
224 18	H-6	(5.3)	(4.9)	2.3	IIA
225 1	H-6	(7.2)	(6.9)	2.3	IIA
225 2	SR1	(7.2)	(7.0)	2.2	IIA
225 3	G-6	(6.5)	(6.3)	2.4	IIA
225 4	J-7	(6.7)	(6.4)	2.1	IIA
225 5	I-6	(6.5)	(6.4)	2.1	IIA
225 6	SR3	(6.8)	(6.6)	1.9	IIA
225 7	K-5	(6.8)	(6.5)	2.1	IIA
225 8	H-7	(6.6)	(6.4)	2.2	IIA
225 9	I-6	(6.5)	(6.4)	1.7	IIA
225 10	H-5	(6.3)	(6.0)	2.2	IIA
225 11	I-4	(6.3)	(6.0)	2.1	IIA
225 12	I-6	(6.0)	(5.6)	2.2	IIA
225 13	H-7	(5.6)	(5.3)	2.0	IIA
225 14	I-6	(5.6)	(5.3)	1.9	IIA
225 15	I-7	(5.5)	(5.1)	2.0	IIA
225 16	I-6	(5.0)	(4.7)	2.3	IIA
225 17	I-6	(5.0)	(4.8)	2.3	IIA
225 18	I-6	(5.1)	(5.0)	1.9	IIA
225 19	I-6	(4.8)	(4.6)	1.8	IIA
225 20	SR3	(4.6)	(4.3)	1.9	IIA
225 21	I-7	(4.2)	(4.0)	2.0	IIA
225 22	I-7	(4.2)	(4.2)	1.7	IIA
226 1	I-6	(6.4)	(5.9)	2.4	IIA
226 2	H-5	(6.4)	(6.1)	2.2	IIA
226 3	J-4	(6.2)	(6.1)	1.6	IIA
226 4	K-5	(6.4)	(6.2)	2.1	IIA
226 5	I-6	(6.3)	(6.1)	2.2	IIA
226 6	SD7	(6.2)	(5.9)	2.0	IIA
226 7	I-7	(6.2)	(6.1)	2.2	IIA
226 8	I-4	(6.0)	(5.8)	2.0	IIA
226 9	J-4	(6.0)	(5.8)	2.0	IIA
226 10	J-4	(5.9)	(5.6)	2.0	IIA
226 11	I-7	(6.1)	(5.8)	2.0	IIA
226 12	G-6	(6.0)	(5.8)	1.1	IIA
226 13	I-6	(6.2)	(6.0)	2.0	IIA
226 14	SR3	(6.0)	(5.8)	2.1	IIA
226 15	I-7	(5.8)	(5.7)	2.3	IIA
226 16	H-5	(5.8)	(5.5)	2.2	IIA
226 17	H-7	(5.9)	(5.6)	2.1	IIA
226 18	H-5	(6.2)	(6.0)	2.1	IIA
226 19	H-6	(5.6)	(5.3)	2.1	IIA
226 20	G-6	(5.2)	(4.9)	2.3	IIA
227 1	J-4	(4.4)	(4.3)	1.9	IIA
227 2	I-6	(4.2)	(4.1)	2.0	IIA
227 3	H-5	(4.0)	(3.7)	2.2	IIA
227 4	I-4	(4.0)	(3.6)	2.0	IIA
227 5	I-6	(4.1)	(3.8)	1.7	IIA
227 6	表探	(3.3)	(3.1)	1.6	IIA
227 7	H-7	1.7		2.3	D
227 8	H-7	1.5		2.1	C
227 9	SR1	1.5		2.0	D
227 10	G-6	1.9		2.1	D
227 11	SR4	2.2		2.0	D

探洞番号	出土地点	外径(最大径cm)	外径(最小径cm)	高さ(cm)	分類
227 12	H-6	1.7		1.8	D
227 13	I-7	1.7		1.8	D
227 14	H-5	1.7		1.8	D
227 15	H-5	1.9		1.6	D
227 16	H-6	1.9		1.7	C
227 17	H-5	2.0		1.7	D
227 18	SK83	2.0		2.3	D
227 19	H-7	1.6		1.7	D
227 20	H-7	2.2		1.5	D
227 21	K-5	1.9		2.0	D
227 22	K-5	2.4		1.9	C
227 23	G-6	1.6		1.8	D
227 24	SD7	1.7		1.9	D
227 25	SR4	2.0		1.8	D
227 26	SR4	1.9		2.0	D
227 27	G-6	1.4		1.6	D
227 28	SR4	1.7		1.3	D
227 29	SD7	1.8		2.2	D
227 30	H-5	1.8		1.6	D
227 31	I-6	2.0		1.9	D
227 32	G-6	2.1		1.6	C
227 33	I-6	2.3		1.8	D
227 34	H-5	1.8		2.0	D
227 35	H-4	2.1		2.1	D
227 36	SR3	2.0		2.0	D
227 37	H-6	2.6		1.6	D
227 38	SR1	1.2		2.0	B
227 39	SR3	2.3		2.0	A
227 40	I-7	2.1		2.0	A
227 41	J-4	2.1		2.0	A
227 42	J-5	2.1		1.8	A
227 43	I-6	2.0		2.2	A
227 44	I-7	2.1		1.7	A
227 45	H-7	1.8		1.2	A
227 46	SR4	2.2		1.9	A
227 47	H-6	1.8		1.9	A
227 48	SR1	1.9		2.0	A
227 49	I-6	2.3		1.9	A
227 50	I-7	2.0		1.9	A
227 51	I-7	2.1		2.1	A
227 52	J-4	2.0		2.1	A
227 53	K-5	2.2		2.1	A
227 54	J-4	1.9		2.0	A
227 55	I-7	2.3		1.9	A
227 56	SD7	1.3		2.1	A
227 57	H-7	2.0		2.0	A
227 58	J-4	2.1		1.9	A
227 59	I-7	1.6		2.0	A
227 60	H-7	1.7		1.5	A
227 61	IIA	1.8		1.7	A
227 62	SR1	2.0		1.5	A
227 63	I-6	1.7		1.7	A
227 64	I-7	1.6		1.9	A
227 65	SR4	1.8		1.6	A
227 66	SR4	1.9		1.8	A
227 67	I-7	1.9		1.8	A
227 68	SR4	1.5		1.9	A
227 69	I-7	2.0		1.9	A
227 70	SR4	2.4		2.0	A
227 71	I-6	2.2		2.2	A
227 72	H-6	2.1		2.2	A
227 73	H-5	2.8		1.9	A
227 74	J-6	2.4		2.1	A

- 注 1) 耳飾りは遺構関係24点、遺構外307点中271点を図示。
 2) 外径は、最大径と耳梁孔に当たる最小径(括弧部)を計測。
 ()は復元、[]は現存値、径不明は幅を計測。
 3) 分類は設案(1983)を基に一部簡略化した。
 括弧内には設案分類との対応を示した。
- 形態
 I F形(1)
 II 環状: 1厚手(I), 2薄手(II), 3極薄手(V)
 III プリッパ形: 1テラス形, 2ブリッジ形, 3漏斗形(III)
 文様
 A 無文 (A)
 B 刻目 (B刻目, Dハッチングを含む)
 C 浮文・粘付文 (C)
 D 沈彫文 (D)
 E 二又文 (F三又文, G編刺雲形を含む)

土偶 (第228図～第233図)

土偶は33点、未製品らしき土製品も含めると35点が出土している。

第228図1～4・6～8は木菟型土偶に分類される一群である。1は小型土偶で、現存高は7.1cmである。完形なら8cm程度と考えられる。頭頂部の大半と右腕先、左腕、左脚の下半を欠く。僅かに残った頭部には結髪状の沈線が施される。顔面の輪郭は、微かに盛り上がった隆帯で表され、隆帯上には細い篋先で施された刺突列が見られる。眼と口は円形の浅い窪みで表現され、周囲には細かい刺突が施される。乳房はいわゆる垂乳母状のもので、胴部に沿って隆帯で表される。乳房の上面にも細かい刺突が施される。下半身も内股を除いて刺突列で施文される。正中線および背面の文様は併走する細い沈線と沈線間を埋める細かい刺突列で表現される。顔面および背面の数箇所に赤彩痕が残る。2は木菟土偶の頭部で、現存高は4.8cmであるが、完形ならば15cm強になると考えられる。額部の装飾と思われる部分と鼻部以外の顔面は欠損している。頭部の正面には結髪状の表現が見られるが、頭頂部および背面はかなりデフォルメされた表現になっている。文様は約3mm幅の浅い沈線とほぼ円形の刺突で表現される。赤彩痕が全面に残る。3は木菟土偶の頭部で、顔面の中心から左側と下半部を欠く。完形なら15～17cmほどになると思われる。眼と耳は円形粘土の貼付け、後頭部の鬘状突起も粘土の貼付けである。頭部の装飾は、巾が1mm前後の非常に浅い沈線で表現される。顔面に赤彩痕が微かに残る。4も顔面の輪郭や眼部の表現から木菟土偶の一種と考えられるが、鬘の表現とは見られない。背面の破損状況から、頭部の左半分と考えられる。赤彩痕は観られない。6は、典型的な晩期の木菟型土偶の胴部で、完形ならば12～13cmの大きさになると考えられる。肩部から胴部中央に向かう隆帯は腹部の中央に集約し、乳房表現はこの隆帯の中に埋没している。腹部は突出し、上面には円形の刺突が施される。背面は縄文(RL)と沈

線で施文される。数箇所に赤彩痕が残る。左腕の破損面からは、胴部の芯になる粘土に頭部、両腕、両脚部の粘土を接合し、最終的な仕上げ粘土で外形を形作ったことが明瞭に観察できる。7は木菟土偶の左脚で、断面形は、内股側が隆起した三角形になる。全体に磨耗しており、特に正面は磨耗が激しいが、縄文(RL)と沈線で施文されている。背面の数箇所に赤彩痕が残る。8も木菟土偶の左脚である。沈線と刺突で施文される。赤彩痕は見られない。

第228図5、第229図1～4は、関東地方在来の後期土偶の系統をひく形態が晩期まで残ったものと考えられる。第228図5は左腕であるが、手先が外開きになり、管谷式期の土偶の影響を強く残している。沈線が手のひらにも施されており、背面には縄文(RL)が施文される。第229図1も左腕である。無文で赤彩なども見られない。2は比較的小型の土偶の左脚である。無文であるが、全体に赤彩痕が残っている。3は胴下半部の背面と考えられる。縄文(LR)と沈線で施文される。数箇所に赤彩痕が残る。破損面から胴部の芯になる粘土に最終的な仕上げ粘土を被せることで外形を形作ったことが観察できる。4は足先を欠くが、断面形の内股側が分厚く作られており、土偶の右脚と考えられる。背面の内股側に小さなボッチが付けられる。第229図の1・2・4は後期中葉の山形土偶の系統をひく在地の土偶が晩期まで残ったものと考えられる。

第230図1～第232図2は遮光器系土偶と大洞系の土偶の影響を受けた一群である。

第230図1は遮光器系土偶の頭部である。現存高は7cmであるが、完形なら30～40cmになると考えられる。王冠状装飾および左眼の大半を欠損している。頭部は球形に近く、内面の輪積み痕は丁寧になでられており、王冠は輪積みの最終段を成形した後に付けられている。頸部の破損面は輪積みの部分で剥離している。眼は遮光器土偶特有の表現で、鼻腔は浅い窪みで表現され、口孔は貫通している。額部の装飾は剥落している。側頭部から後頭部にかけては、

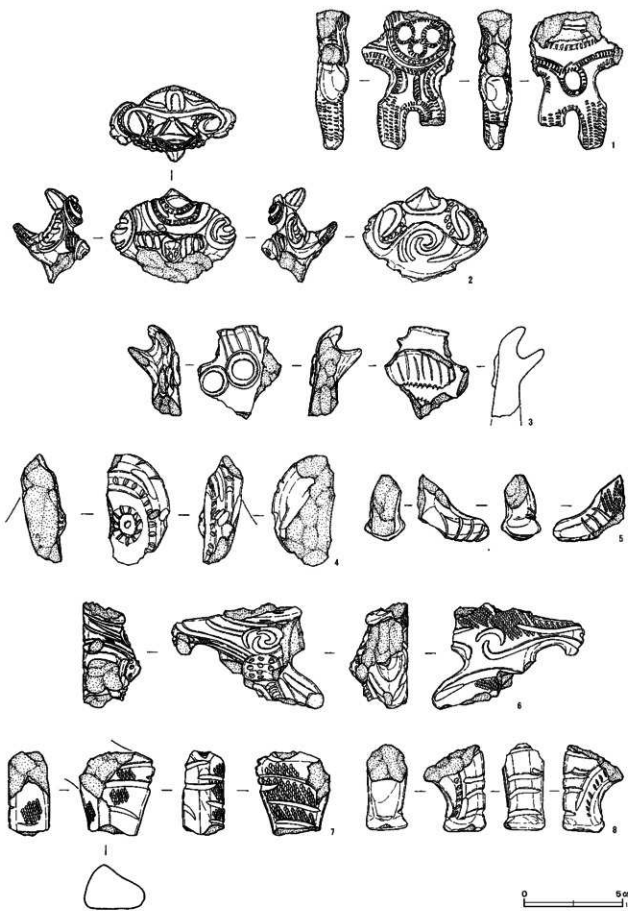
羊歯状文と流線状の文様で装飾される。頸部は無文で、胴部との境に隆帯が廻る。顔面および背面の数箇所に赤彩痕が残る。全体に均整の取れた作りで、いわゆる東北地方の透光器土偶に忠実に作られており、搬入品の可能性も考えられる。第230図2も透光器系土偶の頭部である。顔面のほぼ右半分を残し、他は欠損している。顔面の作りは第230図1に比してやや大ぶりであり、完形であれば40cmを超す土偶になると思われる。顔面の輪郭の眉状の部分と眼部には縄文(LR)が施される。頭頂部には王冠状の装飾が付けられていたと思われ、剥離した痕跡が残る。この土偶も、王冠は輪積みの最終段を成形した後に付けられている。顔面の数箇所に赤彩痕が残る。3も透光器系土偶の頭部であるが、形状から王冠状の装飾は持たず、頭頂部は開口したままである可能性が高い。眼部の大きさからやはり、30~40cm大の土偶になる可能性が高い。焼成が良好で、内面の整形もかなり丁寧なことから容器的な扱いをされた可能性も考えられる。赤味をおびた化粧粘土がかけられていた可能性が高いが、いわゆる赤彩はされていない。4は形骸化した透光器系土偶である。頭部本体は中実になり、顔面表現もいわゆる透光器土偶とは似ても似つかないものになる。王冠状装飾が後頭部に残るのが、唯一透光器土偶の面影を残す表現になる。顔面は、やや縦長の楕円形になると思われる。眉から鼻にかけてはT字状の粘土の貼付けで、眼は楕円形の粘土を貼付けた後中央を浅く窪めて表現している。破損面は粘土塊の接合面で剥離しており、頭頂部の製作方法が明瞭に観察できる。

第231図1は右側頭部の破片である。関東以西で作られたいわゆる透光器系土偶と考えられる。頭部の最大復元値は10cm前後になると思われ、かなり大型の土偶の破片と考えられる。頭部下半には縄文(LR)が施される。赤彩痕が微かに残る。2は土偶の頭部である。頭部の直径は約7cmになると考えられる。頭部のくびれ部には隆帯が廻り、浅いスリットが施される。3は右腕である。腕先に透光器土

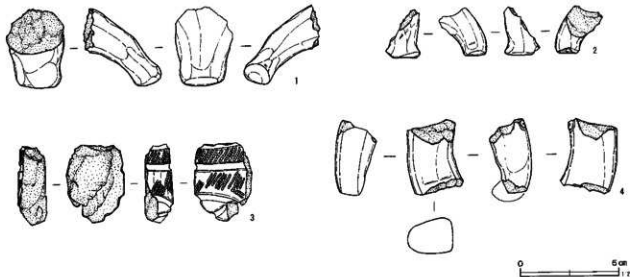
偶の影響を残しているが、胴部の最上段の粘土をつまみ出す方法で腕を作っていると考えられ、内面には粘土をつまみ出しながら、腕の先に向けて絞り込んだ痕跡が明瞭に残る。乳房は肩から正面にかけて施された幅広の隆帯の中心に付けられていたと考えられるが、剥落しており、痕跡のみが残っている。4の左腕は中実であるが、肩部の隆帯と手首に廻る沈線から透光器系土偶の腕と考えられ、肩部の隆帯上には三角形の刺突が入る。赤彩痕が数箇所に残る。5は、大洞C₂式期の土偶の影響を受けたものと考えられる。肩先は破損しているが、丸みをおびてやや張出すと考えられる。数条の沈線で隆帯状の効果を出す表現がなされており、隆帯状の部分には篋先を用いた刺突が入る。表面は赤彩されており、明瞭に痕跡が残る。6は中空土偶の左背面と考えられる。背面には渦巻き状の沈線が、側面には弧状の沈線が施される。胴部の断面形はやや扁平になると思われ、透光器系の中空土偶と考えられる。

第232図1は腰部の右半身と考えられる。輪積みの二段分のみ破片で、粘土の剥離面を明瞭に観察することができる。隆帯上は弧状の沈線で施文される。2も中空土偶の右側面であるが、大型土偶の一部であり、文様構成は明確でない。斜行する沈線が施され、沈線間を埋めるように縄文(RL)が付けられる。内面の輪積みの整形は粗く、不均一である。

第232図3は胴部の左半身であるが、完形ならば50cmを超す大型の土偶になると思われる。器壁も厚い箇所では2cmを超える。腕の伸び方と大きさから、腕の先端は開口すると考えられる。胴部全体に無節の縄文(L)と三叉文状の沈線が施文される。文様の付け方は、縄文を先行している場合と沈線を先行している場合の両方が見られるが、縄文を先行するケースが多いようである。外面には赤彩痕が残る。内面は丁寧に整形されているが、器壁が厚いためか、小さな亀裂が何箇所かに入っている。土偶の形状は、木菟型中空土偶の影響が強いと考えられるが、赤彩は施こされていても表面の色調を黒褐色に仕上げる



第228图 土偶 (1)



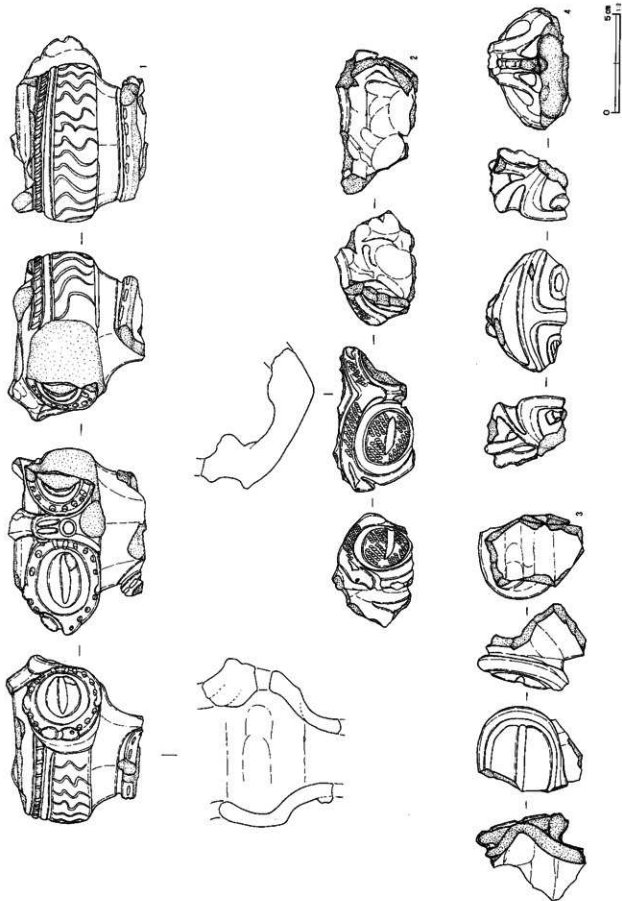
第229図 土偶 (2)

点や縄の多用は東北地方の土偶の影響も強いと考えられる。4は中型土偶の胴部の右側面と考えられる。沈線と円形の刺突で施文される。腋下部分には腕が剥落した痕跡が残る。

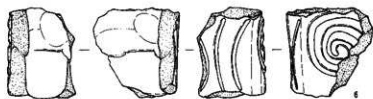
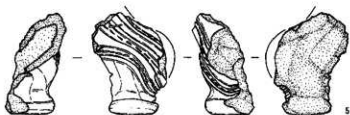
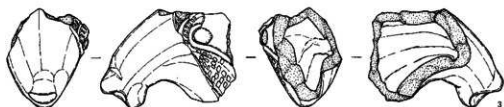
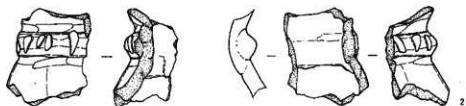
第233図1～3はI字文土偶の一群と考える。1は左脚部で、完形なら20cm強の大きさの土偶になると考えられる。I字文の仲間に分類される土偶の初期のもので、相対する三叉文が各々の頂点を目指しつつも、頂点が繋がっていないのが特徴である。また、脚部の断面形が、ほぼ円形であるのも初期のI字文土偶の特徴である。赤彩はされていない。なお、土偶の胎土は砂粒を多く含んでおり、焼成も若干脆い。2は胴部の右背面の破片である。文様構成は、横走る二本の沈線間に上下方向の細い沈線が施されるものと考えられ、いわゆる「I字文」が形骸化した時期の土偶である。当遺跡からは包含層出土の土偶も含め、4点のI字文土偶が出土しているが、これらの中で最も後出のものであろう。第233図3は扁平な板状の土偶で、最も厚い部分で2.4cmである。背面の文様や両乳房の外側に貫通孔を持つことなどから一見土版を彷彿とさせるが、頭部と両腕が明瞭に分かれていることや乳房を表現している点から土

偶と考える。頭部、両腕、下半身ともに欠損しているが、20cm強の土偶になると思われる。文様にはI字文状の陰刻が多用されており、他に沈線や列点で施文される。乳房は、しっかり付けられており、作り出した可能性が高い。乳房の真ん中は微かに窪む。乳房の外側には貫通孔と未貫通孔がセットで付けられるが、より乳房に近い孔が背面まで貫通している。貫通孔の上縁には微かに擦れたような痕も観察でき、この土偶が何処かに吊るされていた可能性も考えられる。

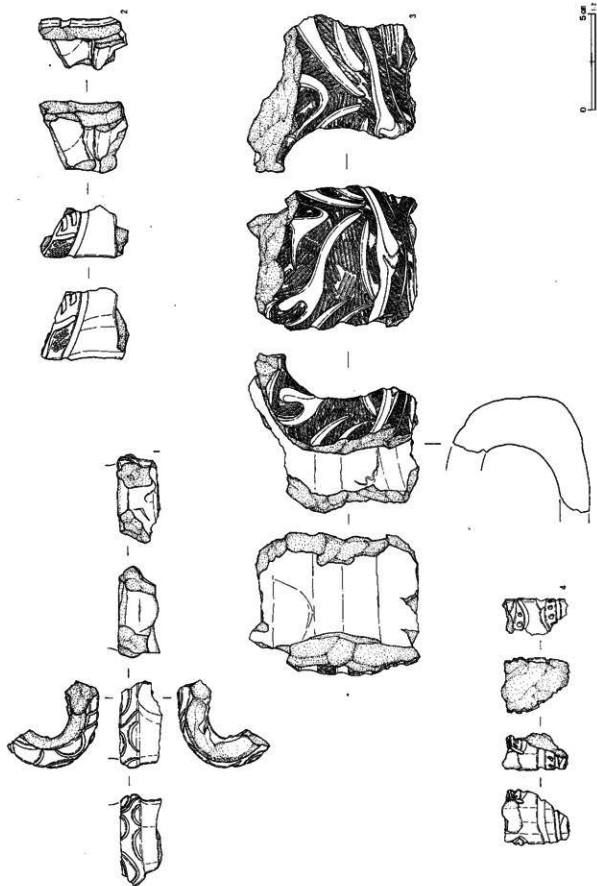
第233図4～7は、上記のいずれにも含まれない土偶である。4は、右肩部の破片である。分銅型に近い形態になると考えられるが、類例が無く、頭部や下半身の形状は不明である。文様の付け方もランダムであるが、背面の肩部には意識的な浅い沈線が入る。5は左脚である。晩期の土偶と考えられる。足首近くに沈線が2条廻る。足先には刻みが4箇所入れられ、足指が表現されている。6も左脚である。足首近くに3条の沈線が廻ると考えられるが、真ん中の沈線は、背面で三叉文になり取束する。以上の点から、晩期土偶と考える。なお、5の土偶も作りや大きさ、文様の付け方などから同一時期の土偶と



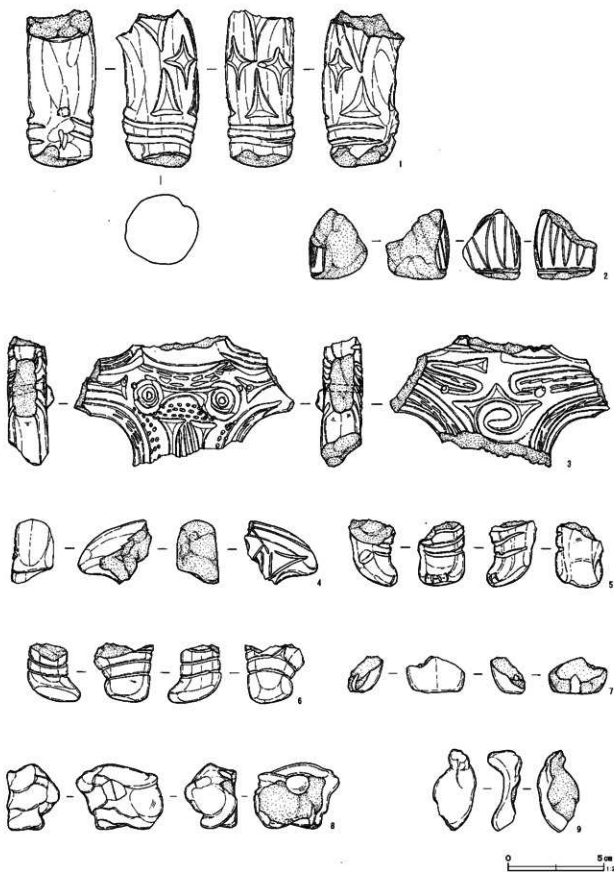
第230图 土偶 (3)



第231图 土偶 (4)



第232图 土偶 (5)



第233图 土偶 (6)

考えて差し支えないと思われる。7は土偶の足先と考えたが、足の底面に孔が穿たれており、他の土製品の可能性もある。

第233図8・9は土偶の未製品もしくは焼成粘土塊である可能性が高い。8は何らかの形を作る目的

で、粘土を重ねながら丸めたものと考えられる。9は木瓦土偶を作りかけた際に割れ落ちた粘土の一部とも考えられる。8・9ともに明確な製作意図は不明である。

土偶のまとめ

土偶は包含層出土のものも含め、38点出土している。これらは大きく、関東後期中葉の加曾利Bから安行を母体に展開した土偶と東北地方晩期の亀ヶ岡文化の影響を受けて関東地方で展開した土偶の二つに分類することができる。

関東の在地系の土偶は、さらに、①いわゆる木瓦土偶、②木瓦型中空土偶、③後期中葉からの流れを引き、晩期まで受け継がれた在地系の土偶の三つに分類することができる。

①いわゆる木瓦土偶に分類されるのは、第228図1～3、6～8などで、第228図の1～3および6、7は安行3a式期の所産になると考えられる。第228図8はこれらより新しくなると考えられる。

②木瓦型中空土偶の典型的なものは、包含層出土の第85図7のみである。いわゆる「赤城タイプ」の土偶で、茨城県南部から千葉県、埼玉県の大宮台地以東に分布する中空で大型の土偶である。この他には、第232図3もこのグループに入ると考えられる。

③在地系グループは、第228図5、第229図の土偶などである。

次に、亀ヶ岡文化の影響を受けて展開した土偶は、

④いわゆる遮光器系土偶、⑤遮光器系土偶の面影を残しながら在地化した土偶、⑥I字文土偶などに分類できる。

④いわゆる遮光器系土偶を忠実にぞったタイプの遮光器系土偶は、第85図8、第230図の1～3、第231図1などがあげられる。また、いずれも中空であることや遮光器状の眼を持つのが特徴である。

⑤遮光器系土偶が在地化したものとしては、第86図の1・2、第230図4、第231図の2～5などがあげられる。中空であること、遮光器状の眼、王冠状の装飾など、遮光器土偶の特徴が形骸化しているのが特徴である。第86図1は群馬県に、第230図4は、茨城県などに類例が見られる。

⑥I字文土偶としては、第86図3、第233図1～3などがあげられる。第233図1はI字文土偶の初期のもので、第233図3、第86図3、第233図2という変遷が考えられよう。

なお、当遺跡の中空土偶は総じて大型のものが多く、後期中葉に土偶の役割が大きく変化した可能性も指摘できる。

第9表 土偶一覽

図番号	国内番号	出土位置	部位	特徴	色調	胎土	焼成	現存高	現存幅	現存厚	備考
85	7	I-4	右腕	中空	灰褐色	密、C・D	良好	5.0	3.8	5.1	
85	8	I-4	胴部(右半身)	中空	黒褐色	密、A	良好	5.0	4.0	4.7	
86	1	I-4	頭部(右半身)	中空	橙褐色	粗、A	良好	5.4	4.3	5.7	
86	2	I-4	腰部(左側)	中空	黒褐色	密、B~D	良好	2.7	4.3	6.2	
86	3	I-4	左脚	中実	灰褐色	密、A~D	良好	6.4	7.1	5.6	
228	1	H-7	ほぼ完形	中実	茶褐色	密、A	良好	7.1	4.8	1.7	赤彩痕
228	2	K-5	頭部	中実	黒褐色	密、A・D	良好	4.8	6.3	3.8	赤彩痕
228	3	I-5	頭部(右半身)	中実	灰褐色	密、A・D	良好	4.7	4.3	2.7	赤彩痕
228	4	表探	頭部(左半身)	中実	暗褐色	密、A	良好	6.6	3.2	2.4	
228	5	J-6	左腕	中実	暗褐色	粗、A	良好	3.8	3.7	2.0	
228	6	H-6	胴部	中実	黒褐色	密、A・B	良好	5.4	7.7	2.9	赤彩痕
228	7	H-5	左脚	中実	黒褐色	密、A	良好	4.2	3.8	2.2	赤彩痕
228	8	I-7	左脚	中実	橙褐色	粗、D	良好	4.3	3.2	2.2	
229	1	K-5	左腕	中実	暗褐色	粗、A・D	良好	4.0	3.9	2.9	
229	2	H-4	左脚	中実	橙褐色	密、D	良好	2.4	2.4	1.8	赤彩痕
229	3	SR4	胴部(左背面)	中実	黒褐色	粗、A・D	良好	4.0	3.0	1.5	赤彩痕
229	4	H-5	右脚	中実	茶褐色	粗、C	良好	3.8	2.4	1.9	
230	1	G-6	頭部	中空	橙褐色	密、A・C	良好	7.0	9.4	8.6	赤彩痕
230	2	SR1	頭部(右半身)	中空	橙褐色	密、C・D	良好	4.1	7.3	5.8	赤彩痕
230	3	J-4	頭部(左半身)	中空	橙褐色	密、B~D	良好	5.5	4.4	4.4	
230	4	G-6	頭部	中実	暗褐色	密、C・D	良好	4.2	6.2	3.7	
231	1	G-6	頸部(右側面)	中空	灰褐色	密、C・D	良好	4.5	2.5	5.4	赤彩痕
231	2	J-5	頸部(右側面)	中空	暗褐色	密、A~C	良好	5.1	3.3	4.4	
231	3	H-5	右腕	中空	暗褐色	密、B・C	良好	5.2	7.1	4.3	
231	4	I-5	左腕	中実	黒褐色	粗、C・D	良好	4.8	5.8	3.3	赤彩痕
231	5	SR1	左腕	中実	黄褐色	密、C・D	良好	5.3	3.9	3.3	赤彩
231	6	H-6	胴部(左背面)	中空	灰褐色	粗、A・D	良好	4.7	4.5	3.5	
232	1	J-5	胴部(右半身)	中空	灰褐色	密、C・D	良好	2.2	4.6	4.8	
232	2	J-4	胴部(右側面)	中空	灰褐色	密、A・D	良好	4.6	2.8	3.8	
232	3	I-5	胴部(左半身)	中空	黒褐色	粗、A・C	良好	8.9	8.3	7.5	赤彩痕
232	4	H-6	胴部(右側面)	中実	灰褐色	粗、C	良好	3.5	1.9	2.9	
233	1	I-4	左脚	中実	黒褐色	粗、A~D	脆い	8.2	3.9	3.6	
233	2	G-6	腰部(左側面)	中実	黄褐色	密、C・D	良好	3.7	3.3	3.0	
233	3	SR1	胴上半部	中実	橙褐色	粗、A・C・D	良好	6.8	11.5	2.4	
233	4	SR1	右肩	中実	灰褐色	密、C・D	良好	3.4	3.9	2.2	
233	5	G-6	左脚	中実	橙褐色	密、C・D	良好	3.9	2.5	2.5	
233	6	J-6	左脚	中実	橙褐色	密、C・D	良好	3.1	3.1	2.1	
233	7	H-5	足先?	中実	淡褐色	密、C	良好	1.9	3.0	1.8	
233	8	H-6	土偶未製品?		黒褐色	密、C	良好	3.4	4.5	2.7	
233	9	SR1	土偶未製品?		淡褐色	密	脆い	4.2	2.3	1.8	

※計測値はすべて、土偶を正位置に置いた場合の最大値(単位:cm)

石器

ここでは、調査区南側から出土した遺構外の石器について分類していくこととする。

また、多数検出されている黒曜石やチャートなどについては、製品、原石、石核、剥片について全点を計測し、一覧表にまとめている(第11表～第13表)。

調査区北側出土のものについても、表に含めて作成している。

石鏃 (第234図1～42)

石鏃はさまざまな形状のものが出土している。大きさもまちまちで、小型のものから大型ものまであり、一定のまとまりは認められなかった。

1～9は平面形状が三角形に近いもので、無茎のものである。基部の形状は平基のものは1のみで、他は挟りが入っている。2～5は浅い挟りが、6～9には深い挟りが入っている。

10～25は平面形状が三角形に近いもので、有茎のものである。10～12の基部は直線的に作りだされている。また10の側縁は鋸歯状に作り出されている。13～19の基部には挟りが入っている。17は逆V字状に挟りが入るが、他はゆるやかに内湾する挟りが入る。20～25は基部が突出するものである。21～23は先端部が鋭角となる、細長い形状である。

26は、形状が棒状となるものである。基部の先端が欠損している。

27～31は平面形状が五角形となるものである。基部の形状は、27が無茎、28～32が有茎である。27は比較的大型のもので、先端部は鋭角的に作り出している。28は側縁部が鋸歯状となるものである。30、31は、調整を最低限に施しているもので、裏面には1次剥離面が残存している。

32～35は破損のため、全体の形状が不明なものである。32は先端部を欠損するもので、有茎のものである。33～35は基部を欠損するものである。

36～42は石鏃の未製品である。36、37は素材である剥片に、調整を粗く施して形を整えているもので

ある。未製品としたが、この状態が完成品である可能性が高い。38～42は肉厚なもので、側縁からの細かな調整が施されていない段階である。40は基部を有茎に作り出している。

石鏃 (第235図1)

1は、先端部の横断面形状が三角形状となるもので、調整は粗いものである。

削器 (第235図2～4)

2は小形のもので、剥片の1辺に簡単な調整を施して使用している。3は鋭い剥片の1辺を刃部としてそのまま使用している。4は基部を刃潰し状に加工するものである。

磨製石斧 (第235図5～12)

5～9、11は横断面形状が方形となるいわゆる定角式とされるものである。いずれも丁寧に研磨がなされるものである。小型である6、7と、中型である5、8、9、11とに大きさから2分される。それぞれ残存部分から比較すると、形状だけでなく幅や長さもほぼ同じであり、ある一定の小型の規格、中型の規格が存在したと考えられる。6は基部と刃部の欠損後に、再加工を行おうとしたものである。裏面刃部側には、新たに施された敲打が認められる。11は基部の欠損後、敲打や磨きが施されている。

10と12は、刃部のみが残存するもので、他と比較し大型のものである。10は扁平なもので、表裏面には敲打痕が残存している。12の表裏面にも、敲打痕が残存している。

石鏃 (第235図1、2)

1は縦長のもので、板状に加工して、表裏面を丁寧に磨いている。また上下の挟り部分にも、磨きを施している。2は自然礫の上下端部を剥離によって、挟りを施したのみで、磨きなどは認められないものである。

打製石斧 (第236図3~8)

打製石斧の出土量は少なく、破損品がそのほとんどである。3、5、6は両側縁部に抉りが入るものである。いずれも刃部は丸刃である。3は大型剥片の縁辺に、粗く調整を施して形状を作り出している。5は欠損した基部に、再加工が施されている。

4、7、8は直線的な側縁で、刃部に最大幅を持ついわゆる撥形とされるものである。4は右側縁を欠損する。7は大型のもので、基部と刃部を欠損する。8は裏面に自然面を大きく残している。

磨石 (第237図~第239図)

ここで磨石に分類した石器のほとんどの上下端面や側面には敲打が認められ、その部分は磨られて面取り状となっていた。また表裏面は使用のため、器面が滑らかとなっており、磨石としても使用されていたことは明らかである。本来ならば、敲石として分類すべき石器も含まれる可能性もあるが、磨石と敲石との明確な分類が困難な状況である。そこでここでは、磨面を持つものを磨石として一括して扱うこととし、その中で形状などによる分類を行うこととする。

A 棒状のもので敲打のある面をもつもの (第237図1~6)

1~3、5は上下端面に、敲打による面取りがなされているものである。1、3は側面にも敲打が認められる。いずれも表裏面は磨面としてよく使用されている。また、2~6には表裏面の一部に敲打の痕跡が認められる。

B 平面形が楕円または円形となる肉厚なもの、敲打のある面をもつもの (第237図7、8、第238図1~10)

いずれも磨面は良く使用されており、光沢をもつものもある。

第237図7、8と第238図1は、平面形が楕円形に近いものである。第237図7は、上下面に敲打痕が残存し、敲打による剥離が認められる。第237図8

と第238図1の周縁には、敲打による面取りが施されている。第237図7、8の表裏面の一部には敲打痕が残存し、8の表裏面には1箇所ずつ凹部が認められる。

第238図2~10は、平面形が円形に近いものである。7以外は、周縁すべてに敲打痕が残存し、面取りが施されている。磨面となる表裏面は、いずれも良く使用され、器面は滑らかである。5の表裏面には縁に沿って、敲打と磨きによる面取りが巡っている。表裏面の一部に敲打痕が認められるものがほとんどである。6、8~10の表裏面の中央付近には、敲打によるくぼみが認められる。また6の右側面は破損後、破損面を磨面として使用している。7は、上面と下面に面取りが認められる。

C 平面形が楕円または円形となる扁平なもので、敲打のある面をもつもの (第239図1~7)

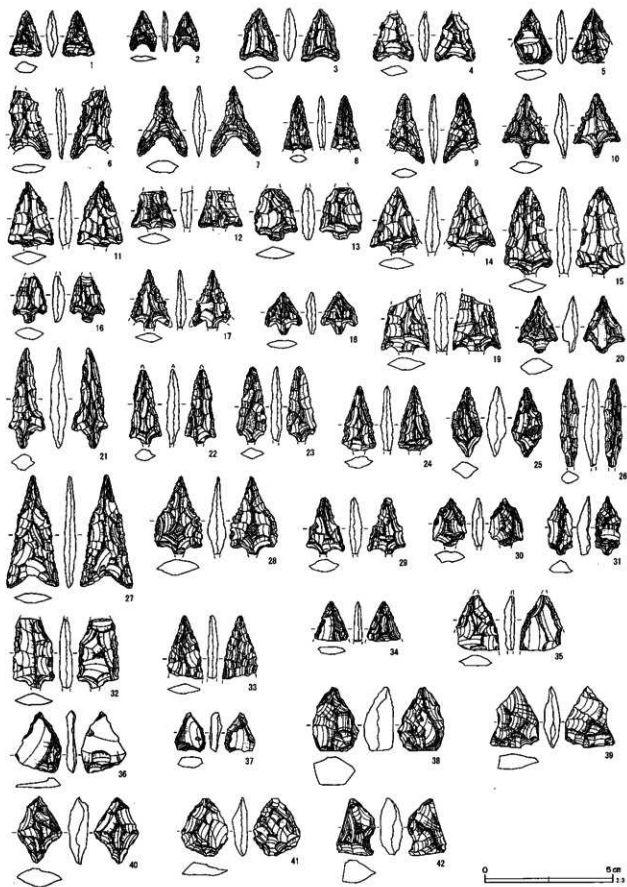
いずれも敲打痕と面取りが認められるものの、B類とは違い、器厚が薄いためか周縁部すべてが面取り状となるものはなかった。1~3は上端面や下端面に面取りが認められるものである。4は表裏面と右側面を、磨面として使用するものである。5~7は周縁すべてにわたって敲打が認められるが、5と6の側面部分は敲打裏のみで、磨られた痕跡はなかった。7は小型のものである。

D その他 (第239図8~11)

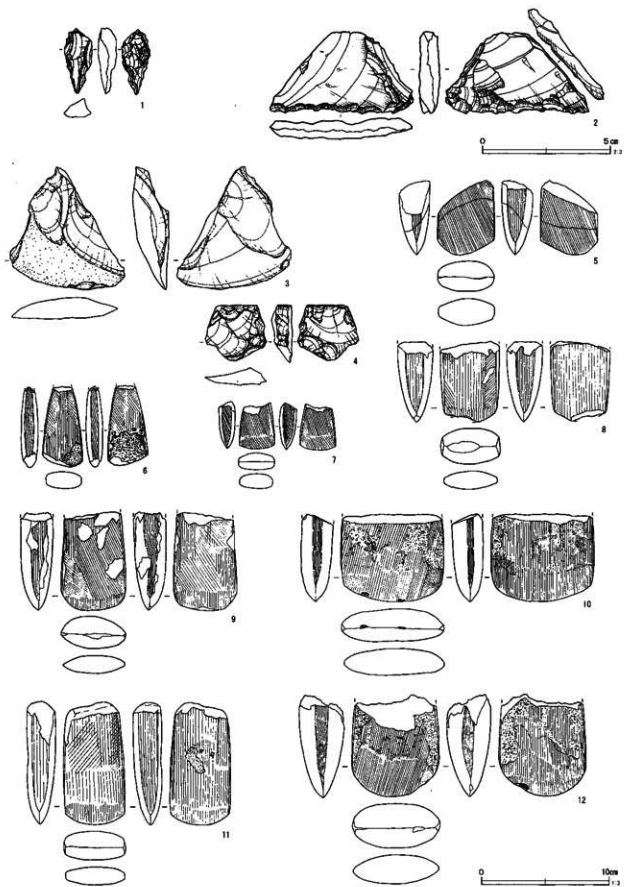
敲打面をもたないものをここに一括した。8は肉厚なもので、器面全体を磨面として使用している。破損部分には、破損後に敲打などの再利用がなされている。9、10は軽石である。表裏面や側面を磨面として使用している。11は絹雲母片岩製のもので、表裏面に磨面が認められる。周縁には形状を整えるための、調整が施されている。

石皿 (第240図1~6)

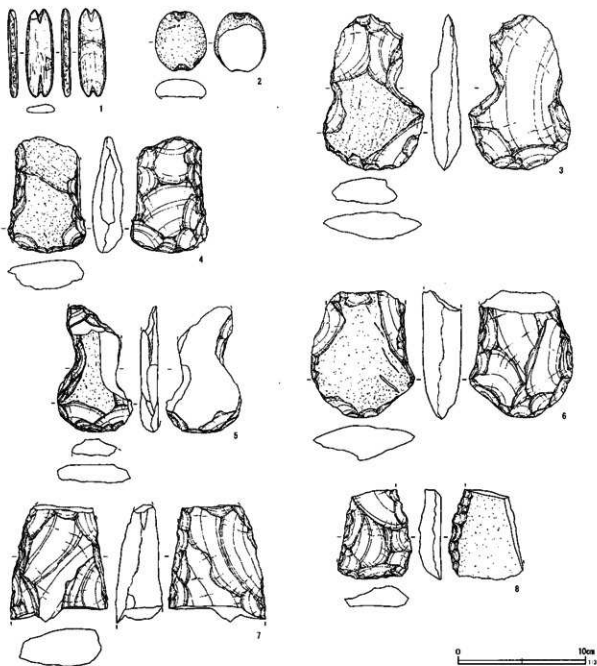
完形の石皿は検出されておらず、破片のみである。1は表面に使用によるくぼみを持つもので、表面は剥離が著しい。2は薄手のもので、表面は平らであ



第234图 石器 (1)



第235圖 石器 (2)



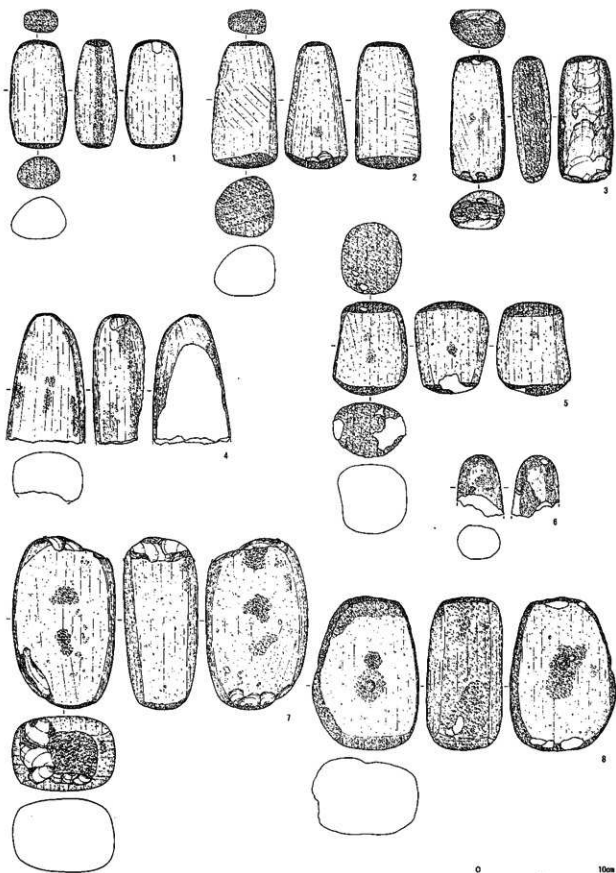
第236図 石器 (3)

る。また側縁には調整を施し、形を作り出している。凹部が1箇所認められる。3は表面に使用によるくぼみを持ち、縁部分には凹部が認められる。表面には、複数の凹部が施されている。破損後、両側縁には調整剝離や、敲打が施されており、再加工がなされたと考えられる。4と6は小破片で、表面の使用面はくぼみを持っている。4の縁部分には複数の凹部が残されている。5は表面が剥落しているもので、裏面には凹部が複数施されている。

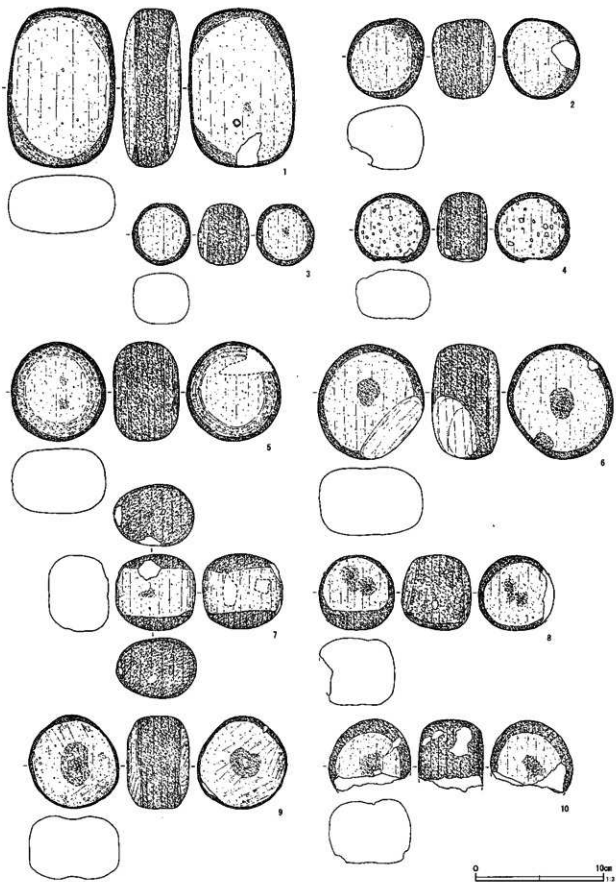
石棒 (第240図7、第241図11、12、20)

横断面形が円形に近いものを、石棒としてここにふくめた。すべて小破片で、全体の形状が明らかなのは検出されなかった。

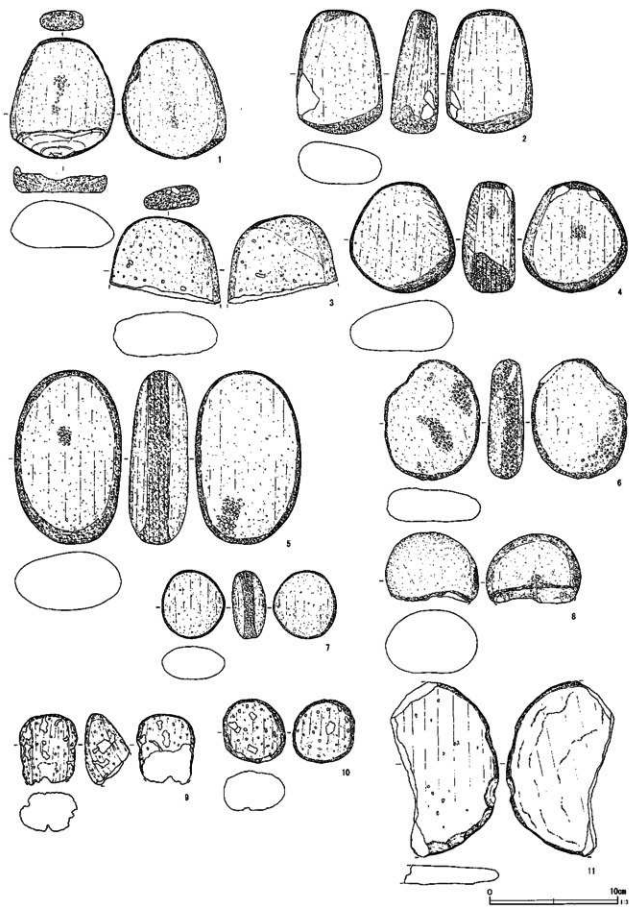
第240図7は頭部の破片で、ごく細い沈線によって文様が刻まれている。文様は、頭部の上下端に二本ずつ沈線を巡らして区画し、その間には逆U字状の文様を連続して施している。また頸部の括れ部分にも、部分的に沈線が刻まれている。



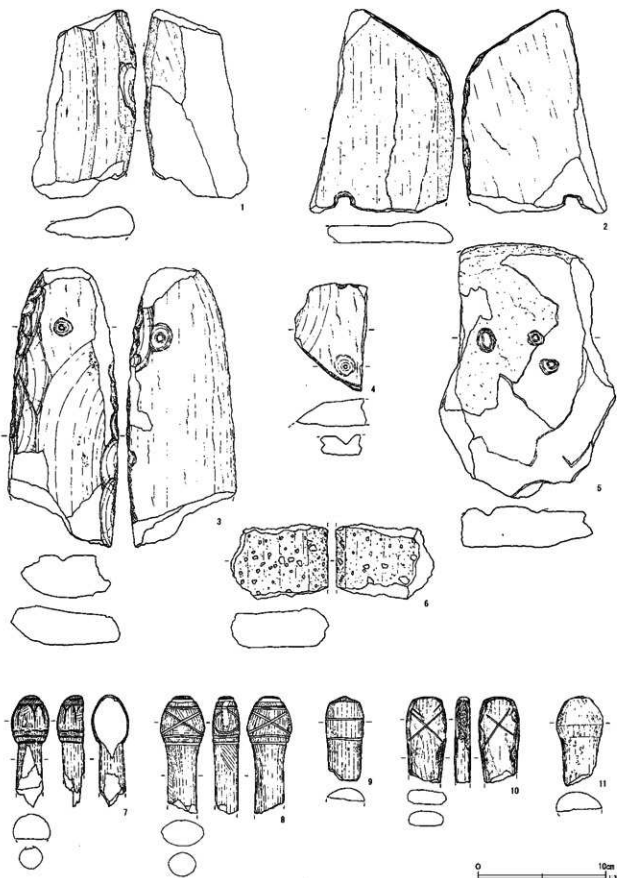
第237图 石器 (4)



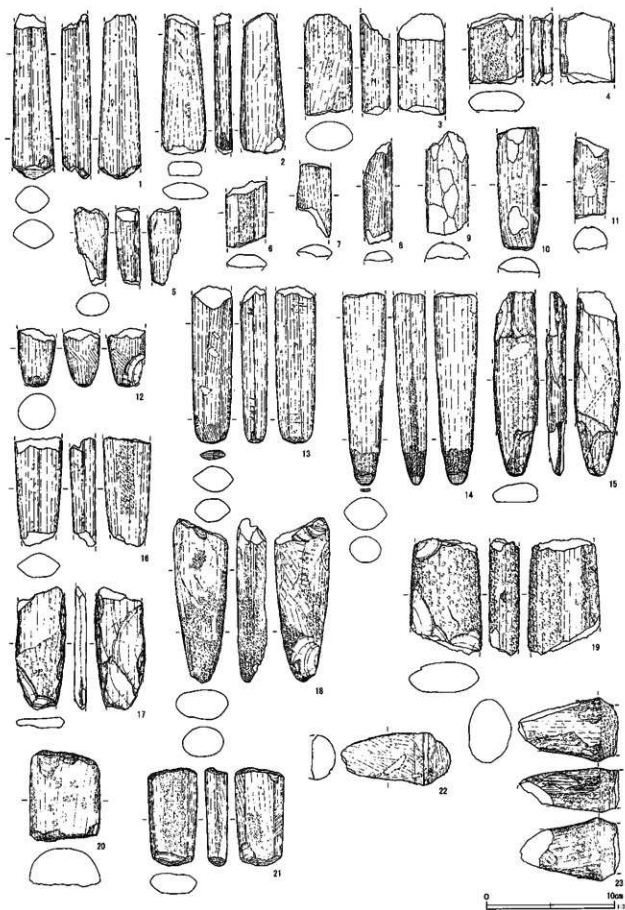
第238圖 石器 (5)



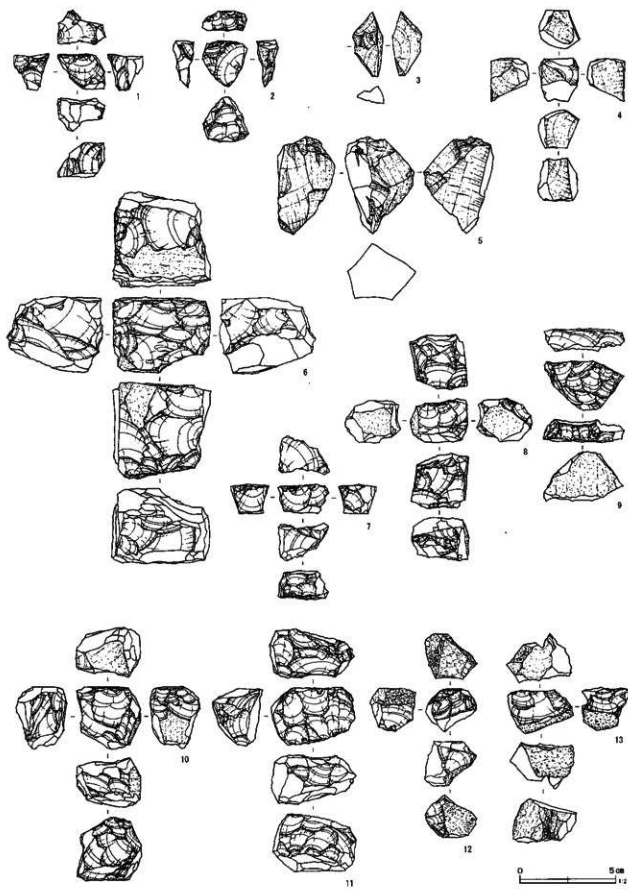
第239図 石器 (6)



第240图 石器 (7)



第241図 石器 (8)



第242図 石番 (9)

第241図11は胴部の破片、12は先端部の破片である。20は胴部の破片で、上下の破損面には敲かれた痕跡が認められ、敲石として再利用されていた可能性が考えられるものである。

石剣 (第240図8~11、第241図1~10、13~19、21)

横断面形が扁平なものや、稜を有しているものを石剣としてここに含めたが、横断面形状はレンズ状のもの、ひし形状のもの、六角形状のものなど様々である。また、石棒と同様に破損品のみが検出されており、完形のものはいない。

第240図8~11は頭部の破片である。8~10の頭部には文様が刻まれている。8は頭頂部の直下に、幅広の刻みを1本巡らし、括れ部直上には細い沈線状の刻みを2本巡らして胴部と区画している。その間には、1本ずつ2本の沈線をX字状に交差するように、表面から裏面まで途切れずに刻んでいる。9は2本の沈線が平行に刻まれ、頭頂部には敲打が残存している。10の側縁部には剥離痕と敲打痕が残存し、裏面の研磨は粗いものである。文様は表面と裏面に、1単位ずつX字状に粗く沈線を刻んでいる。11は無文で、器面には敲打痕が残存している。

第241図1~9、19は胴部の破片である。1は横断面形がひし形状となるものである。下端は破損後に再調整の痕跡が認められる。2は板状に加工された素材を使用したものである。4と6は横断面形を六角形にするため、表面の中央部分を敲打によって平らに加工している痕跡が認められる。8は横断面形が六角形状となるものである。19は器面全体に、剥離や敲打が残存する未製品の破片である。

第241図10、13~18、21は胴部から先端部の破片である。13は横断面形が六角形となるもので、先端部に面を持つものである。14は先端部近くを、帯状に敲打を加えて段を付けるものである。15、18は破損後、再加工を行っているものである。16は表面中央部に稜を持つが、裏面の中央部は敲打によって平坦に加工を行っているものである。17は剥離の痕跡

が全体的に残存するもので、未製品の破片と考えられる。21は上下の破損面に、敲打の痕跡が認められるもので、敲石として再利用された可能性が考えられるものである。

独鈷石 (第241図22、23)

独鈷石は2点出土しているが、いずれも破片である。22は全体的に丁寧な研磨が施されている。23は、剥離や敲打の痕跡が器面に残存し、形状も整っていないことから未製品の破損品と考えられる。

石核・原石 (第242図1~13)

調査区からは、黒曜石の石核6点、黒曜石の原石7点、チャートの石核239点、玉髓の石核が2点出土している。図示はされていないが、黒曜石、チャートの剥片も多数出土しており、その一覧表は第12表、第13表である。一覧表には調査区北側の遺物が含まれているが、その点数は、黒曜石で138点中2点、チャートで2504点中10点とわずかである。そのことから、出土した石核、原石、剥片は、出土している土器から安定期の様相を示していると考えることができる。

1、2は黒曜石の石核である。出土した石核は、2~3cm台のもので、比較的小型である。3~5は黒曜石の原石で、5が最大のものである。3は薄手で、使用は困難であったと考えられる。

6~11はチャートの石核である。6が最大のものである。黒曜石の石核に比較すれば、やや大型のものも含まれるが、やはり2~3cm台のものが大半を占めている。

12、13は12が玉髓、13が玉髓(メノウ)で、表面の色調が茶色や赤色に近いものである。大きさは2~3cm台である。これらの石核を母岩とする、製品や剥片は出土していない。また今回チャートとした白色が強い石核や剥片の中には、玉髓も含まれる可能性もあるが、明確な判別は困難であるためすべてチャートとした。判別は今後の課題とした。

第10表 石器(調査区南側)一覽

図番号	区内番号	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
66	1	SJ5	磨石	砂岩	[15.3]	[12.5]	4.2	1030.4	
73	35	SK41	石鏃	安山岩	2.1	1.5	0.4	0.8	
78	44	ピット群P32	石鏃	チャート	2.1	1.4	0.3	0.8	
86	4	包含層①I-4	磨石	閃緑岩	6.6	6.1	4.1	283.1	
90	33	包含層②H-7	石鏃	結晶片岩	3.9	3.1	[0.7]	7.4	
90	34	包含層②H-7	石剣	絹雲母片岩	[5.7]	3.8	1.8	63.9	
90	35	包含層②H-6	石鏃	チャート	2.3	1.4	0.3	0.9	
90	36	包含層②H-7	石鏃	チャート	2.1	1.4	0.4	0.8	
234	1	SD7	石鏃	黒曜石	1.3	1.2	0.5	0.6	
234	2	H-7	石鏃	黒曜石	1.6	1.0	0.2	0.3	
234	3	SR1	石鏃	チャート	2.1	1.5	0.5	1.3	
234	4	I-6	石鏃	チャート	[1.8]	1.6	0.4	1.0	
234	5	J-4	石鏃	黒曜石	2.1	[1.5]	0.4	1.1	
234	6	SR4	石鏃	チャート	[2.7]	[1.6]	0.4	1.3	
234	7	H-5	石鏃	チャート	2.7	1.9	0.5	1.1	
234	8	SR4	石鏃	黒曜石	[2.1]	1.1	0.3	0.6	
234	9	I-6	石鏃	黒曜石	2.7	[1.4]	0.4	0.8	
234	10	SR4	石鏃	黒色頁岩	[2.4]	1.8	0.5	1.3	
234	11	H-6	石鏃	チャート	[2.5]	1.8	0.5	1.6	
234	12	表採	石鏃	安山岩	[1.5]	1.7	0.5	1.2	
234	13	SR4	石鏃	チャート	[2.0]	1.6	0.5	1.6	
234	14	I-5	石鏃	チャート	[2.6]	2.0	0.6	1.8	
234	15	K-5	石鏃	チャート	[3.4]	1.9	0.5	3.2	
234	16	SR4	石鏃	チャート	[1.8]	1.4	0.5	0.9	
234	17	I-7	石鏃	黒色頁岩	[2.3]	[1.6]	0.4	0.9	
234	18	I-7	石鏃	チャート	1.7	1.5	0.4	0.6	
234	19	I-6	石鏃	チャート	[2.3]	1.9	0.6	2.2	
234	20	I-5	石鏃	黒色頁岩	2.2	1.6	0.6	1.5	
234	21	J-6	石鏃	チャート	3.9	1.4	0.6	1.9	
234	22	K-5	石鏃	チャート	[2.9]	1.3	0.5	1.2	
234	23	G-6	石鏃	黒色頁岩	[2.9]	1.2	0.4	1.2	
234	24	SR4	石鏃	チャート	[2.5]	1.3	0.5	1.4	
234	25	SR3	石鏃	チャート	2.7	1.2	0.8	1.8	
234	26	I-5	石鏃	黒色頁岩	[3.4]	0.7	0.6	1.6	
234	27	H-5	石鏃	チャート	4.3	2.0	0.5	3.1	
234	28	表採	石鏃	黒色頁岩	[3.0]	1.9	0.7	2.3	
234	29	SR1	石鏃	チャート	[2.2]	1.5	0.5	1.2	
234	30	I-6	石鏃	黒曜石	[1.9]	1.3	0.5	1.0	
234	31	I-6	石鏃	黒曜石	2.3	1.0	0.5	0.7	
234	32	SR4	石鏃	チャート	[2.7]	1.6	0.5	2.3	
234	33	H-5	石鏃	チャート	[2.5]	1.4	0.4	1.1	
234	34	H-5	石鏃	黒曜石	1.6	1.3	0.4	0.6	
234	35	H-7	石鏃	チャート	[2.1]	[1.7]	0.4	1.5	
234	36	G-6	石鏃未製品	チャート	2.4	1.8	0.4	1.3	
234	37	I-5	石鏃未製品	黒曜石	1.6	1.2	0.5	0.7	
234	38	J-4	石鏃未製品	黒曜石	2.5	1.8	1.1	4.4	
234	39	I-6	石鏃未製品	黒曜石	2.4	1.9	0.7	2.0	
234	40	H-5	石鏃未製品	チャート	2.6	1.7	0.8	2.5	
234	41	H-5	石鏃未製品	チャート	2.3	1.8	0.6	2.0	
234	42	SR1	石鏃未製品	黒曜石	2.2	1.5	0.9	2.6	

図番号	図内番号	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
235	1	G-6	石鏃	チャート	2.5	1.1	0.7	1.5	
235	2	I-5	削器	黒曜石	3.2	5.6	0.8	12.5	
235	3	H-5	削器	ホルンフェルス	9.6	9.0	2.9	147.8	
235	4	SR1	削器	頁岩	[4.4]	4.7	1.5	36.6	
235	5	I-6	磨製石斧	砂岩	[6.5]	4.9	2.6	83.6	
235	6	I-7	磨製石斧	粘板岩	[6.2]	3.2	1.3	43.1	
235	7	H-4	磨製石斧	トモウ閃石	[3.5]	2.8	1.4	19.7	
235	8	I-5	磨製石斧	砂岩	[6.2]	4.7	2.9	118.2	
235	9	G-7	磨製石斧	緑色岩	[7.6]	5.1	2.7	167.0	
235	10	I-6	磨製石斧	緑色岩	[6.8]	8.1	2.6	259.5	
235	11	J-4	磨製石斧	砂岩	[9.5]	4.8	2.3	173.5	
235	12	J-6	磨製石斧	粘板岩	[8.0]	6.9	3.5	270.7	
236	1	SR1	石鏃	緑泥石片岩	6.9	2.2	0.7	18.2	
236	2	I-5	石鏃	砂岩	4.1	4.0	[1.6]	42.2	
236	3	I-6	打製石斧	ホルンフェルス	12.2	8.0	2.4	196.2	
236	4	H-5	打製石斧	ホルンフェルス	9.1	6.0	2.4	156.1	
236	5	H-5	打製石斧	緑泥石片岩	[9.8]	5.9	1.4	100.1	
236	6	I-6	打製石斧	砂岩	[9.9]	8.1	3.1	277.3	
236	7	I-5	打製石斧	ホルンフェルス	[9.0]	7.8	3.8	310.1	
236	8	H-5	打製石斧	ホルンフェルス	[6.9]	5.8	1.7	84.3	
237	1	J-6	磨石	砂岩	8.4	4.5	3.4	186.0	
237	2	I-6	磨石	安山岩	10.0	5.1	3.9	388.7	
237	3	J-4	磨石	緑泥石片岩	9.9	4.3	3.0	235.5	
237	4	H-5	磨石	砂岩	[10.2]	6.1	4.0	385.0	
237	5	SR4	磨石	安山岩	7.2	5.8	5.7	341.2	
237	6	表探	磨石	砂岩	[4.8]	3.7	3.0	69.3	
237	7	J-6	磨石	閃緑岩	[13.5]	8.0	5.8	1046.6	
237	8	I-6	磨石	閃緑岩	12.0	8.3	6.0	1032.0	
238	1	I-6	磨石	閃緑岩	12.4	8.4	4.6	923.0	
238	2	J-4	磨石	安山岩	6.3	6.0	5.0	294.0	
238	3	SR1	磨石	安山岩	4.9	4.5	4.0	111.6	
238	4	I-5	磨石	安山岩	[5.4]	5.9	3.9	163.6	
238	5	J-4	磨石	閃緑岩	7.7	7.4	5.1	468.0	
238	6	J-4	磨石	閃緑岩	8.9	8.4	5.3	637.8	
238	7	I-5	磨石	安山岩	6.2	4.8	6.0	261.0	
238	8	K-5	磨石	安山岩	5.9	[5.9]	5.4	274.6	
238	9	I-5	磨石	安山岩	7.2	7.1	4.9	360.1	
238	10	I-6	磨石	安山岩	[5.7]	6.4	5.1	249.9	
239	1	SR1	磨石	閃緑岩	9.4	8.1	3.7	399.0	
239	2	H-5	磨石	閃緑岩	9.7	6.8	3.8	367.7	
239	3	G-5	磨石	安山岩	[6.9]	8.6	3.6	296.6	
239	4	I-6	磨石	閃緑岩	8.7	8.8	4.1	435.2	
239	5	SR1	磨石	安山岩	13.5	8.3	4.7	768.5	
239	6	SR1	磨石	閃緑岩	9.3	7.5	2.8	286.2	
239	7	SR1	磨石	安山岩	5.3	4.9	2.6	84.5	
239	8	SR1	磨石	安山岩	[5.4]	7.4	4.9	284.1	
239	9	SR1	磨石	軽石	[5.5]	4.5	3.4	21.0	
239	10	I-6	磨石	軽石	4.9	4.9	3.1	31.6	
239	11	H-6	磨石	絹雲母片岩	[13.7]	[8.5]	1.6	218.4	

国番号	国内番号	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
240	1	SR1	石皿	緑泥石片岩	[14.7]	[8.2]	3.2	401.9	
240	2	J-6	石皿	緑泥石片岩	[15.8]	[11.4]	1.7	454.2	
240	3	G-6	石皿	緑泥石片岩	[21.9]	[8.6]	3.4	924.5	
240	4	K-5	石皿	緑泥石片岩	[8.5]	[5.7]	2.3	143.2	
240	5	I-5	石皿	緑泥石片岩	20.0	13.8	3.4	1249.2	
240	6	J-4	石皿	安山岩	[5.9]	[7.6]	3.2	177.6	
240	7	I-6	石棒	黒色頁岩	[8.7]	3.0	[2.1]	59.7	
240	8	J-5	石剣	緑泥石片岩	[9.1]	3.5	2.1	87.5	
240	9	H-4	石剣	緑泥石片岩	[6.6]	3.0	[1.0]	27.9	
240	10	G-7	石剣	緑泥石片岩	[6.7]	3.2	1.3	50.3	
240	11	H-6	石剣	砂岩	[7.0]	3.9	[1.6]	45.1	
241	1	I-7	石剣	黒色頁岩	[12.8]	3.3	2.3	150.2	
241	2	I-7	石剣	緑泥石片岩	[10.9]	3.5	1.4	96.1	
241	3	I-7	石剣	砂岩	[8.0]	3.8	2.3	114.1	
241	4	I-7	石剣	緑泥石片岩	[5.7]	4.4	[1.8]	73.2	
241	5	G-6	石剣	頁岩	[6.1]	2.6	1.8	39.3	
241	6	I-5	石剣	緑泥石片岩	[5.2]	3.3	[1.2]	33.2	
241	7	SR1	石剣	頁岩	[5.8]	2.7	[1.0]	20.8	
241	8	H-6	石剣	頁岩	[8.0]	2.3	[0.9]	22.0	
241	9	I-6	石剣	黒色頁岩	[8.1]	3.4	[1.4]	43.8	
241	10	H-7	石剣	頁岩	[9.7]	3.4	[1.4]	58.7	
241	11	I-6	石棒	頁岩	[6.4]	2.7	[2.0]	37.6	
241	12	J-6	石棒	黒色頁岩	[4.6]	3.0	2.9	46.8	
241	13	I-6	石剣	緑泥石片岩	[12.3]	3.1	2.1	135.1	
241	14	表探	石剣	緑泥石片岩	[14.9]	3.3	2.6	186.2	
241	15	SD7	石剣	緑泥石片岩	[14.3]	3.6	1.6	128.6	
241	16	G-5	石剣	緑泥石片岩	[8.5]	3.7	2.0	82.4	
241	17	SR1	石剣	緑泥石片岩	[9.5]	4.0	1.0	54.4	
241	18	SR1	石剣	頁岩	[12.7]	4.3	2.3	198.5	
241	19	I-6	石剣	緑泥石片岩	[8.9]	5.7	2.4	208.4	
241	20	SR1	石棒	砂岩	[7.1]	5.7	[3.4]	175.6	
241	21	SR1	石剣	緑泥石片岩	[7.7]	3.9	1.8	95.6	
241	22	I-6	独鈷石	砂岩	[8.5]	4.1	[2.2]	84.2	
241	23	H-5	独鈷石	ホルンフェルス	[7.9]	4.9	3.4	155.2	
242	1	H-6	石核	黒曜石	1.8	2.5	1.75	5.7	
242	2	SR3	石核	黒曜石	2.4	2.3	1.1	4.8	
242	3	SR3	原石	黒曜石	3.4	1.55	9.0	3.6	
242	4	SK3	原石	黒曜石	1.3	2.1	1.95	10.2	
242	5	表探	原石	黒曜石	5.1	3.6	3.0	43.2	
242	6	SR3	石核	チャート	4.0	5.1	5.1	136.4	
242	7	SJ4	石核	チャート	2.2	3.0	2.9	24.8	
242	8	H-6	石核	チャート	1.5	2.6	2.0	8.1	
242	9	SR1	石核	チャート	2.6	4.1	1.2	13.7	
242	10	SR3	石核	チャート	3.3	3.3	2.6	34.2	
242	11	I-5	石核	チャート	3.0	4.3	2.6	37.7	
242	12	SR3	石核	玉髓	2.3	2.7	2.4	13.6	
242	13	H-3	石核	玉髓(メノウ)	2.3	3.4	2.5	17.0	

第11表 黒曜石一覽 (挿図掲載)

挿図番号	図内番号	器種	分析番号	分析結果	備考	挿図番号	図内番号	器種	分析番号	分析結果	備考
14	14	石皿	003	男女合葬	234	38	石皿未製品	012		男女合葬	
234	1	石皿	005	不明	234	39	石皿未製品	011		甘濃沢群 思越馬群	
234	2	石皿	001	不明	234	42	石皿未製品	010		不明	
234	5	石皿	006	不明	235	2	瓶蓋	013		思越馬群	
234	8	石皿	014	不明	242	1	石枕	018		思越馬群	
234	9	石皿	002	男女合葬	242	2	石枕	020		男女合葬	
234	30	石皿	009	男女合葬	242	3	塚石	022		不明	
234	31	石皿	015	男女合葬	242	4	塚石	017		不明	
234	34	石皿	007	男女合葬	242	5	塚石	016		男女合葬 墓+台群	
234	37	石皿未製品	008	甘濃沢群							

第12表 黒曜石一覽 (挿図非掲載)

番号	器種	出土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	分析番号	分析結果	備考	番号	器種	出土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	分析番号	分析結果	備考	
1	石皿未製品	SR1	1.9	0.9	0.5	074	不明		70	酒杯	SR4	1.2	1.3	0.2	020	甘濃沢群		
2	塚石	S1	1.8	2.1	0.5	019	甘濃沢群		71	酒杯	SR2	1.5	1.6	0.5	04	090	男女合葬	
3	石枕	I-7	1.8	2.0	1.6	6.0	021	甘濃沢群	72	酒杯	I-7	1.1	1.1	0.5	04	091	不明	
4	酒杯	I-4	4.7	3.7	1.2	14.5	023	思越馬群	73	酒杯	SR1	1.6	1.4	0.5	06	092	男女合葬	
5	酒杯	I-4	2.7	3.6	0.9	7.4	024	不明	74	酒杯	SR6	1.5	1.3	0.5	07	093	男女合葬	
6	石枕	H-6	1.8	1.7	0.5	1.7	025	男女合葬 墓+台群	75	酒杯	I-6	1.1	1.5	0.4	06	094	男女合葬	
7	石枕	I-6	1.8	2.0	1.0	3.0	026	不明	76	酒杯	K-5	1.2	1.1	0.4	0.5	095	不明	
8	塚石	I-7	1.4	1.8	1.7	3.7	027	不明	77	酒杯	I-3	1.6	1.3	0.4	0.5	096	不明	
9	酒杯	SR1	2.7	1.8	1.2	5.2	028	男女合葬	78	酒杯	H-6	1.1	1.4	0.6	0.5	097	不明	
10	塚石	I-6	1.3	2.7	2.9	5.4	029	不明	79	酒杯	I-4	1.3	1.3	0.5	0.5	098	男女合葬	
11	酒杯	I-4	3.3	1.5	1.4	4.9	030	男女合葬	80	酒杯	SR1	1.4	1.6	0.5	0.6	099	男女合葬	
12	酒杯	I-6	3.0	2.5	1.4	8.0	031	男女合葬	81	酒杯	I-4	1.4	1.7	0.4	0.5	100	思越馬群	
13	石枕	H-6	3.2	2.2	1.1	4.9	032	甘濃沢群 思越馬群	82	酒杯	石枕内側	1.2	1.2	0.4	0.5	101	不明	
14	酒杯	SR3	2.3	1.9	0.8	2.5	033	墓+台群	83	酒杯	ST4	1.6	1.2	0.7	0.8	102	男女合葬	
15	酒杯	S1	3.3	2.5	1.3	6.1	034	甘濃沢群	84	酒杯	SR1	1.2	1.1	0.5	0.4	103	男女合葬	
16	酒杯	H-7	2.8	1.9	1.4	3.9	035	男女合葬	85	酒杯	I-6	2.0	1.9	0.4	0.6	104	男女合葬	
17	酒杯	I-5	2.4	1.4	1.5	4.1	042	甘濃沢群	86	酒杯	H-5	1.5	1.0	0.8	1.0	105	甘濃沢群	
18	酒杯	SR1	1.2	2.6	1.2	3.3	037	甘濃沢群	87	酒杯	I-6	1.3	1.0	0.4	0.5	106	不明	
19	酒杯	J-4	3.2	1.6	1.0	4.7	038	不明	88	石皿未製品	SR4	2.0	1.8	0.5	0.8	107	不明	
20	酒杯	SR4	2.5	2.8	1.0	3.8	039	男女合葬	89	酒杯	I-4	1.6	1.5	0.4	0.7	108	甘濃沢群	
21	酒杯	H-5	2.1	1.9	1.6	3.2	040	男女合葬	90	酒杯	ST4	1.2	1.2	0.6	0.6	109	不明	
22	酒杯	H-5	2.4	2.6	0.9	3.4	041	不明	91	酒杯	H-5	2.0	1.9	0.2	0.2	110	不明	
23	酒杯	I-5	2.4	1.4	1.5	4.1	042	甘濃沢群	92	酒杯	H-5	1.1	1.2	0.2	0.2	111	不明	
24	酒杯	H-5	2.2	1.7	1.1	3.2	043	不明	93	酒杯	SD7	0.8	1.0	0.3	0.3	112	不明	
25	酒杯	H-5	1.7	2.5	0.8	2.9	044	男女合葬 墓+台群	94	酒杯	SR4	1.0	0.6	0.2	0.1	113	不明	
26	酒杯	SR1	2.5	2.1	0.5	2.0	045	墓+台群	95	酒杯	衣群	1.0	0.6	0.3	0.2	114	不明	
27	酒杯	I-7	2.0	1.3	1.3	2.6	046	甘濃沢群	96	酒杯	H-6	1.5	0.9	0.3	0.2	115	不明	
28	石枕	I-5	1.2	3.1	0.9	3.4	047	不明	97	酒杯	I-7	0.7	0.8	0.1	0.1	116	不明	
29	酒杯	I-3	2.4	2.0	0.8	3.0	048	不明	98	酒杯	H-6	1.1	1.2	0.2	0.2	117	不明	
30	酒杯	I-5	4.5	1.5	0.8	5.6	049	不明	99	酒杯	H-6	0.8	1.0	0.3	0.1	118	不明	
31	酒杯	I-4	2.1	1.7	0.9	1.8	050	不明	100	酒杯	A-3	1.4	1.1	0.3	0.3	119	不明	
32	酒杯	I-6	1.7	1.9	0.8	1.7	051	男女合葬	101	酒杯	I-7	1.3	1.2	0.2	0.3	120	甘濃沢群	
33	酒杯	H-6	1.7	2.2	1.2	0.9	052	男女合葬	102	酒杯	SR4	1.1	1.4	0.2	0.3	121	不明	
34	酒杯	裏側	2.1	2.5	0.5	1.9	053	墓+台群	103	酒杯	I-4	1.3	1.5	0.2	0.2	122	男女合葬	
35	酒杯	I-8	1.5	2.0	1.0	1.7	054	男女合葬	104	酒杯	H-5	0.7	1.1	0.3	0.3	123	不明	
36	酒杯	I-7	2.0	2.0	0.9	1.6	055	不明	105	酒杯	SR4	0.9	0.8	0.2	0.2	124	不明	
37	酒杯	I-6	2.3	1.5	0.5	1.2	056	不明	106	酒杯	H-5	0.7	0.6	0.2	0.1	125	不明	
38	酒杯	SR1	1.8	1.9	0.5	1.6	057	男女合葬	107	酒杯	I-4	0.9	1.3	0.3	0.3	126	不明	
39	酒杯	H-4	1.7	1.4	0.8	1.1	058	男女合葬	108	酒杯	I-6	3.1	1.1	0.4	0.8	127	不明	
40	酒杯	H-7	1.9	1.1	0.6	1.0	059	思越馬群 伊越馬群	109	酒杯	I-3	1.8	2.2	0.4	1.1	128	墓+台群	
41	酒杯	SR4	1.4	1.8	0.5	1.3	060	不明	110	酒杯	SR3	1.4	1.0	0.3	0.3	129	男女合葬	
42	酒杯	I-6	2.0	1.9	0.6	1.7	061	墓+台群	111	酒杯	C-6	1.2	1.2	0.3	0.4	130	男女合葬	
43	酒杯	I-7	2.1	2.1	0.4	1.3	062	墓+台群	112	酒杯	SR4	1.3	1.7	0.2	0.3	131	男女合葬	
44	酒杯	SR4	1.8	2.6	0.7	1.4	063	不明	113	酒杯	SR4	1.7	1.3	0.3	0.5	132	男女合葬	
45	酒杯	SR3	1.9	2.2	0.5	1.4	064	男女合葬	114	酒杯	H-6	1.2	1.6	0.3	0.6	133	不明	
46	酒杯	H-6	1.7	1.7	0.5	1.0	065	男女合葬	115	酒杯	SR4	1.5	1.1	0.4	0.6	134	不明	
47	酒杯	J-5	1.7	1.4	0.7	1.2	066	不明	116	酒杯	SR1	1.4	1.3	0.3	0.4	135	男女合葬	
48	酒杯	H-4	3.3	1.9	0.4	0.8	067	男女合葬	117	酒杯	I-7	1.3	1.2	0.3	0.3	136	男女合葬	
49	酒杯	I-6	1.2	2.1	0.7	1.1	068	男女合葬	118	酒杯	表側	1.3	0.9	0.3	0.2	137	男女合葬	
50	酒杯	SR4	1.5	1.9	0.5	1.1	069	不明	119	酒杯	H-7	1.1	1.4	0.3	0.3	138	男女合葬	
51	酒杯	H-7	1.5	1.5	0.7	1.0	070	不明	120	酒杯	SR3	1.5	1.0	0.3	0.4	139	不明	
52	酒杯	I-6	1.5	2.0	0.5	1.2	071	男女合葬	121	酒杯	S1	1.0	0.6	0.3	0.2	140	不明	
53	酒杯	I-3	1.1	1.9	0.4	0.5	072	男女合葬	122	酒杯	J-6	1.2	1.3	0.2	0.2	141	不明	
54	酒杯	SR4	1.8	1.1	0.5	0.9	073	不明	123	酒杯	I-6	1.5	0.9	0.3	0.3	142	不明	
55	酒杯	H-3	1.4	1.7	0.3	0.7	074	男女合葬	124	酒杯	H-7	0.8	0.7	0.2	0.1	143	不明	
56	酒杯	I-7	1.5	1.2	0.5	0.8	075	男女合葬	125	酒杯	H-6	0.9	0.7	0.2	0.1	144	不明	
57	塚石	SR1	1.0	1.5	0.8	1.3	076	不明	126	酒杯	I-6	1.1	0.8	0.2	0.1	145	不明	
58	酒杯	SR3	1.6	1.4	0.7	1.1	077	男女合葬	127	酒杯	SR1	1.3	1.1	0.2	0.2	146	男女合葬	
59	酒杯	I-5	1.9	1.6	0.6	0.9	078	不明	128	酒杯	SR4	1.1	0.9	0.2	0.2	147	不明	
60	酒杯	I-7	1.3	1.2	0.5	0.9	079	甘濃沢群	129	酒杯	I-7	1.2	1.1	0.2	0.2	148	不明	
61	酒杯	K-5	1.4	1.5	1.0	2.8	080	不明	130	酒杯	H-6	0.9	0.7	0.2	0.1	149	不明	
62	酒杯	J-4	2.0	0.8	0.5	0.7	081	不明	131	酒杯	H-7	0.8	0.6	0.3	0.1	150	不明	
63	酒杯	I-5	1.2	2.2	0.4	0.9	082	男女合葬 墓+台群	132	酒杯	SR4	0.9	0.7	0.1	0.1	151	不明	
64	酒杯	SD3	2.2	1.2	1.0	1.4	083	男女合葬	133	酒杯	H-6	0.8	0.8	0.2	0.1	152	不明	
65	酒杯	I-4	1.2	1.8	0.4	0.6	084	甘濃沢群	134	酒杯	SR1	0.5	0.5	0.2	0.2	153	不明	
66	酒杯	H-6	1.5	1.5	0.4	0.5	085	男女合葬	135	酒杯	H-7	0.7	0.6	0.1	0.1	154	不明	
67	酒杯	I-4																

第13表 チャート一覧

番号	出土位置	器種	長径(m)	口径(m)	口径(m)	器種	長径(m)	口径(m)	器種	長径(m)	口径(m)	器種	長径(m)	口径(m)	器種	長径(m)	口径(m)	
1	SR3	銅片	4.3	23.2	89	H-5	2.3	1.2	177	H-7	銅片	1.6	0.9	295	H-5	銅片	1.6	1.0
2	SR1	銅片	3.3	10.1	90	H-6	0.4	0.1	178	SR3	銅片	1.6	1.2	266	I-7	銅片	2.1	2.3
3	I-6	銅片	2.5	7.6	91	H-6	0.6	0.1	179	SR4	銅片	1.9	1.6	267	SD7	銅片	1.2	1.1
4	SR4	銅片	2.8	10.4	92	SR3	1.3	0.3	180	SD7	銅片	2.0	1.9	268	SJ7	銅片	2.4	1.2
5	K-5	銅片	2.7	2.8	181	I-6	1.5	1.0	181	H-7	銅片	2.0	1.6	269	SR4	銅片	2.1	3.7
6	I-7	銅片	4.0	8.4	94	SR1	1.4	1.3	182	H-7	銅片	2.0	1.5	270	P群P79	銅片	2.8	3.1
7	J-5	銅片	2.0	7.1	95	J-7	1.3	0.4	183	SR4	銅片	1.9	1.2	271	I-6	銅片	2.6	3.4
8	G-5	銅片	3.6	11.8	96	H-6	1.2	0.8	184	SKR4	銅片	2.8	1.6	272	SR1	銅片	2.1	1.0
9	SR1	銅片	2.6	8.7	97	SR4	1.7	1.2	185	SK41	銅片	2.3	3.2	273	K-5	銅片	2.3	1.8
10	H-4	銅片	2.7	2.8	181	I-6	1.5	1.0	186	G-7	銅片	1.6	2.7	274	I-7	銅片	2.1	3.7
11	SD1	銅片	2.9	3.1	99	I-4	1.0	0.6	187	G-6	銅片	1.7	1.7	275	SR1	銅片	2.1	3.6
12	H-5	銅片	2.1	6.0	100	H-6	1.4	0.4	188	SR1	銅片	3.0	3.1	276	G-6	銅片	1.8	3.0
13	SR3	銅片	2.2	8.7	101	I-6	1.3	1.1	189	SR1	銅片	1.5	2.6	277	H-5	銅片	3.2	6.9
14	I-7	銅片	2.6	3.6	102	H-7	0.9	0.2	190	SR4	銅片	2.9	2.1	278	I-7	銅片	1.6	1.7
15	SK5	銅片	2.5	3.5	103	I-6	0.8	0.1	191	SR4	銅片	2.9	3.7	279	SK41	銅片	2.2	5.5
16	J-4	銅片	2.1	8.5	104	SD7	2.0	1.4	192	SR4	銅片	1.8	2.1	280	H-4	銅片	1.2	0.5
17	J-4	銅片	2.5	5.3	105	I-6	1.7	0.3	193	H-7	銅片	1.8	2.3	281	SR1	銅片	1.6	2.9
18	G-7	銅片	2.2	2.3	106	SR4	1.3	0.5	194	SR4	銅片	1.7	4.3	282	SR1	銅片	2.0	1.5
19	J-6	銅片	1.6	3.5	107	H-7	1.7	0.6	195	表床	銅片	2.8	4.5	283	SR4	銅片	3.5	2.9
20	I-7	銅片	2.4	4.9	108	H-6	2.2	0.8	196	H-7	銅片	0.8	0.3	284	I-5	銅片	3.2	18.4
21	G-6	銅片	2.2	6.0	109	H-6	1.2	0.3	197	SR1	銅片	1.5	1.2	285	H-5	銅片	2.4	2.1
22	J-5	銅片	2.4	3.6	110	SR3	1.0	0.2	198	I-7	銅片	1.7	1.3	286	H-5	銅片	3.1	10.6
23	SR1	銅片	2.8	6.6	111	J-6	1.8	0.6	199	H-7	銅片	1.8	2.0	287	J-6	銅片	2.0	2.0
24	I-7	銅片	2.4	2.2	112	G-7	1.4	0.2	200	表床	銅片	2.0	2.9	288	SR1	銅片	1.9	2.0
25	SK6	銅片	2.6	5.6	113	H-7	1.7	0.6	201	SR4	銅片	2.3	4.4	289	SK41	銅片	0.9	0.2
26	I-6	銅片	2.7	12.3	83	H-7	1.3	0.9	202	H-6	銅片	1.8	2.8	290	H-7	銅片	1.5	0.9
27	I-7	銅片	2.0	3.6	113	I-5	1.4	0.9	203	I-6	銅片	1.4	0.9	203	I-6	銅片	1.5	1.5
28	SK5	銅片	2.9	2.9	116	SD7	1.4	1.1	204	H-7	銅片	1.9	1.4	292	SD7	銅片	1.5	1.3
29	I-6	銅片	1.8	1.5	117	SR3	1.8	0.6	205	H-6	銅片	1.9	2.9	293	I-6	銅片	1.9	1.4
30	SD3	銅片	2.9	4.0	118	I-7	1.6	0.8	206	SR4	銅片	1.9	2.4	294	H-7	銅片	2.0	0.7
31	SR1	銅片	2.4	4.9	119	I-6	2.0	1.3	207	SD7	銅片	1.7	1.9	295	I-7	銅片	1.3	0.7
32	B-4	銅片	2.1	4.2	120	H-6	1.6	0.9	208	SR4	銅片	2.2	1.6	296	SR4	銅片	1.8	1.4
33	K-4	銅片	1.9	4.0	121	I-7	0.7	0.2	209	SK41	銅片	2.2	2.1	297	SR4	銅片	1.3	0.5
34	I-6	銅片	1.9	1.6	122	H-6	1.9	1.5	210	P群P55	銅片	1.5	0.9	298	I-7	銅片	1.7	1.4
35	SK3	銅片	1.3	4.3	123	I-7	1.4	0.9	211	H-7	銅片	2.0	2.8	299	SR3	銅片	1.6	2.3
36	G-6	銅片	2.4	6.1	124	H-6	1.4	0.8	212	SR4	銅片	2.0	1.1	300	SR1	銅片	1.3	1.2
37	SR4	銅片	2.5	3.7	125	H-6	1.9	0.8	213	SR4	銅片	2.0	3.0	301	I-4	銅片	1.9	1.6
38	SR1	銅片	2.3	6.5	126	SR3	2.5	1.1	214	H-5	銅片	1.4	1.9	302	I-7	銅片	0.6	0.6
39	I-5	銅片	2.8	4.6	127	J-4	1.4	0.5	215	H-7	銅片	2.3	2.0	303	SR3	銅片	1.3	0.4
40	G-6	銅片	2.3	3.9	128	J-5	2.1	1.9	216	SR1	銅片	2.2	6.0	304	SR3	銅片	1.4	0.9
41	H-6	銅片	1.1	3.6	129	SKR4	1.4	1.4	217	H-7	銅片	1.7	2.0	305	I-7	銅片	1.6	0.6
42	SR3	銅片	1.9	5.6	130	I-5	1.2	1.5	218	H-7	銅片	2.9	6.8	306	SR3	銅片	1.6	0.7
43	SR1	銅片	2.0	2.2	83	H-7	1.7	0.6	219	I-7	銅片	1.5	0.6	307	H-7	銅片	1.8	1.4
44	SR1	銅片	2.0	2.2	132	I-5	3.0	3.7	220	SR1	銅片	2.5	3.1	308	P群P53	銅片	0.8	0.8
45	I-7	銅片	1.7	1.7	133	H-7	1.7	0.8	221	H-6	銅片	2.8	5.1	309	SR3	銅片	1.1	1.2
46	H-7	銅片	2.3	2.8	134	P群P85	2.8	5.1	222	I-6	銅片	0.8	3.1	310	P群P79	銅片	0.8	1.3
47	I-6	銅片	3.1	2.3	135	I-6	1.8	1.0	223	I-7	銅片	2.3	3.6	311	SR4	銅片	1.5	3.4
48	SR2	銅片	3.2	3.6	6	G-7	2.2	2.4	224	SR1	銅片	2.8	2.5	312	I-5	銅片	3.0	6.2
49	I-4	銅片	3.0	5.1	137	SR4	2.0	0.8	225	SR1	銅片	2.3	3.8	313	SR3	銅片	2.0	1.0
50	H-6	銅片	1.9	1.9	138	SR1	2.3	3.7	226	SJ4	銅片	2.4	1.8	314	I-6	銅片	2.5	2.5
51	H-7	銅片	1.7	3.2	139	H-6	2.2	3.3	227	I-4	銅片	2.3	5.9	315	I-7	銅片	2.2	1.2
52	P群P102	銅片	1.5	1.6	140	G-7	2.9	3.7	228	P群P88	銅片	1.3	0.5	316	SK2	銅片	1.5	1.6
53	H-6	銅片	1.5	1.6	141	表床	1.8	3.5	229	SJ4	銅片	2.1	2.5	317	H-5	銅片	2.1	3.4
54	H-6	銅片	2.0	2.3	142	H-5	2.3	1.6	230	SKR3	銅片	0.8	2.3	318	I-4	銅片	2.4	6.6
55	H-6	銅片	1.5	2.7	143	SR4	2.6	10.3	231	SD7	銅片	2.4	3.2	319	SR1	銅片	2.0	5.3
56	H-6	銅片	2.0	1.5	144	I-6	1.9	2.4	232	I-6	銅片	1.8	3.8	320	I-5	銅片	1.7	1.6
57	SR4	銅片	2.6	2.4	145	H-6	1.9	2.5	233	H-4	銅片	2.4	3.7	321	I-6	銅片	1.6	0.8
58	SR1	銅片	1.6	1.0	146	H-6	2.0	1.6	234	H-7	銅片	2.3	2.0	322	P群P79	銅片	1.9	2.5
59	P群P105	銅片	1.6	1.8	147	SR4	1.5	1.9	235	SR4	銅片	2.2	5.6	323	H-7	銅片	2.1	2.0
60	I-7	銅片	2.0	0.7	148	SR1	1.8	1.4	236	SJ4	銅片	2.6	4.3	324	H-7	銅片	1.4	0.7
61	SR1	銅片	1.4	1.4	149	I-4	2.0	2.0	237	P群P88	銅片	2.6	3.7	325	SR3	銅片	1.9	2.0
62	H-6	銅片	1.3	4.4	150	P群P85	1.5	2.0	238	SK4	銅片	2.3	2.4	326	H-7	銅片	1.5	0.5
63	SD7	銅片	1.4	1.4	151	I-6	2.0	5.7	239	I-7	銅片	2.2	1.6	327	H-6	銅片	2.8	2.1
64	H-7	銅片	1.7	1.5	152	SR1	3.2	3.7	240	SR4	銅片	2.2	6.0	328	SR3	銅片	1.0	1.7
65	SR1	銅片	1.3	1.1	153	I-6	2.5	2.6	241	SR1	銅片	2.5	2.4	329	SR1	銅片	1.8	0.7
66	SR1	銅片	1.6	2.6	154	SR1	2.0	2.2	242	H-6	銅片	1.9	4.2	330	SR4	銅片	1.0	0.3
67	H-3	銅片	2.6	5.6	155	H-5	2.1	2.7	243	J-4	銅片	1.5	4.2	331	I-6	銅片	3.7	11.5
68	H-5	銅片	1.9	1.0	156	SK41	0.8	0.3	244	SK2	銅片	2.5	3.4	332	G-6	銅片	3.0	10.3
69	SJ4	銅片	2.5	2.8	157	SKR2	1.1	0.4	245	SR3	銅片	2.6	2.9	333	H-6	銅片	4.5	21.5
70	J-4	銅片	1.8	1.5	158	H-6	1.6	0.5	246	I-7	銅片	2.5	5.0	334	I-7	銅片	2.8	6.0
71	I-4	銅片	2.6	2.4	159	SK41	1.0	0.9	247	SKR6	銅片	2.3	1.7	335	I-6	銅片	2.2	10.9
72	H-6	銅片	1.8	3.1	160	SR1	1.0	0.5	248	G-6	銅片	2.1	6.7	336	I-7	銅片	3.3	9.5
73	P群P37	銅片	1.4	0.4	161	SK41	1.3	0.2	249	H-6	銅片	1.7	3.3	337	I-6	銅片	1.7	4.5
74	J-4	銅片	1.2	0.8	162	SR3	1.4	0.4	250	SR4	銅片	2.3	3.6	338	H-5	銅片	3.6	4.9
75	SR4	銅片	1.9	1.3	163	H-7	1.6	0.5	251	SR1	銅片	2.4	7.0	339	SR3	銅片	3.0	6.8
76	J-5	銅片	1.7	0.9	164	H-7	1.3	0.4	252	SD7	銅片	2.6	4.6	340	P群P85	銅片	2.8	6.0
77	SR1	銅片	2.0	1.6	165	SK41	1.6	0.5	253	H-7	銅片	2.5	2.9	341	H-7	銅片	1.1	0.2
78	SR4	銅片	1.5	0.6	166	SK76	1.8	1.4	254	SD7	銅片	2.2	2.0	342	I-7	銅片	1.5	0.4
79	P群P79	銅片	0.5	0.9	167	SK41	1.3	0.7	255	SR3	銅片	2.1	3.5	343	H-5	銅片	1.4	0.5
80	SR1	銅片	2.0	1.5	168	SJ4	1.4	0.9	256	H-6	銅片	3.6	11.4	344	I-5	銅片	1.8	0.6
81	H-6	銅片	1.7	1.1	169	SR3	1.4	0.3	257	P群P78	銅片	2.2	3.7	345	H-6	銅片	1.1	0.1
82	I-7	銅片	1.2	0.5														

序号	岩土类型	层数	厚度(m)	重量(kN/m)	序号	岩土位置	层数	厚度(m)	重量(kN/m)	序号	岩土位置	层数	厚度(m)	重量(kN/m)	序号	岩土位置	层数	厚度(m)	重量(kN/m)
353	H-6	洞片	0.8	0.1	443	I-7	洞片	1.9	0.9	533	I-3	洞片	1.4	0.7	623	H-6	洞片	1.1	0.2
354	I-7	洞片	1.1	0.1	444	SR4	洞片	1.8	1.9	534	I-5	洞片	1.9	1.3	624	SR3	洞片	1.1	0.4
355	I-6	洞片	1.1	0.3	445	SR3	洞片	2.1	2.6	535	I-3	洞片	1.4	0.6	625	SR1	洞片	1.1	0.5
356	J-5	洞片	1.3	0.3	446	G-6	洞片	1.3	1.4	536	SR4	洞片	1.1	1.1	626	H-6	洞片	0.8	0.3
357	I-7	洞片	1.5	0.5	447	J-4	洞片	1.5	0.6	537	SR4	洞片	2.6	1.2	627	H-6	洞片	1.4	0.5
358	SR1	洞片	1.3	0.3	448	H-6	洞片	1.3	0.3	538	SR1	洞片	1.4	0.6	628	SR3	洞片	1.0	0.1
359	表探	洞片	1.5	0.4	449	H-6	洞片	2.1	1.6	539	I-7	洞片	1.5	0.3	629	SR3	洞片	1.0	0.4
360	SR4	洞片	0.7	0.1	450	H-6	洞片	1.5	0.6	540	J-6	洞片	1.4	0.3	630	SR3	洞片	0.9	0.1
361	SR3	洞片	1.4	0.2	451	H-6	洞片	2.1	1.9	541	SR4	洞片	1.2	0.6	631	I-6	洞片	0.8	0.3
362	H-6	洞片	0.7	0.1	452	PFR78	洞片	2.5	3.5	542	I-7	洞片	1.3	0.5	632	SD7	洞片	1.3	0.4
363	H-7	洞片	1.5	0.5	453	SR1	洞片	3.2	4.3	543	I-7	洞片	1.8	0.8	633	H-7	洞片	1.0	0.4
364	SR3	洞片	0.9	0.1	454	SR1	洞片	1.2	0.7	544	SR4	洞片	1.3	0.8	634	I-6	洞片	1.2	0.3
365	I-6	洞片	0.9	0.1	455	SR1	洞片	1.6	1.8	545	H-6	洞片	1.8	1.2	635	I-7	洞片	1.0	0.4
366	SD7	洞片	1.5	0.4	456	I-7	洞片	1.7	0.9	546	SR3	洞片	1.3	0.7	636	H-6	洞片	1.7	0.5
367	SR4	洞片	1.7	0.6	457	H-7	洞片	1.4	0.3	547	SR1	洞片	1.4	0.9	637	I-7	洞片	1.3	0.5
368	H-6	洞片	0.7	0.1	458	I-5	洞片	2.0	2.1	548	I-6	洞片	1.8	0.9	638	H-7	洞片	0.7	0.2
369	SR3	洞片	1.2	0.5	459	SR4	洞片	1.8	1.2	549	SR3	洞片	1.7	0.8	639	H-7	洞片	1.0	0.3
370	H-5	洞片	1.3	0.6	460	J-4	洞片	1.5	5.5	550	H-6	洞片	1.6	0.6	640	G-6	洞片	1.0	0.5
371	H-7	洞片	1.2	0.5	461	PFR79	洞片	2.1	0.7	551	I-7	洞片	1.4	1.0	641	I-6	洞片	1.5	0.8
372	H-7	洞片	1.1	0.3	462	I-7	洞片	1.9	1.1	552	SR4	洞片	1.9	1.3	642	SR1	洞片	1.1	0.3
373	H-5	洞片	1.5	0.4	463	I-7	洞片	1.6	0.4	553	表探	洞片	1.6	1.0	643	H-6	洞片	1.0	0.5
374	I-7	洞片	0.7	0.1	464	SR4	洞片	0.5	0.3	554	K-5	洞片	2.0	1.2	644	I-6	洞片	1.0	0.5
375	I-6	洞片	1.2	0.3	465	I-7	洞片	1.3	0.4	555	SR1	洞片	1.7	1.0	645	SR1	洞片	1.1	0.5
376	H-6	洞片	0.9	0.1	466	I-6	洞片	1.5	0.5	556	I-6	洞片	1.4	0.5	646	H-6	洞片	1.0	0.3
377	H-6	洞片	1.4	0.6	467	G-6	洞片	22.0	1.8	557	I-6	洞片	1.7	2.0	647	H-7	洞片	1.4	0.6
378	SD7	洞片	1.8	0.6	468	I-7	洞片	0.5	0.3	558	表探	洞片	2.0	1.3	648	I-7	洞片	1.0	0.4
379	SR3	洞片	1.7	0.7	469	H-6	洞片	1.9	1.3	559	I-6	洞片	2.1	1.5	649	SD7	洞片	1.3	0.4
380	H-7	洞片	1.0	0.2	470	I-6	洞片	0.7	0.3	560	H-6	洞片	2.0	1.1	650	H-6	洞片	1.5	0.6
381	I-6	洞片	1.3	0.3	471	SR3	洞片	1.3	0.4	561	J-4	洞片	2.0	1.3	651	I-6	洞片	1.0	0.4
382	PFR55	洞片	1.4	0.3	472	H-6	洞片	1.6	0.6	562	SR1	洞片	2.2	2.0	652	H-6	洞片	1.9	0.5
383	SR3	洞片	1.6	0.7	473	SR3	洞片	1.8	2.2	563	SR3	洞片	2.3	2.5	653	I-7	洞片	0.7	0.2
384	G-6	洞片	1.1	0.3	474	H-7	洞片	1.1	0.3	564	SR3	洞片	2.2	2.5	654	G-7	洞片	1.1	0.5
385	SR1	洞片	1.8	0.5	475	I-7	洞片	1.8	1.3	565	SJT	洞片	1.9	1.3	655	H-6	洞片	0.6	0.3
386	H-7	洞片	0.7	0.2	476	H-7	洞片	2.2	5.1	566	I-6	洞片	2.2	1.6	656	I-6	洞片	1.1	0.7
387	SR4	洞片	2.1	0.5	477	SR1	洞片	1.3	1.8	567	H-6	洞片	1.7	1.3	657	H-6	洞片	0.9	0.4
388	SR4	洞片	1.4	0.2	478	I-5	洞片	2.5	3.9	568	H-6	洞片	2.0	1.6	658	I-7	洞片	1.1	0.3
389	I-7	洞片	1.1	0.2	479	SR1	洞片	1.6	1.6	569	SR3	洞片	2.0	1.2	659	I-5	洞片	1.0	0.5
390	I-6	洞片	1.5	0.9	480	H-5	洞片	1.5	2.0	570	H-6	洞片	2.2	1.3	660	SD7	洞片	1.4	0.4
391	SR4	洞片	1.1	0.1	481	SD7	洞片	1.2	0.2	571	I-7	洞片	1.7	1.5	661	H-6	洞片	1.2	0.2
392	SR3	洞片	1.3	0.3	482	I-7	洞片	1.3	1.2	572	H-5	洞片	1.4	2.4	662	H-6	洞片	1.0	0.3
393	I-7	洞片	1.4	0.6	483	SR1	洞片	2.3	1.5	573	PFR79	洞片	2.0	2.8	663	H-6	洞片	1.2	0.5
394	SR4	洞片	1.5	0.5	484	SR1	洞片	1.3	1.8	574	SR1	洞片	2.1	1.5	664	I-7	洞片	1.3	0.5
395	H-5	洞片	1.0	1.0	485	I-6	洞片	2.4	1.6	575	I-6	洞片	1.5	2.1	665	SD7	洞片	1.0	0.3
396	I-6	洞片	1.4	0.3	486	SR3	洞片	1.5	1.4	576	表探	洞片	1.7	2.1	666	H-6	洞片	1.1	0.6
397	SR7K6	洞片	1.0	0.1	487	J-4	洞片	2.1	10.2	577	SR1	洞片	2.0	2.6	667	H-6	洞片	1.0	0.5
398	SR3	洞片	1.4	0.6	488	SR1	洞片	1.4	0.3	578	表探	洞片	1.6	1.9	668	H-6	洞片	0.7	0.3
399	H-6	洞片	0.9	0.1	489	H-6	洞片	2.1	4.2	579	SR1	洞片	1.7	0.7	669	H-6	洞片	1.8	0.4
400	H-7	洞片	1.1	0.2	490	SR1	洞片	1.5	1.8	580	SJT	洞片	2.1	1.6	670	I-7	洞片	1.2	0.5
401	H-6	洞片	1.0	0.1	491	G-6	洞片	1.9	1.1	581	H-6	洞片	1.8	2.4	671	H-6	洞片	1.5	0.5
402	SD7	洞片	1.5	0.4	492	SR4	洞片	2.2	1.8	582	I-5	洞片	0.7	0.2	672	SR4	洞片	1.1	0.9
403	SR1	洞片	1.2	0.3	493	I-7	洞片	1.3	0.1	583	SR4	洞片	1.5	0.8	673	I-4	洞片	1.1	0.9
404	SR3	洞片	1.7	3.1	494	SR3	洞片	1.4	1.1	584	SR1	洞片	1.3	0.8	674	I-6	洞片	1.2	0.5
405	I-7	洞片	1.3	0.6	495	SR1	洞片	1.4	1.3	585	I-5	洞片	2.9	1.8	675	I-6	洞片	2.0	0.8
406	J-4	洞片	1.2	1.8	496	I-6	洞片	1.2	0.5	586	I-5	洞片	1.8	0.7	676	SR4	洞片	1.5	1.0
407	SJT	洞片	1.6	0.9	497	J-4	洞片	1.7	0.9	587	表探	洞片	1.5	1.4	677	SR4	洞片	1.5	0.4
408	H-4	洞片	2.6	2.9	498	G-6	洞片	1.3	0.3	588	I-5	洞片	1.3	0.8	678	H-6	洞片	1.9	1.1
409	I-7	洞片	1.7	1.8	499	H-6	洞片	1.3	0.8	589	H-7	洞片	1.5	1.5	679	H-6	洞片	1.7	1.2
410	SR1	洞片	2.2	4.4	500	H-6	洞片	1.4	1.0	590	I-3	洞片	2.3	1.8	680	I-7	洞片	1.2	1.1
411	SR3	洞片	1.5	0.9	501	G-6	洞片	0.9	0.2	591	SR1	洞片	2.3	3.1	681	H-6	洞片	2.6	1.8
412	SD7	洞片	1.8	3.7	502	SD7	洞片	2.6	0.7	592	SR3	洞片	1.9	3.2	682	SD7	洞片	1.6	1.0
413	SR1	洞片	2.3	1.2	503	SR3	洞片	1.7	0.2	593	H-6	洞片	2.5	1.4	683	SR4	洞片	2.9	1.1
414	H-7	洞片	1.7	0.9	504	SR1	洞片	1.4	0.6	594	J-4	洞片	2.4	2.3	684	H-6	洞片	1.3	0.6
415	I-7	洞片	3.0	4.2	505	SR2	洞片	1.5	0.5	595	I-7	洞片	2.3	2.9	685	SJT	洞片	1.1	1.1
416	H-6	洞片	3.4	4.1	506	H-8	洞片	1.3	0.3	596	I-7	洞片	1.8	3.6	686	I-4	洞片	2.2	1.1
417	SR3	洞片	2.1	1.6	507	I-7	洞片	1.5	1.7	597	I-6	洞片	1.4	1.1	687	J-4	洞片	1.7	1.1
418	G-6	洞片	1.3	0.5	508	H-7	洞片	1.6	0.8	598	I-5	洞片	2.0	2.1	688	H-6	洞片	1.4	1.1
419	H-6	洞片	2.1	2.5	509	H-6	洞片	1.7	0.8	599	H-6	洞片	2.0	2.1	689	SR1	洞片	1.8	2.4
420	H-7	洞片	1.3	1.1	510	I-7	洞片	1.3	0.5	600	I-6	洞片	2.4	2.4	690	SR3	洞片	1.1	1.0
421	I-7	洞片	2.8	2.5	511	H-7	洞片	1.7	0.6	601	H-5	洞片	2.1	2.5	691	SR4	洞片	2.0	1.0
422	SR3	洞片	1.9	0.6	512	I-7	洞片	0.9	0.4	602	I-6	洞片	1.1	0.7	692	I-4	洞片	2.2	4.7
423	SR4	洞片	2.3	1.4	513	I-7	洞片	1.0	0.1	603	SR1	洞片	1.7	3.2	693	I-7	洞片	1.8	1.3
424	J-5	洞片	1.4	0.3	514	I-6	洞片	0.7	0.4	604	I-5	洞片	0.7	0.4	694	I-7	洞片	1.6	0.6
425	I-7	洞片	1.0	0.7	515	SR4	洞片	1.1	0.2	605	I-7	洞片	2.4	1.8	695	K-5	洞片	1.5	1.2
426	SR1	洞片	1.7	0.8	516	G-7	洞片	2.1	0.8	606	G-6	洞片	2.0	2.8	696	I-5	洞片	2.8	0.8
427	I-7	洞片	1.5	0.2	517	SR1	洞片	1.2	0.3	607	H-7	洞片	2.5	2.4	697	I-7	洞片	1.5	0.6
428	I-5	洞片	1.4	0.8	518	I-7	洞片	1.2	0.5	608	SR4	洞片	2.9	2.4	698	J-6	洞片	1.3	0.5
429	H-7	洞片	1.5	0.7	519	I-7	洞片	1.4	0.4	609	I-7	洞片	1.4	0.6	699	I-7	洞片	1.8	1.6
430	H-7	洞片	1.9	0.8	520	表探	洞片	1.0	0.										

番号	出し位置	品	長さ	重量	寸法	出し位置	品	長さ	重量	寸法	出し位置	品	長さ	重量	寸法	出し位置	品	長さ	重量	寸法
1073	J-4	鋼片	1.6	1.2	1163	H-6	鋼片	1.7	0.7	1253	I-7	鋼片	1.6	0.3	1343	SR1	鋼片	1.5	0.8	
1074	I-7	鋼片	1.6	0.5	1164	H-7	鋼片	1.6	0.6	1254	SR1	鋼片	1.5	0.5	1344	I-6	鋼片	1.8	1.1	
1075	SR3	鋼片	1.7	1.1	1165	SR3	鋼片	1.3	0.5	1255	I-7	鋼片	1.5	0.7	1345	SR4	鋼片	1.1	0.5	
1076	SR3	鋼片	1.2	0.5	1166	H-7	鋼片	1.6	0.5	1256	H-7	鋼片	1.4	0.7	1346	SR4	鋼片	1.8	1.4	
1077	SR1	鋼片	1.2	0.2	1167	I-7	鋼片	1.2	0.6	1257	SR4	鋼片	1.5	0.6	1347	SR4	鋼片	1.4	0.7	
1078	G-7	鋼片	1.5	0.9	1168	H-6	鋼片	0.9	0.3	1258	H-6	鋼片	1.1	0.2	1348	I-4	鋼片	1.5	1.1	
1079	H-5	鋼片	1.4	0.6	1169	SR3	鋼片	0.8	0.1	1259	SR4	鋼片	1.6	0.7	1349	H-5	鋼片	1.5	0.6	
1080	H-6	鋼片	1.8	0.6	1170	SR4	鋼片	0.8	0.2	1260	H-6	鋼片	1.2	0.7	1350	SR3	鋼片	1.2	0.4	
1081	G-6	鋼片	1.3	0.9	1171	SR1	鋼片	1.2	0.5	1261	SR1	鋼片	1.2	0.6	1351	P鋼P33	鋼片	1.1	0.9	
1082	I-5	鋼片	1.2	0.2	1172	I-7	鋼片	1.3	0.6	1262	I-6	鋼片	1.2	1.1	1352	H-7	鋼片	1.2	0.5	
1083	SR4	鋼片	0.6	0.1	1173	H-5	鋼片	1.7	0.5	1263	I-6	鋼片	1.6	1.9	1353	I-6	鋼片	1.2	0.3	
1084	SR1	鋼片	1.1	0.6	1174	SR4	鋼片	1.2	0.6	1264	I-7	鋼片	1.6	0.7	1354	I-7	鋼片	1.5	1.4	
1085	SR3	鋼片	1.1	0.2	1175	I-6	鋼片	1.6	0.3	1265	SR1	鋼片	1.9	1.3	1355	SR4	鋼片	1.2	0.5	
1086	II-6	鋼片	1.3	0.6	1176	H-6	鋼片	1.3	0.5	1266	SR1	鋼片	1.7	1.6	1356	I-7	鋼片	1.6	0.5	
1087	SR1	鋼片	1.3	0.3	1177	H-6	鋼片	1.1	0.4	1267	I-5	鋼片	1.7	1.0	1357	SR3	鋼片	1.8	1.4	
1088	H-6	鋼片	1.1	0.2	1178	H-6	鋼片	1.5	0.3	1268	I-7	鋼片	2.3	2.0	1358	H-6	鋼片	0.8	0.2	
1089	I-5	鋼片	1.5	0.6	1179	SR3	鋼片	1.5	0.6	1269	H-6	鋼片	1.5	1.3	1359	SR3	鋼片	1.3	0.4	
1090	SR4	鋼片	0.9	0.2	1180	SK41	鋼片	1.0	0.2	1270	SR1	鋼片	1.3	0.8	1360	H-7	鋼片	1.3	0.3	
1091	SR4	鋼片	1.2	0.5	1181	I-7	鋼片	1.3	0.4	1271	表裏	鋼片	1.2	0.4	1361	SR3	鋼片	1.4	0.2	
1092	I-6	鋼片	1.7	0.5	1182	SR4	鋼片	0.8	0.2	1272	SR4	鋼片	1.1	0.3	1362	I-7	鋼片	1.2	1.5	
1093	I-4	鋼片	1.9	1.5	1183	SD3	鋼片	1.3	0.5	1273	SR4	鋼片	2.0	1.8	1363	SR1	鋼片	1.3	0.7	
1094	H-6	鋼片	2.5	0.8	1184	SR4	鋼片	1.6	0.7	1274	SR1	鋼片	2.0	0.8	1364	I-6	鋼片	1.5	0.5	
1095	II-5	鋼片	1.9	1.0	1185	SK3	鋼片	0.6	0.5	1275	I-7	鋼片	2.1	0.7	1365	I-7	鋼片	1.5	0.5	
1096	H-5	鋼片	1.4	1.2	1186	I-4	鋼片	1.5	0.8	1276	I-7	鋼片	1.4	1.4	1366	SR1	鋼片	1.0	0.5	
1097	SR1	鋼片	1.4	0.8	1187	SR1	鋼片	1.1	0.3	1277	SR1	鋼片	2.1	1.2	1367	P鋼P89	鋼片	1.5	0.2	
1098	I-6	鋼片	1.5	0.7	1188	G-7	鋼片	1.4	1.0	1278	I-6	鋼片	1.7	1.0	1368	I-7	鋼片	1.4	0.7	
1099	SR10	鋼片	0.6	0.1	1189	H-6	鋼片	1.2	0.8	1279	H-5	鋼片	2.1	0.7	1369	SR1	鋼片	1.5	1.3	
1100	G-6	鋼片	1.5	0.5	1190	SK9	鋼片	1.4	0.5	1280	I-7	鋼片	1.8	1.2	1370	I-7	鋼片	1.9	1.6	
1101	G-6	鋼片	1.5	0.3	1191	I-4	鋼片	1.1	0.5	1281	SR1	鋼片	1.8	1.1	1371	I-6	鋼片	1.4	0.4	
1102	SR1	鋼片	1.5	1.5	1192	SR1	鋼片	1.3	0.3	1282	SR1	鋼片	1.6	0.9	1372	I-6	鋼片	1.2	0.5	
1103	I-6	鋼片	2.0	0.8	1193	I-6	鋼片	1.2	0.4	1283	SR1	鋼片	2.2	1.5	1373	I-6	鋼片	0.9	0.6	
1104	II-7	鋼片	2.1	1.3	1194	I-5	鋼片	1.1	0.6	1284	I-6	鋼片	1.6	0.6	1374	P鋼P32	鋼片	1.3	0.6	
1105	G-6	鋼片	2.1	4.1	1195	I-6	鋼片	1.3	0.6	1285	H-6	鋼片	1.5	0.7	1375	SR3	鋼片	1.3	0.5	
1106	I-3	鋼片	1.7	1.0	1196	SR3	鋼片	1.4	0.3	1286	SR3	鋼片	1.9	0.6	1376	I-6	鋼片	1.3	0.9	
1107	SD7	鋼片	1.8	1.6	1197	II-6	鋼片	0.7	0.2	1287	H-7	鋼片	1.2	0.9	1377	H-5	鋼片	2.0	1.0	
1108	SR1	鋼片	1.8	1.0	1198	SR4	鋼片	0.9	0.3	1288	SR3	鋼片	1.9	1.0	1378	I-6	鋼片	1.6	0.6	
1109	表裏	鋼片	1.4	0.6	1199	SR3	鋼片	1.5	0.5	1289	SR4	鋼片	1.6	0.5	1379	SR4	鋼片	1.9	1.1	
1110	SR4	鋼片	1.2	0.9	1200	G-6	鋼片	1.2	0.9	1290	H-6	鋼片	1.8	1.1	1380	SR1	鋼片	1.2	1.2	
1111	H-6	鋼片	0.7	0.1	1201	SR4	鋼片	1.0	0.2	1291	SD7	鋼片	1.8	1.9	1381	I-6	鋼片	1.3	0.6	
1112	SR3	鋼片	1.1	0.4	1202	H-5	鋼片	1.5	0.3	1292	I-6	鋼片	1.9	0.9	1382	I-6	鋼片	1.3	0.2	
1113	H-6	鋼片	1.5	0.5	1203	I-6	鋼片	1.4	0.8	1293	SR4	鋼片	1.2	1.5	1383	P鋼P55	鋼片	1.5	0.5	
1114	I-6	鋼片	1.2	0.5	1204	I-7	鋼片	1.4	0.5	1294	H-6	鋼片	1.5	1.5	1384	SR1	鋼片	0.9	0.4	
1115	I-7	鋼片	1.9	1.3	1205	G-7	鋼片	1.5	0.8	1295	G-6	鋼片	1.8	1.1	1385	SR4	鋼片	1.4	0.2	
1116	H-7	鋼片	2.1	4.1	1206	H-7	鋼片	1.8	0.6	1296	SR4	鋼片	1.8	1.5	1386	SR4	鋼片	1.4	0.2	
1117	P鋼P95	鋼片	1.5	1.1	1207	H-6	鋼片	1.3	0.4	1297	SR1	鋼片	1.7	0.7	1387	H-7	鋼片	1.1	0.3	
1118	H-6	鋼片	1.6	0.9	1208	H-7	鋼片	1.3	0.7	1298	SR4	鋼片	1.8	0.9	1388	I-6	鋼片	1.4	0.6	
1119	H-6	鋼片	1.4	0.7	1209	SR4	鋼片	1.1	0.1	1299	I-4	鋼片	2.0	0.9	1389	J-5	鋼片	1.5	0.5	
1120	P鋼P32	鋼片	1.1	1.6	1210	I-7	鋼片	1.0	0.5	1300	I-6	鋼片	2.0	1.2	1390	SR3	鋼片	1.2	0.3	
1121	G-6	鋼片	1.6	0.7	1211	H-6	鋼片	1.4	0.7	1301	I-7	鋼片	1.6	0.7	1391	SR1	鋼片	1.3	0.7	
1122	H-6	鋼片	2.0	1.6	1212	SR3	鋼片	2.1	0.7	1302	SR1	鋼片	1.5	1.9	1392	SR1	鋼片	1.0	0.5	
1123	SR3	鋼片	2.4	2.2	1213	H-5	鋼片	1.1	0.6	1303	SR1	鋼片	2.0	3.2	1393	SR4	鋼片	1.6	0.6	
1124	I-6	鋼片	1.8	0.8	1214	H-6	鋼片	0.8	0.2	1304	H-5	鋼片	2.0	2.4	1394	SR4	鋼片	1.8	0.8	
1125	I-6	鋼片	1.5	1.2	1215	SR1	鋼片	1.2	0.2	1305	I-4	鋼片	2.1	3.1	1395	H-6	鋼片	1.6	0.5	
1126	G-6	鋼片	2.4	2.4	1216	SR1	鋼片	1.3	0.3	1306	SR1	鋼片	1.8	0.3	1396	I-7	鋼片	1.2	0.3	
1127	H-4	鋼片	1.3	1.1	1217	SR1	鋼片	1.9	0.5	1307	H-6	鋼片	1.8	2.5	1397	G-6	鋼片	1.6	0.7	
1128	P鋼P86	鋼片	1.7	0.7	1218	I-7	鋼片	1.1	1.0	1308	G-6	鋼片	1.7	0.8	1398	SR3	鋼片	1.5	0.9	
1129	H-5	鋼片	2.1	1.3	1219	SK41	鋼片	1.3	1.4	1309	I-7	鋼片	2.1	1.4	1399	SR4	鋼片	1.3	0.6	
1130	H-7	鋼片	2.4	1.2	1220	H-6	鋼片	1.5	0.8	1310	I-7	鋼片	1.6	0.7	1400	SR3	鋼片	1.4	1.1	
1131	G-6	鋼片	1.7	1.5	1221	I-7	鋼片	0.9	0.2	1311	H-6	鋼片	0.5	0.0	1401	H-6	鋼片	0.9	0.4	
1132	SR4	鋼片	2.1	0.9	1222	H-6	鋼片	1.6	1.0	1312	H-6	鋼片	0.4	0.0	1402	H-6	鋼片	1.3	0.5	
1133	I-5	鋼片	1.9	1.6	1223	P鋼P55	鋼片	2.0	1.0	1313	H-6	鋼片	0.8	0.1	1403	H-7	鋼片	1.5	0.3	
1134	SK86	鋼片	1.6	0.6	1224	SR3	鋼片	1.8	1.5	1314	SR1	鋼片	0.8	0.2	1404	H-6	鋼片	1.7	0.6	
1135	SR3	鋼片	2.1	2.5	1225	P鋼P104	鋼片	1.3	0.9	1315	SR3	鋼片	1.3	1.2	1405	H-7	鋼片	1.3	0.9	
1136	SR1	鋼片	1.8	2.0	1226	J-4	鋼片	1.8	0.9	1316	SR3	鋼片	1.8	1.1	1406	SK41	鋼片	1.3	0.4	
1137	I-6	鋼片	2.1	0.6	1227	I-6	鋼片	1.2	0.5	1317	G-7	鋼片	1.8	2.0	1407	I-6	鋼片	1.5	0.7	
1138	SR1	鋼片	3.6	3.7	1228	H-6	鋼片	0.8	0.1	1318	G-6	鋼片	2.1	2.3	1408	H-6	鋼片	2.0	2.0	
1139	H-7	鋼片	1.1	0.4	1229	SR3	鋼片	1.3	0.3	1319	I-3	鋼片	2.9	3.2	1409	H-6	鋼片	1.8	0.9	
1140	SR1	鋼片	0.9	0.1	1230	I-7	鋼片	1.2	0.3	1320	H-7	鋼片	1.7	1.7	1410	H-6	鋼片	0.7	1.4	
1141	SR4	鋼片	1.1	0.2	1231	I-7	鋼片	0.7	0.1	1321	SR1	鋼片	1.8	1.1	1411	I-6	鋼片	1.8	0.8	
1142	I-7	鋼片	1.0	0.2	1232	H-7	鋼片	1.1	0.4	1322	H-6	鋼片	2.3	2.7	1412	G-6	鋼片	1.3	1.0	
1143	H-7	鋼片	1.6	0.7	1233	G-3	鋼片	1.6	0.7	1323	G-3	鋼片	1.9	1.7	1413	I-6	鋼片	1.3	0.5	
1144	SR3	鋼片	1.4	0.4	1234	I-4	鋼片	0.9	0.2	1324	H-4	鋼片	2.3	3.8	1414	SR1	鋼片	1.3	1.2	
1145	I-7	鋼片	1.3	0.3	1235	H-6	鋼片	1.2	0.2	1325	J-5	鋼片	2.9	2.5	1415	I-7	鋼片	1.5	1.4	
1146	SR3	鋼片	1.1	0.6	1236	H-6	鋼片	0.6	0.0	1326	H-6	鋼片								

番号	山上位置	部 種	共有(個)	重量(g)	番号	山上位置	部 種	共有(個)	重量(g)	番号	山上位置	部 種	共有(個)	重量(g)	番号	山上位置	部 種	共有(個)	重量(g)
1432	J-1	洞片	1.7	1.0	1523	SR3	洞片	2.1	4.1	1613	SR3	洞片	2.5	4.4	1703	I-6	洞片	2.4	3.8
1434	SD7	洞片	1.6	1.1	1524	SR1	洞片	2.3	2.2	1614	H-4	洞片	1.5	0.9	1704	SJ4	洞片	1.5	0.8
1435	SM3	洞片	1.6	1.2	1525	H-7	洞片	2.0	1.9	1615	J-7	洞片	2.1	0.9	1705	I-5	洞片	1.7	0.7
1436	H-7	洞片	2.6	2.3	1526	I-7	洞片	2.5	4.2	1616	SR3	洞片	5.1	7.53	1706	I-6	洞片	2.1	1.9
1437	SJ7	洞片	1.4	1.0	1527	I-7	洞片	2.2	3.8	1617	H-5	洞片	3.7	11.3	1707	I-6	洞片	1.7	0.8
1438	SR3	洞片	2.1	1.7	1528	G-6	洞片	2.0	4.9	1618	SR1	洞片	3.8	16.1	1708	SR3	洞片	1.7	2.3
1439	I-3	洞片	1.9	0.6	1529	J-4	洞片	2.3	1.4	1619	K-5	洞片	2.0	2.4	1709	I-4	洞片	1.8	2.8
1440	I-3	洞片	1.9	0.8	1530	J-6	洞片	2.5	2.8	1620	SR1	洞片	1.7	1.6	1710	SJ4	洞片	1.4	1.7
1441	I-6	洞片	2.1	0.9	1531	G-6	洞片	1.8	0.9	1621	I-6	洞片	1.8	0.8	1711	I-7	洞片	2.6	2.8
1442	I-4	洞片	2.3	1.0	1532	H-6	洞片	1.4	1.5	1622	G-6	洞片	3.4	6.9	1712	I-5	洞片	2.8	3.2
1443	H-5	洞片	2.0	1.5	1533	J-3	洞片	2.2	0.8	1623	SR2	洞片	2.7	2.3	1713	I-5	洞片	1.5	1.8
1444	I-6	洞片	1.5	0.6	1534	H-4	洞片	2.4	0.6	1624	H-6	洞片	2.4	0.4	1714	SR4	洞片	2.6	1.8
1445	I-6	洞片	2.5	1.3	1535	SR3	洞片	1.8	0.7	1625	I-6	洞片	2.0	1.3	1715	SR3	洞片	1.5	1.0
1446	SJ4	洞片	1.4	1.3	1536	H-6	洞片	2.3	2.1	1626	H-5	洞片	1.4	2.1	1716	SD7	洞片	1.5	0.8
1447	SR3	洞片	2.2	1.0	1537	SR1	洞片	2.0	1.4	1627	I-7	洞片	2.3	1.0	1717	SJ4	洞片	2.0	1.4
1448	H-7	石塊	2.0	1.0	1538	J-4	洞片	1.7	1.5	1628	SR3	洞片	1.7	1.3	1718	P991	洞片	1.7	2.1
1449	H-7	洞片	1.5	1.0	1539	I-7	洞片	1.5	1.1	1629	SR3	洞片	1.2	1.0	1719	SR3	洞片	2.0	1.8
1450	H-6	洞片	2.2	3.0	1540	SR4	洞片	1.7	0.7	1630	H-6	洞片	2.1	1.0	1720	J-4	洞片	2.0	0.8
1451	I-6	洞片	1.1	1.0	1541	SR1	洞片	2.6	2.2	1631	I-6	洞片	2.1	0.7	1721	H-7	洞片	1.8	1.4
1452	I-6	洞片	2.1	1.7	1542	I-3	洞片	1.2	0.9	1632	I-6	洞片	1.2	0.8	1722	SR3	洞片	2.4	3.0
1453	I-7	洞片	1.4	0.3	1543	I-7	洞片	1.8	1.1	1633	P993	洞片	1.2	0.5	1723	H-7	洞片	1.2	0.3
1454	H-6	洞片	1.5	1.1	1544	SR1	洞片	2.5	1.7	1634	I-7	洞片	0.8	0.3	1724	SR4	洞片	1.7	0.8
1455	I-4	洞片	1.6	0.8	1545	H-7	洞片	1.7	0.4	1635	I-6	洞片	1.3	0.6	1725	SR2	洞片	1.8	2.2
1456	H-6	洞片	1.5	1.0	1546	I-7	洞片	1.3	1.3	1636	SR4	洞片	1.4	0.4	1726	I-6	洞片	1.8	0.8
1457	H-6	洞片	1.9	1.7	1547	G-6	洞片	1.7	0.9	1637	I-7	洞片	2.1	1.0	1727	I-6	洞片	1.2	0.8
1458	H-6	洞片	2.3	1.5	1548	J-4	洞片	2.2	2.1	1638	I-6	洞片	1.2	0.6	1728	G-7	洞片	1.8	5.2
1459	SR4	洞片	1.7	2.8	1549	SR4	洞片	2.1	1.7	1639	H-5	洞片	2.9	6.4	1729	K-5	洞片	1.5	2.8
1460	SR1	洞片	2.7	2.6	1550	H-6	洞片	1.3	0.6	1640	I-4	洞片	2.4	0.4	1730	H-6	洞片	2.4	5.7
1461	I-5	洞片	1.6	0.8	1551	I-6	洞片	2.8	2.8	1641	I-6	洞片	2.8	11.4	1731	H-6	洞片	1.1	0.2
1462	H-6	洞片	2.4	2.1	1552	I-7	洞片	1.8	0.7	1642	J-6	洞片	2.6	5.1	1732	H-5	洞片	3.2	16.4
1463	H-7	洞片	2.0	1.6	1553	I-6	洞片	1.6	4.2	1643	G-6	洞片	2.6	3.1	1733	SR1	洞片	2.0	2.3
1464	H-6	洞片	3.3	2.3	1554	SR4	洞片	1.4	0.4	1644	I-5	洞片	2.3	1.9	1734	I-6	洞片	3.7	12.4
1465	H-6	洞片	1.9	2.0	1555	SR3	洞片	1.7	1.3	1645	H-5	洞片	1.7	3.3	1735	SR3	洞片	4.3	9.3
1466	SR1	洞片	2.1	1.7	1556	J-4	洞片	2.2	0.9	1646	SR4	洞片	1.9	2.8	1736	SR1	洞片	2.7	2.6
1467	H-6	洞片	1.8	2.2	1557	G-6	洞片	1.5	1.3	1647	SR2	洞片	2.7	1.2	1737	H-6	洞片	1.2	1.0
1468	H-6	洞片	2.1	1.6	1558	I-6	洞片	1.0	0.2	1648	SK9	洞片	1.3	0.4	1738	I-7	洞片	2.4	10.7
1469	H-6	洞片	1.7	1.8	1559	H-6	洞片	1.5	0.9	1649	H-7	洞片	1.3	0.2	1739	I-4	洞片	2.6	5.5
1470	I-6	洞片	2.4	1.5	1560	I-6	洞片	1.5	0.3	1650	K-5	石塊	1.5	6.1	1740	I-7	洞片	0.7	0.7
1471	H-7	洞片	1.3	1.0	1561	SR3	洞片	2.4	2.7	1651	SR3	洞片	3.2	8.1	1741	SK4	洞片	1.2	1.0
1472	H-5	洞片	1.6	2.9	1562	H-3	洞片	2.3	1.7	1652	SR1	洞片	2.4	3.4	1742	SR3	洞片	0.9	0.5
1473	H-7	洞片	1.4	2.0	1563	SR4	洞片	2.2	1.2	1653	I-5	洞片	2.3	3.2	1743	I-6	洞片	2.0	2.0
1474	H-7	洞片	2.4	2.2	1564	SR1	洞片	1.5	0.4	1654	H-4	洞片	3.1	4.6	1744	SJ4	洞片	1.8	1.3
1475	SR4	洞片	2.0	2.4	1565	I-4	洞片	1.7	0.5	1655	I-6	洞片	1.9	2.0	1745	H-5	洞片	1.7	0.7
1476	SR1	洞片	1.6	1.6	1566	H-7	洞片	1.6	1.6	1656	H-6	洞片	2.1	1.1	1746	H-6	洞片	1.6	2.2
1477	H-6	洞片	2.8	1.5	1567	H-6	洞片	1.7	1.9	1657	SK3	洞片	2.1	3.3	1747	I-6	洞片	1.4	1.1
1478	I-4	洞片	2.1	1.4	1568	SR4	洞片	1.4	0.6	1658	SJ4	洞片	2.0	1.4	1748	SR3	洞片	1.9	1.2
1479	J-5	洞片	2.0	2.1	1569	SR3	洞片	1.5	0.8	1659	H-5	洞片	2.0	3.7	1749	SR1	洞片	1.4	0.4
1480	SR1	洞片	1.7	1.9	1570	SR1	洞片	1.9	1.1	1660	SR4	洞片	2.0	2.2	1750	G-6	洞片	1.7	1.1
1481	SR4	洞片	1.8	1.2	1571	SR1	洞片	1.7	4.9	1661	I-7	洞片	1.7	1.6	1751	I-7	洞片	1.7	1.1
1482	I-6	洞片	2.0	1.8	1572	SJ14	洞片	1.4	4.8	1662	SR3	洞片	1.3	0.9	1752	SR1	洞片	1.7	1.0
1483	H-6	洞片	1.9	1.9	1573	SR3	洞片	1.5	1.5	1663	SR4	洞片	1.4	1.5	1753	SR1	洞片	1.0	0.8
1484	K-5	洞片	1.5	1.5	1574	J-6	洞片	1.3	1.1	1664	SR4	洞片	1.9	0.8	1754	SR3	洞片	1.4	0.9
1485	SR1	洞片	2.2	2.8	1575	G-6	洞片	1.4	2.2	1665	SR3	洞片	1.5	1.0	1755	SR3	洞片	1.6	0.6
1486	G-6	洞片	2.1	2.2	1576	I-7	洞片	1.8	1.3	1666	J-4	洞片	1.5	1.0	1756	SR4	洞片	1.7	0.4
1487	I-6	洞片	2.0	1.4	1577	SR1	洞片	2.1	1.8	1667	SR1	洞片	1.5	1.1	1757	H-6	洞片	2.2	1.0
1488	SR4	洞片	2.2	0.8	1578	J-4	洞片	0.9	2.3	1668	SR3	洞片	1.4	1.0	1758	H-6	洞片	0.8	0.2
1489	I-6	洞片	1.7	1.0	1579	I-5	洞片	0.9	1.6	1669	SR4	洞片	1.9	1.6	1759	J-6	洞片	1.2	0.4
1490	I-6	洞片	2.2	2.0	1580	J-3	洞片	1.7	1.0	1670	J-4	洞片	1.3	0.7	1760	SR1	洞片	1.5	0.6
1491	SR1	洞片	1.9	1.5	1581	P993	洞片	1.7	0.8	1671	SR1	洞片	2.1	1.5	1761	I-7	洞片	1.8	0.9
1492	I-4	洞片	2.3	1.9	1582	SR4	洞片	1.9	1.3	1672	SR1	洞片	1.3	0.7	1762	SR1	洞片	1.6	0.8
1493	K-5	洞片	2.1	1.3	1583	I-6	洞片	1.8	1.6	1673	SK5	洞片	1.4	0.4	1763	SR4	洞片	4.3	4.6
1494	SD7	洞片	1.9	1.4	1584	I-6	洞片	2.1	1.1	1674	H-6	洞片	1.1	0.2	1764	SR1	洞片	1.9	0.6
1495	SR1	洞片	1.9	2.3	1585	SR1	洞片	20.0	2.0	1675	SR3	洞片	1.2	0.3	1765	H-5	洞片	3.1	5.2
1496	H-6	洞片	1.8	1.5	1586	SR1	洞片	1.6	1.5	1676	SR3	洞片	1.5	0.5	1766	H-6	洞片	1.6	0.9
1497	H-6	洞片	2.2	2.0	1587	H-6	洞片	2.1	2.8	1677	I-5	洞片	2.8	2.2	1767	SR1	洞片	2.5	2.0
1498	H-7	洞片	2.0	1.6	1588	J-4	洞片	1.5	1.0	1678	I-4	洞片	2.1	0.8	1768	I-6	洞片	1.4	0.4
1499	I-6	洞片	1.6	1.0	1589	SR1	洞片	3.4	8.1	1679	SR3	洞片	5.9	20.1	1769	SR4	洞片	1.7	0.7
1500	SD7	洞片	1.9	1.3	1590	I-6	洞片	1.7	1.8	1680	H-6	洞片	2.0	3.4	1770	SR3	洞片	2.6	2.1
1501	I-5	洞片	3.4	5.2	1591	SK84	洞片	1.7	1.5	1681	SR3	洞片	1.9	2.8	1771	SR4	洞片	1.6	1.6
1502	SR41	洞片	2.4	4.4	1592	I-4	洞片	1.9	2.9	1682	SR4	洞片	4.2	20.3	1772	H-7	洞片	1.7	1.0
1503	I-7	洞片	2.1	1.9	1593	I-6	洞片	1.6	1.3	1683	I-6	洞片	1.8	5.8	1773	SR4	洞片	1.4	0.4
1504	SR1	洞片	1.8	2.1	1594	I-3	洞片	2.9	2.3	1684	H-6	洞片	2.3	2.0	1774	SR4	洞片	1.5	0.6
1505	I-7	洞片	3.5	3.2	1595	H-6	洞片	1.1	0.5	1685	I-6	洞片	2.9	8.7	1775	I-5	洞片	1.2	0.6
1506	H-7	洞片	1.9	1.3	1596	H-6	洞片	2.5	0.6	1686	SR2	洞片	4.1	18.2	1776	I-4	洞片	1.6	0.3
1507	SD1	洞片	2.3	3.0	1597	H-6	洞片	1.2	0.7	1687	I-5	洞片	3.4	3.1	1777	H-6	洞片	1.9	0.6
1508	I-6	洞片	1.2	0.7	1598	H-6	洞片	2.2	2.										

年份	出土位置	器 种	高(mm)	直径(g)	序号	出土位置	器 种	高(mm)	直径(g)	序号	出土位置	器 种	高(mm)	直径(g)	年份	出土位置	器 种	高(mm)	直径(g)
1793	I-7	铜片	1.4	0.4	1883 SR4	铜片	1.3	0.5	1873 H-5	铜片	2.6	1.2	2063 SR1	铜片	2.6	1.5			
1794	I-6	铜片	1.5	0.6	1884 I-4	铜片	2.1	0.6	1874 H-5	铜片	1.1	0.6	2064 SR1	铜片	2.2	3.7			
1795	SR1	铜片	1.5	1.2	1885 H-7	铜片	1.2	0.4	1875 I-6	铜片	1.7	1.7	2065 SJ4	铜片	3.1	3.2			
1796	H-7	铜片	1.3	0.5	1886 I-7	铜片	1.6	0.3	1876 SR4	铜片	1.6	0.3	2066 G-5	铜片	3.5	29.6			
1797	H-6	铜片	1.7	0.7	1887 G-6	铜片	1.3	0.6	1877 H-5	铜片	1.5	0.4	2067 I-5	铜片	3.8	20.6			
1798	H-5	铜片	1.3	0.8	1888 SR3	铜片	1.5	0.6	1878 SR4	铜片	1.2	0.5	2068 SR1	铜片	1.4	4.8			
1799	I-7	铜片	1.1	0.7	1889 I-7	铜片	1.2	0.2	1879 I-7	铜片	1.4	0.4	2070 SR3	铜片	2.0	4.9			
1800	SR3	铜片	1.3	0.5	1890 SR4	铜片	1.6	0.4	1880 I-7	铜片	1.9	1.3	2070 P牌P102	铜片	3.7	28.0			
1801	I-5	铜片	1.2	0.6	1891 I-6	铜片	1.4	0.5	1881 G-6	铜片	0.8	0.7	2071 P牌P53	石核	1.3	1.1			
1802	G-7	铜片	1.4	0.4	1892 SR4	铜片	1.3	0.5	1882 SD7	铜片	1.6	0.8	2072 J-7	铜片	1.3	7.5			
1803	I-6	铜片	1.0	0.2	1893 SR4	铜片	1.5	0.4	1883 G-6	铜片	1.6	1.1	2073 SR3	石核	2.8	31.3			
1804	SR3	铜片	1.2	0.2	1894 SR1	铜片	1.5	0.6	1884 SD6	铜片	1.4	0.4	2074 SR3	石核	3.0	13.4			
1805	SR4	铜片	1.1	0.3	1895 H-6	铜片	1.3	0.5	1885 H-6	铜片	2.0	0.8	2075 I-7	石核	2.0	14.5			
1806	H-7	铜片	1.0	0.1	1896 P牌P55	铜片	1.5	0.1	1886 I-6	铜片	2.3	3.1	2076 G-6	铜片	1.7	1.4			
1807	SR4	铜片	1.1	0.4	1897 SR4	铜片	1.4	0.3	1887 表藤	铜片	1.5	0.3	2077 I-7	石核	1.6	9.4			
1808	SR1	铜片	1.5	0.5	1898 H-6	铜片	1.4	0.3	1888 SD7	铜片	0.7	0.1	2078 I-6	石核	2.6	23.3			
1809	SR3	铜片	2.5	1.6	1899 I-7	铜片	1.5	0.3	1889 SR3	铜片	0.9	0.1	2079 SR1	石核	3.9	31.6			
1810	I-6	铜片	3.7	18.3	1900 SR1	铜片	1.4	0.4	1900 SD7	铜片	0.6	0.1	2080 H-7	石核	1.5	1.1			
1811	G-6	铜片	2.5	3.4	1901 I-7	铜片	1.6	0.4	1901 H-6	铜片	1.1	0.2	2081 I-6	石核	2.2	34.6			
1812	I-7	铜片	1.8	1.3	1902 H-6	铜片	1.0	0.2	1902 SR4	铜片	1.1	0.2	2082 I-6	石核	2.5	18.2			
1813	SR1	铜片	1.8	1.6	1903 H-6	铜片	1.0	0.1	1903 I-6	铜片	2.1	2.4	2083 SR1	石核	4.0	91.9			
1815	I-4	铜片	2.9	1.7	1904 H-6	铜片	0.9	0.4	1904 H-7	铜片	1.3	0.2	2084 I-3	石核	2.5	10.1			
1816	I-5	铜片	2.1	0.8	1905 H-7	铜片	1.1	0.2	1905 I-6	铜片	1.2	0.1	2085 I-6	石核	3.2	13.8			
1816 I-5	铜片	1.8	0.9	1906 H-6	铜片	0.8	0.1	1906 SR4	铜片	2.1	1.3	2086 表藤	铜片	0.8	0.1				
1817	SR1	铜片	1.1	0.7	1907 H-7	铜片	0.9	0.1	1907 H-6	铜片	1.2	0.7	2087 H-6	铜片	0.3	0.0			
1818	H-7	铜片	1.4	0.6	1908 SR4	铜片	0.5	0.3	1908 P牌P54	铜片	0.6	0.4	2088 表藤	铜片	1.2	0.0			
1819	SR1	铜片	2.1	1.4	1909 SR4	铜片	0.9	0.1	1909 I-6	铜片	1.1	0.2	2089 表藤	铜片	0.4	0.0			
1820	SR3	铜片	2.3	0.8	1910 SR4	铜片	0.8	0.2	1900 P牌P55	铜片	1.6	0.2	2090 I-6	石核	0.5	20.1			
1821	SR4	铜片	1.2	0.4	1911 I-7	铜片	0.8	0.2	2001 J-7	铜片	1.2	0.8	2091 表藤	铜片	0.0	0.0			
1822	SR1	铜片	2.0	1.3	1912 J-4	铜片	1.6	0.3	2002 H-6	铜片	1.4	0.5	2092 H-6	铜片	0.7	0.0			
1823	SD3	铜片	1.4	1.1	1913 H-7	铜片	0.8	0.1	2003 SR1	铜片	1.5	0.9	2093 SR1	石核	4.6	97.5			
1824	I-7	铜片	1.4	0.5	1914 H-6	铜片	0.7	0.1	2004 I-7	铜片	1.3	0.7	2094 H-7	铜片	1.1	0.1			
1825	G-7	铜片	1.0	0.1	1915 H-6	铜片	0.7	0.0	2005 表藤	铜片	1.8	1.5	2095 表藤	铜片	1.0	0.2			
1826	H-7	铜片	1.0	0.2	1916 I-6	铜片	2.8	4.1	2006 SD7	铜片	1.7	1.9	2096 SR1	铜片	5.5	21.8			
1827	I-6	铜片	1.4	0.4	1917 I-6	铜片	2.1	4.1	2007 G-6	铜片	2.5	3.6	2097 SD7	铜片	5.2	57.2			
1828	I-7	铜片	0.8	7.5	1918 P牌P78	铜片	2.1	3.2	2008 G-6	铜片	2.6	3.7	2098 SR4	铜片	4.8	44.5			
1829	SR1	铜片	2.9	9.1	1919 H-5	铜片	1.8	3.3	2009 P牌P102	铜片	1.7	2.9	2099 SR1	铜片	2.7	12.5			
1830	SR1	铜片	2.8	7.4	1920 I-6	铜片	1.5	1.5	2010 I-5	铜片	2.5	3.7	2100 G-6	铜片	2.8	11.8			
1831	SR3	铜片	3.1	10.4	1921 I-4	铜片	1.9	2.1	2011 I-6	铜片	2.0	6.3	2101 I-7	铜片	3.4	3.9			
1832	SR3	铜片	1.5	2.0	1922 I-6	铜片	1.7	3.6	2012 SR4	铜片	2.0	6.0	2102 H-6	铜片	2.5	1.7			
1833	H-6	铜片	2.9	8.5	1923 I-3	铜片	1.5	1.4	2013 I-6	铜片	1.2	3.0	2103 H-6	铜片	1.8	2.0			
1834	SR3	铜片	2.3	6.4	1924 I-5	铜片	3.5	4.8	2014 H-6	铜片	2.9	11.3	2104 表藤	铜片	1.9	0.6			
1835	I-5	铜片	2.8	7.4	1925 I-7	铜片	2.2	2.5	2015 G-6	石核	2.1	14.6	2105 I-7	铜片	1.2	0.3			
1836	SR3	铜片	3.2	8.9	1926 SR4	铜片	1.7	1.2	2016 SR1	铜片	3.1	6.5	2106 I-6	铜片	1.4	1.5			
1837	J-4	铜片	2.6	5.5	1927 H-6	铜片	3.5	5.9	2017 I-6	铜片	1.6	2.9	2107 表藤	铜片	2.2	48.0			
1838	H-5	铜片	3.3	12.1	1928 SK41	铜片	1.6	1.5	2018 I-5	铜片	1.0	0.3	2108 I-6	铜片	1.1	0.8			
1839	SR4	石核	1.5	13.1	1929 SD7	铜片	1.9	2.1	2019 H-6	铜片	1.3	0.5	2109 H-7	铜片	1.1	0.3			
1840	I-5	铜片	3.1	10.4	1930 SK41	铜片	2.0	2.7	2020 I-5	铜片	0.9	0.6	2110 P牌P39	铜片	1.8	0.5			
1841	I-7	铜片	2.8	6.8	1931 J-6	铜片	1.4	0.7	2021 J-6	铜片	2.2	1.1	2111 H-7	铜片	0.9	0.5			
1842	SR1	铜片	3.2	9.2	1932 I-4	铜片	2.2	2.9	2022 I-5	铜片	1.5	4.0	2112 P牌P40	铜片	1.2	1.1			
1843	J-3	铜片	2.3	4.4	1933 J-4	铜片	2.1	1.4	2023 I-5	铜片	1.6	1.5	2113 P牌P32	铜片	1.3	0.7			
1844	SR1	铜片	2.9	6.3	1934 H-6	铜片	2.2	2.2	2024 J-4	铜片	3.4	8.9	2114 P牌P32	铜片	1.9	1.2			
1845	H-6	铜片	1.8	4.6	1935 J-3	铜片	2.2	0.8	2025 SJ1	石核	3.9	20.7	2115 SR4	铜片	1.4	0.9			
1846	G-6	铜片	1.8	2.1	1936 G-7	铜片	1.6	1.8	2026 SD7	铜片	1.9	1.0	2116 J-4	铜片	2.8	3.1			
1847	SR4	铜片	1.9	2.9	1937 SR4	铜片	2.1	2.0	2027 SR3	铜片	2.3	1.6	2117 SR4	铜片	2.3	4.6			
1848	SR1	铜片	2.4	3.2	1938 I-7	铜片	2.1	1.8	2028 G-6	铜片	2.3	3.0	2118 P牌P6	铜片	1.3	0.3			
1849	I-6	铜片	1.6	2.5	1939 I-4	铜片	1.8	3.5	2029 H-5	铜片	2.2	1.9	2119 G-7	铜片	1.8	1.9			
1850	SR1	铜片	2.6	2.4	1940 SK3	铜片	3.0	0.8	2030 I-6	铜片	3.6	3.6	2120 SR1	铜片	1.8	3.0			
1851	I-4	铜片	2.2	2.3	1941 P牌P79	铜片	2.1	1.1	2031 H-7	铜片	2.4	7.8	2121 H-6	铜片	1.9	1.2			
1852	I-6	铜片	1.6	2.4	1942 I-6	铜片	1.5	0.9	2032 G-6	铜片	1.1	0.3	2122 J-4	铜片	2.0	1.1			
1853	SR3	铜片	1.6	1.8	1943 I-7	铜片	1.0	0.5	2033 I-6	铜片	2.0	2.0	2123 I-6	铜片	1.5	0.4			
1854	I-7	铜片	1.7	3.7	1944 SK41	铜片	1.2	0.6	2034 I-7	铜片	1.4	1.1	2124 I-4	铜片	1.5	4.1			
1855	表藤	铜片	2.0	2.2	1945 I-4	铜片	1.4	1.3	2035 H-6	铜片	1.5	1.2	2125 I-6	铜片	2.1	0.9			
1856	SR1	铜片	1.6	1.1	1946 SR3	铜片	0.7	0.8	2036 I-4	铜片	2.9	4.6	2126 H-6	铜片	1.4	0.9			
1857	G-6	铜片	2.9	4.6	1947 H-6	铜片	1.8	0.4	2037 SJ4	铜片	1.2	1.4	2127 SR4	铜片	1.8	0.9			
1858	SR1	铜片	1.4	7.3	1948 H-7	铜片	1.4	0.3	2038 H-6	铜片	1.0	0.7	2128 SR4	铜片	1.5	1.0			
1859	SR3	铜片	1.6	0.8	1949 SR1	铜片	0.9	0.3	2039 SR4	铜片	1.4	1.1	2129 SR3	铜片	1.5	1.0			
1860	J-5	铜片	2.0	1.8	1950 I-7	铜片	0.8	0.1	2040 H-7	铜片	2.0	2.6	2130 I-6	铜片	1.4	1.2			
1861	I-5	铜片	2.1	2.2	1951 I-6	铜片	4.0	7.1	2041 SR2	铜片	2.1	3.4	2131 SR1	铜片	1.7	1.9			
1862	G-6	铜片	3.0	5.7	1952 SR1	铜片	2.4	3.0	2042 SR2	铜片	1.3	4.1	2132 H-6	铜片	0.9	1.1			
1863	H-7	铜片	0.9	0.7	1953 SR1	铜片	2.7	3.1	2043 G-6	铜片	1.8	0.9	2133 I-4	铜片	1.8	1.6			
1864	SR4	铜片	1.9	2.7	1954 G-6	铜片	2.8	3.5	2044 I-6	铜片	1.5	2.8	2134 I-7	铜片	3.0	2.4			
1865	I-5	铜片	1.8	0.8	1955 I-6	铜片	2.0	1.2	2045 I-7	铜片	1.5	0.4	2135 H-6	铜片	1.4	3.3			
1866	SR1	铜片	1.6	8.5	1956 SR1	铜片	1.6	0.3	2046 J-5	铜片	2.9	3.7	2136 SR1	铜片	3.2	5.6			
1867	SR1	铜片	2.1	3.1	1957 表藤	铜片	1.3	0.6	2047 SK52	铜片	1.4	1.5	2137 表藤	铜片	1.7	1.1			
1868	SR1	铜片	2.7	19.4	1958 I-4	铜片	1.3	0.8	2048 SR4	铜片	1.8	3.5	2138 H-6	铜片	2.1	5.7			
1869	I-5	铜片	1.7	4.5	1959 I-5	铜片	1.7	1.6	2049 I-5	铜片	2.0	1.7	2139 I-3	铜片	2.1	3.6			
1870	I-7	铜片	1.8	5.3	1960 G-5	铜片	2.1	0.7	2050 SR4	铜片	3.4	13.7	2140 I-7	铜片	1.9	3.4			
1871	I-5	铜片	3.4	7.5	1961 H-7	铜片	1.3	0.4	2051 SR4	铜片	2.6	9.9	2141 P牌P32	铜片	1.1	0.6			
1872	SJ4	铜片	3.0	4.1	1962 G-6	铜片	2.0	1.3	2052 H-6	铜片	1.5	5.5	2142 SR1	铜片	1.8	4.3			
1873	SR1	铜片	1.5	1.2	1963 H-6	铜片	1.7	1.0	2053 表藤	铜片	2.0	1.9	2143 SR1	铜片	2.2	0.6			
1874	SR1	铜片	1.4	1.0	1964 H-6	铜片	1.3	0.5	2054 SR1	铜片	1.2	1.3							

番号	出土位置	部 種	尺径(φ)	重量(g)	番号	出土位置	部 種	尺径(φ)	重量(g)	番号	出土位置	部 種	尺径(φ)	重量(g)	番号	出土位置	部 種	尺径(φ)	重量(g)
2153	SK22	銅片	2.3	3.5	2243 I-4	銅片	3.3	22.7	2333 I-5	石核	3.3	42.9	2423	石核	1.5	2.9			
2154	SJ4	銅片	2.3	1.9	2244 表裏	銅片	1.7	2.8	2334 II-6	石核	3.6	33.2	2424 SK1	石核	1.7	6.6			
2155	K-5	銅片	2.0	0.9	2245 I-6	銅片	1.7	1.2	2335 SK3	石核	3.1	38.2	2425 SK1	石核	1.2	7.4			
2156	SR1	銅片	2.5	3.9	2246 H-7	銅片	1.7	0.5	2336 H-6	石核	4.1	34.3	2426 H-6	石核	2.9	15.5			
2157	I-6	銅片	1.7	0.8	2247 J-6	銅片	3.1	3.8	2337 H-7	石核	3.0	39.0	2427 SK1	石核	2.2	11.8			
2158	表裏	漆器	3.5	7.1	2248 I-5	銅片	2.8	11.0	2338 G-6	石核	2.8	33.3	2428 I-6	石核	1.9	11.9			
2159	表裏	銅片	2.2	1.6	2249 SR4	銅片	3.2	9.3	2339 SR1	石核	2.7	36.2	2429 H-7	石核	2.7	13.9			
2160	表裏	銅片	2.4	4.1	2250 I-5	銅片	3.3	7.9	2340 SR1	石核	2.1	6.3	2430 SK3	石核	2.4	5.4			
2161	表裏	銅片	3.0	2.6	2251 SR1	銅片	2.9	4.5	2341 I-7	石核	1.4	8.8	2431 I-6	石核	1.8	16.1			
2162	表裏	銅片	1.8	2.6	2252 SR3	銅片	3.8	14.0	2342 I-7	石核	2.4	16.4	2432 J-4	石核	1.7	7.0			
2163	表裏	銅片	2.3	3.2	2253 G-7	銅片	1.8	3.3	2343 P群P57	漆器	1.6	5.4	2433 H-7	石核	2.0	3.4			
2164	表裏	銅片	3.2	2.2	2254 I-6	石片	4.1	5.0	2344 G-6	石核	1.2	2.0	2434 SD7	石核	1.8	14.0			
2165	表裏	銅片	2.1	2.9	2255 I-5	漆片	3.1	6.2	2345 H-5	漆器	2.2	5.4	2435 H-6	石核	1.8	11.2			
2166	表裏	銅片	2.7	3.3	2256 SR3	銅片	1.5	0.6	2346 I-7	石核	2.7	14.8	2436 I-7	石核	3.1	9.4			
2167	表裏	銅片	1.6	2.3	2257 SR3	銅片	2.5	1.8	2347 表裏	石核	2.6	8.1	2437 H-6	石核	1.2	7.1			
2168	表裏	銅片	1.3	2.4	2258 K-5	銅片	2.0	12.0	2348 SR1	漆器	2.0	5.6	2438 I-6	石核	2.5	25.4			
2209	表裏	銅片	1.5	1.0	2259 SK41	石核	1.9	4.2	2349 SR3	石核	3.5	24.2	2439 SR3	石核	2.8	12.2			
2170	表裏	銅片	1.5	2.1	2260 I-6	漆器	2.9	5.6	2350 SR3	石核	2.3	14.8	2440 K-5	石核	1.9	6.8			
2171	表裏	銅片	2.0	2.9	2261 I-6	石核	2.5	6.6	2351 SR3	石核	3.1	36.8	2441 P群P33	石核	2.4	14.4			
2172	表裏	銅片	2.0	1.2	2262 I-6	石核	2.7	10.1	2352 SD7	石核	1.8	21.2	2442 SR4	石核	2.2	24.2			
2173	表裏	銅片	2.2	1.3	2263 SR1	石核	2.5	9.3	2353 SR2	石核	2.4	13.6	2443 I-6	石核	3.3	19.6			
2174	表裏	銅片	1.7	1.1	2264 I-7	石核	2.2	4.3	2354 SK70	石核	3.3	9.2	2444 G-6	石核	1.7	6.4			
2175	表裏	銅片	2.0	2.9	2265 I-6	石核	2.2	5.6	2355 I-5	漆器	2.5	12.4	2445 SK3	石核	1.4	18.4			
2176	表裏	銅片	1.8	0.9	2266 P群P33	石核	3.0	13.2	2356 I-7	石核	1.7	6.1	2446 H-7	石核	3.2	8.9			
2177	表裏	銅片	2.3	1.0	2267 SD7	石核	2.0	9.2	2357 H-3	石核	1.2	6.9	2447 I-5	石核	2.4	24.1			
2178	表裏	銅片	1.7	1.2	2268 P群P78	石核	2.3	6.8	2358 SR1	石核	1.8	8.0	2448 SR4	石核	2.4	21.1			
2179	表裏	銅片	1.9	0.6	2269 J-4	石核	2.4	9.8	2359 H-4	石核	1.5	7.6	2449 H-6	石核	2.1	12.6			
2180	表裏	銅片	2.0	2.9	2270 I-6	石核	1.4	17.0	2360 SR1	石核	1.8	17.0	2450 SR1	石核	3.1	14.6			
2181	表裏	銅片	1.9	1.0	2271 I-6	石核	3.0	15.4	2361 I-4	石核	2.6	10.2	2451 I-5	石核	3.0	36.7			
2182	表裏	銅片	1.6	0.5	2272 H-5	石核	1.9	8.9	2362 I-5	石核	2.4	36.2	2452 G-6	石核	1.5	6.3			
2183	表裏	銅片	1.6	0.5	2273 G-6	石核	1.8	19.7	2363 SR3	漆器	2.7	5.0	2453 SR1	石核	2.1	5.5			
2184	表裏	銅片	1.5	1.0	2274 SK41	石核	3.0	6.1	2364 I-7	石核	1.0	9.7	2454 G-6	石核	1.3	3.4			
2185	表裏	銅片	1.7	0.5	2275 表裏	石核	1.3	7.8	2365 G-6	石核	2.4	8.3	2455 I-7	石核	2.5	2.5			
2186	表裏	銅片	1.3	2.0	2276 I-5	石核	2.1	18.3	2366 I-4	石核	3.3	25.4	2456 G-6	石核	2.7	12.7			
2187	表裏	銅片	1.7	0.5	2277 G-6	石核	1.4	24.7	2367 H-6	石核	2.6	18.4	2457 G-6	石核	2.1	9.5			
2188	表裏	銅片	1.0	0.3	2278 SR4	石核	2.2	11.4	2368 SR4	石核	1.8	13.0	2458 J-4	石核	1.8	14.6			
2189	表裏	銅片	1.4	0.4	2279 I-5	石核	1.8	7.3	2369 I-7	石核	1.9	10.9	2459 SD7	石核	2.1	3.9			
2190	表裏	銅片	1.2	0.2	2280 SK3	石核	2.6	14.9	2370 J-4	石核	2.7	7.1	2460 SD7	石核	1.9	6.7			
2191	表裏	銅片	1.0	0.4	2281 SR3	石核	2.1	4.7	2371 SR4	石核	1.6	4.8	2461 I-6	石核	2.0	6.2			
2192	表裏	銅片	1.0	0.1	2282 J-6	石核	1.7	3.7	2372 I-6	石核	3.3	21.8	2462 H-6	石核	2.2	11.4			
2193	表裏	銅片	1.4	0.3	2283 I-6	石核	2.1	7.9	2373 SR1	石核	3.1	19.6	2463 G-6	石核	1.8	5.3			
2194	表裏	銅片	1.0	0.2	2284 I-6	石核	1.7	8.1	2374 SR1	石核	2.1	11.3	2464 SR1	石核	1.0	4.2			
2195	表裏	銅片	1.3	0.3	2285 H-6	石核	1.7	2.4	2375 P群P90	石核	1.9	7.3	2465 SR1	石核	1.7	3.7			
2196	I-4	銅片	1.7	0.4	2286 I-7	石核	1.6	3.1	2376 G-6	石核	3.4	20.7	2466 SD7	石核	1.9	11.9			
2197	J-4	銅片	1.6	0.8	2287 J-4	石核	2.2	6.6	2377 SK3	石核	2.6	24.7	2467 I-6	石核	2.3	7.0			
2198	I-6	銅片	1.6	1.4	2288 K-5	石核	1.7	4.6	2378 SR1	漆器	3.5	20.1	2468 SR4	石核	1.9	12.8			
2199	H-7	銅片	1.0	0.2	2289 J-4	石核	1.6	13.1	2379 H-5	漆器	2.2	8.9	2469 SR1	石核	2.2	16.9			
2200	SK52	銅片	1.9	0.5	2290 H-6	銅片	2.4	4.1	2380 I-7	石核	1.8	6.8	2470 I-7	石核	1.9	8.9			
2201	SR1	銅片	1.9	1.1	2291 I-5	石核	1.6	3.7	2381 H-7	漆器	1.7	11.4	2471 I-6	石核	1.7	6.8			
2202	SR1	銅片	0.7	0.4	2291 SK3	石核	2.1	4.7	2382 I-4	石核	1.3	24.7	2472 SR1	石核	1.9	2.2			
2203	I-7	銅片	3.2	2.7	2293 SR3	石核	2.0	3.0	2383 I-7	石核	2.9	25.2	2473 SR1	石核	2.5	21.8			
2204	I-4	銅片	2.3	2.0	2294 J-4	石核	2.1	4.1	2384 SR4	石核	1.9	7.2	2474 H-5	石核	2.1	10.4			
2205	I-7	銅片	2.7	3.1	2295 SD7	石核	2.4	11.1	2385 SR1	石核	2.5	11.1	2475 I-6	石核	4.0	25.0			
2206	K-5	銅片	2.2	1.5	2296 I-5	石核	2.7	7.6	2386 J-4	石核	2.3	13.4	2476 I-6	石核	2.2	5.9			
2207	H-6	銅片	1.2	1.6	2297 G-6	石核	1.8	5.6	2387 H-7	石核	3.0	15.1	2477 H-7	石核	1.6	3.8			
2208	SR1	銅片	1.6	1.5	2298 I-6	石核	1.6	2.1	2388 SJ4	石核	2.1	6.8	2478 SD7	石核	0.9	1.0			
2209	SR1	銅片	1.3	1.5	2299 J-6	石核	2.0	7.9	2389 G-6	石核	1.8	3.7	2479 G-6	石核	1.6	6.6			
2210	J-7	銅片	2.4	2.9	2300 表裏	石核	2.0	6.3	2390 SR1	石核	1.7	8.3	2480 P群P104	石核	1.2	3.0			
2211	SR1	銅片	1.3	1.5	2301 表裏	石核	1.8	5.3	2391 SR1	石核	1.4	9.5	2381 H-7	石核	2.7	3.8			
2212	SR3	銅片	2.0	2.9	2302 表裏	石核	1.9	7.4	2392 H-4	漆器	2.5	19.1	2482 I-6	石核	1.9	9.9			
2213	I-7	銅片	1.9	2.3	2303 表裏	石核	2.0	6.6	2393 I-7	石核	2.0	9.9	2483 I-4	石核	1.8	6.3			
2214	SR1	銅片	1.8	1.0	2304 表裏	石核	2.5	7.6	2394 I-6	石核	1.6	8.4	2484 II-6	石核	1.8	3.2			
2215	I-6	銅片	2.7	7.5	2305 SD7	石核	1.9	5.3	2395 SR4	石核	1.6	6.2	2485 SK2	石核	1.0	7.8			
2216	H-3	銅片	2.0	3.2	2306 J-6	石核	1.2	2.0	2396 I-4	銅片	2.3	1.5	2486 I-3	石核	1.6	5.6			
2217	SR1	銅片	2.4	2.2	2307 SR4	石核	2.5	7.0	2397 SR1	石核	2.9	11.7	2487 I-5	石核	2.3	9.3			
2218	表裏	漆器	1.2	1.5	2308 G-6	石核	1.1	2.0	2398 G-6	石核	1.4	11.1	2488 I-6	石核	1.9	2.2			
2219	I-7	銅片	1.7	0.4	2309 I-5	石核	3.4	10.0	2399 I-7	石核	1.7	3.3	2489 SR1	石核	2.1	20.8			
2220	I-6	銅片	2.5	2.0	2310 H-6	銅片	2.1	3.8	2400 I-4	石核	1.4	2.1	2490 I-7	石核	2.0	6.0			
2221	J-6	銅片	0.9	0.9	2311 SR1	石核	2.0	13.1	2401 SK3	石核	1.8	9.5	2491 I-7	石核	2.1	18.7			
2222	H-6	銅片	2.4	2.8	2312 SR4	石核	2.1	10.7	2402 G-6	石核	3.4	8.4	2492 SR1	石核	2.5	4.7			
2223	I-6	銅片	2.0	2.9	2313 SR3	石核	2.3	13.9	2403 H-6	石核	1.8	12.7	2493 SR1	石核	1.5	9.0			
2224	I-7	銅片	2.9	6.7	2314 J-4	石核	1.8	5.0	2404 SK3	石核	2.4	12.5	2494 I-6	石核	2.7	14.7			
2225	I-5	銅片	2.5	3.9	2315 I-4	石核	3.1	23.5	2405 I-6	石核	2.1	12.9	2495 H-6	漆器	2.4	6.3			
2226	SR1	銅片	1.3	2.5	2316 SR1	石核	3.4	13.2	2406 SR4	石核	2.0	9.9	2496 G-6	漆器	3.1	18.5			
2227	I-4	銅片	2.8	6.6	2317 J-5	石核	2.0	21.3	2407 SR1	石核	1.4	10.8	2497 I-7	漆器	3.4	14.9			
2228	G-6	銅片	2.7	8.3	2318 K41	石核	2.6	22.3	2408 H-6	石核	1.3	3.0	2498 I-4	漆器	1.8	5.3			
2229	SR1	銅片	3.2	4.1	2319 表裏	石核	2.3	27.8	2409 I-6	石核	2.5	8.5	2499 I-6	石核	2.1	3.7			
2230	I-4	銅片	2.8	3.3	2320 I-6	石核	2.7	7.9	2410 SD7	石核	1.7	4.9	2500 SR3	漆器	2.0	3.6			
2231	SK41	銅片	2.3	3.1	2321 SD7	石核	2.4	12.9	2411 I-5	石核	3.1	41.2	2501 SR4	漆器	2.2	3.0			
2232	SK41	銅片	2.0	2.7	2322 SR4	石核	2.2	9.5	2412 I-6	石核	4.1	17.2	2502 I-7	漆器	2.4	4.6			
2233	I-6	銅片	1.6	1.8	2323 SR3	石核	1.6	8.0	2413 I-6	石核	2.0	10.6	2503 P群P105	銅片	3.1	12.0			
2234	表裏	漆器	1.6	3.8	2324 SK54														

4. 古墳時代

(1) 概要

方形周溝墓4基が、調査区の南側から検出されている。いずれも東西方向に軸をとり、SR4は調査区外にかかっている。

方台部からは埋葬施設が検出されず、周溝も浅いことから相当の擾乱を受けていると考えられる。

(2) 方形周溝墓

第1号方形周溝墓 (第244~246図)

G・H-5~6グリッドに位置する。擾乱が著しく、北西溝と南西溝の多くの部分が壊されていた。SR2と北西溝を共有する。

主軸方向はN-49°-Eを指す。全体の平面形はやや歪んだ隅丸長方形で、規模は長軸17.0m、短軸14.3mである。

方台部は歪んだ長方形だが、各辺は直線的である。規模は長軸10.6m、短軸9.0mである。

盛り土は既に削平されており、埋葬施設は検出できなかった。

周溝は全周し、北西溝、南西溝が広く、南東溝が細い。最大幅3.1m、最小幅1.5mである。概ね断面形は逆台形で、方台部側は角度があり、外周は緩やかである。南西溝が深さ0.2mと浅く、北西溝が0.7mと深い。

北西溝は西側が擾乱されており、長さ13.8mの範囲を検出した。幅は1.5~3.1m、深さは0.7mで底面は平坦である。方台部側が溝状に深くなっている。北側に幅1m前後のテラス状の広がりがあり、北東溝、南西溝に連続している。この広がりや溝状の部分は20cm前後の段差になっている。

北東溝は長さ13.0m、幅1.9~2.8m、深さ0.3mである。溝の中央に段があり、北東側が0.1mほど深く、更に北隅に段があり、北西溝に至る。

南東溝は長さ15.28mで、幅2.0~2.3m、深さ0.4mである。底面はほぼ平坦である。南東部分が大きく擾乱されている。

南西溝は長さ12.1mで両端が擾乱されている。幅

2.9m、深さ0.46mで、SR2と共有する。西コーナの方台部側に幅0.24mほどの段がある。底面はほぼ平坦である。

各周溝の覆土は自然堆積である。最下層にロームブロックを多く含む暗褐色土が堆積し、方台部や周溝外周壁の崩落土と考えられる。

出土遺物は、北コーナーと南東溝の東寄りから、土師器の壺が出土している。この周溝からは、壺以外の土器は出土していない。いずれも周溝底から20~40cm浮いた状態で出土している。層的には3が4層から、1・2が上位の褐色土中からである。

出土遺物は、土師器の壺、小型壺である。壺は直線的な口縁部で、頸部が「く」の字状になるものである。小型壺は、口縁部が火きく外反するもので赤彩される。いずれにも、穿孔等の2次加工行為は認められなかった。

第2号方形周溝墓 (第247~249図)

H・I-4~5グリッドに位置する。擾乱が著しく、方台部と北東溝、南東溝の半分以上が壊されていた。そのため当初方形周溝墓として認識できず、断面観察等を充分に行うことができなかった。

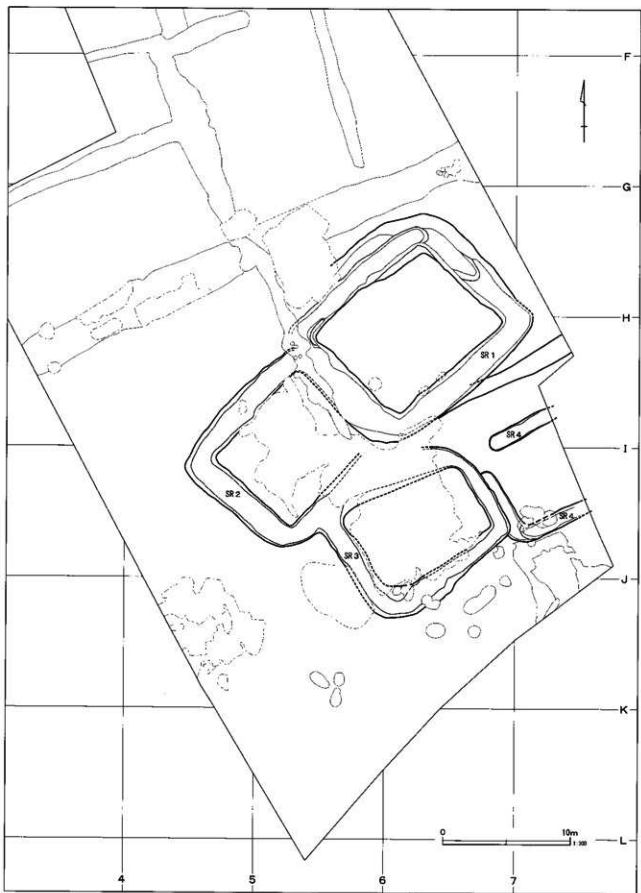
SR1と北東溝を共有し、連結したものと考えられる。

SR3と重複するが、その部分をSD3と擾乱により壊されており、前後関係は不明である。

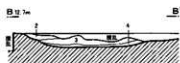
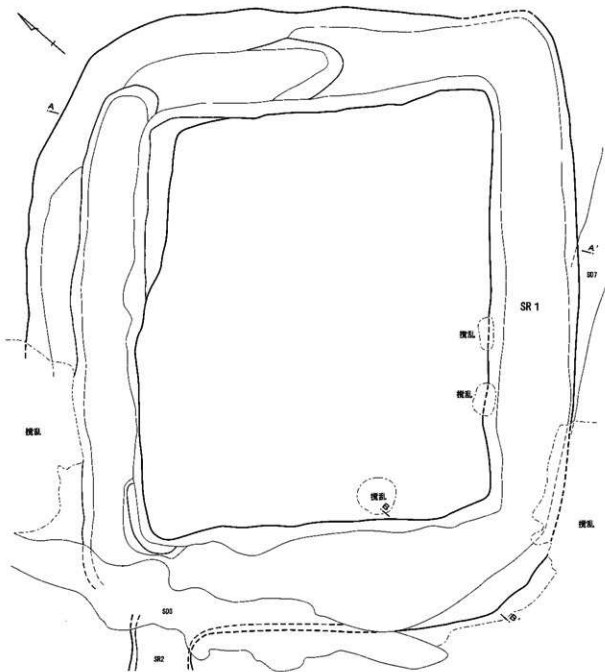
主軸方向はN-44°-Eを指す。全体の平面形はやや歪んだ隅丸長方形で、規模は長軸14.3m、短軸11.7mである。

方台部は歪んだ長方形だが、各辺は直線的である。規模は長軸9.3m、短軸7.9mである。盛り土部分は既に壊されており、埋葬施設は検出できなかった。

周溝は全周し、北東溝、南東溝が、SR1・3と重複して広く、南東溝が細い。最大幅2.5m、最小幅1.6mである。概ね断面形は逆台形で、方台部側は角度があり、外周は緩やかな部分が多い。深さは0.3~



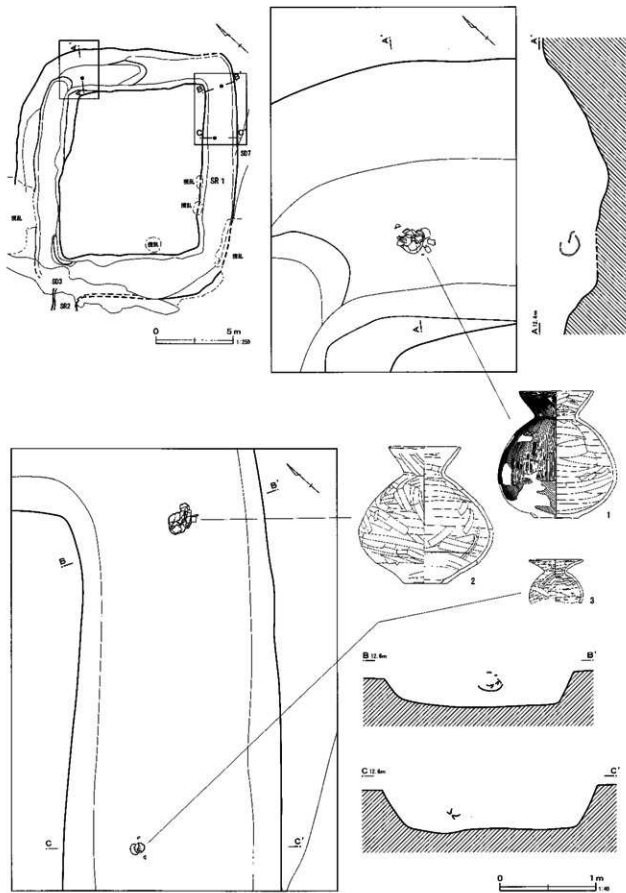
第243図 古墳時代全体図



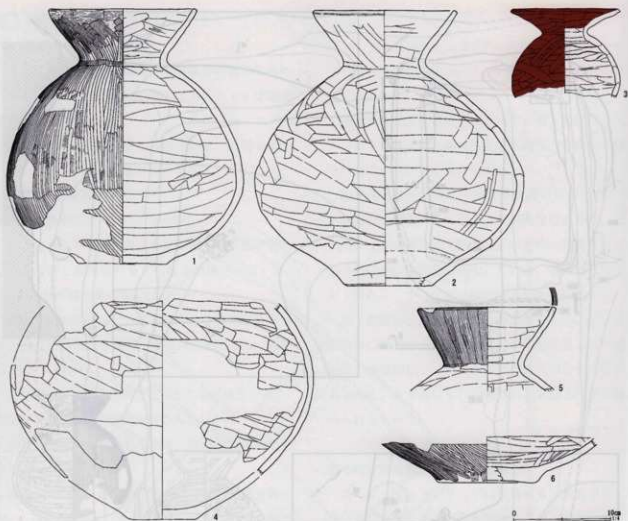
- SR 1
- | | |
|---------|----------------------|
| 1 赤色土 | ローム粒子を含む |
| 2 黄白色土 | ローム粒子を露降状に含む。粘土粒子を含む |
| 3 黒褐色土 | ローム粒子を露降状に含む。粘土粒子を含む |
| 4 層黄褐色土 | ロームブロックを多く含む |



第244図 第1号方形周溝墓



第245图 第1号方形周溝墓遺物出土狀況



第246図 第1号方形周溝墓出土遺物

第14表 第1号方形周溝墓出土土器観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	15.0	26.3	(9.3)	B-E	1	暗黄橙	80	
2	壺	14.5	28.5	(8.8)	B-E	1	暗黄橙	60	
3	小型壺	10.8	9.1	-	B-E	1	黄橙	60	赤彩
4	壺	-	18.2	-	A-E	1	暗黄橙	10	
5	壺	(14.6)	8.5	-	A-D	1	黄橙	20	
6	壺	-	4.8	10.0	B-E	1	黄橙	20	

0.4mと浅い。

北西溝は北側と中央が攪乱されており、長さ12.0mの範囲を検出した。幅は1.6~2.3m、深さは0.4mで、底面は平坦である。法量がSR1の北西溝の深い部分と同様である。

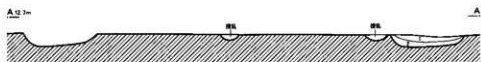
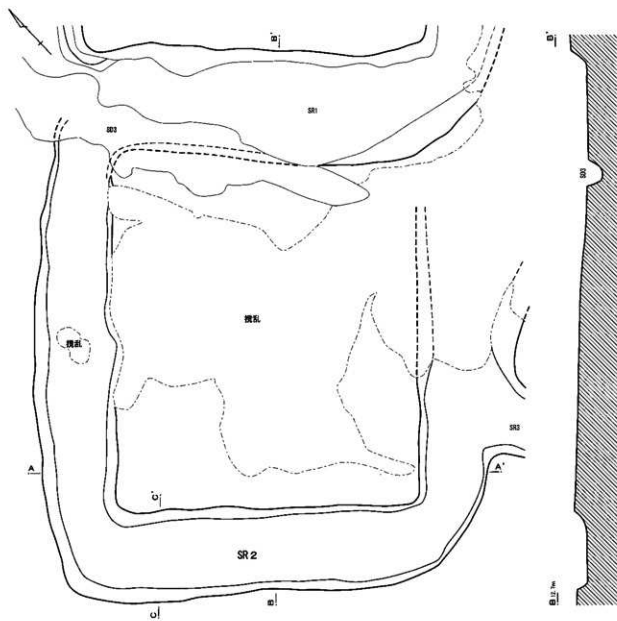
北東溝はSR1と共有する。

南東溝は北側の大部分が攪乱により破壊されている。推定される長さは15.3mで、幅1.8~2.5m、深さ

は0.3mである。底面はほぼ平坦である。SR3と一部重複する。

南西溝は、長さ10.9m、幅1.9~2.4m、深さ0.3mである。底面はほぼ平坦である。

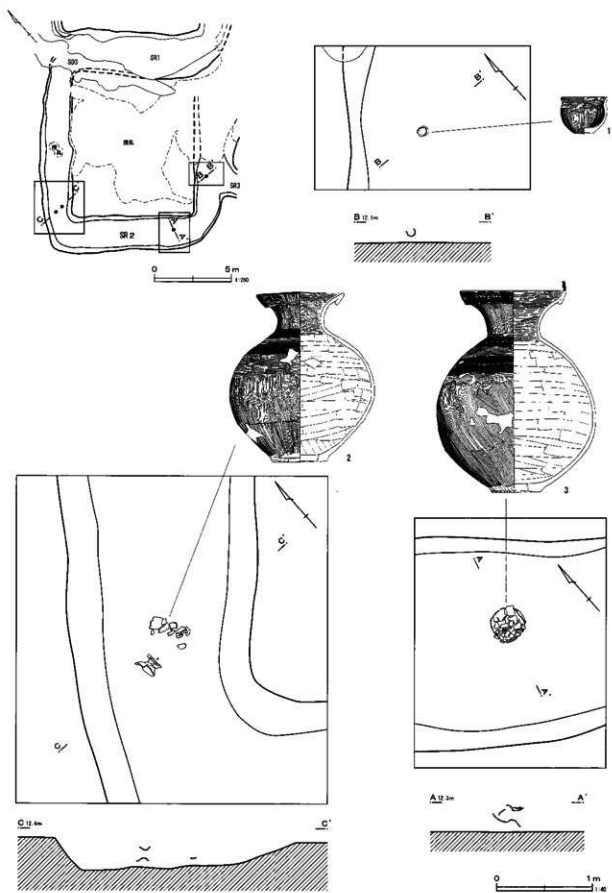
各周溝の覆土は、上部がほとんど失われているため確実ではないが、自然堆積と考えられる。最下層にロームブロックを多く含む暗褐色土が堆積し、方台部や周溝外周壁の崩落土と考えられる。



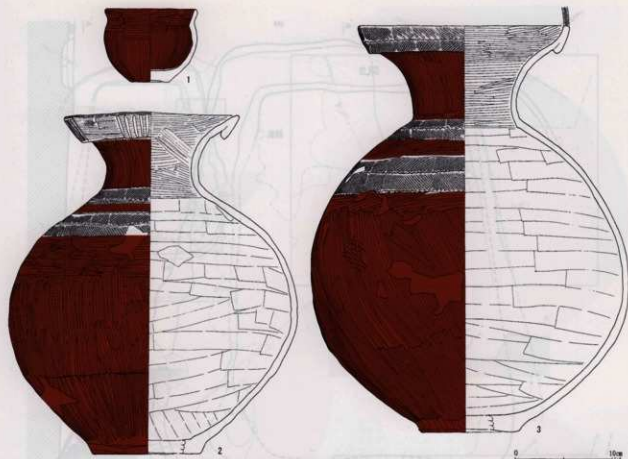
- SR 2
- 1 黄褐色土 コーム細砂を露降状に含む
 - 2 灰褐色土 ローム粗砂、ロームブロックを多く含む



第247図 第2号方形周溝墓



第248图 第2号方形周满墓遗物出土状况



第249図 第2号方形周溝墓出土遺物

第15表 第2号方形周溝墓出土土器観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	小型鉢	9.2	6.5	4.1	A~E	1	明褐色	95	赤彩(暗赤色)
2	壺	18.2	35.4	(11.2)	A~E	1	淡黄橙	60	赤彩(暗赤色)
3	壺	22.0	41.9	(10.1)	B~E	1	淡黄橙	80	赤彩(暗赤色)

出土遺物は、西コーナーと南コーナー、南東溝の南寄りから、土師器の鉢と壺が出土している。いずれも周溝底から10~30cm程度浮いた状態で出土している。層位的には4層より上位に当たる。

出土土器は、大型の壺2点と鉢1点である。いずれも赤彩される。壺2点は、胴部の下半を大きく欠失することから、打ち欠きの可能性もある。2の壺は複合部の表面が大きく剥落するが、もともとは縄文が施文されていたと考えられる。5単位に8~10本の線刻が施されるが、表面に棒状浮文を貼付するためのものである可能性もある。肩部の縄文帯には赤彩が部分的に残る。結節はいずれも乱れたものである。3の壺は、肩部の縄文帯間のヘラ磨きが縄文

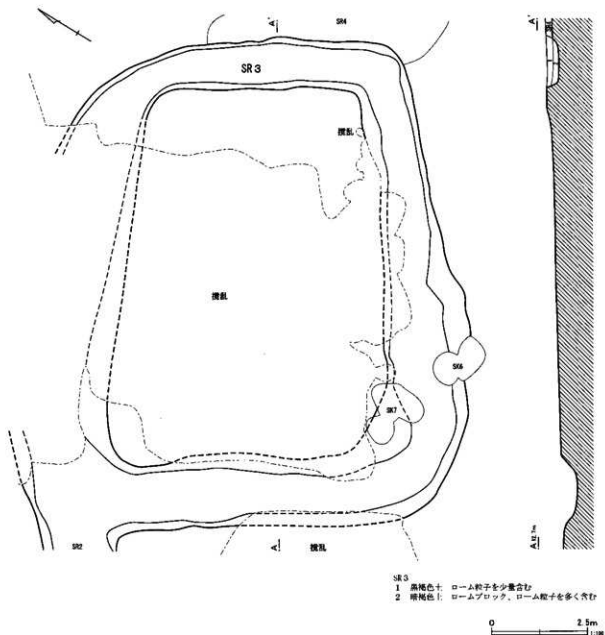
を切っている。

第3号方形周溝墓 (第250~252図)

I・J-5~6グリッドに位置する。擾乱が著しく、方台部と北西溝の大部分、南東溝、南西溝の方台部側の半分以上が壊されていた。そのため当初方形周溝墓として認識できず、断面観察等を充分に行えなかった。

北西溝が第2号周溝墓と重複するが擾乱が著しく、断面による新旧は確認できなかった。

北東溝は第4号周溝墓と重複し、連結したものと考えられる。本周溝墓の覆土が第4号周溝墓を壊しており、本周溝墓が新しいと考えられる。



第250図 第3号方形周溝墓

主軸方向は $N-60^{\circ}-E$ を指す。全体の平面形は北東-南西方向に長いやや歪んだ台形で、規模は長軸12.6m、短軸8.9mである。

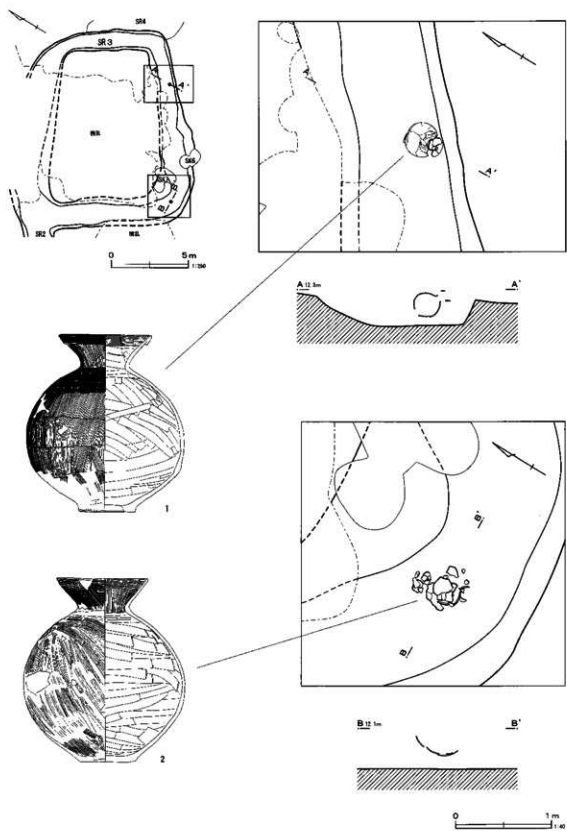
方台部は歪んだ台形で、擾乱が著しく判然としなが、各辺は直線的なものと思われる。規模は長軸9.5m、短軸5.6mである。盛り土部分は既に壊されており、埋葬施設は検出できなかった。

周溝は全周し、南東溝と、SR2と重複する北西溝が広く、北東溝が細い。最大幅2.3m、最小幅0.9

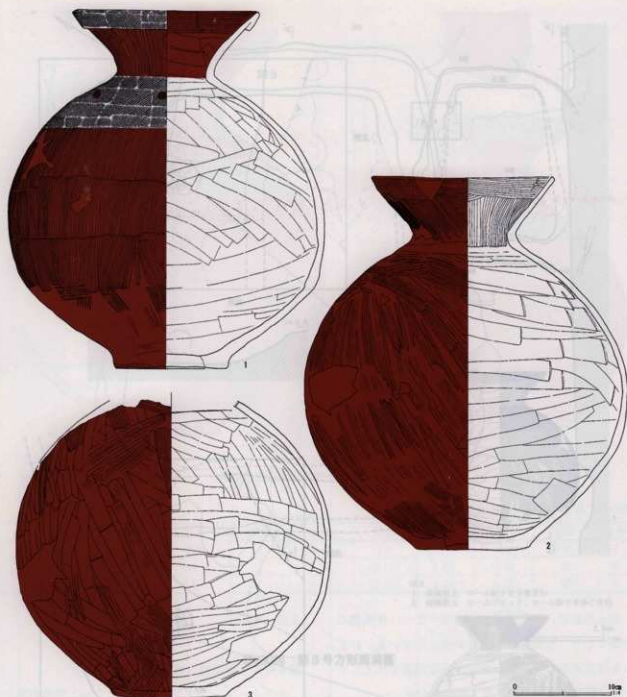
mである。概ね断面形は逆台形で、方台部側は角度があり、外周は緩やかである。深さは北西溝が浅く0.3m、南東溝が深く0.6mである。

北西溝は第2号周溝墓と重複するが、大部分が擾乱されており、両方のコーナー付近を検出できたのみで、推定される長さは12.1mである。幅は北コーナー付近が1.88m、南西コーナー付近が2.5mである。深さは0.3mで浅い。

北東溝は第4号周溝墓と重複し、本周溝墓の方が



第251图 第3号方形周溝墓遺物出土狀況



第252図 第3号方形周溝墓出土遺物

第16表 第3号方形周溝墓出土土器観察表

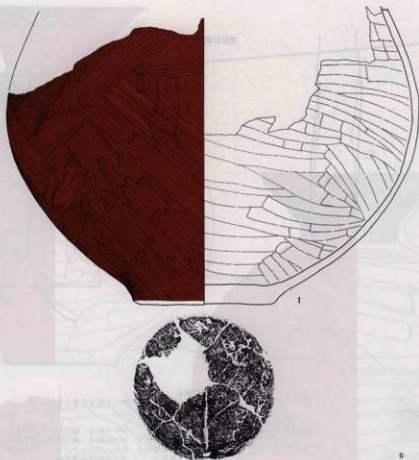
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	19.8	36.8	11.6	B-E	1	淡黄橙	90	赤彩(暗赤色)
2	壺	19.0	38.0	(11.8)	B-E	1	黄橙	60	赤彩(暗赤色)
3	壺	-	30.8	(12.0)	B-E	1	黄橙	30	赤彩(暗赤色)

新しい。長さ7.6m、幅0.9~1.2mで、深さは0.4mと浅い。底面は平坦である。

南東溝は方台部側の大部分が掘乱により破壊され

ている。長さは12.4m、幅は1.2~2.3mである。深さは0.6mで最も深い。底面はほぼ平坦である。

南西溝は、方台部側と外周の立ち上がりの大部分



第254図 第4号方形周溝墓出土遺物

第17表 第4号方形周溝墓出土土器観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	—	30.5	15.0	A~E	1	灰白(黄橙)	40	赤彩(暗赤色)

が攪乱により破壊されている。長さ10.6m、幅1.8m、深さ0.4mである。底面はほぼ平坦である。

攪乱が著しく、周溝の覆土を確認できたのは北東溝のみであるため確実ではないが、その部分からは自然堆積と考えられる。最下層にロームブロックを多く含む暗褐色土が堆積し、方台部や周溝外周壁の崩落土と考えられる。

出土遺物は南東溝の南コーナーと東コーナー寄りから、土師器の壺が出土している。いずれも周溝底から20~40cm程度浮いた状態で出土している。層位的には4層より上位の黒褐色土中からである。

出土土器は、大型の壺3点で赤彩される。1は底部が細片になっており、底部穿孔の可能性も考えられる。

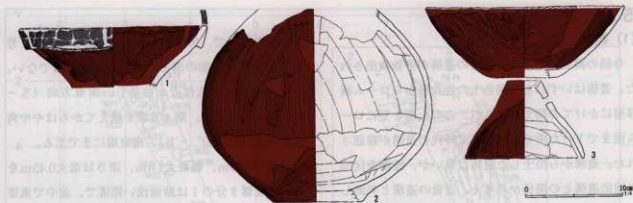
第4号方形周溝墓 (第253・254図)

H・I-6~7グリッドに位置する。遺構の東側は調査区域外に延び、北東溝は調査区外となる。第81~83号の近世の土坑に壊されていた。

主軸方向はN-65°-Eを指す。全体の平面形は隅丸方形で、規模は北東-南西方向で6.5m、北西-南東方向で8.7mである。

方台部は方形で、各辺は直線的である。規模は、北東-南西方向で5.5m、北西-南東方向で6.2mである。盛り土部分は既に削平されており、埋葬施設は検出できなかった。

周溝は西コーナーに陸橋部が設けられる一隅切れである。南西溝が広く、南東溝、北西溝がやや細い。最大幅1.5m、最小幅1.2mである。概ね断面形は逆



第255図 遺構外出土土器（古墳時代）

第18表 遺構外出土土器観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	(19.4)	6.2	—	A-E	1	暗褐色	10	赤彩(暗赤色)
2	壺	—	20.0	(9.3)	B-E	1	淡褐色	20	赤彩(暗赤色)
3	高坏	(20.8)	15.5	(12.4)	B-E	1	暗黄褐色	50	赤彩(暗赤色)

台形で、方台部側は角度があり、外周は緩やかである。深さは浅く0.2mほどである。

南西溝が第3号周溝墓と重複し、覆土が3号に壊されていることから、本周溝墓が古いと考えられる。

北西溝は北側が調査区域外に延びる。調査区内の長さは5.4m、幅は1.2mである。深さは0.2mほどで浅い。底面は陸橋部に向かって徐々に浅くなる。

南東溝は、方台部側の大部分が第81～83号土坑に壊されている、コーナー付近の様相は不明である。東側は調査区域外に延びる。調査区内の長さは5.5m、幅は1.2mである。深さは0.2mで浅い。底面はほぼ平坦である。

南西溝は、第3号方形周溝墓に壊されている。長さ6.1m、幅1.5mで、深さは0.2mと浅い。底面はほぼ平坦である。

周溝の覆土は自然堆積と考えられるが、焼土・炭化物を含み、削平された方台部に由来する可能性もある。最下層にロームブロックを多く含む暗褐色土が堆積し、方台部や周溝外周壁の崩落土と考えられる。

出土遺物は、南東溝の南コーナーから土師器の壺が、周溝底から15cmほど浮いた状態で出土している。層位的には4層より上位の黒褐色土中からである。

出土土器は、大型の壺1点で赤彩される。底部が細片になっており、底部穿孔の可能性も考えられる。底面に木葉痕が残る。

(2) 遺構外出土土器（第255図）

方形周溝墓群の周辺から、古墳時代前期の土器が出土している。多くは方形周溝墓に由来するが、攪乱により遺構外にもたらされた可能性が高い。

1は壺で、口縁の複合部外面にRLの単筋の縄文が施される。複合部の剥落が著しい。2は壺の胴部で、無文である。ハラ磨きが施され、赤彩される。器面は平滑に仕上げられている。3は高坏で、坏部と脚部の接合部が発見されなかったが、同一個体と考えられる。坏部は大きく開き、下半に稜があるので、脚部は内彎する。多少バランスが悪いため、別個体の可能性もある。

5. 近世

(1) 概要

今回の調査において、近世の遺構が多数検出された。遺構はいずれも暗褐色土の包含層からローム漸移層にかけての間で確認され、この土層を更にローム面まで下げた所で古墳～縄文時代の遺構が確認された。遺構から出土した遺物は無いが、既調査区での検出遺構との関係から考え、近世の遺構と判断した。遺構分布はおおよそ三分される。調査区北側では土坑とピットが集中する。調査区南側では溝が縦横に走り、調査区南端では土坑が散在する。溝は発掘調査中は任意に分割して呼称したが、いずれも南北方向あるいは東西方向に長い直線的な溝と考えられるため、本報告では遺構番号を振り直した。

遺構の性格は不明確だが、溝は南北方向、東西方向の溝が互いに交差し合い、土地の区画溝の可能性がある。北側では長方形土坑の多いのが特徴である。

(2) 溝

第1号溝 (第257図)

D-3～6グリッドに位置する。第2号溝を壊すと見られる。第3号溝との新旧関係は不明である。東からDグリッドライン沿いに西進し、D-4グリッド杭から西南西(E-3°-S)に向きを変える。

規模は全長23.3m、幅1.8m、深さは西側で0.10m、東側で0.35mを測る。掘り込みは比較的浅い。溝の東側は中央が一段低くなる。立ち上がりは北側の方が緩やかである。出土遺物はない。

第2号溝 (第257図)

D-5～F-5グリッドに位置する。第1号溝に壊されると見られる。第1号土坑との新旧関係は不明確である。ほぼ南北方向に走る溝で、南に行くに従って南南東(S-13°-E)へと向きを変える。

規模は全長26.5m、幅最大2.3m、深さ0.11mを測る。縄文時代の第2号住居より北側では溝の幅が倍近くに広がる。出土遺物はない。

第3号溝 (第257図)

D-3～H-5グリッドに位置する。おおよそ南北

方向に走る溝で、第1号・第4号・第5号・第6号溝と交差する。他の溝との新旧関係は明確でない。D-4グリッド杭付近から発し、南東方向(S-10°-E)に進む。第4号溝を越えてからはやや角度を変え(S-20°-E)、南東端にまで至る。

全長は50.5m、幅最大1.8m、深さは最大0.45mを測る。北側3分の1は断面浅い箱溝で、途中で東寄り有一段低くなり第4号溝とぶつかる。第4号溝から第6号溝までの間は、東側の立ち上がりが不整形となる。また第5号溝と第6号溝の間で西壁沿いが一段深くなり、2箇所ピットを伴う。溝は南に進むに従って次第に深くなる。第6号溝との交点より南では断面V字状となる。途中3箇所直徑1m程度のピットを伴う。出土遺物はない。

第4号溝 (第257図)

E-3・4、F-3グリッドに位置する。第3号溝と交わるが、新旧関係は不明である。北東-南西方向に走る溝で、主軸方向はN-75°-Eをとる。規模は全長13.0m、幅1.7m、深さ0.10mを測る。ごく浅い溝である。出土遺物はない。

第5号溝 (第257図)

F-3・4、G-2・3に位置する。南東端で第3号溝と交わる。主軸方向はN-68°-Eをとる。

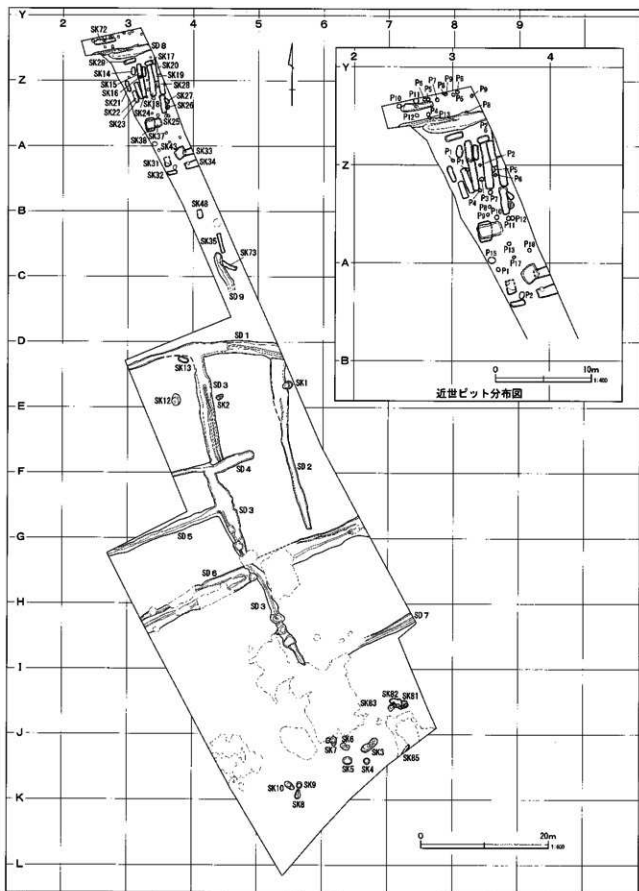
規模は全長18.0m、幅1.6m、深さ0.34mを測る。断面は台形に近く、北側が南側より緩やかに立ち上がる。出土遺物はない。

第6号溝 (第257図)

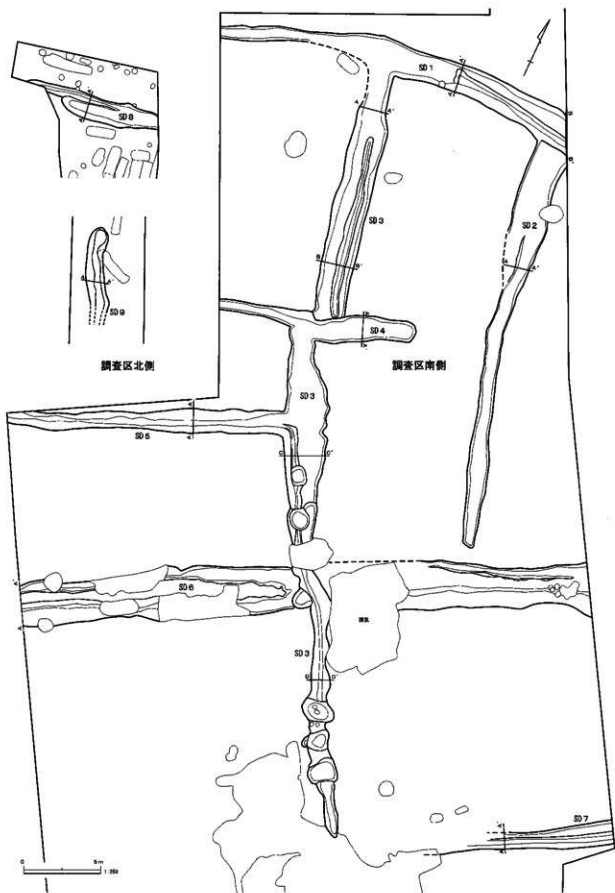
F-5・6、G-3～6、H-3・4にかけて位置する。第3号溝と十字に交差する。主軸方向はN-65°-Eをとる。

北東-南西方向に走る溝で、北側の細い溝と南側の幅広い溝の2本で一組となっている。規模は全長37.0m、幅2.6m、深さ最大0.37mを測る。南側の溝は幅広く緩やかに立ち上がり、北側の溝はV字状に掘り込まれる。出土遺物はない。

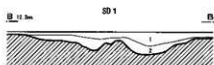
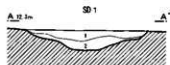
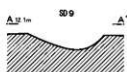
第7号溝 (第257図)



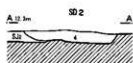
第256図 近世全体図



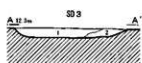
第257图 溝跡平面图



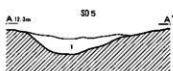
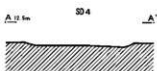
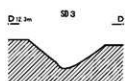
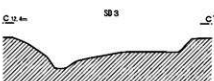
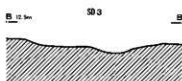
SD 1
1 暗褐色土 ローム粒を含む
2 暗褐色土 ローム粒、炭化物粒を含む。1層より細かい色調



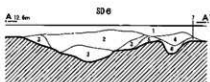
SD 2
1 褐色土 炭化物を含む



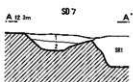
SD 3
1 暗褐色土 ロームを多く含む
2 暗褐色土 ロームを主体とする



SD 5
1 暗褐色土 ロームを多く含む



SD 6
1 表土
2 暗褐色土 ローム粒を含む
3 暗褐色土 ローム粒子、径2~4センチのロームブロックを含む
4 暗褐色土 ローム粒子を含む
5 暗褐色土 ローム粒子、径1センチ程のロームブロックを含む
6 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む
7 暗褐色土 ロームブロックを多く含む



SD 7
1 黄灰色土 ロームブロックを少量含む
2 灰色土 ローム粒子を少量含む



第258図 溝跡断面図

H 6～7グリッドに位置する。北東-南西方向に走る溝で、南西側は擾乱に壊されており、延長は不明である。主軸方向はN-60°-Eをとる。

規模は全長11.5m、幅1.0m、深さ0.28mを測る。断面は逆台形に近く、北側に幅30～40、ほどの段を持って緩やかに立ち上がる。出土遺物はない。

第8号溝 (第257図)

Y-2～3グリッドに位置する。東西方向に走る溝で、主軸方向はN-80°-Eをとる。規模は全長9.0m、幅最大1.2m、深さ0.30mを測る。溝は東端では幅広の溝だが、途中で広狭二本の溝に分岐する。広い溝は西側で立ち上がり、調査区西端には北側の狭い溝のみが続いていく。出土遺物はない。

西に接する1982年調査区において、近世とされる第1号溝が検出されており(橋本1984)、第8号溝はこの溝の続きと考えられる。

第9号溝 (第257図)

B・C-4グリッドに位置する。南北方向に走る溝で、主軸方向はN-20°-Eをとる。溝の南側は表土の擾乱によって延長が不明となる。溝の北東端に第73号土坑が一部重なるが、新旧関係は明らかでない。規模は長さ5.9m、幅1.2m、深さ0.25mを測る。出土遺物はない。

(3) 土坑

第1号土坑 (第259図)

D-5グリッドに位置する。平面形は楕円形である。主軸方向はN-73°-Eをとる。規模は長軸1.56m、短軸1.14m、深さ0.34mを測る。西側に一段深くなる。出土遺物はない。

第2号土坑 (第259図)

D-4グリッドに位置する。平面形は楕円形である。主軸方向はN-60°-Eをとる。規模は長軸1.14m、短軸0.7m、深さ0.41mを測る。出土遺物はない。

第3号土坑 (第259図)

J-6グリッドに位置する。平面形は長楕円形でビットが3基連結したような形をとる。主軸方向は

N-52°-Eをとる。規模は長軸2.92m、短軸0.96m、深さ0.9mを測る。出土遺物はない。

第4号土坑 (第259図)

J-6グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、主軸方向はN-66°-Eをとる。規模は長軸0.96m、短軸0.92m、深さ0.29mを測る。出土遺物はない。

第5号土坑 (第259図)

J-6グリッドに位置する。平面形は楕円形である。主軸方向はN-88°-Wをとる。規模は長軸1.48m、短軸1.14m、深さ0.74mを測る。出土遺物はない。

第6号土坑 (第259図)

J-6グリッドに位置する。円形土坑が連結した形状であり、主軸方向はN-55°-Wをとる。規模は長軸1.42m、短軸と深さは西側で0.82mと0.37m、東側で0.82mと1.03mを測る。出土遺物はない。

第7号土坑 (第259図)

J-6グリッドに位置する。円形土坑が連結した形状で、東側は南に段を有する。主軸方向はN-87°-Eをとる。規模は長軸1.6m、短軸と深さは西側0.7mと0.2m、東側1.42mと0.32mを測る。出土遺物はない。

第8号土坑 (第259図)

J-5グリッドに位置する。平面形は不整形で、主軸方向はN-8°-Eをとる。規模は長軸1.44m、短軸0.74m、深さ0.41mを測る。出土遺物はない。

第9号土坑 (第259図)

J-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、主軸方向はN-0°-Eをとる。規模は長軸1.0m、短軸0.76m、深さ0.46mを測る。出土遺物はない。

第10号土坑 (第259図)

J-5グリッドに位置する。平面形は長楕円形であり、北西寄りに深く掘り込まれる。主軸方向はN-50°-Wをとる。規模は長軸1.68m、短軸0.86m、深さ0.66mを測る。出土遺物はない。

第12号土坑 (第259図)

D-3グリッドに位置する。平面形は円形に近く、

北東側に浅い段を有する。主軸方向は $N-12^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸2.06m、短軸1.34m、深さ1.83mを測る。出土遺物はない。

第13号土坑 (第259図)

D-3グリッドに位置する。平面形は長方形で、主軸方向は $N-72^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸1.6m、短軸0.78m、深さ0.32mを測る。出土遺物はない。

第14号土坑 (第260図)

Y-3グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形である。主軸方向は $N-1^{\circ}-E$ をとる。規模は長軸1.2m、短軸0.68m、深さ0.11mを測る。出土遺物はない。

第15号土坑 (第260図)

Y-3グリッドに位置する。第24号土坑と南で重なる。平面形は長方形である。主軸方向は $N-8^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸約2.20m、短軸0.7m、深さ0.12mを測る。出土遺物はない。

第16号土坑 (第260図)

Y-3グリッドに位置する。平面形は南端が丸みを帯びる長方形である。主軸方向は $N-5^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸1.52m、短軸0.58m、深さ0.15mを測る。出土遺物はない。

第17号土坑 (第260図)

Y-3グリッドに位置する。第18号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は長方形で、主軸方向は $N-68^{\circ}-E$ をとる。規模は長軸1.2m、短軸0.64m、深さ0.15mを測る。出土遺物はない。

第18号土坑 (第260図)

Y・Z-3グリッドに位置する。北端で第17号土坑と重複する。平面形は長方形で、主軸方向は $N-90^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸約4.84m、短軸0.78m、深さ0.22mを測る。出土遺物はない。

第19号土坑 (第260図)

Y・Z-3グリッドに位置する。第18号・20号・28号土坑を壊す。平面形は長方形である。主軸方向は $N-12^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸2.64m、短軸0.76m、深さ0.07mを測る。出土遺物はない。

第20号土坑 (第260図)

Y-3グリッドに位置する。北東半分が調査区外にある。平面形は長方形とみられる。主軸方向は $N-22^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸2.54m、短軸は現状で0.4m、深さ0.2mを測る。出土遺物はない。

第21号土坑 (第260図)

Z-2~3グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形である。主軸方向は $N-23^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸1.7m、短軸0.54m、深さ0.11mを測る。出土遺物はない。

第22号土坑 (第260図)

Z-3グリッドに位置する。平面形は長方形である。主軸方向は $N-20^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸1.82m、短軸0.58m、深さ0.2mを測る。出土遺物はない。

第23号土坑 (第260図)

Z-3グリッドに位置する。第24号土坑に壊される。平面形は長方形である。主軸方向は $N-22^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸2.68m、短軸0.62m、深さ0.11mを測る。出土遺物はない。

第24号土坑 (第260図)

Z-3グリッドに位置する。北端で第15号土坑と重なるが新旧関係は不明である。平面形は長方形である。主軸方向は $N-13^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸約3.36m、短軸0.7m、深さ0.24mを測る。出土遺物はない。

第25号土坑 (第260図)

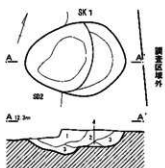
Z-3グリッドに位置する。平面形は長方形で、主軸方向は $N-90^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸2.8m、短軸0.72m、深さ0.13mを測る。出土遺物はない。

第26号土坑 (第260図)

Z-3グリッドに位置する。第25号土坑を壊す。平面形は不整形である。主軸方向は $N-40^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸0.8m、短軸0.64m、深さ0.33mを測る。出土遺物はない。

第27号土坑 (第260図)

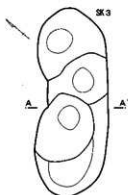
Z-3グリッドに位置する。第25号土坑を壊す。



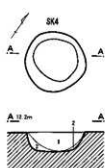
- SK1
- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む
 - 2 褐色土 ローム粒子と暗褐色土を含む
 - 3 明褐色土 ロームを多く含む
 - 4 黄褐色土 ロームを主体とする



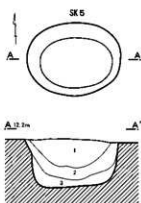
- SK2
- 1 暗褐色土 ローム粒子を多く含む
 - 2 褐色土 ロームを多く含む



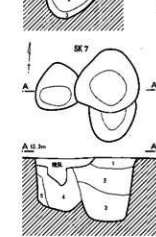
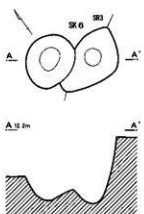
- SK3
- 1 暗褐色土
 - 2 明褐色土



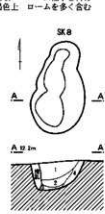
- SK4
- 1 暗褐色土 ローム粒子を多く含む
 - 2 明褐色土 ロームを主体とする



- SK5
- 1 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む
 - 2 暗褐色土 1層よりロームを多く含む
 - 3 褐色土 ロームを多く含む



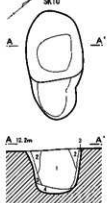
- SK7
- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む
 - 2 暗褐色土 焼土ブロック、炭化物、ローム粒子を含む
 - 3 明褐色土 多量のロームと炭化物を含む
 - 4 褐色土 ロームと炭化物、焼土粒子を含む
 - 5 明褐色土 多量のロームと炭化物を含む



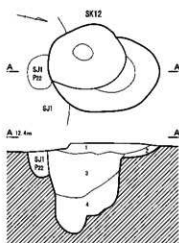
- SK8
- 1 暗褐色土 ローム粒下を含む
 - 2 暗褐色土 ローム粒子を多く含む
 - 3 褐色土 ロームを含む
 - 4 暗褐色土 ロームを多く含む



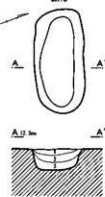
- SK9
- 1 黒色土 多量の炭化物を含む
 - 2 暗褐色土 ローム粒子と炭化物を含む
 - 3 暗褐色土 ロームを含む
 - 4 褐色土 ローム粒子を多く含む



- SK10
- 1 暗褐色土 ローム・焼土粒子、炭化物を含む
 - 2 褐色土 多量のローム粒子と、焼土粒子、炭化物を含む
 - 3 暗褐色土 ロームを多く含む
 - 4 褐色土 ロームを多く含む



- SK12
- 1 暗褐色土 ローム粒子をごく少量含む
 - 2 黄褐色土 コームを多く含む
 - 3 暗褐色土 コームブロックをごく少量含む
 - 4 黄褐色土 コームを多く含む



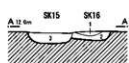
- SK13
- 1 暗褐色土 ローム炭化物を少量含む
 - 2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
 - 3 暗褐色土 ロームブロックを多く含む

0 2m 1:40

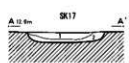
第259図 近世の土坑 (1)



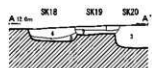
- SK14
- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む
 - 2 明黄色土 ロームを主体とする



- SK15・16
- 1 暗褐色土 ロームを多く含む
 - 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む
 - 3 暗褐色土 ロームブロックを多く含む



- SK17
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 2 暗黄色土 ロームブロックを少量含む



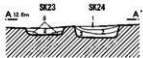
- SK18・19・20
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 2 暗褐色土 灰褐色粘土を多く含む
 - 3 暗褐色土 ロームブロックを多く含む
 - 4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む
 - 5 暗褐色土 ローム粒子を少量含む



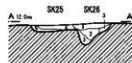
- SK21
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 2 暗褐色土 ロームを主体とする
 - 3 黄褐色土 ロームブロックを主体とする



- SK22
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 2 黄褐色土 灰白色粘土ブロックを少量含む



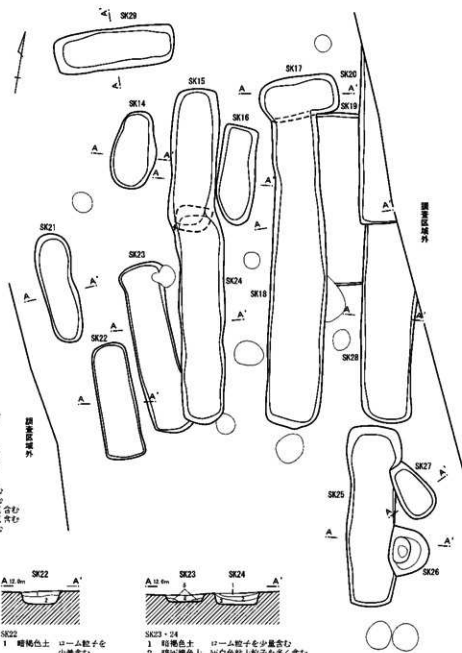
- SK23・24
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 2 暗褐色土 灰白色粘土粒子を多く含む
 - 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
 - 4 暗褐色土 ローム粒子を多く含む
 - 5 黄褐色土 ローム粒子を少量含む



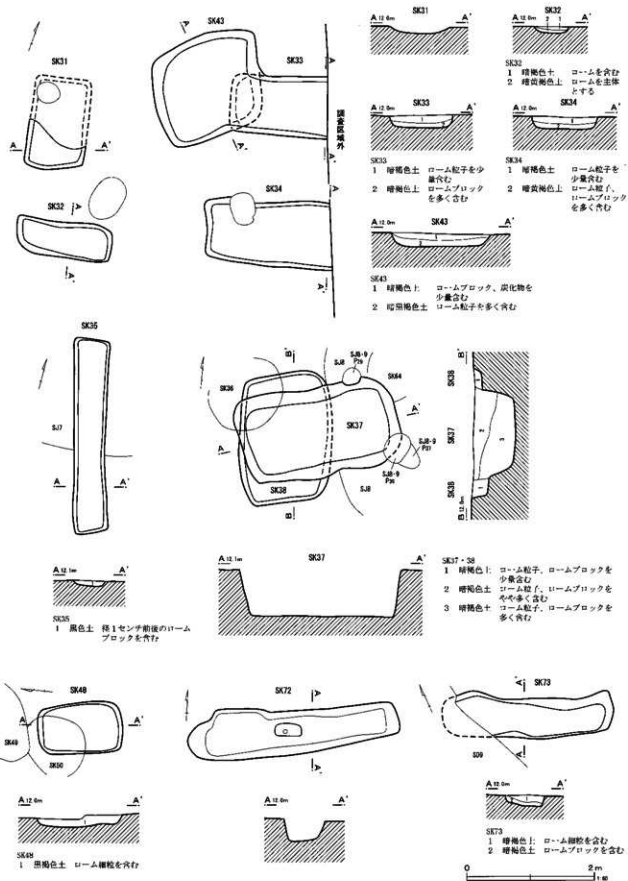
- SK25・26
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む
 - 4 暗黄色土 ローム粒子を少量含む
 - 5 暗黄色土 ロームを主体とする



- SK29
- 1 褐色土 ローム粒子を多く含む
 - 2 暗褐色土 ローム粒子、灰褐色粘土粒子を少量含む



第260図 近世の土坑 (2)



第261図 近世の土坑 (3)

平面形は長方形である。主軸方向はN-45°-Wをとる。規模は長軸0.9m、短軸0.5m、深さ0.13mを測る。出土遺物はない。

第28号土坑 (第260図)

Z-3グリッドに位置する。一部調査区外に及ぶ。第19号・20号土坑に壊されるとみられる。平面形は長方形である。主軸方向はN-12°-Wをとる。規模は長軸が現状で3.08m、短軸0.82m、深さ0.26mを測る。出土遺物はない。

第29号土坑 (第260図)

Y-2~3グリッドに位置する。平面形は長方形である。主軸方向はN-72°-Eをとる。規模は長軸1.86m、短軸0.62m、深さ0.17mを測る。出土遺物はない。

第31号土坑 (第261図)

A-3グリッドに位置する。平面形は長方形と見られる。主軸方向はN-15°-Wをとる。規模は現状で長軸0.68m、短軸0.92m、深さ0.12mを測る。出土遺物はない。

第32号土坑 (第261図)

A-3グリッドに位置する。平面形は長方形である。主軸方向はN-78°-Eをとる。規模は長軸1.58m、短軸0.52m、深さ0.11mを測る。出土遺物はない。

第33号土坑 (第261図)

A-3グリッドに位置する。第43号土坑と一部重複するが新旧関係は不明である。東側が調査区外に及び、平面形は長方形と見られる。主軸方向はN-75°-Eをとる。規模は長軸が現状で1.48m、短軸0.9m、深さ0.07mを測る。出土遺物はない。

第34号土坑 (第261図)

A-3グリッドに位置する。平面形は長方形とみられ、一部調査区外に及ぶ。主軸方向はN-73°-Eをとる。規模は長軸が現状で1.92m、短軸0.96m、深さ0.11mを測る。出土遺物はない。

第35号土坑 (第261図)

B-4グリッドに位置する。平面形は長方形で、

主軸方向はN-14°-Wをとる。規模は長軸3.0m、短軸0.5m、深さ0.06mを測る。出土遺物はない。

第37号土坑 (第261図)

Z-3グリッドに位置する。第38号土坑を壊す。平面形は長方形である。主軸方向はN-73°-Eをとる。規模は長軸2.44m、短軸1.32m、深さ0.52mを測る。出土遺物はない。

第38号土坑 (第261図)

Z-3グリッドに位置する。平面形は長方形で、主軸方向はN-5°-Wをとる。規模は長軸2.0m、短軸は現状で1.44m、深さ0.16mを測る。出土遺物はない。

第43号土坑 (第261図)

A-3グリッドに位置する。東端で第33号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は不整形である。主軸方向はN-49°-Eをとる。規模は長軸1.74m、短軸1.54m、深さ0.11mを測る。出土遺物はない。

第48号土坑 (第261図)

A・B-4グリッドに位置する。平面形は長方形である。主軸方向はN-11°-Wをとる。規模は長軸1.3m、短軸0.8m、深さ0.19mを測る。出土遺物はない。

第72号土坑 (第261図)

Y-2グリッドに位置する。平面形は不整形である。主軸方向はN-80°-Eをとる。規模は長軸3.28m、短軸0.64m、深さ0.29mを測る。出土遺物はない。

第73号土坑 (第261図)

B-4グリッドに位置する。平面形は長方形と見られ、一部調査区外に及ぶ。主軸方向はN-65°-Wをとる。規模は長軸が現状で2.44m、短軸0.54m、深さ0.21mを測る。出土遺物はない。

第81号土坑 (第262図)

I-7グリッドに位置する。第82号土坑を壊す。平面形は不整形で、中にピットを掘り込む。主軸方向はN-58°-Eをとる。規模は長軸1.66m、短軸

平面形は長方形である。主軸方向は $N-45^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸0.9m、短軸0.5m、深さ0.13mを測る。出土遺物はない。

第28号土坑 (第260図)

Z-3グリッドに位置する。一部調査区外に及ぶ。第19号・20号土坑に壊されるとみられる。平面形は長方形である。主軸方向は $N-12^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸が現状で3.08m、短軸0.82m、深さ0.26mを測る。出土遺物はない。

第29号土坑 (第260図)

Y-2~3グリッドに位置する。平面形は長方形である。主軸方向は $N-72^{\circ}-E$ をとる。規模は長軸1.86m、短軸0.62m、深さ0.17mを測る。出土遺物はない。

第31号土坑 (第261図)

A-3グリッドに位置する。平面形は長方形と見られる。主軸方向は $N-15^{\circ}-W$ をとる。規模は現状で長軸0.68m、短軸0.92m、深さ0.12mを測る。出土遺物はない。

第32号土坑 (第261図)

A-3グリッドに位置する。平面形は長方形である。主軸方向は $N-78^{\circ}-E$ をとる。規模は長軸1.58m、短軸0.52m、深さ0.11mを測る。出土遺物はない。

第33号土坑 (第261図)

A-3グリッドに位置する。第43号土坑と一部重複するが新旧関係は不明である。東側が調査区外に及び、平面形は長方形と見られる。主軸方向は $N-75^{\circ}-E$ をとる。規模は長軸が現状で1.48m、短軸0.9m、深さ0.07mを測る。出土遺物はない。

第34号土坑 (第261図)

A-3グリッドに位置する。平面形は長方形とみられ、一部調査区外に及ぶ。主軸方向は $N-73^{\circ}-E$ をとる。規模は長軸が現状で1.92m、短軸0.96m、深さ0.11mを測る。出土遺物はない。

第35号土坑 (第261図)

B-4グリッドに位置する。平面形は長方形で、

主軸方向は $N-14^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸3.0m、短軸0.5m、深さ0.06mを測る。出土遺物はない。

第37号土坑 (第261図)

Z-3グリッドに位置する。第38号土坑を壊す。平面形は長方形である。主軸方向は $N-73^{\circ}-E$ をとる。規模は長軸2.44m、短軸1.32m、深さ0.52mを測る。出土遺物はない。

第38号土坑 (第261図)

Z-3グリッドに位置する。平面形は長方形で、主軸方向は $N-5^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸2.0m、短軸は現状で1.44m、深さ0.16mを測る。出土遺物はない。

第43号土坑 (第261図)

A-3グリッドに位置する。東端で第33号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は不整形である。主軸方向は $N-49^{\circ}-E$ をとる。規模は長軸1.74m、短軸1.54m、深さ0.11mを測る。出土遺物はない。

第48号土坑 (第261図)

A・B-4グリッドに位置する。平面形は長方形である。主軸方向は $N-11^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸1.3m、短軸0.8m、深さ0.19mを測る。出土遺物はない。

第72号土坑 (第261図)

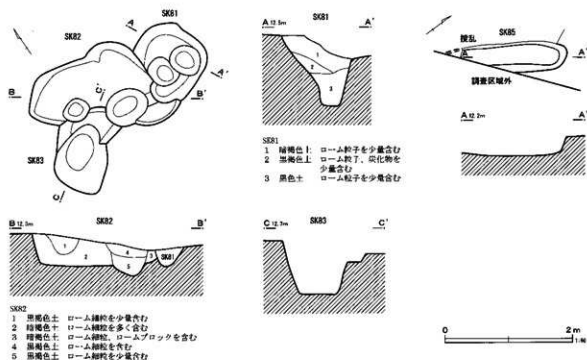
Y-2グリッドに位置する。平面形は不整形である。主軸方向は $N-80^{\circ}-E$ をとる。規模は長軸3.28m、短軸0.64m、深さ0.29mを測る。出土遺物はない。

第73号土坑 (第261図)

B-4グリッドに位置する。平面形は長方形と見られ、一部調査区外に及ぶ。主軸方向は $N-65^{\circ}-W$ をとる。規模は長軸が現状で2.44m、短軸0.54m、深さ0.21mを測る。出土遺物はない。

第81号土坑 (第262図)

I-7グリッドに位置する。第82号土坑を壊す。平面形は不整形で、中にピットを掘り込む。主軸方向は $N-58^{\circ}-E$ をとる。規模は長軸1.66m、短軸



第262図 近世の土坑 (4)

第19表 近世ピット一覧 (第256図)

グリッド	番号	径	深さ
Y-2G	P4	0.37	0.19
Y-2G	P5	0.37	0.39
Y-2G	P6	0.28	0.22
Y-2G	P7	0.36	0.30
Y-2G	P8	0.29	0.45
Y-2G	P9	0.32	0.58
Y-2G	P10	0.43	0.53
Y-2G	P11	0.51	0.23
Y-2G	P12	0.39	0.18
Y-2G	P13	0.23	0.28
Y-3G	P1	0.31	0.13
Y-3G	P2	0.28	0.11

グリッド	番号	径	深さ
Y-3G	P5	0.34	0.45
Y-3G	P6	0.35	0.33
Y-3G	P8	0.24	0.20
Y-3G	P9	0.28	0.35
Z-3G	P1	0.33	0.16
Z-3G	P2	0.24	0.13
Z-3G	P3	0.46	0.15
Z-3G	P4	0.3	0.16
Z-3G	P5	0.71	0.20
Z-3G	P6	0.32	0.24
Z-3G	P7	0.48	0.16

グリッド	番号	径	深さ
Z-3G	P8	0.35	0.09
Z-3G	P9		欠番
Z-3G	P10		欠番
Z-3G	P11	0.38	0.17
Z-3G	P12	0.4	0.16
Z-3G	P13	0.24	0.15
Z-3G	P15	0.74	0.53
Z-3G	P17	0.32	0.42
Z-3G	P18	0.43	0.45
A-3G	P1	0.2	0.12
A-3G	P2	0.69	0.60

*) 規模はすべてメートル(m)とした。

1.08m、深さ0.43mを測る。出土遺物はない。

第82号土坑 (第262図)

I-7グリッドに位置する。平面形は不整形で、主軸方向はN-55°-Wをとる。規模は長軸2.3m、短軸0.9m、深さ0.47mを測る。出土遺物はない。

第83号土坑 (第262図)

I-7グリッドに位置する。北側で第82号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は不整形で、主軸方向はN-56°-Eをとる。規模は長軸1.3m、短軸0.8m、深さ0.89mを測る。出土遺物はない。

第85号土坑 (第262図)

J-7グリッドに位置する。平面形は長方形と見られ、一部調査区外に及ぶ。主軸方向はN-36°-Eをとる。規模は長軸が現状で1.64m、短軸0.4m、深さ0.25mを測る。出土遺物はない。

(4) ピット (第18表)

調査区北側において、直径30~40cmほどのピットが計32基検出された。遺物の掘り込み面や覆土の特徴から、土坑と同じ近世の所産と考えられる。いずれも出土遺物はない。

V まとめ

1. 久台遺跡をめぐる環境

(1) 縄文時代後晩期の遺跡群

久台遺跡を含め、広義の大宮台地南東部には、縄文時代後晩期の遺跡が数多く分布することが知られている。中には早くから調査され、学史的に有名な遺跡も少なくない(第263図)。

第Ⅱ章でも触れたように、台地は後期旧石器時代には成立し、河川は深い谷を刻んでいた。沖積低地の地形は縄文早期以降、縄文海進・海退に伴ってその形成が促進された。縄文時代前期に出現した古奥東京湾への適応は、台地縁辺に点在する貝塚を証拠として議論されてきた。

かつて東木龍七氏(1926)は貝塚の分布から旧海岸線を復元した。蓮田台地では関山貝塚、黒浜貝塚(7)の存在から、久台遺跡の近辺まで海岸線の及んでいた可能性もあろう。

近年では、沖積低地の地層中の植物化石群の検討から、芝川、綾瀬川における溺れ谷化が推測されている。ただ蓮田台地を含め、大宮台地全体における内湾化の状況は必ずしも正確には把握されておらず、詳細な復元は今後の課題であると言えよう(小杉ほか 1990、金山・倉田 1994、樋泉 1999)。

縄文時代後晩期の地形発達過程は、全般的に明らかでない点が多い。海水準は縄文時代中期に現海面+1mで一旦落ち着き、東京湾は急速に浅海化し、湾岸に広く干潟が発達した。中期から後期に出現する大規模な貝塚は、この干潟の資源利用によるところが大きい。

縄文晩期～弥生時代には、気候の寒冷化により、弥生の小海退と呼ばれる海面低下が再び生じた。東京湾では海退は後期中頃に始まり、弥生時代には現海面下の約-2mまで低下していた(太田ほか 1990、遠藤・小杉 1989)。古奥東京湾は大半が消滅して中川低地から退いたと理解されているが(小杉 1989)、東京湾の後晩期における海岸線の位置は、

不明確なままである。

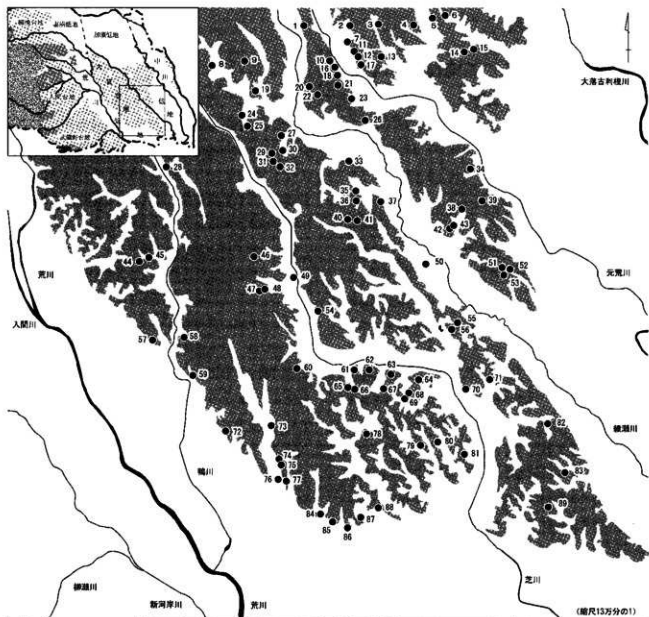
後晩期の低地遺跡に寿能泥炭層遺跡(49)、藤子遺跡(50)、南鴻沼遺跡(76)がある。前述の状況から考えて、この時期には大宮台地の溺れ谷は既に離水し、低湿地中に自然堤防等が形成される環境下にあったものと推定される。

藤子遺跡では、丸木舟2艘が出土している。少なくとも1艘は、安行式期である。藤子遺跡のすぐ近くには、台地上に遺跡は認められない。やや綾瀬川を挟んで北側に真福寺貝塚(38)がある。綾瀬川のやや上流には、宮ヶ谷塔貝塚(37)や小深作遺跡(40)がある。丸木舟がこれら周辺の遺跡から流れ着いた可能性もあり得ようが、距離的に無理がある。南西の大宮台地寄りに、舟付場を伴う低地性の遺跡が埋没していると想定するほうが無難だろう。

寿能泥炭層遺跡は加曾利B式、安行式の包含層が検出されている。調査区内からは、後期前葉に形成されたと考えられる木道が2列発見された。木道は台地に向かって延びている。周辺の遺跡の様子はよく分かっていないが、後晩期に人類が積極的に低地を利用していた痕跡として重要である。

久台遺跡は後期前葉と、安行式期の集落が確認されている。同じ後期前葉の称名寺式～堀之内式の遺跡として、蓮田台地近辺では宿下遺跡(12)、裏慈恩寺東遺跡(15)、宮の前遺跡(20)、八幡沼遺跡(22)などがある。後期全体で見れば、晩期に続かない遺跡は大宮台地南東部に50遺跡余が分布している。なお、ささら遺跡(18)とあるのは後期初頭の土坑群を検出した遺跡であり、第Ⅲ章にあるようにささらⅡ遺跡として調査された地点は現在、久台遺跡の範囲内に含まれている。

晩期の遺跡は30遺跡から知られている。遺跡の多くは、さいたま市内に位置している。全てに触れる紙幅は無いので、代表的なものを中心に見ていき



1 十三塚古墳	2 神山遺跡	3 菅原谷遺跡	4 江ヶ崎貝塚	5 鹿室土器北遺跡
6 土橋山遺跡	7 黒沢貝塚	8 谷津下1遺跡	9 丸山遺跡	10 雲山公園遺跡
11 新瀧遺跡	12 堀下遺跡	13 黒川新井遺跡	14 藤原寺遺跡	15 真影寺中堂遺跡
16 久台遺跡	17 天神前遺跡	18 ささら遺跡	19 伊奈氏屋敷跡	20 宮の前遺跡
21 馬込八幡遺跡	22 八幡沼遺跡	23 馬込大塚遺跡	24 十二番塚地遺跡	25 豊宮山遺跡
26 馬込遺跡	27 秩父山遺跡	28 前在瀬戸遺跡	29 二十一番塚地1遺跡	30 宿前1遺跡
31 二十一番塚地2遺跡	32 東北原遺跡	33 貝崎貝塚	34 岩城城内遺跡	35 堂作塚南台遺跡
36 A-203号遺跡	37 宮ヶ谷貝塚	38 真塚寺貝塚	39 木曾貝塚	40 小堂作遺跡
41 A-206号遺跡	42 柏崎中経遺跡	43 柿崎上松遺跡	44 西大宮バイパス北5遺跡	45 西大宮バイパス北4遺跡
46 B-79号遺跡	47 水川神社遺跡	48 水川神社東遺跡	49 舟形北沢遺跡	50 藤子遺跡
51 黒谷八幡遺跡	52 黒谷貝塚	53 黒谷田圃前遺跡	54 南中丸下高井遺跡	55 寺山天塚西遺跡
56 上野白宮遺跡	57 原遺跡	58 釜木貝塚	59 割ヶ谷貝塚・院ノ谷遺跡	60 上木貝塚
61 中原後遺跡	62 大古里遺跡	63 北沼遺跡	64 馬場遺跡	65 前原西遺跡
66 前原遺跡	67 北沼西遺跡	68 馬場小山遺跡	69 三宮遺跡	70 大塚新井遺跡
71 支吾新田本田遺跡	72 内道西遺跡	73 二成黒山遺跡	74 大戸本村1号遺跡	75 大戸本村2号遺跡
76 南端台遺跡	77 大戸本村6号遺跡	78 原山北原遺跡	79 中塚中丸遺跡	80 大間木内谷遺跡
81 吉塚遺跡	82 南方遺跡	83 宮倉貝塚遺跡	84 白塚本宿遺跡	85 白塚上ノ台遺跡
86 堤岸遺跡	87 大谷場遺跡	88 大谷場小池下遺跡	89 石神貝塚	89 数字・明新(後期)・ゴシツク(後晩期)

第263図 大宮台地東南部の後晩期遺跡



第264図 久台遺跡周辺の地形

たい(さいたま市立博2006ほか)。

奈良瀬戸遺跡(28)は昭和30年代に調査され、晩期の住居跡が検出されたほか、安行3c式と3d式の土器の細分が出土資料から指摘された。小深作遺跡(40)、前窪遺跡(66)でも住居跡が検出されている。

東北原遺跡(32)は発掘調査で6軒の住居跡が検出されている。晩期住居跡の調査例として貴重である。第2号住居跡からは、久台遺跡でも出土した、亀形土製品が発見されている。

真福寺貝塚(38)は、大正時代から調査が行われ、安行2・3a～c式の標識遺跡である。台地上の貝塚のほか、谷に泥炭層が残っている。東大人類学教室の調査で耳飾りが95点出土しており、久台遺跡同様、耳飾りの多い遺跡である。その他、大洞式土器を出土した真慈恩寺遺跡、円形の晩期遺物包含層を検出した黒谷出端前遺跡などがある。

縄文後晩期の特徴的な遺構として、環状盛土遺構が近年注目を浴びている。同様のマウンド状の遺構は、雅楽谷遺跡(3)、前田遺跡、正福院貝塚で認められる。

雅楽谷遺跡は事業団の調査で盛土の一部が調査さ

れた(橋本 1990、上野・渡辺 2005)。前田遺跡は白岡町教育委員会の調査により、盛土遺構と見られる遺物包含層が確認されている。正福院貝塚は入郷地遺跡と本来一体の遺跡と考えられ、同様に環状盛土の存在が想定されているところである。

馬場小室山遺跡(68)は、大宮台地を樹枝状に開析する支谷に面して立地している。谷に連続する台地上の凹地を取り囲んで環状にマウンドが広がり、居住域が認められる。安行3a・b式の土器を多量に出土した土坑などで知られ、晩期安行～晩期末までの土器が確認されている。

縄文時代晩期末～弥生時代前期の遺跡様相は不明確な点が多。晩期末の土器は千網式、荒海式と呼ばれる。この時期の遺跡は、岩槻城内遺跡(34)、前窪遺跡、北宿西遺跡(67)、玄蕃新田本田遺跡(71)、大間木内谷遺跡(80)、白幡本宿(84)などが発見されているが、いずれも小規模なものに留まっている。

(2) 蓮田台地の地形と久台遺跡

久台遺跡はすでに述べたように、大宮台地南東部に位置する遺跡である。

大宮台地は関東平野の中央に位置しており、約12

万年前から約5・6万年前までに形成された武蔵野面から主として構成される。氷期・間氷期的環境の指標となる酸素同位体ステージで言えば、ステージ5e（最終間氷期）から、ステージ4（亜氷期）にかけてつくられた海岸平野である。

現在見られる台地の地形は、最終氷期にかけて利根川水系に浸食されて段丘化し、さらに完新世を通じて、関東造盆地運動による関東平野の沈降と、沖積作用の影響を受けて成立している。

大宮台地は台地を縦貫する何本もの河川によって分けられ、合計6つの支台に細分されている。大宮台地そのものは加須まで広がり、鴻巣-久喜-加須を結んだ三角形の内部、元荒川と会の川に挟まれた間に小規模な台地が散在する。関東平野は完新世以降、加須と東京湾を中心とした最大年3mmほどの沈降運動（関東造盆地運動）を示しており、加須周辺の台地の多くは現在、沖積低地下に埋没している。

久台遺跡の立地する蓮田台地は、この沈降運動の影響から標高は低いところで13m程度となる。蓮田台地は元荒川と綾瀬川に挟まれて細長く残される台地である（第264図左）。

蓮田台地は、蓮田市高虫付近から始まり、井沼、関戸を経てさいたま市平林寺付近まで続く。台地は平林寺付近で一端狭く低くなり、ここが岩槻台地との境となる。したがって岩槻台地は、地形的には蓮田台地と連続している。岩槻台地は同様に、南東に細長くのび、さいたま市尾ヶ崎付近まで続く。標高はいずれも13~16mである。

久台遺跡が位置するのは、蓮田台地の中でも岩槻台地に近い南東部にあたる。元荒川の右岸で現在でも川をすぐ臨める。第264図（右）に、久台遺跡の調査地点周辺の地形を掲げた。第264図はいずれも現行の都市計画図を判読し、作成したものである。右の図はとくに等高線を抜き出し、台地上の微地形を等高線でもって表現している。地形の起伏のほか、浅い谷状の地形について図示した。

久台遺跡の周囲を見ると、西に綾瀬川があり、ほ

ぼ南北方向に流れている。綾瀬川の隣には、江戸時代に開削された見沼代用水がさらに蓮田台地寄りに、これも南北方向に流れている。元荒川は久台遺跡の脇まで北西-南東方向に流れてくるが、現在の東北自動車道の手前で大きく屈曲し、東へと流れの向きを変えている。久台遺跡のすぐ北東は、元荒川によって台地が削平を受け、崖を形成している。

大きく屈曲した元荒川は、台地から距離を置いて東流するが、国道122号バイパス沿いの台地縁辺を観察すると、J R線から東北自動車道までの間は、全体に台地は急斜面を形成している。元荒川右岸に沿って、標高10mの微高地が点々としているが、元荒川と台地の間は基本的に低地である。

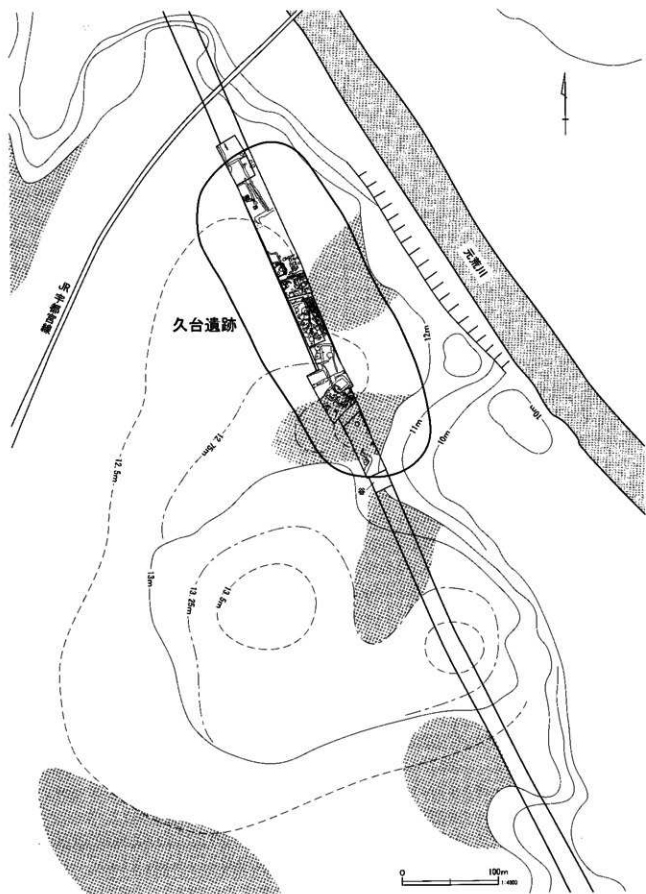
従って元荒川はある時期には国道122号バイパスに沿って南東に流れ、台地を浸食したものと考えられる。元荒川沿いの標高10mの微高地は、一つは台地に接して砂州状に南東に延び、いま一つも自然堤防状に広がるが、その形成時期は明らかではない。

久台遺跡周辺における蓮田台地は、標高16m台を最高とする。軸は関東平野全体の隆起・沈降軸に沿い、北西-南東方向にある。綾瀬川寄りに軸が位置して全体に高く、標高16m以下は、東西とも200m程度の短い距離で、標高が3~4m低下し、緩やかな傾斜を持つ斜面を形成している。

台地の東側は、標高13~14mで平滑な面を形成し、台地縁へと至る。台地と低地の境をなす段丘崖は、およそ標高12mで推移する。久台遺跡の周りは、台地は標高12~13mの平らな地形を広く形成する。

久台遺跡のすぐ南では例外的に、標高の高い部分が認められる。標高13mの線で区切られる直径300m程度の範囲内である。約13.5mが最高点であり、14mに満たないごく低い高まりである。けれども周囲と比較すると最大1m程度の比高差があり、現在は住宅地内にあつて分かりにくいのが、肉眼で認識できる程度の差である。

久台遺跡を考える上で、いま一つ注意すべき地形に浅い谷がある。台地上にしばしば認められる円形



第265図 遺跡と微地形

ないし不整形の凹地を、浅い谷地形と呼称することがある。深さにして2～3m未満の略皿状の凹地を指す。土地条件図等で図示されることがあるが、ごくわずかな高低差の微地形であり、小縮尺の地形図では認識が難しい。

浅い谷の成因は古くから議論されている。台地下に広がる粘土層が不透水層となって地下に宙水を形成し、豪雨時に地下水が上昇して地表を浸食したもの、などと言われている。台地を覆う関東ローム層のある層準に生じた微小な凹凸が、上層の堆積を通じて保たれ、さらに水の浸食によって維持されてきたものと思われる。

第264図にあるように、浅い谷は台地中央に単独に存在する例もあるが、多くは台地を開析する支谷の谷頭に連続している。そのため浅い谷は、支谷が台地を刻む呼び水となっていることが推測され、言わば浸食前線の役割を果たしている。

(3) 久台遺跡と微地形

第265図は、第264図の遺跡周辺をさらに拡大したものである。

久台遺跡の北東は段丘崖に隣接し、元荒川による攻撃斜面から、浅い谷が南西方向に入り込んでいる。また、久台遺跡の遺跡範囲南端にかかる支谷は東方向に開口し、浅い谷が二つ、西と南に向かって広がる。久台遺跡南端（ささら(Ⅱ)）の調査では、支谷の谷頭部分が調査されている。支谷は東方向に開口し、およそ南側へと台地を浸食することが確かめられた。従って南側の浅い谷は、現在の支谷の浸食方向と一致していることとなる。

久台遺跡の南側には、先述した、標高13mの線で区切られる微高地が広がる。この微高地をやや詳しく見ると、台地東端付近に標高13.5mの円形の高まりがある。その100mほど西にも、標高13.5mの円形の高まりがある。両者は元来、一続きの微高地であるが、現在は支谷から南へと延びる浅い谷の一つによって二つに分かれている。

この微高地の周りには、標高12.5mのラインが読み取れる。標高12.5mのラインについて、その延長をたどっていくと、微高地の周りで収束せず、微高地の北西端から北側へと細長く延びている。すなわち微高地は、やや低くなるものの、更に北へと続いている。

標高12.5mのラインで画される地形の高まりは、久台遺跡の遺跡範囲内にまで延び、遺跡範囲内の中央にかけて広がる。さらにやや高い標高12.75mのラインと合わせて見れば、微高地は全体的に、二つの浅い谷を持つ支谷を囲むように広がっていることが理解される。

すなわち図示された範囲には、支谷を取り囲むような形で、東に開口する言わば馬蹄形の微高地が存在しており、その地形が浅い谷によって部分的に浸食を受けている。久台遺跡は、このような台地上の微高地の北東端を占める遺跡だとと言える。

久台遺跡の遺構配置図を図上に重ね合わせると、まず後期前葉の居住域は、明らかに標高12.5mの微高地上に集中している。遺跡は元荒川を臨み、馬蹄形の大きな微高地を意識して形成されたことが推測される。

安行期の遺構については、微高地の中でも浅い谷の北側縁辺にまとまって分布する。また浅い谷の中にはほとんど遺構は認められない。蓮田市の調査でも晩期の複数の住居跡が発見されているが、やはり浅い谷の縁辺に沿うことが注意されよう。

限られた範囲の発掘調査では、もとより推測の域を出ないが、久台遺跡の縄文時代人は、後期前葉に台地東側に広がる微高地を居住に利用していた。そして安行期にはやや南に居住域を変え、支谷に連なる浅い谷を意識して、浅い谷の縁辺に円弧状に遺構を形成していたことが考えられよう。

久台遺跡でマウンド状の遺構は確認されていないが、後晩期集落の一つのあり方として、引き続き当該期の遺跡立地に注意していく必要があろう。

2. 縄文時代について

今回報告した第5次・第8次調査区では縄文時代後・晩期の2時期の集落が調査された。過去に第2次調査区(橋本・木戸 1984)で検出された後期前葉の集落跡の続きと安行式期の集落跡である。調査区北側に後期前葉の集落、調査区南側に安行式期の集落が展開していた。

後期前葉の集落としては県内でも代表的な調査事例であり、第2次調査区と今回(第5次・第8次調査区)を合計した遺構数は、住居跡31軒、土坑86基、埋甕1基である。

県内の当期の遺跡のうち、集落の全体像がわかる事例として、武蔵野台地の川越市上組Ⅱ遺跡(黒坂 1989)や和光市丸山台遺跡(竹石・野中他 1992・1993)などがある。上組Ⅱ遺跡は32軒、丸山台遺跡では40軒を超える住居跡が検出された。二つの遺跡は河川の低地帯に続く斜面に帯状に延びる住居群と台地上に集中する住居群からなっている(新屋 1994)。久台遺跡も同様な構成をとるかは不明であるが、いずれにせよ低地から一定距離離れた台地上に群をなして集中する様子が見て取れる。

埼玉県内では、前・中期の集落から、低地帯を取り込んだ後期前葉の移行期を経て、後期中葉から安行式期に中央窪地型環状集落(江原 1993)が形成されるようになる。

久台遺跡では安行式期の集落が近年の調査によって知られるようになった。ささら(Ⅱ)遺跡(橋本 1985)の調査区は久台遺跡南側の安行式期集落の続きであることが明らかとなったため、現在では、ささら(Ⅱ)遺跡は久台遺跡として行政上扱われている。

久台遺跡第1次調査区(ささら(Ⅱ)遺跡)の包含層中には安行3c式・3d式を多量に含む遺物包含層が発達している。この谷地形に面した北側に安行式期の居住域が広がると考えられ、第1次・第5次南半・第6～8次の各調査区から住居跡が見つかった。市教育委員会による第6次、第7次調査(埼玉県1999・2001)を含めると住居跡10軒におよ

ぶ安行式期の集落が調査されていることとなる。

今回の調査区における安行式期の遺構には、住居跡4軒、土坑9基、ピット群があり、土器、土製品・石製品、石器など多くの出土遺物があった。出土遺物は後世の擾乱を免れず、復元率は低かった。第4・5号住居跡、遺物包含層が残存していた部分でやや復元率の高い資料があったものの、大半は破片資料が中心である。ここでは安行式土器の変遷をたどりながら遺跡・遺構等についてふれ、まとめとしたい。遺構内出土土器は分散しているため、特にことわりがない場合には遺構外出土土器の分類に沿って出土土器を見ていくこととする。

安行式以前は早・前・中期、後期前葉～中葉の土器がわずかに見られた程度であった。

後期前葉の遺構は安行式期集落(調査区南側)では認められず、出土遺物も少なかった。関東縄文時代後・晩期の大形環状貝塚では貝層の最下層が堀之内式期となる事例も多く認められる。久台遺跡では明らかに後期前葉とその後では集落の場所、立地を変えている。同様に埼玉県内の特に内陸部では後期前葉集落から安行式期に継続する集落は現状では少ないと言える。

後期中葉も今回の調査区には生活の痕跡はなかった。ただ、第1次調査区(ささら(Ⅱ)遺跡)では加曾利B2式、B3式が少なからず出土しており、別の地点から住居跡が見つかる可能性もある。

安行1式になると破片資料が増えてくるが、接合した個体はほとんどない。波状口縁深鉢形土器の第2類A(第92図26～46)、口縁が内湾する平口緑土器である第4類の一部(第100図1～第101図32)、胴部で括れる第5類の一部(第111図39～42)などがある。これと組成をなす第12類の組線文土器の一部(第126図、第127図)や浅鉢形土器、台付鉢形土器などが少量出土している。

安行2式は波状口縁深鉢形土器の第2類B(第92図47～52、第93図1～49)、口縁が内湾する平口緑

土器である第4類の一部、胴部で括れる第5類の一部、第12類の組線文土器の一部、浅鉢形土器、台付鉢形土器などがある。こうした土器群の組成は安行3a式にも同様に引き継がれる。安行3a式との区別が付かないものも多いので明確には言えないが、安行1式とほぼ同様な出土傾向にあり、接合するものはほとんどなかった。

後期安行式期の遺構としては第10号住居跡があげられる。安行3b～3c式の遺物包含層下から検出された住居跡である。

晩期に入ると出土土器は増加する。安行3a式期の住居跡として、動物形土製品が出土した第4号住居跡がある。第266図に同じく動物形土製品を出土したさいたま市東北原遺跡第2号住居跡の遺物を示した。

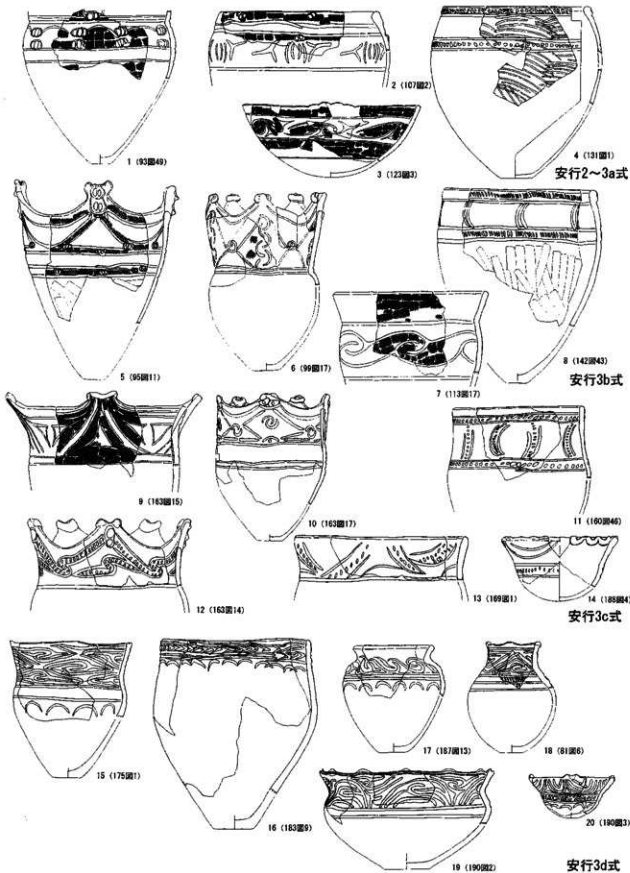
動物形土製品は土肥孝氏の論考(土肥2006)に依

い、顔面表現や足のある面を正面として作図した。土肥孝氏によって東北原遺跡例と他の類別との比較がなされており、久台遺跡例との対比もなされている。久台遺跡例の背面には円孔がなく、縦方向に隆帯を施す点、大きさ等で東北原遺跡例とは相違している。両者に施される三叉文に注目すると、久台遺跡例は正面の3箇所、背面の4箇所に三叉文を施すが、縄文に接して施される特徴がある。一方、東北原例は正面に2箇所、背面の2箇所に三叉文を施すが、縄文とは接しておらず、入組文、弧線文、横帯区画などによる磨消縄文から分離した無文部に施されるという特徴がある。

こうした特徴はそれぞれ安行3a式土器、安行3b式土器にあてはまることであり、久台遺跡の動物形土製品は安行3b式期の東北原遺跡例に先行するものと考えられる。少し詳しく見てみよう。



第266図 東北原遺跡第2号住居跡との比較



第267圖 久台遺跡出土安行式土器

第4号住居跡の出土土器は安行1式から安行3b式の小片からなり、貧弱な内容である。動物形土製品に伴出した第266図2（巻頭図版1・第56図・第58図4）、1メートルほど離れているが土製品と同様に床面の直上から出土した第266図3の浅鉢形土器（第56図・第58図1）は動物形土製品と弧線文を施す点で似た構成をとっている。

第266図2は緩い波状口縁の土器である。同じ波状口縁でも第267図5などの大波状口縁深鉢形土器とは趣を異にしている。後期の平口縁深鉢形土器（第5類の一部）から姥山「式」への変化の過渡的な様相の一例と考えられる（新屋 1992）。動物形土製品の背面の弧線文と共通点が見られる。

第266図3の浅鉢形土器も弧線文を多用している。口辺部の横位に連続する弧線文と縦の弧線文はそれぞれ対をなし、磨消縄文を構成している。さらに体部の陸帯文を境にして、弧線文が対向するという構成をとっている。動物形土製品も対になる弧線文、陸帯を境に対称的に弧線文を配している点で似通った部分がある。

東北原遺跡第2号住居跡は大宮台地における安行3b式の主要出土地点と考えている（新屋 1992）。

第266図5～7にそのごく一部を示した。第2号住居跡茶褐色土出土土器は前後する時期の土器も含んでいるが、安行3b式のまとまった出土事例である。波状口縁深鉢形土器（第266図5）、平口縁深鉢形土器（第266図6）の他、各種の土器が出土している。

第266図6の平口縁深鉢形土器は弧線文の組み合わせによる入組文を施すが、この種の土器の胴部文様として多数を占めるのは横位に連続する入組文であり、台付鉢形土器の体部文様とも共通する。第266図7の浅鉢形土器の体部文様がこれに近い。三又文は入組文として施されるほか、第266図7のように入組文から独立して施される土器がある。

東北原遺跡の動物形土製品は背面下部に入組文と三又文が施されており、安行3b式の文様構成と共

通する。

土器文様との共通性から動物形土製品の文様について見てきたが、久台遺跡例が東北原遺跡例に先行する時期であることは明確であろう。

久台遺跡の安行3b式は東北原遺跡第2号住居跡とほぼ同様な構成である。出土土器は安行3a式よりもやや増えて、実用可能な土器も少なからず認められた（第267図5～8）。

波状口縁深鉢形土器（第267図5）の第2類Cはややまとまった出土がある（第95図、第96図他）。これに平口縁深鉢形土器（第267図7）の第6類の大部分（第113図17、19、第114図2～第116図23）、ステッキ状文を施した第9類Eの大部分（第120図1～25、第123図7）、弧線文を施した第9類D（第123図5、6他）をはじめとする浅鉢形土器、台付鉢形土器の第10類B（第122図、第123図9～15）などが組成をなすと考えられる。

姥山系波状口縁深鉢形土器（第267図6）の第3類（第98図33～第99図17）はきわめて少ないのが特徴である。

さらに細密沈線文土器の第11類は一部安行3c式と考えられるが、安行3b式が主体を占める（第124図、第125図）。

紐線文土器は安行3a式との区別がわからない土器が多いが、条線が消失する段階とした土器の大半が当期の所産と考えられる。さらに無文土器や製塩土器も含まれよう。

第4号住居跡を壊している第5号住居跡からは当期の土器が出土している（第62図1～4・6）。ただ、第5号住居跡出土土器は安行3b式から安行3c式を含んでおり、明確に安行3b式の遺構とできるものはない。

安行3c式、安行3d式は最も出土量が多い時期である。

安行3c式（第267図9～14）には安行3b式からの系統を引く土器として、三角形区画文系の波状口縁深鉢形土器である第15類A（第267図9、12）、菱

形文区画を主文様とした姥山系波状口縁深鉢形土器の第15類B（第267図10）、入組文系の平口縁深鉢形土器である第16類A、口縁部が内彎して立ち上がる形態の第16類B、組線文系土器（第267図11）の第14類などがあげられる。

また細密沈線文土器（第11類）も安行3c式の古い段階には残るものと考えられる。このほか第16類Cとした口縁部が外傾して立ち上がる形態の土器で、口辺部に文様を施す土器（第267図13）が多数を占めており、壺形土器、浅鉢形土器、台付鉢形土器（第22～24類の一部）などが組成をなす。

粗製土器は第26類や製塩土器の第27類の大半が安行3d式にかけて、粗製土器の中心を占めよう。

安行3c式期の住居跡としては第4号住居跡を壊して作られている第5号住居跡がある。

安行3d式（第267図15～20）には三叉状入組文を施した波状口縁深鉢形土器（第18類）、平口縁深鉢形土器（第19類）のほか、粗製深鉢形土器（第26類）、製塩土器（第27類）、壺形土器（第22類、第267図17、18）、浅鉢形土器（第23類、第267図19、20）、台付鉢形土器（第24類）などがあげられる。台付鉢形土器は安行3c式～3d式を第24類として一括したが、圧倒的に安行3d式の三叉状入組文の土器が多い。安行3b式の縄文施文の台付鉢形土器（第10類B）も一定量の出土があるのに対し、安行3c式がやや少ない。分類の仕方に起因する偏りなのか不明であるが、安行3d式に急増する。今後の課題としたい。

安行3d式期に属する明確な遺構は認められなかったが、遺物包含層が残存した部分として、包含層①とした地点で安行3d式がややまとまって出土しており、土偶等を伴っている。

包含層①は安行3c式から安行3d式、大洞C₂式が主体を占めている（第81～84図）。複列の列点文を施す土器（第81図1～4）を安行3c式の新段階と考えているので、安行3d式との2時期ということになる。安行3d式には列点文が主文様からなく

なると考えている訳ではなく、三叉状入組文中（第182図1～23）や胴部の横帯区画文中には列点文が認められることなどから、安行3d式には依然として列点文を施す土器も残存することが予想される。今後の課題としたい。

他地域の土器として多数を占めているのは大洞式である（第193図1～6、10～38、第194図、第195図1～26、29～39、第196図）。大洞B式から大洞A式を含むが、大洞B C～大洞C₂式が主体を占めている。また、包含層①においても大洞C₂式の出土があった。鈴木正博氏は安行3d式の次に〈ささら〉段階を設定されている（鈴木1987）が、今回具体的に論じるには至らなかった。

大洞式系統の土器が多く出土している一方、安行3c式～3d式期が当遺跡のピークであるのにもかかわらず、前浦式はきわめて少ない（第218図1～9）。安行3b式のところでふれたように姥山Ⅱ式も少なく、東関東系の土器は低調である。

遊賀里式の文様モチーフに類似する土器（第197図10～13・18）、西日本系と思われる浅鉢形土器（第195図27、28）、体部を無文とする各種の土器（第197図21～26）も出土している。

出土傾向や遺跡を概観してきたが、今回の調査では4軒の住居跡のほか、土坑、ピット群も検出された。ピット群の出土土器は安行2式から安行3d式を含み、ややばらつきがある。ピット群の機能するところも明確ではないが、住居跡よりやや標高の低い場所に集中している。住居跡の入口部は南南西から南東に施されており、標高の低い谷部を向いている。住居跡はおおよそ標高12.2mの等高線の前後に点在し、これより若干標高の低い12.0～12.1mの一角にピットが集中する部分がある（第53図）。

久台遺跡は中央窪地型環状集落の一形態と考えられるが、居住域が環状には及ばず、南側の谷に面して弧状に展開する集落と考えられる。今後連田市教育委員会の調査成果などをふまえていけば、より集落の様相が明らかになっていくだろう。